

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第358集

浜 町 遺 跡

東武鉄道伊勢崎線外2線
太田駅付近連続立体交差事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

2005

群 馬 県 土 整 備 局

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



「空から群馬」太田市中心街 上毛新聞社刊から

序

『浜町遺跡』は太田市本町・浜町・西本町に所在し、古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として周知の埋蔵文化財包合地の遺跡であります。東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近太田駅周辺連続立体交差事業に伴い、平成12～15年度に群馬県土整備局（旧土木部）と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し発掘調査を実施しました。

太田市の地形は、広大な平野と島状に突出した金山・八王子丘陵の山地で構成されています。人々の生活は、この広大な平野を主な舞台として営まれてきました。本遺跡は金山丘陵の南側に位置し、沖積低地の中に、断片的に微高地として分布する洪積台地の上にあります。本遺跡西側には、南部に広がる飯塚台地と矢島台地の間の条里型地割水田の灌漑用水として開削された、八瀬川が流れています。周辺には、大間々扇状地末端の集落跡、金山丘陵の古墳群、寺井庵寺跡や入谷遺跡などの古代官衙・東山道に関する遺跡、平安時代の須恵器窯跡・製鉄跡などが存在しております。また、河川改修、土地改良工事、主要幹線道の改築工事、北関東自動車道建設に伴う発掘調査も数多く行われてきました。今回の発掘調査によって、古墳時代、奈良・平安時代、中近世の遺構を中心に、当時の生活を知る上で貴重な遺物が発見されました。太田市の市街地に立地する集落の変遷を知る上でも貴重な資料の発見であると言えます。

調査に続き、平成16年度から整理作業を実施し、ここに調査報告書の刊行と相成りました。

遺跡の発掘調査から本報告書の刊行に至るまでには、県土整備局、太田土木事務所、群馬県教育委員会文化課、太田市教育委員会をはじめとする諸機関並びに地元関係者の皆様に大変なご尽力を賜りました。ここに心から感謝申し上げますとともに、本報告書や調査資料が広く歴史の究明に活用されることを念願し、序とします。

平成17年7月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本報告書は、平成12～15年度に行われた東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う「稲荷前遺跡」「城ノ内遺跡」「三島木遺跡」「宮内遺跡」「塚畑遺跡」「浜町遺跡」のうちの「浜町遺跡」についての発掘調査報告である。連続立体交差事業と発掘調査遺跡・調査区の関係は後記別表を参照されたい。

2. 遺跡は、群馬県太田市本町・西本町・浜町・大島町に所在する。

3. 事業主体 群馬県土整備局太田土木事務所

4. 調査・整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間	宮内遺跡	第1期	平成12年6月19日～平成12年12月31日	920㎡
		第2期	平成15年2月3日～平成15年3月3日(浜町第3期)	
	稲荷前遺跡		平成12年7月1日～平成12年11月6日	60㎡
	三島木遺跡		平成12年11月1日～平成13年3月31日	466㎡
	城之内遺跡		平成12年11月1日～平成13年3月31日	990㎡
	塚畑遺跡		平成13年9月28日～平成13年12月28日	1,316㎡
	浜町遺跡	第1期	平成12年11月1日～平成13年3月31日	301㎡
		第2期	平成13年8月5日～平成13年12月31日	300㎡
		第3期	平成14年7月10日～平成15年3月31日	1,868㎡
		第4期	平成15年4月1日～平成15年8月30日	600㎡
	調査面積			6,821㎡

6. 発掘調査・整理事業の体制は次のとおりである。

事務担当 小野宇三郎・吉田 豊・住谷水市・高橋勇夫・木村裕紀・赤山容造・神保佑史・津金沢吉茂・住谷 進・萩原利通・渡辺 健・矢崎俊夫・水田 稔・能登 健・平野進一・巾 隆之・右島和夫・真下高幸・西田健彦・中東耕志・佐藤明人・中沢 悟・相京建史・井川達雄・坂本敏夫・大島信夫・植原恒夫・丸岡道雄・宮前結城雄・小山健夫・国定 均・笠原秀樹・小山健夫・高橋房雄・竹内 宏・須田朋子・吉田有光・阿久澤支洋・今泉大作・清水秀紀・栗原幸代・柳岡良宏・森下弘美・片岡徳雄・田中健一・大澤友治・吉田恵子・並木綾子・佐藤聖行・内山佳子・若田 誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野真子・今井もと子・中沢恵子・金子三枝子・松下次男・吉田 茂・蘇原正義・武藤秀典

調査担当 能登 健・相京建史・斎藤和之・高井佳弘・伊平 敬・大塚俊和・庭山邦幸・根岸 仁・廣津英一・渡辺弘幸・杉田茂俊・久保 学・小林大悟

整理担当 庭山邦幸・鈴木幹子・桑原恵美子・高梨房江・南雲素子・田中晚美・丸橋富美子・伊東悦子・関口照子・大竹由美子・渡辺弘幸

器械実測 田中精子・酒井史恵・富沢スミ江

保存処理・木器処理 関 邦一・土橋まり子・小材浩一・小池 緑・大野容子・津久井桂一・田中のふ子・森田智子・佐々木茂美

7. 整理期間 平成16年 4月1日～平成18年 3月30日

8. 本報告書の作成担当

編集・執筆 庭山邦幸・渡辺弘幸

遺物観察 縄文土器 山口逸弘
石器、石材鑑定 松村和男
中・近世陶磁器 大西雅広
土師器、須恵器 井川達雄
掘立柱建物 飯森康広

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺構写真撮影 前記発掘調査担当者

航空写真撮影 ㈱バスコ、㈱シン技術コンサル

地上測量 ㈱小出測量設計事務所・㈱測設・㈱アコン測量設計

遺構・遺物トレース ㈱技研測量設計・㈱測研

9. 出土遺物並びに測量図・写真等の記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

厳しい気候時においても発掘調査に従事していただいた発掘作業員各位に感謝の意を表したい。

凡 例

1. 遺構番号

本報告書における遺構名称・遺構番号は遺構測量図・出土遺物注記等との整合性を保つため原則として、発掘調査時に付した番号を踏襲した。そのため一部において欠番が生じた。また、遺構名が重複した場合や元々欠番であった場合などは、改めて番号を付した。

2. 調査区番号について

本報告書において、浜町遺跡は工事の進捗と住宅の撤去等の都合により、複数年度にわたって調査しており、調査担当も年度によって変更している。そのため、調査区ごとに報告を行っている。特に平成12年度の調査は、遺跡名が調査区名になっているため、本報告書においては、浜町遺跡0区とした。

3. 主軸と方位

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号を示す北は、磁北ではなく座標上の真北を示し、主軸角度等の計算においてもこれを基準として用いた。

4. 図の縮尺

本報告書に掲載の挿図の縮尺は、原則として下記のとおりとした。例外については、挿図内に縮尺を記した。

遺構実測図	住居跡	1 : 60	住居の竈	1 : 30
	土坑・井戸	1 : 40	溝（平面）	1 : 100
			溝（断面）	1 : 40、1 : 100
遺物実測図	土器	1 : 3	石器	1 : 3
			石製模造品	1 : 1
			大形遺物	1 : 4、1 : 6

5. 挿図用トーン



6. 写真図版

遺物の写真は、原則として1 : 3の縮尺とし、大形遺物1 : 6、石製模造品1 : 1で掲載した。これ以外の場合については、その都度縮尺を掲載してある。

7. 色調

遺構土層断面及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に拠った。

8. その他

遺構（特に住居竈）の残存状態がきわめて悪い場合には、遺構図をあえて割愛し、住居平面図のみとした。

9. 遺構の位置を示す数値は、その遺構がかかる国家座標（日本測地系）の南東隅の数値である。

10. 本書で使用した地形図は下記の通りである。

国土地理院 地形図1/25,000 「桐生」「上野境」
太田市都市計画図 1/2,500、1/5,000

11. 本書に記載されている市町村名は、平成15年以前のものを使用している。

補助一課地区・事業一覧表

道 路 名	宮内遺跡	船形田遺跡	三島本遺跡	城ノ内遺跡	坂田遺跡	浜町遺跡
所在地	群馬県太田市本町、浜町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市久良町	群馬県太田市西本町	群馬県太田市本町、浜町、西本町
事業名	東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業					
区	宮内、2区	女し	女し	女し	調春海、浜町4区	浜町0区、1区、2区、3区、5区、6区
表面積	平成12年度・2,737㎡、平成13年度・1,616㎡、平成14年度・1,858㎡、平成15年度・600㎡ 合計 6,821㎡					
調査期間	第1期 平成12年6月19日 ～ 平成12年12月31日 第2期 平成13年2月3日 ～ 平成13年3月3日	平成12年7月1日 ～ 平成12年11月6日	平成12年11月1日 ～ 平成13年3月31日	平成12年11月1日 ～ 平成13年3月31日	平成13年9月28日 ～ 平成13年12月28日	第1期 平成12年11月1日～ 平成13年3月31日 第2期 平成13年8月5日～ 平成13年12月28日 第3期 平成14年7月10日～ 平成15年3月31日 第4期 平成15年4月1日～ 平成15年8月30日
調査担当者	第1期 専門員 高井佳弘 専門員 大塚俊樹 調査研究員 杉田茂俊 第2期 専門員 酒巻和之 専門員 伊平敬 専門員 相澤仁	調査研究員 松登 健 調査研究員 相原謙長 専門員 高井佳弘 専門員 大塚俊樹 調査研究員 杉田茂俊 調査研究員 小林大治	調査研究員 第六課長 相原謙史 調査研究員 小林大治	調査研究員 小林大治 調査員 原 真	専門員 酒巻和之 専門員 越山邦幸	第1期 調査研究員 久保 学 第2期 専門員 酒巻和之 専門員 越山邦幸 第3期 専門員 酒巻和之 専門員 伊平敬 専門員 相澤仁 第4期 専門員 横津英一 専門員 渡辺弘幸

目 次

扉	(2) 溝跡……………38
口絵1(太田駅周辺の写真)	(3) 焼土痕……………41
序	(4) ビット跡……………*
例 言	(5) 2区の遺構外出土遺物……………42
凡 例	IV. 3区の遺構と遺物……………43
遺構・調査区・事業一覧表	1. 遺跡の概要……………*
目 次	(1) 竪穴住居跡……………44
遺構別索引(挿図・表・図版目次)	(2) 竪穴状遺構跡……………54
巻頭資料	(3) 土坑跡……………62
第1章 発掘調査の経過……………巻頭1	(4) 溝跡……………66
第1節 調査に至る経緯……………*	(5) ビット跡……………69
第2節 調査の経過……………*	(6) 3区の遺構外出土遺物……………70
第2章 調査の方法……………巻頭5	V. 5区の遺構と遺物……………71
第1節 調査区の設定……………*	1. 遺跡の概要……………*
第2節 遺構の名称……………*	(1) 竪穴住居跡……………74
第3節 調査の手順……………*	(2) 土坑跡……………151
第4節 基本土層……………*	(3) 溝跡……………180
第3章 周辺の環境……………巻頭7	(4) 井戸跡……………190
第1節 地理的環境……………*	(5) ビット跡……………191
第2節 歴史的環境……………巻頭8	(6) 遺物集中部……………194
本文	(7) 5区の遺構外出土遺物……………195
第1章 浜町遺跡の遺構と遺物……………1	VI. 6区の遺構と遺物……………200
第1節 遺跡の概要……………*	1. 遺跡の概要……………*
第2節 浜町遺跡について……………3	(1) 竪穴住居跡……………201
第3節 遺構各説……………4	(2) 土坑跡……………238
I. 0区の遺構と遺物……………*	(3) 溝跡……………248
1. 遺跡の概要……………*	(4) ビット跡……………253
(1) 竪穴住居跡……………6	(5) 6区の遺構外出土遺物……………254
(2) 土坑跡……………*	浜町遺跡遺物観察表……………256
(3) ビット跡……………9	
(4) 自然河道跡……………10	第2章 自然科学分析……………322
(5) 0区遺構外出土遺物……………*	第1節 浜町遺跡6区2号土坑出土炭化米……………*
II. 1区の遺構と遺物……………11	第2節 浜町遺跡出土人骨……………324
1. 遺跡の概要……………*	第3節 浜町遺跡出土馬骨……………325
(1) 竪穴住居跡……………12	
(2) 土坑跡……………22	報告書抄録
(3) 溝跡……………30	
(4) ビット跡……………33	写真図版
(5) 1区遺構外出土遺物……………*	検出遺構
III. 2区の遺構と遺物……………34	出土遺物
1. 遺跡の概要……………*	付 図 全体図S=1/200
(1) 土坑跡……………36	

插图目次

卷前第1图 汉可道岭周边地形剖面图	卷前8	第56图	3区4号整穴伏道槽 平·断面图	57
卷前第2图 汉可道岭周边道路分布图 (S=1:25000)	卷前14	第57图	3区4号整穴伏道槽 出土文物(2)	58
第1图 调查区位置图 (S=1:5000)	1	第58图	3区4号整穴伏道槽 出土文物(3)	59
第2图 调查区坐标设定图 (S=1:2000)	3	第59图	3区4号整穴伏道槽 出土文物(4)	60
第3图 0区全体图 (S=1:300)	5	第60图	3区5号整穴伏道槽 平·断面图、出土文物	61
第4图 0区1号住居平面图	6	第61图	3区6号整穴伏道槽 平·断面图	62
第5图 0区1~4号土坑 平·断面图	7	第62图	3区1号土坑 平·断面图、1·2号土坑出土文物	63
第6图 0区5~8号土坑 平·断面图、出土文物	8	第63图	3区2~4号土坑 平·断面图	64
第7图 0区1号河道 平·断面图、道槽外出土文物	10	第64图	3区5·6号土坑 平·断面图、5号土坑出土文物	65
第8图 1区全体图 (S=1:300)	12	第65图	3区1~3号溝 断面图	66
第9图 1区1号住居 出土文物	13	第66图	3区1~4号溝 平面图	67
第10图 1区1号住居 平·断面图	13	第67图	3区1号溝 出土文物	68
第11图 1区2号住居 平·断面图	14	第68图	3区2号溝 出土文物	69
第12图 1区2号住居 出土文物	14	第69图	3区3号溝 出土文物	69
第13图 1区3号住居 平·断面图	15	第70图	3区4号溝 出土文物	70
第14图 1区3号住居 出土文物	15	第71图	3区道槽外出土文物	70
第15图 1区4号住居 平·断面图、出土文物(1)	16	第72图	5区全体图 (S=1:300)	72
第16图 1区4号住居 平·断面图、出土文物(2)	17	第73图	5区1号住居 平·断面图	74
第17图 1区5号住居 平·断面图、出土文物	16	第74图	5区1号住居掘り方 平·断面图	75
第18图 1区6号住居 概 平·断面图	18	第75图	5区1号住居 出土文物(1)	76
第19图 1区6号住居 出土文物	19	第76图	5区1号住居 出土文物(2)	77
第20图 1区7号住居 平·断面图、出土文物	20	第77图	5区1号住居 出土文物(3)	78
第21图 1区8号住居 平·断面图	21	第78图	5区2号住居 平·断面图、出土文物(1)	79
第22图 1区9号住居 平·断面图、出土文物	22	第79图	5区2号住居 出土文物(2)	80
第23图 1区1·2号土坑 平·断面图、出土文物	23	第80图	5区3·6号住居 平·断面图	81
第24图 1区3~5号土坑 平·断面图	24	第81图	5区3号住居 出土文物	82
第25图 1区6~8号土坑 平·断面图	25	第82图	5区6号住居 出土文物	83
第26图 1区9~11号土坑 平·断面图、出土文物	26	第83图	5区4号住居 平·断面图	83
第27图 1区12·13号土坑 平·断面图、出土文物	27	第84图	5区4号住居掘り方 平·断面图、出土文物	84
第28图 1区14~16号土坑 平·断面图	28	第85图	5区5号住居 概 平·断面图	85
第29图 1区17号土坑 平·断面图、出土文物	29	第86图	5区5号住居掘り方 平·断面图、出土文物(1)	86
第30图 1区1~5号溝 平·断面图	30	第87图	5区5号住居 出土文物(2)	87
第31图 1区3号溝 出土文物	31	第88图	5区7号住居 概 平·断面图	88
第32图 1区6号溝 平·断面图	33	第89图	5区7号住居掘り方 平·断面图、出土文物(1)	89
第33图 1区道槽外出土文物	35	第90图	5区7号住居 出土文物(2)	90
第34图 2区全体图 (S=1:300)	35	第91图	5区8号住居 平·断面图	90
第35图 2区1·2号土坑 平·断面图	36	第92图	5区8号住居掘り方 平·断面图、出土文物	91
第36图 2区3·4号土坑 平·断面图	37	第93图	5区9号住居 掘り方 概 平·断面图	92
第37图 2区4·5号溝 平·断面图	38	第94图	5区9号住居 出土文物(1)	93
第38图 2区1~3号溝 平·断面图、3·4号溝出土文物	39	第95图	5区9号住居 出土文物(2)	94
第39图 2区1号烧土痕 平·断面图	41	第96图	5区10号住居 掘り方 平·断面图	94
第40图 2区道槽外出土文物	42	第97图	5区11号住居 出土文物(1)	95
第41图 3区全体图 (S=1:300)	44	第98图	5区11·13号住居 平·断面图	96
第42图 3区1号住居 概 平·断面图	45	第99图	5区11号住居掘り方 概 平·断面图	97
第43图 3区1号住居 出土文物	46	第100图	5区11号住居 出土文物(2)	98
第44图 3区2号住居 出土文物(1)	46	第101图	5区14号住居 平·断面图	99
第45图 3区2号住居 平·断面图、出土文物(2)	47	第102图	5区14号住居掘り方 概 平·断面图、出土文物	99
第46图 3区3号住居 平·断面图、出土文物	48	第103图	5区15号住居 平·断面图	100
第47图 3区4号住居 平·断面图、出土文物	49	第104图	5区15号住居掘り方 平·断面图、出土文物(1)	101
第48图 3区5号住居 概 平·断面图	50	第105图	5区15号住居 出土文物(2)	102
第49图 3区5号住居 平·断面图、出土文物(1)	51	第106图	5区16号住居 掘り方 平·断面图、出土文物	103
第50图 3区5号住居 出土文物(2)	52	第107图	5区17号住居 掘り方 平·断面图	104
第51图 3区6号住居 平·断面图、出土文物	53	第108图	5区17号住居 出土文物	105
第52图 3区1号整穴伏道槽 平·断面图、出土文物	54	第109图	5区18号住居 掘り方 平·断面图	106
第53图 3区2号整穴伏道槽 平·断面图、出土文物	55	第110图	5区18号住居 出土文物	107
第54图 3区3号整穴伏道槽 平·断面图、出土文物	56	第111图	5区19号住居 出土文物(1)	108
第55图 3区4号整穴伏道槽 出土文物(1)	56	第112图	5区19号住居 掘り方 平·断面图	108

第1138区	5区19号住居	襦袢り方	平面図, 出土遺物 (2)	109
第1148区	5区20号住居	平・断面図		110
第1158区	5区20号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物	110
第1165区	5区21号住居	平・断面図		111
第1178区	5区21号住居	襦袢り方	平・断面図	111
第1188区	5区21号住居	出土遺物		112
第1198区	5区23号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物	113
第1208区	5区24号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物	114
第1218区	5区25号住居	襦袢り方	平・断面図	115
第1228区	5区25号住居	襦袢り方	平・断面図	116
第1238区	5区25号住居	出土遺物 (1)		117
第1248区	5区25号住居	出土遺物 (2)		118
第1258区	5区25号住居	出土遺物 (3)		119
第1268区	5区25号住居	出土遺物 (4)		120
第1278区	5区26号住居	出土遺物		121
第1288区	5区26号住居	平・断面図		121
第1298区	5区27号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (1)	122
第1308区	5区27号住居	出土遺物 (2)		123
第1318区	5区28号住居	平・断面図		124
第1328区	5区28号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図	125
第1338区	5区28号住居	出土遺物		126
第1348区	5区30号住居	平・断面図		127
第1358区	5区30号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (1)	128
第1368区	5区30号住居	出土遺物 (2)		129
第1378区	5区31号住居	平・断面図		130
第1388区	5区31号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図	131
第1398区	5区31号住居	出土遺物 (1)		132
第1408区	5区31号住居	出土遺物 (2)		133
第1418区	5区33号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		134
第1428区	5区33号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (2)	135
第1438区	5区33号住居	出土遺物 (3)		136
第1448区	5区35号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物	137
第1458区	5区36号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		138
第1468区	5区36号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (2)	139
第1478区	5区37号住居	平・断面図		140
第1488区	5区37号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図	141
第1498区	5区37号住居	出土遺物 (1)		142
第1508区	5区37号住居	出土遺物 (2)		143
第1518区	5区38号住居	平・断面図		144
第1528区	5区40号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物	145
第1538区	5区41号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		146
第1548区	5区41号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (2)	147
第1558区	5区42号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		148
第1568区	5区42号住居	出土遺物 (2)		149
第1578区	5区43号住居	平・断面図		150
第1588区	5区44号住居	平・断面図, 出土遺物		150
第1598区	5区1・2号土坑	平・断面図, 2号土坑出土遺物		151
第1608区	5区3・4・6・7・12号土坑	平・断面図		152
第1618区	5区8・11・14・21号土坑	平・断面図		153
第1628区	5区16・17・20号土坑	平・断面図, 20号土坑出土遺物		154
第1638区	5区18・19・24・26号土坑	平・断面図		155
第1648区	5区27・28・30号土坑	平・断面図		156
第1658区	5区29・31・33号土坑	平・断面図, 32号土坑出土遺物		157
第1668区	5区32・34号土坑	平・断面図, 34号土坑出土遺物		158
第1678区	5区36号土坑	平・断面図, 出土遺物 (1)		159
第1688区	5区38号土坑	出土遺物 (2)		160
第1698区	5区36・37号土坑	平・断面図, 出土遺物		161
第1708区	5区38・41号土坑	平・断面図, 40号土坑出土遺物		162
第1718区	5区43・44号土坑	平・断面図, 43・46号土坑出土遺物		163
第1728区	5区45・47・48号土坑	平・断面図, 45・47号土坑出土遺物		164
第1738区	5区49・51号土坑	平・断面図, 50号土坑出土遺物		165
第1748区	5区52・53号土坑	平・断面図, 53号土坑出土遺物		166

第1758区	5区54・55・57号土坑	平・断面図, 57号土坑出土遺物		167	
第1768区	5区58・59号土坑	平・断面図, 59号土坑出土遺物		168	
第1778区	5区60・61号土坑	平・断面図, 60・63号土坑出土遺物		169	
第1788区	5区63・64号土坑	平・断面図, 64号土坑出土遺物		170	
第1798区	5区65・67号土坑	平・断面図, 65号土坑出土遺物		171	
第1808区	5区67号土坑	出土遺物		172	
第1818区	5区68号土坑	平・断面図, 出土遺物		173	
第1828区	5区69・70号土坑	平・断面図, 69号土坑出土遺物		173	
第1838区	5区71・73号土坑	平・断面図, 出土遺物		174	
第1848区	5区74号土坑	平・断面図, 74・75号土坑出土遺物 (1)		175	
第1858区	5区75・78・79号土坑	平・断面図, 75号土坑出土遺物 (2)		176	
第1868区	5区80・83号土坑	平・断面図		177	
第1878区	5区1号溝	平・断面図		180	
第1888区	5区2号溝	平・断面図		181	
第1898区	5区2号溝	出土遺物		182	
第1908区	5区3号溝	平・断面図, 出土遺物		183	
第1918区	5区10号溝	平・断面図, 出土遺物		183	
第1928区	5区4・7・9・11号土坑	平・断面図		184	
第1938区	5区4・9・11号溝	出土遺物		186	
第1948区	5区8号溝	平・断面図		187	
第1958区	5区18号溝	平・断面図		188	
第1968区	5区12号溝	平・断面図		188	
第1978区	5区17号溝	平・断面図, 出土遺物		189	
第1988区	5区1号井戸	平・断面図, 出土遺物		190	
第1998区	5区2号井戸	平・断面図, 出土遺物		191	
第2008区	5区49・81号ピット	出土遺物		194	
第2018区	5区3号遺物集中部	平・断面図, 出土遺物		194	
第2028区	5区1号遺物集中部	出土遺物		195	
第2038区	5区遺構外(グッド)	出土遺物 (1)		196	
第2048区	5区遺構外(グッド)	出土遺物 (2)		197	
第2058区	5区遺構外(グッド)	出土遺物 (3)		198	
第2068区	5区遺構外(グッド)出土遺物 (4)	遺構外出土遺物		199	
第2078区	6区全体図 (S=1:300)			201	
第2088区	6区1号住居	平・断面図		202	
第2098区	6区1・2号住居	出土遺物		203	
第2108区	6区3・25号住居	平・断面図		204	
第2118区	6区3・25号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (1)	205	
第2128区	6区3・25号住居	出土遺物 (2)		206	
第2138区	6区4号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		207	
第2148区	6区4号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (2)	208	
第2158区	6区5号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		209	
第2168区	6区5号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (2)	210	
第2178区	6区6号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図	211	
第2188区	6区6号住居	出土遺物		212	
第2198区	6区7号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (1)	213	
第2208区	6区7号住居	出土遺物 (2)		214	
第2218区	6区7号住居	出土遺物 (3)		215	
第2228区	6区8号住居	平・断面図, 出土遺物 (1)		217	
第2238区	6区8号住居	出土遺物 (2)		218	
第2248区	6区9号住居	襦袢り方・襦袢り方	平・断面図	219	
第2258区	6区9・10号住居	出土遺物 (1)		220	
第2268区	6区10号住居	出土遺物 (2)		221	
第2278区	6区11号住居	出土遺物		222	
第2288区	6区12号住居	出土遺物		222	
第2298区	6区13号住居	襦袢り方	平・断面図	223	
第2308区	6区13号住居	襦袢り方	平・断面図	224	
第2318区	6区13号住居	出土遺物		225	
第2328区	6区14号住居	平・断面図		226	
第2338区	6区14号住居	襦袢り方	襦袢り方	平・断面図	227
第2348区	6区14号住居	出土遺物		228	
第2358区	6区15号住居	襦袢り方	平・断面図	229	
第2368区	6区15号住居	襦袢り方	平・断面図, 出土遺物 (1)	230	

第237回	6区15号住居	出土遺物(2)	231
第238回	6区16号住居	平・断面図、出土遺物	232
第239回	6区17号住居	平・断面図、出土遺物	233
第240回	6区20号住居	平・断面図、出土遺物(1)	235
第241回	6区20号住居	出土遺物	236
第242回	6区21号住居	平・断面図、出土遺物	237
第243回	6区1・2号土坑	平・断面図、2号土坑出土遺物	238
第244回	6区3～8号土坑	平・断面図	239
第245回	6区9・10号土坑	平・断面図、出土遺物	240
第246回	6区11号土坑	平・断面図、出土遺物	241
第247回	6区13号土坑	平・断面図、出土遺物	242
第248回	6区15号土坑	平・断面図、出土遺物(1)	243
第249回	6区15号土坑	出土遺物(2)	244

第250回	6区15号土坑	出土遺物(3)	245
第251回	6区16号土坑	出土遺物	*
第252回	6区17～19号土坑	平・断面図、出土遺物	246
第253回	6区19号土坑	出土遺物	247
第254回	6区1・6～8号溝	平・断面図	248
第255回	6区1号溝	出土遺物	249
第256回	6区6・7号溝	断面図、出土遺物	*
第257回	6区7号溝	出土遺物	250
第258回	6区2・3・5号溝	平・断面図、出土遺物	251・252
第259回	6区遺構外出土遺物(1)		254
第260回	6区遺構外出土遺物(2)		255
第261回	浜町遺跡出土人骨・部位図		324
第262回	浜町遺跡出土馬骨・部位図		325

表 目 次

巻頭第1表	周辺遺跡一覧表(1)	巻頭13
第1表	0区 土坑一覧表	9
第2表	0区 ビット一覧表	9
第3表	1区 土坑一覧表	29
第4表	1区 ビット一覧表	33
第5表	2区 土坑一覧表	37
第6表	2区 ビット一覧表	41

第7表	3区 土坑一覧表	65
第8表	3区 ビット一覧表	69
第9表	5区 土坑一覧表	178・179
第10表	5区 ビット一覧表	192・193
第11表	6区 土坑一覧表	247
第12表	6区 ビット一覧表	254
浜町遺跡遺物観察表(0～6区)		256

写 真 図 版

「空から静岡」太田市中心街 上毛新聞社刊から	□絵	
写真1	浜町遺跡全景(東から)	42
写真2	浜町遺跡6区2号土坑出土炭化米	323

写真3	浜町遺跡出土人骨(右)と今井三騎堂遺跡出土人骨(左)の前面観	324
写真4	浜町遺跡出土馬骨(右)と中里見原遺跡出土馬骨(左)の前面観	325

写真図版目次

- PL1** 0区 全景 (西から)
 0区 1号住居掘り方 全景 (南から)
 0区 3号土坑 全景 (西から)
 0区 1号河道 掘出土状況 (南から)
 0区 1号河道 全景 (南から)
- PL2** 1区 全景 (東から)
 1区 1号住居 全景 (南から)
 1区 2号住居 全景 (南から)
- PL3** 1区 3号住居・6号溝 全景 (東から)
 1区 4号住居 全景 (北から)
 1区 4号住居礎 土層断面 (北から)
 1区 4号住居 遺物出土状況 (北から)
 1区 5号住居 全景 (東から)
 1区 5号住居掘り方 全景 (西から)
 1区 5号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (西から)
 1区 6号住居 全景 (北から)
- PL4** 1区 6号住居礎 全景 (南から)
 1区 7号住居 全景 (西から)
 1区 8号住居 全景 (西から)
 1区 1号土坑 全景 (南から)
 1区 2号土坑 (2号ピット含む) 全景 (南から)
 1区 3号土坑 (1号ピット含む) 全景 (南から)
 1区 4・5号土坑 全景 (南から)
 1区 6号土坑 全景 (南から)
- PL5** 1区 7号土坑 全景 (東から)
 1区 9号土坑 全景 (南から)
 1区 10号土坑 全景 (東から)
 1区 11号土坑 全景 (西から)
 1区 12号土坑 全景 (南から)
 1区 12号土坑遺物出土状況 (北から)
 1区 13号土坑 全景 (南から)
 1区 14号土坑 全景 (南から)
- PL6** 1区 15号土坑 全景 (北から)
 1区 16号土坑 全景 (北から)
 1区 17号土坑 全景 (南から)
 1区 1・5号溝 全景 (南から)
 1区 3～5号溝 全景 (南から)
- PL7** 2区 全景 (西から)
 2区 全景 (東から)
- PL8** 2区 1号土坑 全景 (北から)
 2区 2号土坑 全景 (南から)
 2区 3号土坑 全景 (北から)
 2区 4号土坑 全景 (北から)
 2区 4号土坑 土層断面 (北から)
 2区 1・2号溝 全景 (西から)
 2区 1・2号溝 土層断面 (東から)
 2区 3号溝 全景 (西から)
 2区 3号溝 全景 (東から)
- PL9** 2区 3号溝 土層断面 (東から)
 2区 4号溝 全景 (南から)
 2区 5号溝 全景 (南から)
 2区 1～3号ピット 全景 (東から)
 2区 1号礎土痕 全景 (西から)
- PL10** 3区 全景 (西から)
 3区 1号住居 全景 (西から)
 3区 1号住居礎 全景 (西から)
 3区 1号住居2号礎 全景 (西から)
- PL10** 3区 1号住居2号礎掘り方 全景 (西から)
PL11 3区 2号住居 全景 (西から)
 3区 3号住居 全景 (北から)
 3区 4号住居 全景 (北から)
 3区 5号住居 全景 (西から)
 3区 5号住居 遺物出土状況 (西から)
 3区 5号住居礎 (使用面) 全景 (西から)
 3区 5号住居掘り方 全景 (西から)
 3区 5号住居貯蔵穴 全景 (西から)
- PL12** 3区 6号住居 全景 (西から)
 3区 6号住居礎 (礎土) 全景 (西から)
 3区 6号住居内1号土坑 全景 (西から)
 3区 6号住居内2号土坑 全景 (南から)
 3区 1号土坑 遺物出土状況 (南から)
 3区 2号土坑 全景 (南から)
 3区 2号土坑 遺物出土状況 (北から)
 3区 3号土坑 全景 (北から)
- PL13** 3区 4・5号土坑 全景 (南から)
 3区 1号壑穴状遺構 全景 (西から)
 3区 2号壑穴状遺構 全景 (西から)
 3区 3号壑穴状遺構 全景 (南から)
 3区 4号壑穴状遺構 全景 (北から)
 3区 4号壑穴状遺構 遺物出土状況 全景 (南から)
 3区 4号壑穴状遺構 遺物出土状況 全景 (南から)
 3区 4号壑穴状遺構 遺物集申状況 全景 (南から)
- PL14** 3区 5号壑穴状遺構 全景 (南から)
 3区 5号壑穴状遺構内1号土坑 全景 (南から)
 3区 5号壑穴状遺構内2号土坑 全景 (南から)
 3区 6号壑穴状遺構 全景 (南から)
 3区 1号溝 全景 (西から)
 3区 3号溝 全景 (東から)
 3区 4号溝 全景 (西から)
- PL15** 5区 全景 (西から)
 5区 全景 (東から)
- PL16** 5区 1・2号住居 全景 (南から)
 5区 1号住居掘り方 全景 (南から)
 5区 1号住居2号和 全景 (南から)
 5区 1号住居 遺物出土状況 (南から)
 5区 1号住居 遺物出土状況 (南から)
 5区 1号住居 礎土検出状況 (南から)
 5区 1号住居掘り込み 全景 (南西から)
 5区 2号住居礎土 全景 (南から)
- PL17** 5区 3号住居 全景 (北から)
 5区 3号住居掘り方 全景 (北から)
 5区 3号住居 遺物出土状況 (北から)
 5区 4号住居 全景 (南西から)
 5区 4号住居掘り方 全景 (南西から)
 5区 4号住居 遺物出土状況 (南東から)
 5区 5号住居 全景 (西から)
 5区 5号住居掘り方 全景 (西から)
 5区 5号住居 遺物出土状況 (東から)
- PL18** 5区 5号住居 遺物出土状況 (西から)
 5区 5号住居礎 遺物出土状況 (西から)
 5区 6号住居 全景 (北西から)
 5区 6号住居掘り方 全景 (北から)
 5区 7号住居 全景 (南から)
 5区 7号住居掘り方 全景 (南から)
 5区 7号住居 遺物出土状況 (南西から)

P L 18	5区 7号住居敷 全景 (南から)	P L 27	5区 1・2号土坑 全景 (南東から)
P L 19	5区 8号住居 全景 (北から)	5区 2号土坑 遺物出土状況 (北から)	5区 3号土坑 全景 (南東から)
	5区 8号住居掘り方 全景 (北から)	5区 4号土坑 全景 (南から)	5区 5号土坑 全景 (北西から)
	5区 9号住居 全景 (南から)	5区 6・12号土坑 全景 (北東から)	5区 4～6号土坑 全景 (北東から)
	5区 9号住居掘り方 全景 (南から)	5区 7号土坑 全景 (南東から)	5区 8号土坑 全景 (東から)
	5区 9号住居敷 全景 (南から)	5区 8号土坑 人骨出土状況 (東から)	5区 10号土坑 全景 (東から)
	5区 9号住居掘り方 全景 (南から)	5区 11号土坑 全景 (南東から)	5区 6・12号土坑 全景 (北東から)
	5区 10号住居掘り方 全景 (北から)	5区 14号土坑 全景 (南から)	5区 15号土坑 全景 (南から)
	5区 11号住居 全景 (南東から)	5区 16号土坑 全景 (南から)	5区 17号土坑 全景 (南から)
P L 20	5区 11号住居掘り方 全景 (南東から)	P L 29	5区 18号土坑 全景 (南から)
	5区 11号住居敷 全景 (南から)	5区 19号土坑 全景 (南から)	5区 20号土坑 全景 (南から)
	5区 11号住居 遺物出土状況 (東から)	5区 21号土坑 全景 (東から)	5区 21号土坑 全景 (南西から)
	5区 13号住居 全景 (東から)	5区 22号土坑 全景 (南から)	5区 23号土坑 全景 (南西から)
	5区 14号住居 全景 (北西から)	5区 23号土坑 遺物出土状況 (南西から)	5区 24・25号住居掘り方 全景 (南から)
	5区 14号住居掘り方 全景 (北西から)	5区 24号住居掘り方 全景 (北から)	5区 25号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 15号住居 全景 (南から)	5区 25号住居掘り方 全景 (北から)	5区 25号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (南から)
	5区 15号住居掘り方 全景 (南から)	5区 19号住居 全景 (南から)	P L 23
P L 21	5区 17号住居 全景 (西から)	5区 19号住居掘り方 全景 (南から)	5区 26号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 17号住居掘り方 全景 (西から)	5区 20号住居 全景 (西から)	5区 26号住居内1号土坑 遺物出土状況 (東から)
	5区 17号住居 遺物出土状況 (南東から)	5区 20号住居掘り方 全景 (北から)	5区 27号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 17号住居掘り方 遺物出土状況 (南から)	5区 21号住居 全景 (西から)	5区 27号住居 遺物出土状況 (南から)
	5区 18号住居 全景 (北から)	5区 21号住居掘り方 全景 (西から)	5区 28号住居 全景 (西から)
	5区 18号住居掘り方 全景 (北から)	5区 21号住居 遺物出土状況 (南西から)	5区 28号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 19号住居 全景 (南から)	5区 23・25号住居掘り方 全景 (南から)	5区 28号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 19号住居掘り方 全景 (南から)	5区 24・25号住居掘り方 全景 (西から)	5区 29号土坑 全景 (南から)
P L 22	5区 20号住居 全景 (西から)	5区 25号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (南から)	5区 30号土坑 全景 (南から)
	5区 20号住居掘り方 全景 (北から)	P L 31	5区 30号土坑 遺物出土状況 (南から)
	5区 21号住居 全景 (西から)	5区 33号土坑 全景 (南から)	5区 34号土坑 全景 (東から)
	5区 21号住居掘り方 全景 (西から)	5区 34号土坑 遺物出土状況 (南から)	5区 35号土坑 全景 (南から)
	5区 21号住居 遺物出土状況 (南西から)	5区 35号土坑 全景 (西から)	5区 36号土坑 全景 (西から)
	5区 23・25号住居掘り方 全景 (南から)	5区 37号土坑 全景 (南西から)	5区 37号土坑 全景 (南東から)
	5区 24・25号住居掘り方 全景 (西から)	5区 38号土坑 全景 (南から)	5区 38号土坑 全景 (南東から)
	5区 25号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (南から)	5区 39号土坑 全景 (南から)	5区 39号土坑 全景 (南東から)
P L 23	5区 26号住居掘り方 全景 (西から)	5区 40号土坑 全景 (南東から)	P L 32
	5区 26号住居内1号土坑 遺物出土状況 (東から)	5区 41号土坑 全景 (西から)	5区 43号土坑 全景 (南西から)
	5区 27号住居掘り方 全景 (西から)	5区 42号土坑 全景 (南から)	5区 44号土坑 全景 (南から)
	5区 27号住居 遺物出土状況 (南から)	5区 43号土坑 全景 (南西から)	5区 45号土坑 全景 (南西から)
	5区 28号住居 全景 (西から)	5区 44号土坑 遺物出土状況 (南から)	5区 46号土坑 全景 (東から)
	5区 28号住居掘り方 全景 (西から)	5区 45号土坑 遺物出土状況 (南から)	5区 47号土坑 全景 (東から)
P L 24	5区 30号住居 全景 (南から)	5区 46号土坑 遺物出土状況 (西から)	5区 48号土坑 全景 (北から)
	5区 30号住居掘り方 全景 (南から)	5区 47号土坑 遺物出土状況 (西から)	5区 49号土坑 遺物出土状況 (西から)
	5区 31号住居 全景 (西から)	5区 37号住居 全景 (南から)	5区 37号住居 遺物出土状況 (南から)
	5区 31号住居掘り方 全景 (南から)	5区 37号住居掘り方 全景 (南から)	5区 38号住居掘り方 全景 (北西から)
	5区 33号住居 全景 (西から)	5区 38号住居掘り方 全景 (北西から)	5区 40号住居掘り方 全景 (西から)
	5区 33号住居掘り方 全景 (西から)	5区 40号住居 遺物出土状況 (南から)	5区 41号住居 全景 (南から)
	5区 35号住居掘り方 全景 (南から)	5区 41号住居掘り方 全景 (南から)	5区 41号住居掘り方 全景 (南から)
	5区 36号住居 遺物出土状況 (西から)	5区 42号住居 全景 (南東から)	P L 26
P L 25	5区 36号住居 遺物出土状況 (西から)	5区 42号住居掘り方 全景 (南東から)	5区 43号住居 全景 (西から)
	5区 37号住居 全景 (南から)	5区 43号住居掘り方 全景 (西から)	5区 44号住居 全景 (西から)
	5区 37号住居掘り方 全景 (南から)	5区 44号住居掘り方 全景 (西から)	5区 作業風景 (東から)
	5区 38号住居掘り方 全景 (北西から)	5区 45号住居 全景 (南東から)	
	5区 40号住居掘り方 全景 (西から)	5区 46号住居 全景 (西から)	
	5区 40号住居 遺物出土状況 (南から)	5区 47号住居 全景 (南東から)	
	5区 41号住居 全景 (南から)	5区 48号住居 遺物出土状況 (南から)	
	5区 41号住居掘り方 全景 (南から)	5区 49号住居 遺物出土状況 (南から)	
	5区 42号住居 全景 (南東から)	5区 50号土坑 遺物出土状況 (南から)	
	5区 42号住居掘り方 全景 (南東から)	5区 51号土坑 遺物出土状況 (南から)	
	5区 43号住居 全景 (西から)	5区 52号土坑 遺物出土状況 (南から)	
	5区 44号住居 全景 (西から)	5区 53号土坑 遺物出土状況 (南から)	
	5区 作業風景 (東から)	5区 54号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 55号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 56号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 57号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 58号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 59号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 60号土坑 遺物出土状況 (南から)	
		5区 61号土坑 遺物出土状況 (北から)	
		5区 62号土坑 遺物出土状況 (北から)	
		5区 63号土坑 遺物出土状況 (北から)	

- P.L.34 5区 64号土坑 全景 (東から)
 5区 65号土坑 全景 (北から)
 5区 66号土坑 全景 (北から)
 5区 67号土坑 全景 (北から)
- P.L.35 5区 68号土坑 全景 (東から)
 5区 69号土坑 全景 (北から)
 5区 70号土坑 全景 (南から)
 5区 71-73号土坑 全景 (東から)
 5区 71号土坑 遺物出土状況 (東から)
 5区 74号土坑 全景 (西から)
 5区 75号土坑 全景 (南から)
 5区 75号土坑 遺物出土状況 (東から)
- P.L.36 5区 78号土坑 全景 (北から)
 5区 79号土坑 全景 (南から)
 5区 81号土坑 全景 (東から)
 5区 82号土坑 全景 (東から)
 5区 1号井戸 全景 (北から)
 5区 1号井戸 土層断面 (北から)
 5区 2号井戸 全景 (北東から)
 5区 1号ピット 全景 (南から)
- P.L.37 5区 2号ピット 全景 (南東から)
 5区 3号ピット 全景 (南東から)
 5区 5-7号ピット 全景 (南から)
 5区 8-9号ピット 全景 (南から)
 5区 13号ピット 全景 (南から)
 5区 14号ピット 全景 (南から)
 5区 15号ピット 全景 (南から)
 5区 16号ピット 全景 (南から)
- P.L.38 5区 81号ピット 全景 (東から)
 5区 82号ピット 全景 (北から)
 5区 1号溝 全景 (南から)
 5区 2号溝 全景 (東から)
 5区 3号溝 全景 (西から)
 5区 4-9号溝 全景 (南東から)
 5区 5号溝 全景 (東から)
 5区 6-7号溝 全景 (西から)
- P.L.39 5区 8号溝 全景 (西から)
 5区 9号溝 古銭出土状況 (南から)
 5区 10号溝 全景 (南から)
 5区 11号溝 全景 (北東から)
 5区 11号溝 遺物出土状況 (南西から)
 5区 12号溝 全景 (東から)
 5区 17号溝 全景 (西から)
 5区 18号溝 全景 (西から)
- P.L.40 6区 全景 (西から)
 6区 全景 (東から)
- P.L.41 6区 1号住居 全景 (西から)
 6区 1号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 2号住居 全景 (北から)
 6区 2号住居掘り方 全景 (北から)
 6区 3号住居 全景 (西から)
 6区 3号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 3号住居 遺物出土状況 (濠) (西から)
 6区 3号住居 遺物出土状況 (近) (西から)
- P.L.42 6区 4号住居 全景 (南から)
 6区 4号住居 遺物出土状況 (南から)
 6区 5号住居 全景 (西から)
 6区 5号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 6号住居 全景 (南西から)
 6区 6号住居掘り方 全景 (南西から)
- P.L.42 6区 7号住居 全景 (西から)
 6区 7号住居掘り方 全景 (西から)
- P.L.43 6区 7号住居竈 全景 (西から)
 6区 7号住居竈 近景 (西から)
 6区 7号住居竈 遺物出土状況 (西から)
 6区 8号住居 全景 (南から)
 6区 8号住居掘り方 全景 (南から)
 6区 9号住居 全景 (南東から)
 6区 9号住居掘り方 全景 (南東から)
 6区 9号住居 石製品出土状況 (南東から)
- P.L.44 6区 9号住居 遺物出土状況 (南東から)
 6区 9号住居 遺物出土状況 (南東から)
 6区 9号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 10号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 11号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 13号住居 全景 (南西から)
 6区 13号住居掘り方 全景 (南西から)
 6区 14号住居 全景 (西から)
- P.L.45 6区 14号住居掘り方 全景 (北西から)
 6区 15号住居 全景 (西から)
 6区 15号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 15号住居貯蔵穴 遺物出土状況 (西から)
 6区 16号住居 全景 (西から)
 6区 17号住居 全景 (南から)
 6区 17号住居掘り方 全景 (南から)
 6区 20号住居掘り方 全景 (南から)
- P.L.46 6区 20号住居 遺物出土状況 (南東から)
 6区 20号住居 遺物出土状況 (南から)
 6区 20号住居 遺物出土状況 (南から)
 6区 21号住居掘り方 全景 (南から)
 6区 3-25号住居 全景 (北西から)
 6区 3-25号住居掘り方 全景 (西から)
 6区 25号住居竈 全景 (西から)
 6区 27号住居掘り方 全景 (南から)
- P.L.47 6区 1号土坑 全景 (西から)
 6区 2号土坑 全景 (南西から)
 6区 3号土坑 土層断面 (南から)
 6区 4号土坑 全景 (南から)
 6区 5号土坑 全景 (南から)
 6区 6号土坑 全景 (東から)
 6区 7号土坑 全景 (南から)
 6区 8号土坑 全景 (東から)
- P.L.48 6区 9号土坑 全景 (東から)
 6区 11号土坑 全景 (南から)
 6区 13号土坑 全景 (南から)
 6区 13号土坑 遺物出土状況 (南から)
 6区 14号土坑 全景 (南から)
 6区 15号土坑 全景 (東から)
 6区 15号土坑 遺物出土状況 (北から)
- P.L.49 6区 16号土坑 全景 (南から)
 6区 17号土坑 全景 (南から)
 6区 18号土坑 全景 (南から)
 6区 19号土坑 全景 (南から)
 6区 1号ピット 全景 (南から)
 6区 2号ピット 全景 (北から)
- P.L.50 6区 1号溝 全景 (南から)
 6区 8号溝 全景 (南から)
 6区 7号溝 全景 (南から)
 6区 8号溝 全景 (西から)

P L 51	0区	6号土坑	出土遺物	P L 66	5区	16号住居	出土遺物
	0区	遺構外	出土遺物		5区	17号住居	出土遺物 (1)
	1区	1号住居	出土遺物	P L 67	5区	17号住居	出土遺物 (2)
	1区	2号住居	出土遺物		5区	18号住居	出土遺物
	1区	3号住居	出土遺物		5区	19号住居	出土遺物
	1区	4号住居	出土遺物	P L 68	5区	20号住居	出土遺物
	1区	5号住居	出土遺物		5区	21号住居	出土遺物
P L 52	1区	6号住居	出土遺物		5区	23号住居	出土遺物
	1区	7号住居	出土遺物		5区	24号住居	出土遺物
	1区	9号住居	出土遺物		5区	25号住居	出土遺物 (1)
	1区	1号土坑	出土遺物	P L 69	5区	25号住居	出土遺物 (2)
P L 53	1区	2号土坑	出土遺物	P L 70	5区	26号住居	出土遺物
	1区	9号土坑	出土遺物		5区	27号住居	出土遺物
	1区	12号土坑	出土遺物		5区	28号住居	出土遺物 (1)
	1区	13号土坑	出土遺物	P L 71	5区	28号住居	出土遺物 (2)
	1区	17号土坑	出土遺物		5区	30号住居	出土遺物 (1)
	1区	3号溝	出土遺物	P L 72	5区	30号住居	出土遺物 (2)
	1区	遺構外	出土遺物		5区	31号住居	出土遺物 (1)
	2区	3号溝	出土遺物	P L 73	5区	31号住居	出土遺物 (2)
	2区	4号溝	出土遺物		5区	33号住居	出土遺物 (1)
	2区	遺構外	出土遺物	P L 74	5区	33号住居	出土遺物 (2)
	3区	1号住居	出土遺物		5区	35号住居	出土遺物
P L 54	3区	2号住居	出土遺物		5区	36号住居	出土遺物
	3区	3号住居	出土遺物	P L 75	5区	37号住居	出土遺物 (1)
	3区	4号住居	出土遺物	P L 76	5区	37号住居	出土遺物 (2)
	3区	5号住居	出土遺物 (1)		5区	40号住居	出土遺物
P L 55	3区	5号住居	出土遺物 (2)		5区	41号住居	出土遺物
	3区	6号住居	出土遺物		5区	42号住居	出土遺物
	3区	1号整穴状遺構	出土遺物	P L 77	5区	44号住居	出土遺物
	3区	2号整穴状遺構	出土遺物		5区	2号土坑	出土遺物
	3区	3号整穴状遺構	出土遺物		5区	20号土坑	出土遺物
	3区	4号整穴状遺構	出土遺物 (1)		5区	32号土坑	出土遺物
P L 56	3区	4号整穴状遺構	出土遺物 (2)		5区	34号土坑	出土遺物
P L 57	3区	4号整穴状遺構	出土遺物 (3)		5区	35号土坑	出土遺物 (1)
	3区	5号整穴状遺構	出土遺物	P L 78	5区	35号土坑	出土遺物 (2)
	3区	1号土坑	出土遺物		5区	36号土坑	出土遺物
	3区	2号土坑	出土遺物		5区	37号土坑	出土遺物
	3区	1号溝	出土遺物		5区	40号土坑	出土遺物
	3区	2号溝	出土遺物		5区	43号土坑	出土遺物
P L 58	3区	3号溝	出土遺物		5区	45号土坑	出土遺物
	3区	4号溝	出土遺物		5区	46号土坑	出土遺物
	3区	遺構外	出土遺物		5区	47号土坑	出土遺物
	5区	1号住居	出土遺物 (1)		5区	50号土坑	出土遺物
P L 59	5区	1号住居	出土遺物 (2)		5区	53号土坑	出土遺物
P L 60	5区	1号住居	出土遺物 (3)		5区	57号土坑	出土遺物
P L 61	5区	1号住居	出土遺物 (4)	P L 79	5区	59号土坑	出土遺物
	5区	2号住居	出土遺物		5区	60号土坑	出土遺物
	5区	3号住居	出土遺物		5区	63号土坑	出土遺物
P L 62	5区	4号住居	出土遺物		5区	64号土坑	出土遺物
	5区	5号住居	出土遺物 (1)		5区	65号土坑	出土遺物
P L 63	5区	5号住居	出土遺物 (2)		5区	67号土坑	出土遺物
	5区	6号住居	出土遺物		5区	68号土坑	出土遺物
	5区	7号住居	出土遺物 (1)		5区	69号土坑	出土遺物
P L 64	5区	7号住居	出土遺物 (2)		5区	71号土坑	出土遺物
	5区	8号住居	出土遺物		5区	72号土坑	出土遺物
	5区	9号住居	出土遺物 (1)		5区	74号土坑	出土遺物
P L 65	5区	9号住居	出土遺物 (2)		5区	75号土坑	出土遺物
	5区	11号住居	出土遺物	P L 80	5区	2号溝	出土遺物
	5区	14号住居	出土遺物		5区	3号溝	出土遺物
P L 66	5区	15号住居	出土遺物		5区	4号溝	出土遺物

P L 80	5区	4・9号溝	出土遺物	P L 88	6区	10号住居	出土遺物
	5区	9号溝	出土遺物		6区	11号住居	出土遺物
	5区	10号溝	出土遺物		6区	12号住居	出土遺物
	5区	11号溝	出土遺物	P L 89	6区	13号住居	出土遺物
	5区	17号溝	出土遺物		6区	14号住居	出土遺物
	5区	1号井戸	出土遺物		6区	15号住居	出土遺物 (1)
	5区	2号井戸	出土遺物	P L 90	6区	15号住居	出土遺物 (2)
	5区	49号ピット	出土遺物		6区	16号住居	出土遺物
	5区	81号ピット	出土遺物		6区	17号住居	出土遺物
P L 81	5区	遺物集中部	出土遺物	P L 91	6区	20号住居	出土遺物
	5区	遺構外 (グリッド)	出土遺物 (1)	P L 92	6区	21号住居	出土遺物
P L 82	5区	遺構外 (グリッド)	出土遺物 (2)		6区	2号土坑	出土遺物
P L 83	5区	遺構外 (グリッド)	出土遺物 (3)		6区	10号土坑	出土遺物
	5区	遺構外	出土遺物		6区	11号土坑	出土遺物
P L 84	6区	1号住居	出土遺物		6区	13号土坑	出土遺物
	6区	25号住居	出土遺物 (1)	P L 93	6区	15号土坑	出土遺物 (1)
P L 85	6区	25号住居	出土遺物 (2)	P L 94	6区	15号土坑	出土遺物 (2)
	6区	4号住居	出土遺物		6区	16号土坑	出土遺物
	6区	5号住居	出土遺物	P L 95	6区	18号土坑	出土遺物
P L 86	6区	6号住居	出土遺物		6区	19号土坑	出土遺物
	6区	7号住居	出土遺物 (1)		6区	1号溝	出土遺物
P L 87	6区	7号住居	出土遺物 (2)		6区	2号溝	出土遺物
	6区	8号住居	出土遺物		6区	6号溝	出土遺物
	6区	9号住居	出土遺物 (1)		6区	7号溝	出土遺物
P L 88	6区	9号住居	出土遺物 (2)	P L 96	6区	遺構外	出土遺物

卷 頭 資 料

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本報告書を含む6遺跡（浜町・稲荷前・三島木・城ノ内・宮内・塚畑）の調査は、東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体工事の工程、八瀬川河川改修工事（帛土木事業）、区画整理事業に伴う諸工事や試掘調査の進展、特に市街地のため用地買収・物件取居の進捗状況の影響を強く受け、平成12年～平成15年までの4次にわたり調査を実施した。そのため、調査も連続している土地としての調査はできず、飛び地のように実施せざるを得なかった。また、遺跡地は、東武鉄道の旧線跡と沿線市街地のため、踏切、排水路や生活用道路があり、その部分は、未調査となっている。

浜町遺跡は太田市の市街地にあり、古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として周知の埋蔵文化財包含地の遺跡である。本遺跡は金山丘陵の南側で八瀬川を挟み東西岸の微高地上に位置している。本来、八瀬川はこの微高地と金山丘陵の間を流れていたが、後世の用水活用によってこの微高地を縦断する流路となっている。また、城ノ内遺跡は金山丘陵の南西に位置し、周知の埋蔵文化財包含地である「城ノ内遺跡」及び「大島城跡」の西辺部にあたる。明治42年（1909）浅草から通じる東武線が延長された。大正6年（1917）日本最初の民間飛行機工場の「飛行機研究所」が中嶋知久平により金山南麓に創立され、太田の産業構造が大きく変化した。戦争中、産業として大きな役割を果たし、人口も急増した。戦後は、敗戦による衰退期を乗り越え、昭和35年（1960）に首都圏市街地開発地域の指定を受けると、積極的に工業団地の造成が行われ、工場の誘致が行われた。また、昭和37年（1962）から太田駅南側の水田地帯を新市街地として開発するための大規模な区画整理事業が行われ、公共機関の集中化も図られた。その後も工業団地が南部・西部・東部に造成され県内第1の工業都市に成長している。さらに、人口も県下でも有数の激増地域になっている。

このため市としても市内全域における道路整備、区画整理などが大きな課題となり、太田市総合計画に基づき、着々と整備事業を進めている。しかし、近年の交通量の増加による慢性的な交通渋滞の発生があり、市内を南北に分断している線路を立体交差の建設によって解消を図ろうと計画がもちあがった。

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に先だって、平成12年5月に群馬県教育委員会が埋蔵文化財の試掘調査を実施し、第1期工事分として、太田市新島町の宮内遺跡（東武伊勢崎線高架工事対象範囲）に関わる東武小泉線の中町までの約3.6km間について建設を実施することになり、同年6月に群馬県埋蔵文化財調査事業団により実施した。

第2節 調査の経過

東武鉄道伊勢崎線外2線太田駅付近連続立体交差事業に伴う発掘は、宮内遺跡（平成12年6月～12月、平成15年2月～3月）、稲荷前遺跡（平成12年7月～11月）、三島木・城ノ内遺跡（平成12年11月～平成13年3月）、塚畑遺跡（平成13年9月～12月）、浜町遺跡（平成12年11月～平成13年3月、平成13年8月～12月、平成14年7月～平成15年8月）の6遺跡について調査が行われた。

平成12年度

平成12年度の調査を初年度として第1次調査を2回に分けて実施した。平成12年5月に群馬県教育委員会が試掘調査を実施し、協議の上、平成12年6月19日より宮内遺跡（太田市浜町6-12）から第1期調査を開始した。用地買収・物件取居の進捗状況の関係から東側のみ発掘調査の実施であった。調査区東側の低地部では、顕著な遺構を見ることができなかったが、調査区西側の微高地上には、縄文時代から中・近世までの遺構を調査することができた。

8月25日に遺構調査を終了し、埋め戻し作業を行い12月31日に第1期調査を終了した。同年東武桐生線の高架工事予定地区について、群馬県教育委員会が7月に試掘調査を実施し、発掘調査を必要とする

場所が確認された。そのため、第2期調査を同年7月1日から稲荷前遺跡（太田市西本町10）の発掘調査を開始し、三島木遺跡（太田市西本町64-21）、城ノ内遺跡（太田市大島町130）、浜町遺跡（太田市本町58-7）の調査を連続して実施した。稲荷前遺跡では、緊急調査であったため、調査担当者が不足し、部長・課長・他担当の応援を得ながら調査を実施した。遺構の残存状態がきわめて悪く、住居1軒・溝1条・土坑1基であった。11月6日には全調査を終了することができた。続いて11月15日より三島木遺跡の表土除去作業を開始した。本遺跡では、竪穴住居1軒、掘立柱建物跡1棟、溝6条、土坑7基を調査することができた。11月21日より城ノ内遺跡の表土除去作業を開始し、三島木遺跡・城ノ内遺跡を並行して調査を行った。12月11日・12日に三島木遺跡の埋め戻しを行い、三島木遺跡調査を終了した。城ノ内遺跡では、12月15日に調査区を太田駅方面にむかって10mほど拡張した。12月21日に本年調査した部分の全景写真を撮影し、旧石器試掘調査を行い、12月25日には埋め戻しを実施する。翌年1月9日より、調査区南側の表土除去作業を開始し調査を再開した。全調査区から竪穴住居6軒、掘立柱建物1軒、溝9条、土坑29基、ピット59基、自然河道1条を調査することができた。1月16日には遺構調査を終了することができ、旧石器試掘調査を実施した。2月2日には城ノ内遺跡の埋め戻しを確認し、調査工程を全て終了することができた。浜町遺跡の調査は、1月9日より、表土除去作業をはじめ、1月11日より作業員を投入して遺構調査を開始した。竪穴住居1軒、土坑10基、ピット19基を調査することができた。1月16日には調査区全景写真の撮影を行った。その後旧石器試掘調査を実施し、1月18日終了、1月22日には埋め戻しも終え、全調査を終了した。

調査対象地域はいずれも東武鉄道太田駅の近くにあるため、原地形は、開発によって大きく改変されていた。そのため、コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあること、表面が削平されていることで、遺

構の残存状態がきわめて悪かった。また、いずれの遺跡もローム土を客土としているため地山との判断はつきにくく、ローム漸移層と思われる層の上面での遺構確認は厳しく、ローム面まで表土除去作業を実施した。

平成13年度

平成13年8月8日太田市市街整備課にて、群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、御東武・御佐田建設J.V.、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡調査に関する打ち合わせを実施し、第2次調査の日程確認を行った。第2次調査も2回に分けて行われた。第1期調査の調査区は、八瀬川の西岸から東武伊勢崎線の鉄道線路敷の北側に沿う、延長60mの区間（浜町遺跡1区）であり、送電線の鉄塔の移動に伴う本島病院駐車場整備の実施に伴い急遽調査する必要が生じた。そのため、平成12年5月の群馬県教育委員会の試掘調査結果をもとに、平成13年9月5日より着手した。9月6日から表土除去作業を実施し、竪穴住居7軒、竪穴状遺構3軒、溝1条、土坑17基、ピット3基を調査した。9月22日には埋め戻しを行い、第1期調査を終了した。並行して群馬県教育委員会の試掘調査が実施され、八瀬川の東岸から東武伊勢崎線の線路敷の北側に沿う延長100m区間（浜町2区）と、東武桐生線の線路敷内と北側仮設立体工事部分の延長55m区間（浜町3区）、東武伊勢崎線沿線の太田駅より西に500m程、群馬県立太田高校の南側にあたる100m区間（塚畑遺跡）の本調査が決定された。9月25日群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、御東武・御佐田建設J.V.、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、第2期調査の打ち合わせを実施し、10月1日より上記部分の調査を行うことが確認された。なお、用地買収・物件取居の進捗状況の関係から、塚畑遺跡から調査に取りかかった。当初塚畑遺跡は浜町4区として調査したが、文化課との調整で塚畑遺跡と名称の変更が行われた。排土の関係から西側より調査を実施し、縄文時代から近

・現代にいたる遺構の調査をすることができた。10月18日に御鉄建・御佐田建設JVと今後の工程について打ち合わせを行い、10月30日より浜町遺跡2区の表土除去作業、11月1日より塚畑遺跡の埋め戻しを実施することを確認した。10月31日に塚畑遺跡の調査は終了し、11月1日より浜町遺跡2区の調査に取りかかった。2区の調査は排土置き場の関係から2回に分けて実施し、西側から調査を行い、溝、土坑、ピットを確認できた。11月8日より東側部分の調査に取りかかり、11月15日には、遺構調査を終了することができた。11月20日より浜町遺跡3区の調査と2区の埋め戻しを行った。11月26日より作業員を投入して調査を実施、12月17日には調査区全景写真の撮影を行い、3区の調査を終了することができた。

平成13年度の調査も平成12年度の調査と同様に、東武鉄道伊勢崎線の敷設と住宅開発によって原地形は大きく変更されており、遺構の残存状態は悪かった。

平成14年度

平成14年7月4日太田市役所別館にて群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、御鉄建・御佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡・宮内遺跡調査に関する打ち合わせを実施した。これにより平成14年8月1日より第3次調査にはいることを確認した。今年度の調査も2期に分けて調査を行った。平成14年8月1日から浜町遺跡5区東側部分・西側部分の調査を第1期調査、平成15年2月3日から宮内遺跡2区、3月3日より浜町遺跡6区西側部分調査を第2期調査とした。

平成14年8月5日に太田市教育委員会文化財課、太田市都市整備課に浜町遺跡の調査に関わる調整を実施し、住居撤去との兼ね合いも踏まえ、協議の上8月21日より浜町遺跡5区東側部分の表土除去作業、8月22日より作業員による調査予定となる。8月20日太田市都市整備課との立ち会いのもと調査範

囲を確認し、8月21日より表土除去作業を行い、調査区西側より調査を開始した。調査区の東側は比較的遺構が薄く、9月12日には再度確認を行うが遺構はなかった。一方西側は非常に濃密に遺構が分布しており、調査に時間が必要であった。10月1日には台風の接近、その後の影響のため調査を一時中断した。10月3日より調査を再開した。10月8日より調査区中央部の調査を実施する。住居の撤去作業の終了とともに発掘調査を行うことになっているため、表土除去作業、発掘調査、埋め戻し作業を並行して実施した。10月29日には太田市ふれあいセンターにて群馬県太田土木事務所、太田市、御東武鉄道、御鉄建・御佐田建設JV、文化課、群馬県埋蔵文化財調査事業団の6者により、浜町遺跡調査工程会議が行われ、11月末までに現調査区と住宅撤去跡地の調査を終了する方向で確認された。悪天候のために作業がやや遅れ、12月4日作業員による遺構調査の終了を行うことができた。12月5日調査区全景写真を実施し、浜町遺跡5区の調査を終了することができた。用地買収・物件収居の関係から一旦調査を中断して平成15年2月3日より第2期調査を実施した。宮内遺跡2区の表土除去作業を開始し、調査を再開した。宮内遺跡2区も、堅穴住居12軒、土坑16基、溝4条、ピット5基を調査することができた。3月5日に宮内遺跡2区調査区全景写真を実施し、3月6日に調査を終了した。並行して、浜町遺跡6区の西側部分の表土除去作業を行い、3月10日より作業員による調査を行った。3月11日には、宮内遺跡2区埋め戻し・浜町遺跡6区西側部分の表土掘削を終了した。なお、浜町6区西側部分は、浜町遺跡1区の東側にあたるため、調査範囲の確認を行った。浜町遺跡6区西側では堅穴住居、土坑、溝を確認し調査を行うことができた。ただ、用地買収・物件収居の進捗状況のため、東側については来年度の継続調査となった。3月31日で第3次調査は終了となった。第1次調査、第2次調査と同様に第3次調査の浜町遺跡・宮内遺跡の調査区は、開発による上位からの攪乱を受け、遺構面の残存状態は良くなかった。

平成15年度

第4次調査は、第3次調査の継続として平成15年4月から浜町5区中央部分と浜町6区東側部分の調査を行った。

平成15年4月4日関係機関への挨拶を行い、4月8日前担当との引継を行った。4月10日には群馬県太田土木事務所と打ち合わせを行い、4月14日から、浜町遺跡6区の調査を本格的に実施した。前年度の継続調査であったが、竪穴住居22軒、土坑18基、溝8条、堀1条、ピット2基を調査した。4月21日には浜町遺跡5区の表土掘削を開始し、5区・6区の並行調査となった。5月2日浜町遺跡6区の調査を終了し、埋め戻しを実施することができた。浜町5区中央部は、前年度調査区と同様に遺構が濃密にあり、竪穴住居18軒、土坑20基、溝4条、ピット22基を調査することができた。この調査区も上位からの攪乱を受け、遺構面の残存状態は良好ではなかった。また、調査区の幅が狭いこと、この地区が古墳時代から平安時代を通しての集落地であったこと、そのため遺構の重複が多かったことなどから、全体を確認できた竪穴住居は、僅かに4軒であった。

5月28日浜町遺跡5区の埋め戻しを開始し、8月30日をもって調査を終了することができた。本調査の終了をもって、平成12年度から実施されてきた今回の事業に関する埋蔵文化財発掘調査はすべて終了した。

第2章 調査の方法

第1節 調査区の設定

連続立体工事の工程、八瀬川河川改修工事（県土木事業）、区画整理事業に伴う諸工事や試掘調査の進展、特に市街地のため用地買収・物件収居の進捗状況により発掘調査が行われた。そのため、年度ごとに分割調査した浜町遺跡、宮内遺跡については、発掘した年度ごとに区の設定を行った。宮内遺跡は、平成12年度に東側の調査を行い調査区名を宮内遺跡1区とした。平成14年度に西側の調査を行い、調査区名を宮内遺跡2区とした。浜町遺跡は、4年間にわたり調査が行われたため、調査実施地区順に地区名を割り振った。平成12年の調査については、遺跡名を地区名とした。平成13年の調査では、調査を実施した順に調査地区を浜町遺跡1区、⑥塚畑遺跡（浜町4区）、浜町遺跡2区、浜町遺跡3区と設定した。平成14・15年に浜町遺跡5区と浜町遺跡6区の調査が行われた。当初浜町遺跡4区という地区名は、群馬県教育委員会との協議の結果、塚畑遺跡となった。また、平成12年11月から始まった②稲荷前遺跡、③三島木遺跡、④城ノ内遺跡については、調査面積も狭く年度を分けずに行うことができたので、調査区は遺跡単位とした。

グリッドの設定については、各遺跡・調査区間に調査対象外地を挟み、位置的に離れているため、遺構平面図化の照合が容易に読み取れるように日本測地系Ⅱ系の旧国家座標を用い、名称には通常、グリッドとして設定するアルファベットと算用数字の組み合わせを用いた任意の範囲設定をせず、X・Y座標値の下3桁をそのまま用いて打設した杭を呼称した。また、調査時に任意の範囲内において遺物を取り上げる必要が生じた際には、範囲の対角線2地点の座標値を併記することで、取り上げ範囲を明示した。

第2節 遺構の名称

遺構名称と遺構番号は、検出遺構の名称を、区ご

とに○区○号住居跡・○区○号溝跡等の名称を用いた。また、重複を避けるため、区番号と遺構番号を合わせて呼称した。

第3節 調査の手順

- (1) 表土の除去作業については、試掘調査の結果に基づき、遺構確認面と判断された深さまで、大型掘削機械を用いて表土除去を行った。
- (2) 表土の除去後、調査区内に記録用測量杭を前述の国家座標軸に沿って、測量会社に委託し打設した。
- (3) 遺構の掘削については、遺構確認面での検出の後、埋没土の観察用断面を残して、2～4分割の掘削を行い、掘削途上で出土する遺物については、遺構の時期・性格を判別するに至る遺物を残し、遺構単位で取り上げた。
- (4) 遺構の記録測量については、原則として竪穴住居跡・土坑跡・井戸跡・掘立柱建物跡等の平面を1/20、溝跡の平面および全体図は1/40、竪穴住居竈跡は1/10の縮尺で電子測量機器を用いて図化を計った。遺構断面の図化に際しては平面図と同縮尺を用い、主に手作業で図化を計った。
- (5) 遺構記録写真の撮影については、6×7判・6×6判中型カメラと35mm一眼レフカメラでのモノクロネガ撮影、35mm一眼レフカメラでのカラーリバーサル撮影を行い、高高度よりの全体写真の撮影には、ラジコンヘリコプターによる遠隔撮影と高所作業車を用いて撮影を行った。
- (6) 出土遺物については、平成12年度から平成14年度においては、調査現場において付着土の洗浄後、遺跡名・出土遺構名と取り上げ番号を白色顔料並びに黒色インクにて注記した。また、一部の土器については、平成15年度に業者に委託して付着土の洗浄、遺跡名・出土遺構名と取り上げ番号を白色顔料並びに黒色インクにて注記した。

第4節 基本土層

全遺跡調査は、東武鉄道の旧路線と沿線の住宅街であるため、東武鉄道伊勢崎線沿いの宮内・浜町・稲荷前・塚畑の各遺跡は概ね東西に細長く、同側生線沿いの城ノ内・三島木遺跡は南北に細長い。東武鉄道敷設前は、一部市街地と水田地帯であったが、鉄道と市街地造成のため各遺跡地内及び周辺は、開発による影響を強く受け、台地部は一部削平され、低地部は盛土をされている。そのため、各遺跡地内及び周辺での堆積土壌は一様ではない。調査時の状況は、旧路線のため碎石によって覆われている部分と住宅地の耕地部分になっていた。各遺跡地の立地

及び概ねの土地利用は、宮内遺跡東側はやや低地部で、宮内遺跡中央部及び西側と浜町遺跡は微高地上の古墳時代遺構の集落と溝、塚畑・稲荷前遺跡は微高地縁辺部で古墳時代遺構の集落と溝となっており、時代の変遷とともに市街地化されたと考えられる。また、城ノ内・三島木遺跡は沖積層の低地部から微高地縁辺に位置し、古墳時代遺構の集落と中世の堀りとして利用され、時代の変遷とともに水田化されたと考えられる。以上のことから基本土層は、大きく台地部と低地部とに分けることができる。低地部では、沖積低地だったためかローム漸移層を確認できなかった。一方、台地部では、上部が削平されており、表土直下で遺構確認面であった。

基本土層

I	黒色土層……………表土、旧路線：鉄道敷設時埋設土及び上部バラス、碎石。 住宅跡地：砂質で締まり弱い、ゴミ及びバラス含む。
II	黒褐色土層……………中世～近世土層。
III	暗褐色土層……………白色粒（榛名二ッ岳軽石と浅間C軽石）を少量含む。 また、ローム粒・ロームブロックを多く含む。
IV	褐色土層……………砂質、ローム粒・ロームブロックを多く含む（ローム漸移層）。
V	にぶい黄褐色ローム土層…水性堆積ローム土、ややシルト化。
VI	黄褐色砂質ローム土層……ローム土、砂分を多く含む。
VII	ローム～黄色シルト土層

低地部

I
II
III
V
VI
VII

基本土層

I
II
III
IV
V
VI
VII

台地部

I
III
IV
V
VI
VII

第3章 周辺の環境

第1節 地理的環境

本報告書に記載の浜町遺跡地は明治42年（1909）に開通した東武鉄道太田駅の西側で、東武鉄道桐生線・伊勢崎線沿線の住宅密集地域にある。浜町遺跡は太田市本町58-7に所在し、東武桐生線と伊勢崎線の分岐点と一部伊勢崎線沿いに位置する。

太田市は群馬県の南東部に位置し、北東は渡良瀬川を挟んで栃木県足利市と南は利根川を挟んで埼玉県大里郡妻沼町と県境をなしている。地形的に観ると市域の大半は平坦な地形を成し、北側から茶臼山丘陵が張り出している。平坦部は、更新世扇状地を含む洪積台地と沖積低地からなる地形となり、金山の南麓の市街地中心部でやや高く、北西から南東へと緩やかに傾斜している。遺跡付近の標高は43mから46m程を測る。

本遺跡地付近の地形を概観すると、北は金山丘陵と大間々扇状地の先端部、東は菰川台地・竜舞台地、西は由良台地に囲まれた南東に延びる扇端低地、南は沖積低地を狭み新井・飯塚・矢島・高林台地となっている。現在では、金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が遺跡地のある微高地中央部を南北に横断し、微高地縁辺部南側を流れ国道407号線と平行して南下している。また、蛇川が由良台地の東端を北西から南東方向へ流れている。

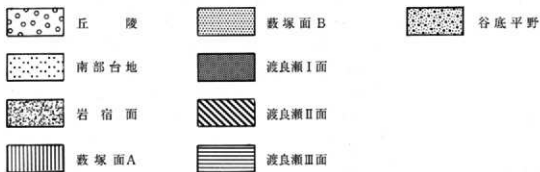
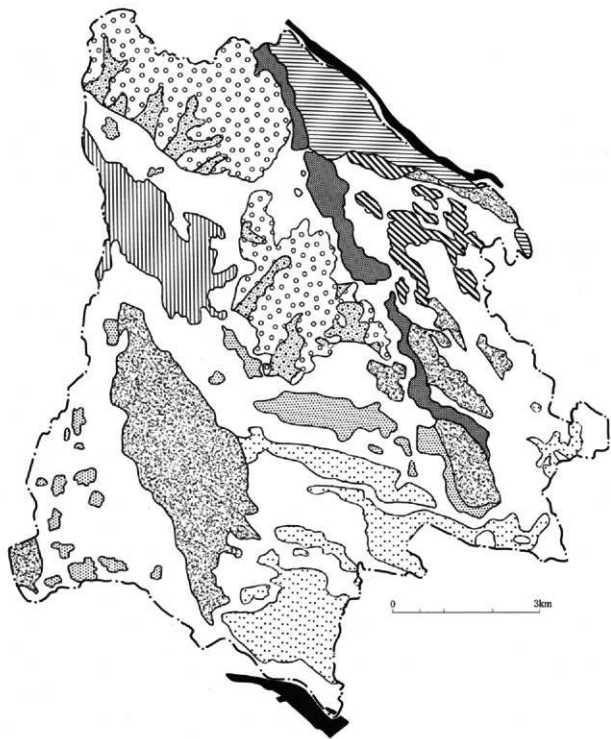
大間々扇状地は、渡良瀬川が更新世に形成した関東地方有数の大型扇状地である。大間々町を扇頂として太田市北西部から新田町、境町を経て伊勢崎市東部に至る海拔50～60m付近を扇端とする、南北約18km、扇端の幅約13kmの扇形の範囲に発達している。形成時代を異にする5つの地形面で構成される合成扇状地であるが、その中でも扇状地の西半分を占める桐原面と、ほぼ東半分を占める藪塚面が最も広く、本扇状地の主体を成している。藪塚面は、扇頂から扇端まで連続して典型的な扇状地を形成する範囲と扇端の南方に広がる沖積低地（扇端低地）の中に島状に散在するものと二分出来る。後者を藪

塚面Bと呼び、藪塚面形成後関東ローム層が降下堆積している時に浸食し尽くされずに残った微高地と考えられる。藪塚面Bは、上部ローム層の一部または河川の影響を受けた二次堆積（再堆積）の上部ローム層が見られ、沖積台地とは区別することができる。本遺跡地は、この藪塚面Bと周辺の沖積低地に位置する。

本遺跡地の南側から利根川に至る地域には新井・飯塚・矢島・高林の4つの洪積台地がほぼ東西方向に位置し、台地間は沖積低地となっている。

金山丘陵はかつては八王子丘陵と一続きのものと考えられるが、今は吉沢市萩原のごく低い鞍部を境にして離れている。山頂部を中心とした孤立山塊としての地形が読みとれ、最高地点は235.8mであり、高度42～63mを測る周辺の麓との比高は160mないし180mとなる。主な山脚は北と東及び南西の方向に延びる。西部には長手の谷が入り込んでいる。

金山丘陵の西辺に沿うように八瀬川が、由良台地の東側に沿うように蛇川が大間々扇状地の末端から利根川方面へと流れている。両河川ともに現在のルートになるまでに流路の変遷を経てきたものと考えられている。本来八瀬川は、微高地縁辺部西側を流れ蛇川と合流していたと推定され、後世の開削によって現状の流れになったものと考えられている。その間に囲まれた地域は沖積低地になっており、北西から南東へと延びている。沖積低地では藪塚礫層の上に、さらに上流側の藪塚面上の浸食された火山灰がここに再堆積し、それが低湿な環境下で粘土化して沖積層になったものと考えられる。層厚は概ね1m前後で厚いところでも2m程である。シルトから粘土質で、全体に腐食物を含んでいる。沖積層の堆積環境は全般に排出不良の低湿地で由良台地周辺には泥炭や黒泥が形成される湿原が分布していたと推定される。本地域では地表下に、完新世のうち弥生時代以前の堆積物は明瞭な地層として残存していないが、As-B、Hr-PP、Hr-FA、さらに下層にAs-Cと思われる軽石が認められることから沖積層の大部分は弥生時代以降の堆積物と考えられる。



巻頭第1図 浜町道跡周辺地形分類図

第2節 歴史的環境

浜町遺跡は、大間々・扇状地の扇端部で、由良台地の東側、金山丘陵の南部に位置し、北西から南東に延びる微高地に存在している。周辺は古墳群や条里水田跡の存在で知られる地域である。特に今回調査の行われた浜町遺跡は、平成三年改訂版発行の「太田市文化財地図」において、古墳時代前期から平安時代初期にかけての集落遺跡「浜町遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に該当している地域である。

近年、本地域でも開発に伴う発掘調査が徐々に実施され、その成果が公表されつつある。また、市史が編纂・刊行され、地域史の解明が行われている。これらの資料をもとに周辺の遺跡について時代ごとに概観したい。

旧石器時代

市域では、八王子丘陵・金山丘陵周辺と市街地南部の沖積平野に残る更新世のローム層低台地に遺跡が広がる。遺跡は、焼山遺跡(29)・金井口遺跡(22)・戸井口遺跡・東別所遺跡(18)などが知られる。焼山丘陵の南に営まれた戸井口遺跡では、ナイフ形石器・尖頭器・石刃・剥片など1,200点を超える石器類が出土している。金山丘陵の南端の大島口遺跡(55)では、刃器状剥片、八幡山遺跡(59)では、茂呂型のナイフ型石器が発見されている。

縄文時代

縄文時代全体を通じて太田市で発見された遺跡は少なく、規模も小さい。草創期の遺跡立地は、旧石器時代と大きく変わることはなく、その中でも、金山の東側にある下宿遺跡(21)においては、土坑墓・住居跡と推定されている遺構と爪形文土器が出土している。また、早期になっても目立った遺跡数の増加は見られない。焼山遺跡(29)と下小林町上遺跡では、燃糸文の土器片が採集されている。この時期、金山から南東に延びる台之郷・竜舞にかけての竜舞台地の沖積化は今ほど進んでおらず、各地に集落が

形成されるようになったのは、東京湾の海進が最も進んだ早期の後半茅山期の頃であった。

前期の遺跡は、竜舞台地をはじめ平野部の台地部分で遺跡が増加しており、代表的なものに間之原遺跡を挙げることができる。周辺では由良台地上に堂原遺跡がみられ、貝殻痕文系の土器を出土している三枚橋駅西方の大間々扇状地末端に舌状に南下する低台地の南端付近で諸磯期土器類が広く分布している。

中期の遺跡は、前半では竜舞・大泉・由良台地などで遺物類が希薄分布を示すが、後半の加曾利E式土器を出土する遺跡は急激に増加している。加曾利E式土器を出土する遺跡は由良台地では市立宝泉小学校南方の台地縁辺や新野町堂原地区、さらに成塚町成塚住宅団地遺跡や上遺跡、烏山・三枚橋駅西方に濃厚な分布が見られる。当時の集落は低地に面した台地の縁辺、あるいはそれに連続する微高地形を選地しており、その地は河川や湧水池などに近いところでもある。

後期には、竜舞台地や大泉台地・由良台地・大間々扇状地末端台地などに分布する遺跡に充実したものが認められる。周辺では堂原遺跡において後期前半の遺物が多く発見されている。後期後葉から遺跡数は再び減少する。調査例では、間之原遺跡があげられる。晩期では、大道東遺跡が知られるが、実態は明らかでない。後期後半から極端に衰退している。周辺で確認されているのは間之原遺跡だけである。

弥生時代

初期の弥生遺跡は焼山遺跡(29)・東今泉・大道東遺跡・矢田壠・小丸山遺跡などである。太田市域では中期中葉～後葉になって沖積低地の微高地上に集落が進出するようになった。これは、小谷地形を水稲耕作地として利用したことによるものと考えられる。このような場所に立地する遺跡として、駒形北遺跡、茨城北部から福島県会津地域に広がりがみられる壺形土器が出土している磯之宮遺跡などが知ら

れるが、遺跡数は極めて少なく、また継続性もない。太田市域の平野部では、広大な低湿地が広がり、当時の土木技術では充分な水田開発が進まなかったものと想定される。後期には、丘陵部にも集落が形成され、小河川を有する丘陵下の谷地形を利用した水稲耕作が行われていたようである。太田市北部の八王子丘陵では、古墳時代前期までこのような遺跡立地がみられる。

古墳時代

本地域は県内でも有数の古墳が築造された地域として知られる。昭和10年、「上毛古墳総覧」によると県下で8,423基の古墳が確認され、そのうち太田市域（旧矢場川村を含む）では、810基の古墳が認められている。周辺には、市域で最も古い様相をもつ前方後円墳である八幡山古墳(58)・朝子塚古墳、矢場薬師塚古墳がある。丘陵突端を利用して占地する前方後方墳である寺山古墳など4世紀代の築造とされる古墳が出現している。5世紀から6世紀前半にかけては良好な甲冑の出土で知られる鶴山古墳、帆立貝型の亀山古墳、市域で唯一周堀内に一対の中島をもつ鳥崇神社古墳(40)が築かれていく。5世紀代に入ると、円墳の上小林稲荷山古墳、前方後円墳の円福寺(別所)茶臼山古墳・鶴山古墳などに続き、帆立貝型古墳(造り出し付き円墳)の女体山古墳や東日本最大の規模をもった前方後円墳天神山古墳(19)が出現し、太田市域の大型前方後円墳の築造は頂点に達した。このことは、墳形規模に誇示された政治・経済・軍事力を持つ首長が、太田市域に生まれたことを物語るものであり、古墳の被葬者は「畿内大和政権」と結び付きを持った、「毛野国」を統括する強大な豪族であったと考えられている。さらに6世紀代になると、八王子丘陵の南西方から金山丘陵の西方大間々扇状地末端に開けた沖積地を中心に成塚古墳群、長手口古墳群(41)等の群集墳が発展した。一方、集落跡も前期から遺跡数の増大が見られる。4世紀頃の太田市域では、伊勢湾を中心とした東海地域にある土器とよく似た石田川式土器(北関東東

部の標識土器)を使用する「むら」が急速に形成されるようになった。石田川式土器を出土する遺跡としては屋敷内B遺跡(9)、成塚住宅田園遺跡・堂原遺跡・脇屋深町遺跡・唐桶田遺跡等があり、石田川期の集落は低湿な沖積地内の微高地上に立地する傾向がある。和泉式土器の分布は成塚町や鳥山地区、また由良台地では新野堂原から脇屋にみられ、中期以降には周辺の高乾地へと集落は移動している。古墳時代後半を迎えると、天神山古墳(19)に代表されるような巨大な首長墓は築造されなくなり、上毛野国内に占める太田市域の勢力は後退傾向を示している。太田市南部では高林古墳群や東矢島古墳群(後円部のみを残す御嶽山古墳を除き消滅)が築造され、北西部では周堀内に1対の中島を持つとみられる前方後円墳の鳥崇神社古墳(40)、北東部では、大日山古墳などが築造されている。この頃、横穴式石室をもった小規模な円墳などが、平地をはじめとし、丘陵や山麓にまでも、群として造られるようになった。市場稲荷山古墳や八王子丘陵南端に分布す御嶽山古墳群・大鷲梅穴古墳群・金山丘陵の寺ヶ入古墳群(26)・西山古墳群・東山古墳群(30)・市域南部の台地上に位置する富沢古墳群・高林古墳群などがその代表例である。後期の集落遺跡の多くは広々とした沖積地内の小規模微高地を避けて、その周辺に広がる大間々扇状地の末端の台地や金山・八王子丘陵の台地、利根川左岸の高林台地などの周辺部に分布する傾向があり、堂原遺跡・川窪遺跡(17)などがみられる。また、市域で最も古い寺院跡と考えられる寺井庵寺は7世紀後半には建立されたと推定されている。

金山丘陵東麓から北麓にかけて狸ヶ入窟跡・辻小屋窟跡・入宿窟跡・亀山窟跡・内並木窟跡・焼山窟跡などの東金井窟跡群(47)や、菅ノ沢窟跡・八ヶ入窟跡・課ヶ入窟跡及び長手谷の山去窟跡などでは須恵器が生産されていた。これら古窟跡群は、全体で20カ所以上に及び、古墳時代においては、関東以北で最大級の規模を持つ一大窯業地帯を形成していた。

古墳時代終末期の古墳としては、横穴式の巨大石室が開口する方墳の巖穴山古墳があり、これ以降太田市域では古墳は築造されていない。

飛鳥・奈良時代

なお、新田駅・新田郡街は七堂遺跡西方の新田町村田の入谷遺跡と推定されており、ここから分岐する東山道武蔵路は、古代瓦を出土する釣堂遺跡や東矢鳥遺跡付近を通過して武蔵国府へ延びていた。

八王子丘陵南東麓の萩原窯跡では、須臾器がこの時代から10世紀初頭まで生産された。一方萩原瓦窯跡では上野国分寺（群馬町）や上植木庵寺（伊勢崎市）などの瓦が焼成されていた。また、土地制度として行なわれた条里制水田が古氷や飯塚・東矢鳥などの水田地帯に残されている。

奈良・平安時代

律令制度が施行されると、郡制が整えられるようになり、太田市域ではほぼ金山を境に西半分が新田郡、東半分は山田郡に属し、また南東部が邑楽（オハラキ）郡に含まれていた。その後、奈良時代には律令制度のもとで設けられた東山道が、七堂遺跡や寺井庵寺の南方を東西に横断していたと考えられている。天良七堂遺跡は礎石建物跡が一軒検出されており倉庫と考えられている。小金井入谷で発見された礎石や瓦屋根構造をもつ奈良朝の建物跡は奈良時代の官衙的性格をもつ建築群の一つと考えられている。境ヶ谷戸は地方官衙的遺跡であったと推定されている。また、釣堂遺跡は瓦類が発見され、寺院跡と考えられている。金山西北方の大間々扇状地末端の市域の寺井・天良地域から新田町小金井・市野井にかけてこのような遺跡が分布し、七世紀後半から十世紀にかけて存続しており、しかも地方官衙的性格を示すものである。また、東山道に関連する遺構も検出されつつあり、この地域を通ったものと考えられている。本地域は十世紀前半に編まれた『和名類聚抄』にみられる上野国14郡のうち、新田郡の南

東部地域を占めると考えられ、新田郷に当てられている。また、生産域としては、金山北東麓にある二の宮遺跡や太田市南部にも条里制水田が想定されているが、北関東自動車道に伴う発掘調査などにより浅間B軽石に覆われた水田跡が検出されつつある。市域における奈良・平安時代の村落社会は、基本的には前代の古墳時代を発展的に受け継いでいるが、集落分布のありかたは多様に展開している。太田市史では七区域に区分できるとしているが、大間々扇状地末端地域では、八幡遺跡、久保遺跡などの広大な範囲を占めて分布する奈良・平安時代の集落遺跡があり、寺井町から鳥山にかけての広範な地域に、奈良・平安時代の地方官衙とも関係する村落が形成されていたことが推定される。

平安・鎌倉時代

奈良時代末期から平安時代初期においては東国諸国は蝦夷政策の兵士・武器・食糧を供給する使命を帯び、当地域もこの政策の影響を大きく受けていたものと推定される。金山山麓の菅ノ沢遺跡や高太郎遺跡などでは、タタラによる製鉄が行われていた。平安時代末期、律令制度が形骸化する中で、天仁元年（1108）浅間山の大噴火により、上野国（群馬県）は未曾有の大災害に見舞われ、厚い火山灰に覆われた農地は著しく荒廃した。このような火山災害からの復興を進める中で、太田市域にも荘園が形成されていった。

中世の上野国の代表的な荘園である新田荘もその一つである。藤原姓足利氏の元に流されていた源義国（源義家の第三子）は、藤原姓足利氏の没落により、足利荘を確保し、源姓足利氏の元を作った。

義国長子の義重は、隣接の新田郡に進出し、新田郡南西部の大間々扇状地原端に広がる沖積地を開発し、その後、十数年の内に、新田荘は新田郡全域（太田市西部はその東半を占める）に拡大していった。また、義重は子を山名（高崎市）・里見（榛名町）にも配して勢力を広げた。

鎌倉・室町時代以降

本地域は、平安時代の終わり頃から新田荘の範囲に織り込まれていき、嘉応二年（1170）の「新田御荘嘉応二年目録」には、大島郷が見られる。また、鎌倉時代には、新田氏の系譜に連なる里見氏から鳥山郷に鳥山氏、大島郷に大島氏などが現れる。室町時代には、新田荘は岩松氏の治めるところとなり、大島郷・鳥山郷は、岩松氏、鳥山郷の一部は庶子の鳥山氏の所領となっている。室町時代のおわり戦国時代を迎える頃にはかつて新田荘を支配していた岩松氏とは別系統の岩松氏が文明元年（1469）戦国時代を通して太田・新田地方の象徴であった金山城を築城している。しかし、明応四年（1495）家臣の横瀬成繁に実権を奪われた。横瀬氏は由良姓を名乗り金山城の実権を掌握したが、上杉氏の関東進出、後

北条氏の上野国進出に際してはその支配下に属した。所謂中世城館跡を見ると典型的な山城である金山城跡（53）をはじめ大島城跡（56）・大島館跡（57）・鳥山環濠遺構群がある。大島城跡（56）は、戦国期の金山城跡（53）の山城であったと推定されている。大島館跡（57）は、北西～南東100m、北東～南西250mの外郭があったと推定されている大島氏の館跡である。鳥山環濠遺構群は、鳥山中・下町にあり、鳥山城跡（65）・鳥山館跡（66）・鳥山屋敷跡（67）の三カ所で、15・16世紀に存続したとされる鳥山城跡（65）が鳥山氏の居館と考えられている。

やがて、江戸時代を迎えると新田郡鳥山村と大島村は館林城主となった榎原氏の所領となり、この地域も幕藩体制に織り込まれていった。

地理的環境参考文献

- 『太田市史』通史編自然太田市 1996
- 『太田市史』通史編原始古代太田市 1996
- 『新田町誌』第2巻資料編（下）新田町誌刊行委員会 1987
- 『年保遺跡・鳥山下遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第333集 2003
- 『前沖遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第358集 2004

歴史的環境参考文献

- 『太田市史』通史編自然太田市 1996
- 『太田市史』通史編原始古代太田市 1996
- 『新田町誌』第2巻資料編（下）新田町誌刊行委員会 1987
- 『東長岡戸井口遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第257集 1999
- 『年保遺跡・鳥山下遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第1集 2003
- 『前沖遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第2集 2004
- 『太田市の文化財』太田市教育委員会 1995

周辺の遺跡一覧表

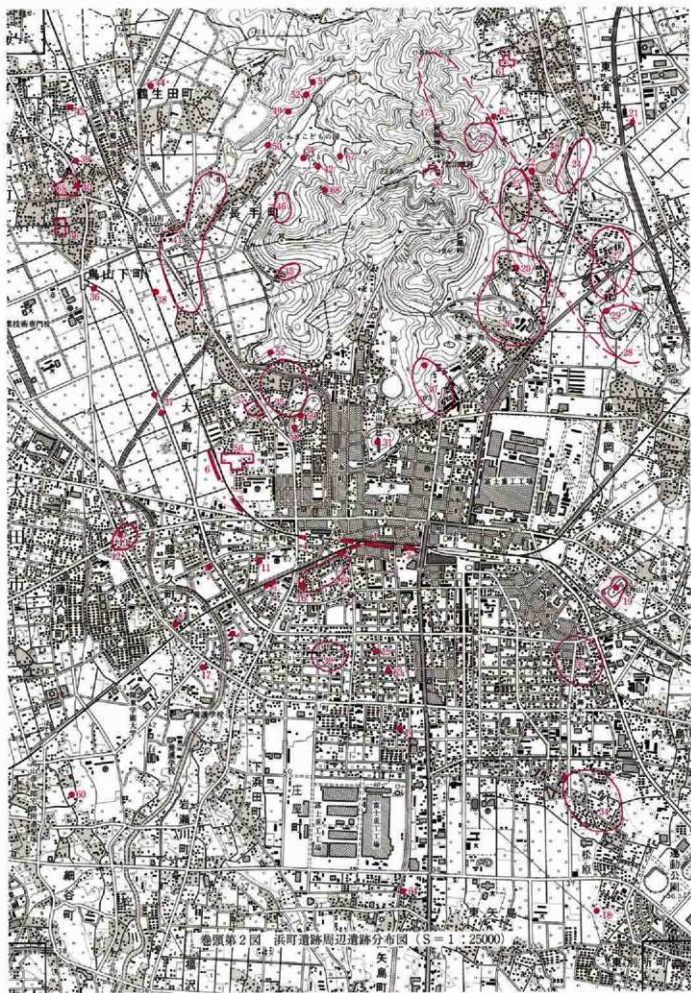
番号	遺跡名	時代	遺跡概要	文献
1	浜野遺跡	古墳～平安	本遺跡(古墳～平安の竪穴住居、中世の溝・井戸)。	本書
2	塚畑遺跡	縄文・古墳・平安	縄文中期土器。古墳～平安の竪穴住居。	遺：年報21
3	宮内遺跡	縄文・中世	縄文前期包含層。古墳～平安の竪穴住居。	遺：年報20・22
4	柳原前遺跡	平安	平安時代の竪穴住居。	遺：年報20
5	三島本遺跡	古墳・奈良・平安・中世	奈良・平安の土坑。中世の掘立柱建物。	*
6	城ノ内遺跡	古墳～中世	古墳の竪穴住居。中世の大規模の堀。	遺：年報21
7	舞台A・D遺跡	古墳後～平安	古墳後期の集落。多量の灰化米。	市史
8	舞台C遺跡	古墳後期	古墳後期の集落。	*
9	原敷内B遺跡	古墳前・中世～	4世紀後半の前方後方形副溝墓。	*
10	深町古墳群	古墳後期	詳細不明。	文化財情報 市史
11	船岡山古墳	古墳	径20mの円墳。墳輪は太田高校敷地内。	文化財情報
12	藤阿久古墳	*	古墳時代の墓。	文化財情報
13	藤阿久古墳群	*	径15m程度の円墳が多く、横穴式石室か。6世紀代。	市史
14	稲荷塚古墳	*	全長50m程の前方後円墳か。	市財施
15	五(御)塚古墳	*	円墳。	市史
16	稲荷塚古墳	*	前方後円墳。	市史
17	川窪遺跡	古墳前～平安	古墳前～後期、及び平安の集落跡。	*
18	東野西遺跡	古墳(本の木・中林)	敏先形実副器。	*
19	太神山古墳	古墳中期	全長210m、東日本最大の前方後円墳。	*
20	内並木遺跡	旧石器	敏先形実副器。	*
21	下宿遺跡	縄文前期	爪形土器を包含する遺構。	*
22	金井口遺跡	旧石器・縄文前・古墳～平安	敏先形実副器。	*
23	大日沢古墳群	古墳後期	7世紀末の小規模墳丘墓群。	*
24	亀山古墳群	*	円墳群。	*
25	寺ヶ入鳥塚古墳群	*	竪穴式石室の円墳群。	*
26	寺ヶ入古墳群	*	竪穴式石室の円墳群。	*
27	塚山北古墳群	*	6世紀初頭から7世紀にかけての古墳群。	*
28	塚山南古墳群	*	6世紀中頃から7世紀にかけての古墳群。	*
29	塚山遺跡	旧石器～平安	古墳時代前期の土器層が多く出土。	*
30	東山古墳群	*	最終末期の古墳群で、小型横穴式石室が主力。	*
31	高山古墳	*	6世紀後半集落の横穴式石室の前方後円墳か。	*
32	新井古墳群	*	6世紀後半から7世紀にかけての古墳群。	*
33	新高・小舞木古墳群	*	6世紀後半～7世紀の横穴式石室円墳。	*
34	飯塚古墳群	*	方形副溝墓4基、円形副溝墓1基。	*
35	大島古墳群	*	径10m前後の円墳群。	*
36	前沖遺跡	*	古墳時代後期集落跡。	遺：報告書333集
37	年保遺跡	*	古墳時代後期集落跡。	遺：報告書321集
38	三枚畑前遺跡群	縄文～平安	縄文(前期～後期)、弥生(後期)、古墳～平安の遺物出土。	遺：遺跡台帳
39	圓倉遺跡	古墳	古墳時代遺物散布地。	文化財情報
40	鳥居野井古墳	古墳後期	前方後円墳。全長推定66m。5世紀末～6世紀前半。	市史
41	長手口古墳群	*	3基の前方後円墳を中核、6世紀後半に形成。	*
42	長手口跡	*	中世城跡。	文化財情報
43	中遺跡	*	古墳時代遺物散布地。	*
44	中妻遺跡	古墳	集落、古墳。	*
45	貫芝塚古墳群	古墳後期	約30基の円墳よりなる群集墳。6世紀後半。	市史
46	式反田古墳群	*	数基の円墳からなる。	*
47	東金井宮跡群	奈良～平安	6～9世紀の須恵器の窯跡群(榎ヶ入・辻小屋・入稻・亀山・内並木・焼山須恵器窯跡)。	*
48	金井口墳輪竈跡	古墳	墳輪製作址。	*
49	高太郎遺跡	古墳後期～平安	古墳時代後期の須恵器窯跡5基。平安時代製鉄か。	遺：年報13
50	高太郎遺跡	平安	製鉄跡3基、炭遺跡3基。10世紀前半。	市：年報1
51	高太郎遺跡	古墳後期～平安	平安時代製鉄跡。	文化財情報
52	殿ヶ谷戸遺跡	縄文・古墳・平安・中世	縄文、古墳、平安時代、中世の集落・生産遺跡。	*
53	金山城跡	中世	文明元年(1469)岩松家練築城。	市財施
54	山去・十八曲遺跡	*	井戸跡1基、金山城跡関連の大堀り跡。	遺：年報12
55	大島口遺跡	縄文前期・古墳	縄文前期・早・前期及び古墳時代遺物散布地。	市史
56	大島城跡	*	15世紀築城。堀、土塁。	城跡群
57	大島館跡	中世	14世紀。大島氏(源氏残)土居、戸口。	*
58	八幡山古墳	古墳前期	前方後円墳。全長84m。竪穴式石室か。	市史
59	八幡山遺跡	旧石器	旧石器時代遺物散布地。ナイフ形石器。	*
60	細谷東遺跡	古墳・奈良	古墳・奈良時代の集落。	文化財情報
61	櫻ヶ入館遺跡	中世	中世の館跡。	市財施
62	始成寺跡	*	中世の寺跡。	城跡群
63	新井館跡	*	中世の館跡。	*
64	突島館跡	*	中世の館跡。	*
65	島山館跡	*	堀。	*
66	島山館跡	*	堀。	*
67	瑞足寺跡	*	中世の寺跡。	*
68	長妻寺跡	*	中世の寺跡。	*

県：群馬県教育委員会 市：太田市教育委員会 市史：太田市史 市財施：太田市文化財施園

団：財団法人群馬県立文化財調査事業団

文化財情報：「群馬県文化財情報システムCD-ROM版」

城跡群：「群馬県の中世城跡群」



巻頭第2図 浜町遺跡周辺遺跡分布図 (S = 1 : 25000)

矢倉町

本 文

第1章 浜町遺跡の遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

本遺跡の調査対象地域は東武鉄道太田駅の近くにあるため、原地形は、開発によって大きく改変されている。調査以前は、鉄道敷地、住宅地として利用されており、平坦地となっていた。東武鉄道敷設時（東武伊勢崎線は明治43年（1910）開通）または、その後の補修時の造成等や住宅跡地のため攪乱が所々に及んでいる。もともとは低地と微高地が入り組んだ地形であるが、鉄道敷設時に大がかりな造成が行われ、微高地部は表層の削平がローム層にまで及んでおり、逆に低地部は、埋土されている。住宅跡地の攪乱、ゴミ穴の他、鉄道関係のコンクリート基礎などの合間に、古墳時代～平安時代を中心とする遺構を確認することができた。しかし、コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあることと、表面が削平されていることとで、遺構の残存状態がきわめて悪かった。

堅穴住居は、いずれも残りが悪く床面まで削平が及んでいたこと、また、調査区の幅が狭いこと、古墳時代から平安時代を通しての集落地であったこと、そのため遺構の重複が多かったことなどから、住居全体が調査できず、詳細が不明なものが多い。

堅穴状遺構としたものは、床面と思われる硬化面や竈、柱穴などを確認できず、また他の住居との重複関係のため、堅穴住居と断定できなかったものやその性格が不明確な不定形の掘り方を持つ遺構もある。張り床を確認できたが壁の確認が難しいものについては、掘り方で確認した。堅穴住居の向きは第1次調査では堅穴住居1軒が検出されたものの、住居は東壁の一部が確認できるもののみで、周囲は後世の東壁を受け、住居全体の把握ができなかった。中央部には炉と考えられる焼土があり、覆土では浅間C軽石（As-C3世紀後葉）が確認できたため、古墳時代前期の堅穴住居であると考えられる。

浜町遺跡5区・6区の堅穴住居を含めた遺構のほとんどは、層厚約30cm～40cmの遺物を多く含んだ

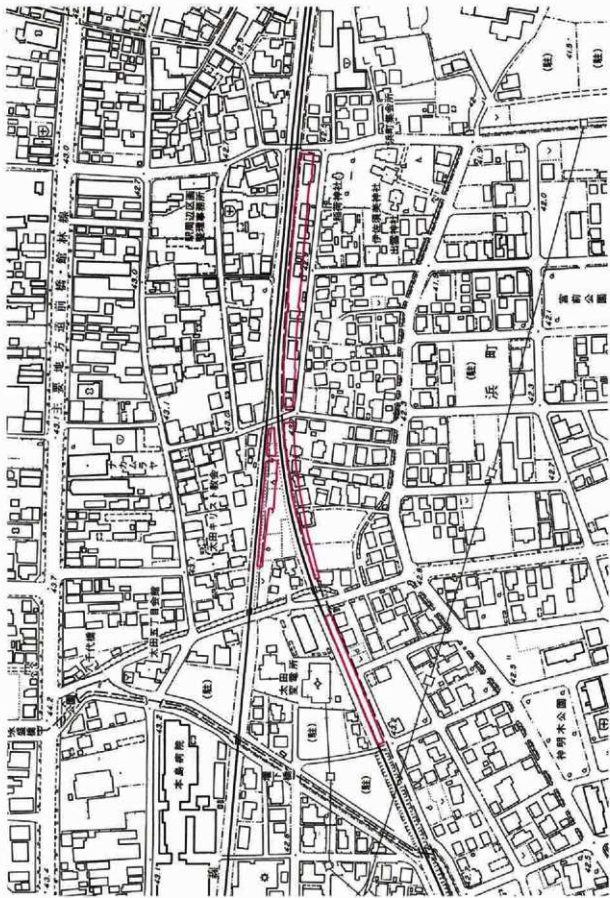
暗褐色土下より検出された。地形の起伏をもった砂質ローム層を掘り抜いてつくられていた場合には、平面での遺構のプラン確認は容易にできた。しかし、暗褐色土や古い堅穴住居を切ってつくられたものは、重複によるプランの確認が難しかった。暗褐色土の掘り下げ中に、壁をもたない硬化した床面のみ住居も一部で認められた。堅穴住居の形状を確認でき、なおかつ残存状態の良いものについては、炉をもつものと東側、北西側、北側に竈をもつものがある。また、堅穴住居の向きは、概して南東～北西方向に主軸を置くものが多く、残存状態の良い堅穴住居については、貼床や柱穴、床面を巡る周溝も確認することができ、中には当時の構築状況を窺わせる竈をもつ堅穴住居もあった。柱穴・周溝の確認できた堅穴住居はなかった。竈の残存が良好の住居が2軒あり、そのうちの1軒は9世紀と考えられる堅穴住居であり、竈の構築材として煉瓦状の形をした材を確認した。また、もう1軒の10世紀と考えられる堅穴住居は竈の煙道が確認できた。比較的残存状況の良い住居は平安時代のものが多かった。また、土坑1基からは、古墳時代中期と考えられる遺物が多数出土した。

各土坑やピットについての明確な時期は不明であるが、遺物の出土した一部の土坑や包含層中に含まれる土器の様相などから、古墳時代、奈良・平安時代の遺構であると考えられる。

他の遺構では、古墳時代中期・後期の完形に近い遺物を出土した土坑が5基確認できた。そのうちの土坑2基は、深さ約2m、大小二つの円を重ねたような瓢箪形をしていた。いずれも底から遺物を出土している。

2区では、北西から北東へ弧状に約30mの間で、幅約70cm、深さ50cm（確認面より）ほどの逆台形状の区画溝が確認されているが、両端とも調査区外に出ており、詳細は不明である。

土坑1基からは、古墳時代中期と考えられる遺物が多数出土した。



第1図 調査区位置図 (S=1:5000)

第2節 浜町遺跡について

(所在地太田市浜町・本町・西本町)

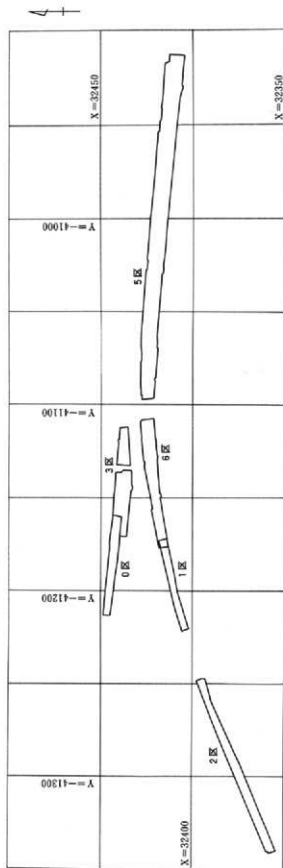
1. 調査の経過と位置

浜町遺跡は太田市の市街地にあり、古墳時代前期から平安時代初頭にかけての集落跡として周知の埋蔵文化財包含地の遺跡である。本遺跡は金山丘陵の南側で八瀬川をはさみ東岸の微高地上に位置している。本来八瀬川はこの微高地と金山丘陵の間を流れていたが、後世の用水活用によって微高地が縦断されている。第1次調査は、この八瀬川の東岸の微高地、浜町遺跡の北辺部を調査した。平成12年11月15日より三島木、城ノ内、浜町遺跡の順に着手し、一部同時並行で調査を行った。

第2次調査は、2回に分けて行われた。第1期調査の調査区は、八瀬川の西岸から東部伊勢崎線の鉄道線路敷の北側に沿う、延長60mの区間(浜町1区)であり、平成13年9月5日より着手した。第2期調査の調査区は、八瀬川の東岸から東武伊勢崎線の線路敷の北側に沿う延長100m区間(浜町2区)と、東武桐生線の線路敷内と北側仮設立体工事部分の延長55m区間(浜町3区)である。平成13年10月30日より浜町遺跡2区、同年11月20日より浜町遺跡3区の順に実施した。浜町遺跡の北西部から南西部にあたる。

第3次調査は、平成14年8月1日から東武伊勢崎線の線路敷内の浜町3区と浜町6区の東側、太田駅方面に向かって190mの区間(浜町5区)のうち、住居撤収作業の終了した西側と東側の調査を実施した。浜町遺跡の中央部分にあたると考えられる。

第4次調査は東武伊勢崎線の線路敷内の浜町5区の中央部分(第3次調査の残り部分)と浜町3区の南側部分で浜町1区の東側部分にあたる65m(浜町6区)を平成15年4月1日から調査を実施した。



第3節 遺構各節

調査範囲の幅が狭い所に遺構が密集していたり、市街地の中心の住宅地であるために、攪乱が遺構面にまで及んでおり、遺構の残存状況は非常によくなかった。

0区からは、出土遺物や包含層中に含まれる土器の様相などから、古墳時代前期から平安時代の堅穴住居跡や土坑・ピットが確認された。

1区では、堅穴住居跡7軒、堅穴状遺構3軒、土坑17基、溝1条、ピットなどを確認した。古墳時代前期から江戸に至る遺物が出土している。

2区では、区画が確認されたが、調査範囲が狭いために詳細は分からない。

3区では、溝状の堅穴から投棄されたような状態の土器が多数出土している。堅穴住居跡の竈は半数が東竈であった。墓坑と思われる様相の土坑も2基確認された。

5区では、堅穴住居跡が、古墳時代から平安時代までは連続して確認された。しかし、切り合いが著しく、発掘中に遺構の年代差を捉えることは難しかった。

6区でも、古墳時代から平安時代にかけて、人々が生活を続けてきた痕跡を確認された。逆台形の大溝(幅3m、深さ2m)は、出土した遺物から中世から近世に至るまで、延々と使われていることが分かった。

第3節 遺構各説

I.0区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡0区では、古墳時代の遺構と遺物を検出した。調査地は、東側が微高地であり、ゆるやかに西側にくだる傾斜地である。調査以前は、東武伊勢崎線の路線として利用されており、それ以前は水田と桑畑として利用されていた。調査区は、東武鉄道伊勢崎線の敷設と住宅開発によって、大きく改変されており、遺構の残存状態は悪かった。堅穴住居跡1軒、土坑8基、ピット20基、河道1条を調査した。縄文時代から近世までの遺物を検出したが、時期を特定するまでには至らなかった。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられず、ローム層下の地山堆積状況は、試掘調査などの遺構断面を見る限り、いずれも砂層を含む水性堆積土であり、暗色帯やテフラ層は検出されず、下位は砂礫層または粘土層に至る。このことから、当該期における当地の地理的環境は離水・安定せず、生活に適していなかったものと推察される。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかった。遺物は表面採取で土器を3点検出した。また、弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

本遺跡で検出した遺構は、古墳時代以降のものと推定される。鉄道の敷設に伴う削平や耕作等により遺構の残存状況が悪く、火山灰等の時期確定のカギになる層も明確には残存しない。そのため、わずかな出土遺物と埋土からの推定となり時期を明確にで

きないものも多い。1号竪穴住居は、東壁の一部が確認できるのみで、周囲は後世の擾乱を受け、住居全体の把握ができなかった。中央部には炉と考えられる焼土があり、覆土からも古墳時代前期の竪穴住居であると推定できるが、特定できる遺物はなかった。土坑2基からは、古墳時代の遺物が出土したが、遺存状態はあまりよくなかった。ピット2基からも古墳時代と考えられる遺物が出土しているが、時期を特定できなかった。表面採取による古墳時代の土器も、少量出土しているが、それ以外の遺構については残念ながら検出はなかった。古墳時代～平安時代の集落跡が検出されている塚畑遺跡、舞台A・D遺跡が近接していることから、西側には4世紀後半の前方後方形の周溝墓1基、円墳2基が検出されている屋敷内遺跡が近接していることから当該期の遺跡の存在が想定されるものの、調査区が狭かったこと、遺存状態が悪かったことからその地点は特定できなかった。

奈良・平安時代

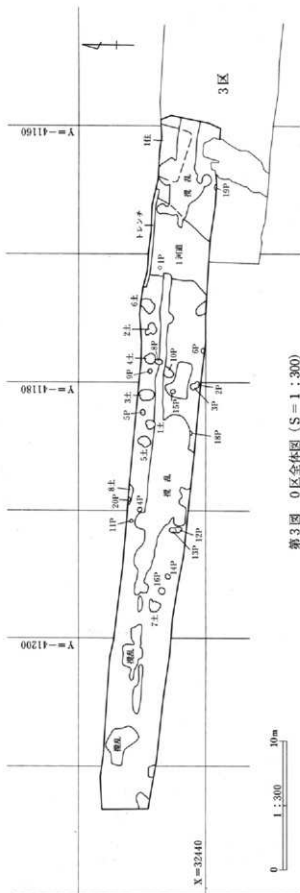
奈良・平安時代の遺構・遺物と認められるものは検出できなかった。他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

中・近世

この時期の検出遺構はなく、わずかに表面採取遺物として、近世陶器の口縁、軟質陶器口縁1点、胴部6点のみであり、図化できる遺物はなかった。

時期不明

河道1条を検出した。河道からは、古墳時代の遺物が若干出土しているが、前述のとおり調査区を覆う上層は、鉄道の敷設に伴う土地改良による客土であるため、他所からの移入で原位置性が薄いことの判断により掲載を割愛した。また、その他の土坑については、遺物は出土しなかったため、時期を特定できなかった。



第3図 0区全体図 (S = 1 : 300)

0区 竪穴住居跡

(1)竪穴住居跡

1号住居 (第3・4図、P.L.1)

位置 0区 X=32441~444 Y=-41160~165

重複遺構 なし

形態 不明

方位 計測不能 (N-15° - W)

規模 長軸2.60×短軸1.20m

調査区住居確認面のみ

面積 (3.946) m²

壁高 上部からの削平を受け東側1部のみ確認

床面 上部からの削平を受け中央部のみ床面を確認。掘り方面から2cm~8cm程の埋め土を施して平坦な面をつくったと考えられる。

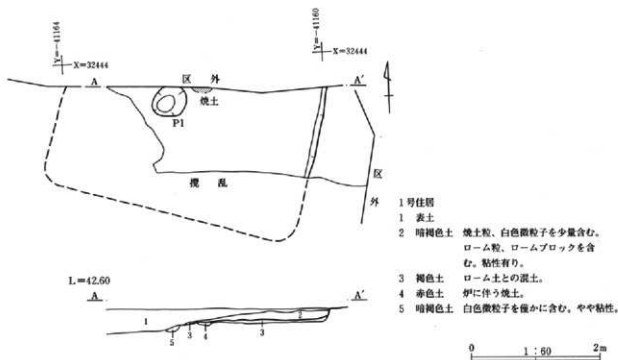
柱穴 調査区内住居中央付近にP1を確認、長軸56cm×短軸48cm、深さ8cmほどである。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 住居中央部、調査区北側壁付近に炉にともなう焼土を一部確認できた。調査区内で、長軸32cm×短軸8cm、厚さ4cmである。焼土痕の大部分が調査区外に出るため、全容は確認できなかった。単なる焼土の可能性もある。

遺物 1号ピットからは、土師器胴部片1点、須恵器胴部片3点、近世陶器胴部片1点出土。小片のため、図化できず時期の特定もできなかった。



第4図 0区1号住居 平面図

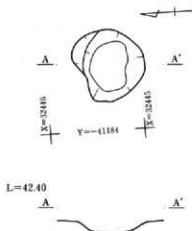
(2)土坑跡

本遺跡から8基の土坑跡を検出した。同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は困難であるが、埋め土の土質・色調及び遺物の検討を行い、時期の推定を試みた。しかし、出土遺物が少なく、水田耕作、線路敷設時の土地整備等の上部からの削

平と攪乱が著しく、時期・用途を想定できたものは2基しかなかった。また、竪穴住居跡の床面まで欠失するまで削平されていることから、掘削深度の浅い土坑は、この時点で消失してしまったものと推察される。それぞれの形態・規模については一覧表、遺構図を掲げている。土坑は大きく分類すると、①円形・楕円形②方形③不整形とわけることができた。

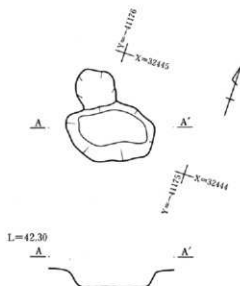
1号土坑 (第3・5図、第1表)

楕円形にちかい不整形であるが断面は皿状を呈している。底面は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。



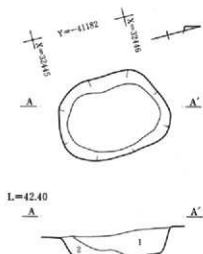
2号土坑 (第3・5図、第1表)

隅丸長方形にちかい不整形である。断面は皿状で底面は平坦である。



3号土坑 (第3・5図、第1表、P L 1)

隅丸長方形で断面は皿状を呈し、底部は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

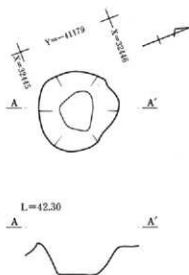


3号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック含む、粘性有り。
- 2 暗褐色土 ローム混土、壁の崩落土。

4号土坑 (第3・5図、第1表)

ほぼ円形で、深さ0.3mを測る。すり鉢状に2段に掘り込まれている。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。



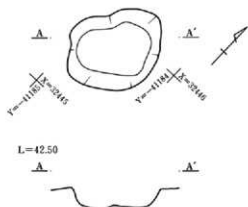
0 1:40 1m

第5図 0区1~4号土坑 平・断面図

0区 土坑跡

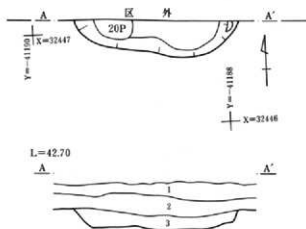
5号土坑 (第3・6図、第1表)

楕円形で、断面は皿状を呈している。底面は概ね平坦である。



8号土坑 (第3・6図、第1表)

調査区境に位置し、北側が調査区外となるため、全形は未確認である。20号ピットと重複しているが新旧関係は不明である。平面形状は長方形にちかい不整形であり、断面は皿状を呈している。底面は概ね平坦である。2層をきって掘り込んでいることから、中世以降の土坑と考えられる。

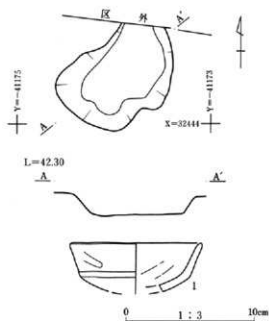


8号土坑

- 1 黄土
- 2 黒褐色土 白色微粒子を僅かに含む。ローム粒、ロームブロック含む。粘性有り。
- 3 暗褐色土 白色微粒子、ローム粒を僅かに含む。粘性有り。

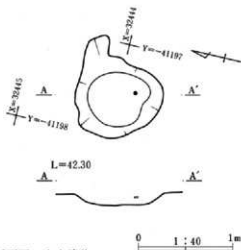
6号土坑 (第3・6図、第1表、P L51)

調査区境に位置するため、全形は未確認である。長方形にちかい不整形であるが断面は皿状を呈している。底面は概ね平坦である。この6号土坑から、6世紀と考えられる土師器坏片が出土した。



7号土坑 (第3・6図、第1表)

楕円形にちかい不整形である。西側を攪乱のため消失している。断面は皿状を呈し、底面は概ね平坦である。7号土坑からも土師器胴部片1点、須恵器胴部片3点、近世陶器胴部片1点出土。小片のため図化できなかった。また、時期を特定するまでには至らなかった。



第6図 0区5～8号土坑 平・断面図、出土遺物

第1表 0区 土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長さ	短径	深度	
1	1号土坑	X=32444 Y=-41183	不整形	N-6°-E	0.86	0.60	0.12	
2	2号土坑	X=32444 Y=-41175	不整形	N-69°-E	0.92	0.62	0.12	
3	3号土坑	X=32444 Y=-41180	隅丸長方形	N-5°-W	1.13	0.85	0.22	
4	4号土坑	X=32444 Y=-41177	ほぼ円形	N-5°-E	0.84	0.80	0.30	
5	5号土坑	X=32444 Y=-41184	楕円形	N-47°-E	1.07	0.84	0.20	
6	6号土坑	X=32444 Y=-41173	不整形	N-49°-E	1.28	0.76	0.25	調査区外に出るため全容は不明
7	7号土坑	X=32443 Y=-41197	不整形	N-16°-W	1.08	0.90	0.14	
8	8号土坑	X=32445 Y=-41187	不整形	N-86°-W	1.70	-	0.28	

(3)ピット跡

本遺跡から18基のピットを検出したが、出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものはほとんどなかった。また、掘立柱建物跡、櫓列等の遺構関連との検討を整理時点で行ったが、該当しなかった。なお、水田耕作、線路敷設時の土地

整備による上部からの削平が著しく、掘削深度の浅いピットは、この時点で消失してしまったものと推察される。ピットについては様々な形態・様相を呈するため、それぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置については遺跡全体図の中に提示した。

第2表 0区 ピット一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	規模 (m)			備考
				長さ	短径	深度	
1	1ピット	X=32443 Y=-41171	楕円形	0.35	0.24	-	
2	2ピット	X=32440 Y=-41180	円形	0.45	-	-	3号ピットと重複
3	3ピット	X=32440 Y=-41180	円形	0.50	-	-	2号ピットと重複
4	4ピット	X=32445 Y=-41189	円形	0.40	0.34	-	
5	5ピット	X=32444 Y=-41182	楕円形	0.42	0.32	-	
6	6ピット	X=32440 Y=-41177	-	0.40	-	-	南側が調査区外に出るため、全容は不明
7	8ピット	X=32443 Y=-41178	楕円形	0.54	0.41	0.14	
8	9ピット	X=32444 Y=-41179	円形	0.36	0.34	-	
9	10ピット	X=32442 Y=-41176	(楕円形)	1.00	0.70	-	北側をトレンチによる削平を受けているため全容は不明
10	11ピット	X=32445 Y=-41190	円形	0.28	0.28	-	
11	12ピット	X=32442 Y=-41191	楕円形	(0.50)	0.45	-	13号ピットと重複
12	13ピット	X=32442 Y=-41191	楕円形	(0.48)	0.42	-	12号ピットと重複
13	14ピット	X=32442 Y=-41195	楕円形	0.45	0.31	-	
14	15ピット	X=32442 Y=-41180	楕円形	0.35	0.30	-	
15	16ピット	X=32443 Y=-41196	円形	0.50	0.50	-	
16	18ピット	X=32441 Y=-41183	(円形)	0.32	-	0.11	北側が上部からの削平を受けているため全容は不明
17	19ピット	X=32399 Y=-41164	(楕円形)	0.50	-	0.50	南側が調査区外にのびるため全容は不明
18	20ピット	X=32446 Y=-41189	(楕円形)	0.40	-	-	北側が調査区外にのびるため全容は不明、8号土坑と重複

0区 自然河道跡

(4)自然河道

1号河道 (第3・7図、P L 1)

位置 0区 X=32440~446 Y=-41165~172

方位 N-31° -E

形態 直線的、北東から南西に向かって走向する。

調査区北側が幅広く、南側はやや狭くなる。

調査区壁面に護岸用の木杭を確認できた。

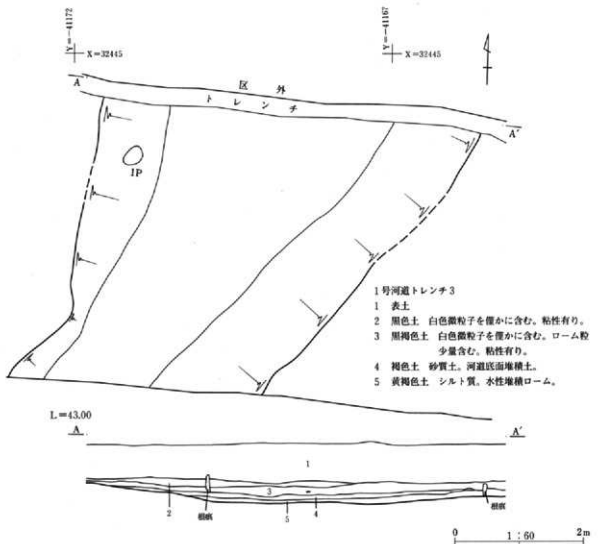
規模 検出全長 4.80m 上幅 3.32~4.80m

底幅 1.40~2.56m 深さ 0.28m

遺物 土師器片 5点、小片のため図化できなかった。

所見 底面に砂が堆積し、人為的に枕が打たれていることから、かつて水の流れがあったと考えられる。

遺物も乏しく、時期は不明である。



(5)遺構外出土遺物 (第7図、P L 51)



第7図 0区1号河道 平・断面図、遺構外出土遺物

II. 1 区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡 1 区は、浜町遺跡第 2 次調査として平成 13 年 9 月 5 日より着手した。平成 13 年度の調査は第 1 期、第 2 期の 2 回にわけて行われた。第 1 期調査の調査区は、八瀬川の西岸から東部伊勢崎線の鉄道線路敷の北側に沿う、延長 60m の区間（浜町 1 区）であり、古墳時代から奈良平安時代の遺構と遺物を検出した。調査地は、微高地であり、比高差 10cm ほどゆるやかに西側にくだる。0 区と同様に遺構の残存状態は悪かったが、竪穴住居跡 9 軒、土坑 17 基、溝 6 条、ピット 3 基を調査した。縄文時代から近世までの遺物を検出したが、詳細な時期を特定するまでには至らなかった。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられず、0 区と同様ローム層下の地山堆積状況は、いずれも砂層を含む水性堆積土であり、暗色帯やテフラ層は検出されず、下位は砂礫層または粘土層に至る。このことから、当該期における当地は、生活に適していなかったものと推察される。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかった。遺物は表面採取で土器を 3 点検出した。また、弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

1 区で検出した遺構は、古墳時代以降のものとして推定される。2・3 号土坑からは、古墳時代と想定される遺物が出土している。ピットからも古墳時代と考えられる遺物が出土しているが、時期を特定できなかった。表面採取による古墳時代の土器も、多量

に出土しているが、それ以外の遺構については残念ながら検出はなかった。

周囲には当該期の遺跡の存在が想定されるものの、調査区が狭かったこと、遺存状態が悪かったことからその地点は特定できなかった。

奈良・平安時代

1 区で検出した竪穴住居跡は、奈良・平安時代と考えられるものが多い。竪穴住居跡はいずれも残りが悪く、床面まで削平が及んでいたこと、また、調査区の幅が狭いこと、遺構の重複が多かったことなどから、竪穴住居全体が調査できず、詳細が不明なものが多い。床面と思われる硬化面や竈、柱穴などを確認できず、また他の竪穴住居跡との重複関係のため、竪穴住居と断定できなかったものは、竪穴状遺構とした。12 号土坑から須恵器坏、蔽石が出土している。その他にも遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

中・近世

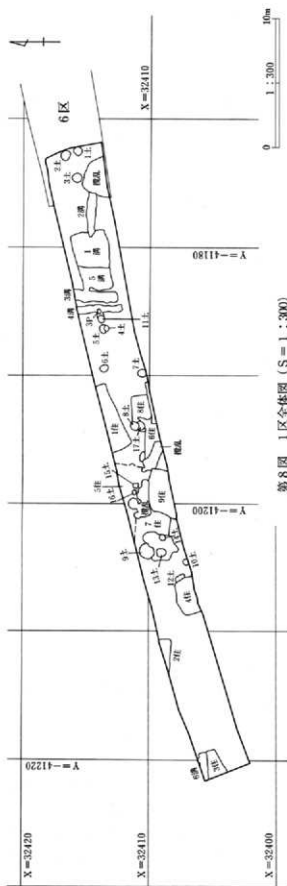
この時期の検出遺構はなく、わずかに表面採取遺物として、近世陶器片 3 点、軟質陶器片 1 点のみであり、いずれも小片のため、図化できる遺物はなかった。

近・現代

4・5・6 号溝が出土遺物と埋土の関係からこの時期に該当すると考えられる。

時期不明

1 号溝から 3 号溝出土遺物から、時期を特定することはできなかった。また、13 号土坑からは鉄滓、蔽石が出土しており、製鉄に関連する遺構の可能性がある。その他、ピットと土坑を時期を特定することができなかった。



第8図 1区全体図 (S=1:300)

(1) 竪穴住居跡

1号住居 (第8・9・10図, P L 2・51)

位置 1区 X=32411~415 Y=-41190~196

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では、長方形であるが、北側が調査区外にのびるため全形は不明。

方位 計測不能 (N-13°-W)

規模 長軸5.30×短軸1.68m

調査区住居確認面のみ

面積 (5.742) m²

壁高 16cm

床面 床面は貼り床を持たず、地山ロームが硬化する。住居西側に浅い掘り込みをもつ。

ビット・柱穴 調査区内では未確認

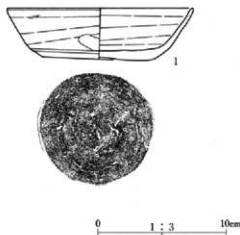
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区範囲内では未確認。調査区外のいずれかに位置しているものと思われる。

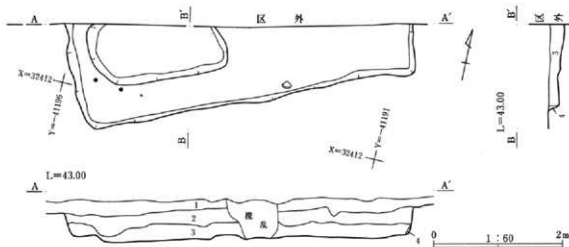
遺物 土師器口縁部・胴部片、須恵器坏、縄文土器片出土。1の須恵器坏以外、小片のため図化できなかった。

所見 本住居の出土遺物は、8世紀後半のものと考えられる。縄文土器については、流れ込みと考えられる。住居全体を把握できないが、調査区内の遺構の状況と出土遺物から、奈良時代と推察される。



第9図 1区1号住居 出土遺物

1区 竪穴住居跡



1号住居

- 1 暗褐色土 表土。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒、焼土粒含む。ローム粒僅かに含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒、焼土粒含む。ローム粒及びブロックが少量含む。締まり良い。
- 4 褐色ローム質土 やや砂質。3土を少量含む。締まり良い。

第10図 1区1号住居 平・断面図

2号住居 (第8・11・12図、P L 2・51)

位置 1区 X=32408~410 Y=-41210~214

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では、長方形であるが、北側が調査区端に位置し、全体を調査していないため全形は不明。

方位 計画不能 (N-87° -W)

規模 長軸2.62×短軸0.98m

調査区住居確認面のみ

面積 (1.350)m²

壁高 上面からの削平を受けているため12cmしか確認できなかった。

床面 床面は貼り床を持たず、地山ロームが硬化する。北東コーナーに長軸0.68m×短軸0.60mほどの炭、焼土が分布。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

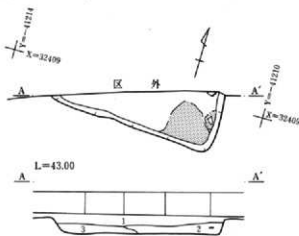
周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかに構築されている可能性がある。

遺物 1は土師器土釜口縁部片、2は須恵器壺胴部片、その他、土師器胴部片出土。1は10世紀から11世紀頃と推察される。2の須恵器は小片のため時期不明である。

所見 本住居の出土遺物が少なく、住居全体を把握できないため、本住居跡の時期は不明である。

また、土坑の可能性も考えられる。

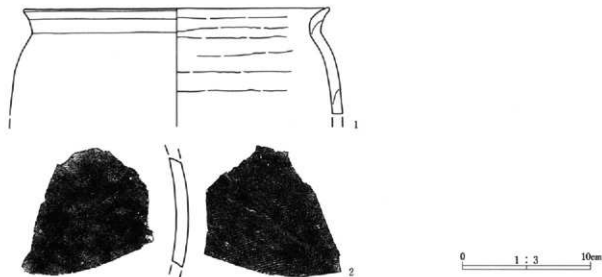


2号住居

- 1 暗褐色土 ローム土との混土。砂と互層になっている。側溝埋土。
- 2 暗褐色土 にぶい黄褐色ローム質土をブロック状に少量含む。わずかに炭化分混入。締まりやや強い。
- 3 にぶい黄褐色ローム質土 暗褐色土を少量含む。

第11図 1区2号住居 平・断面図

1区 竪穴住居跡



第12図 1区2号住居 出土遺物

3号住居 (第8・13・14図, P L 3・51)

位置 1区 X=32403~406 Y=-41219~222

重複遺構 北側を6号溝が掘り壊しているところから本遺構の方が旧いと考えられる。

形態 調査区範囲内では、長方形であるが、調査区端に位置し、また、北側を6号溝と重複し、全体を調査していないため全形は不明。

方位 計測不能 (N-87°-W)

規模 長軸2.08×短軸1.62m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.529)㎡

壁高 18cm

床面 床面は貼り床を持たず、地山ロームが硬化する。住居中央付近と南壁付近に浅い窪みを確認するが、詳細は不明である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

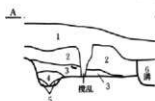
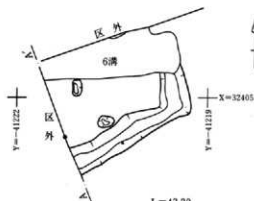
周溝 南壁、東壁付近に幅40cm~48cmほどの溝を確認する。

炉・竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されている可能性がある。

遺物 1は土師器甕、2は敲石・磨石である。その他、土師器片多数、須恵器片10点出土。

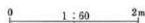
所見 遺構の重複による遺構の残存状態が悪く、調査区境に位置することから遺構全体を把握できず、

詳細は不明である。出土遺物と埴土から奈良・平安時代の新しいものと推察される。また、竈、炉の検出もできなかったことから土坑の可能性もある。

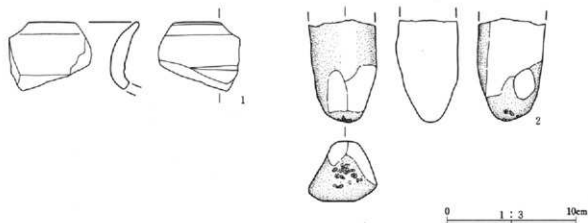


3号住居

- 1 灰褐色土 燻混入。表土。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、焼土粒を僅かに含む。締まりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土 ロームブロックを僅かに含む。
- 4 灰黄褐色土 ロームブロックを僅かに含む。黒色土が少量混じる。締まり強い。
- 5 灰黄褐色土 4層にローム質土混じる。締まり普通。地山。



第13図 1区3号住居 平・断面図



第14図 1区3号住居 出土遺物

4号住居 (第8・15・16図、P.L.3・51)

位置 1区X=32405~408 Y=-41205~209

重複遺構 東壁付近に12号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

形態 調査区範囲内では、隅丸長方形を呈する。調査区端に位置し、また、12号土坑と重複しているため、全形は不明。

方位 計測不能 (N-74° -W)

規模 長軸2.84×短軸1.40m

調査区住居確認面のみ

面積 (3.528)m²

壁高 計測不能

床面 後世の削平を受け、掘り方面のみ検出。掘り方面は、ほぼ平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

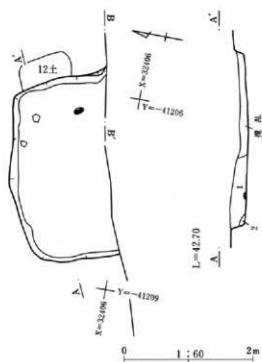
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 北東壁、調査区境に確認。南半分が調査区外となり、上部からの削平により使用面下まで消失しており、遺存状態は悪い。平面形状は確認できず、掘り方調査のみ行った。土層断面の観察から竈床に相当する部分を灰黄褐色土により構築していることを確認できた。

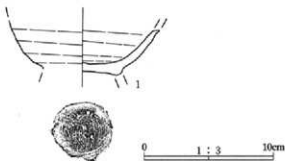
遺物 1・2とも須恵器坏である。その他、土師器片、須恵器片少数出土。小片のため固化できなかった。

所見 出土遺物と埋土から8世紀後半~9世紀前半と比定される。



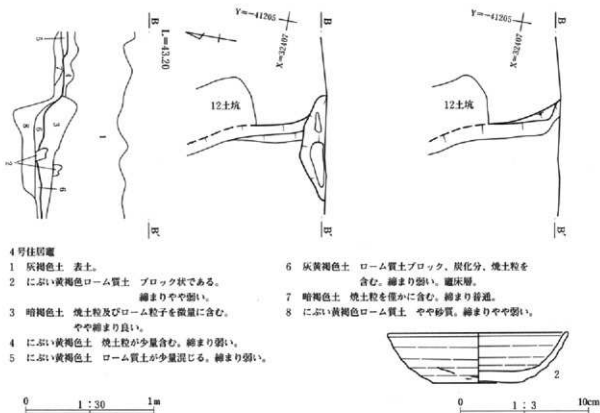
4号住居

- 1 暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む。焼土粒、炭化分混じる。締まり良い。
- 2 褐色土 1層とローム質土との混土。締まりやや良い。



第15図 1区4号住居 平・断面図、出土遺物 (1)

1区 竪穴住居跡



第166図 1区4号住居跡 平・断面図、出土遺物 (2)

5号住居 (第8・17図, P L 3・51)

位置 1区X=32410~413 Y=-41197~203

重複遺構 南側で9号住居と西側で7号住居と中央部で15・16号土坑と重複している。遺構確認と土層断面観察より本遺構は、7・9号住居、15・16号土坑より古いと思われる。また、16号土坑は、本遺構の柱穴の可能性がある。

形態 上部からの削平と遺構の重複、調査区境に位置するため全形は不明である。

方位 N-100°-E

規模 計測不能

面積 計測不能

壁高 計測不能

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。

掘り方は、ほぼ平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

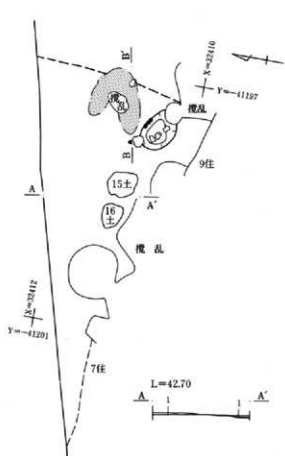
貯蔵穴 竈北側に設置されている。南東部を攪乱による削平を受けているが、長軸0.56m×短軸0.56m、深さ不明の楕円形を呈する。

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 東壁中央部に構築されている。上部からの削平により使用面下まで消失しており、遺存状態は悪い。平面形状は確認できず、焼土範囲で形状を示し、掘り方調査のみ行なった。土層断面の観察と調査から、掘り方で浅い窪みを2つ造り、竈床に相当する部分を暗褐色土により構築していることを確認できた。

遺物 1・2・3は土師器甕、4は酸化焰の須恵器碗である。1と2は同一個体の可能性がある。その他、土師器片多数、須恵器片1点出土。

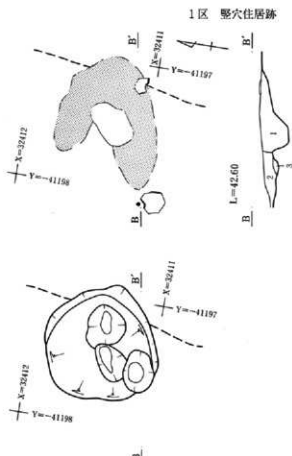
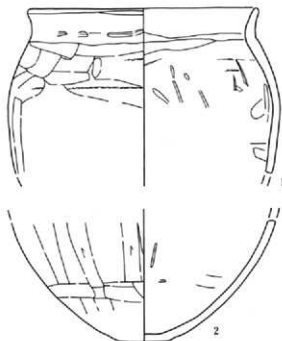
所見 遺構の重複により本遺構の残存状態が悪く、詳細も不明である。出土遺物は、6世紀後半から9世紀のものが出土しており、時期は不明である。調査時竈出土と認定した遺物も竈周辺の分布であり、竈本体からの出土ではないことから、流れ込みの可能性もある。調査時貯蔵穴と認定した遺構からは9世紀~10世紀ごろの遺物が出土しており、別遺構の可能性もある。



5号住居

1 におい黄褐色ローム質土 暗褐色土を少量含む。締まり良い。

0 1:60 2m



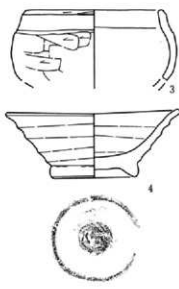
5号住居

1 暗褐色土 焼土粒、ローム質土ブロックを少量含む。

締まり良い。

2 暗褐色土 焼土粒を僅かに含み、ローム質土ブロックを少量含む。締まり良い。

3 におい黄褐色ローム質土 締まりやや弱い。



0 1:3 10cm

第17図 1区5号住居 平・断面図、出土遺物

1区 竪穴住居跡

6号住居 (第8・18・19図、P.L.3・4・52)

位置 1区 X=32409-412 Y=-41192~197

重複遺構 北東側で8号住居、17号土坑と西側で9号住居と重複している。遺構確認と土層断面観察より本遺構は、17号土坑・8号住居より新しいと思われる。9号住居とは攪乱があるため新旧関係は不明である。

形態 上部からの削平と遺構の重複、調査区境に位置するため全容は不明である。

方位 N-31°-E

規模 計測不能

面積 (4.770)m²

壁高 計測不能

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。土層観察により、ローム土と暗褐色土の混土による埋め土を施して平坦な面を造っていたと推察できる。掘り方は、ほぼ平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

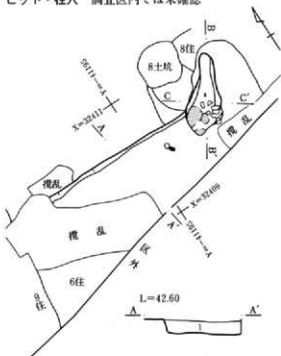
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 北壁東よりに構築されている。上部からの削平により、遺存状態は悪い。焼土範囲で平面形状を示し、掘り方調査のみ行った。土層断面観察と調査から、竈本体の床面下からも焼土・灰がみられることから作り直しが想定される。掘り方では浅い窪みを竈袖部分につくり、竈床に相当する部分を暗褐色土により構築している。屋外に燃焼部を持ち、燃焼部幅1m、焚き口幅0.64m、燃焼部長さ1.2m、煙道部0.68mを検出できた。天井、袖等詳細は不明である。

遺物 1は須恵器坏、2・3は須恵器椀、4・5は羽釜である。その他、土師器片多数、須恵器片11点、不明遺物2点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺構の重複と調査区境に位置することにより、遺構の残存状態が悪い。出土遺物と埋土から9世紀後半から10世紀前半と比定される。



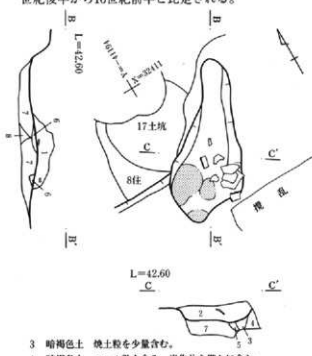
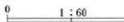
6号住居

1 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。締まり良い。

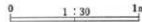
6号住居竈

1 暗褐色土 ローム粒を含み、焼土粒、炭化分も僅かに含む。締まり普通。

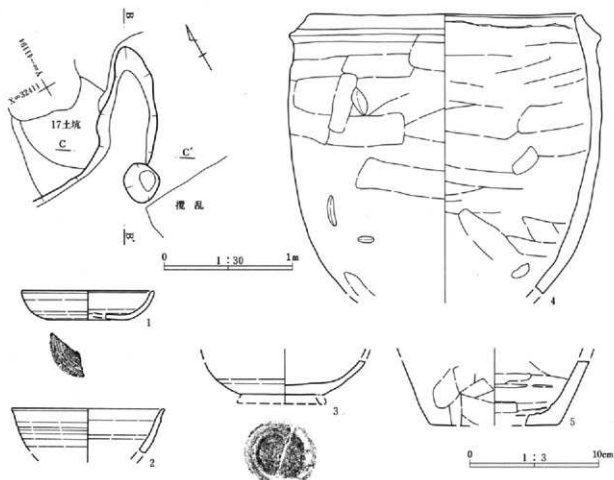
2 暗褐色土 大きな焼土ブロックを少量含む。締まり良い。



- 3 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒を含み、炭化分を僅かに含む。締まり普通。
- 5 黒褐色土 僅かに焼土粒含む。締まりやや弱い。
- 6 暗褐色土 ローム粒を含む。焼土粒を少量、炭化分も僅かに含む。締まり普通。竈床層。
- 7 にぶい黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 8 赤褐色土 焼土化したローム土層。



第18図 1区6号住居・竈 平・断面図



第19図 1区6号住居 出土遺物

7号住居 (第8・20図, PL4・52)

位置 1区X=32408~412 Y=-41201~203

重複遺構 東側で5・9号住居と西側で9・13・14号土坑と重複している。遺構確認と土層断面観察より本遺構は、9号土坑、9号住居より旧く、13・14号土坑、5号住居とは新旧関係は不明である。

形態 南側は一部壁・床面を残すが、上部からの削平と遺構の重複するため全形は不明である。

方位 計測不能

規模 計測不能

面積 計測不能

壁高 12cm、南壁計測。北・東・西壁は、擾乱と削平のため詳細は不明。

床面 後世の削平を受け、床面は中央部に一部残存しているだけである。土層観察により、ローム土と暗

褐色土を層状に埋め、平坦な面を造っていたと推察できる。掘り方面は、やや北側が高く、南側を低く掘り込んでおり、10cm程の高低差を持つが、ほぼ平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

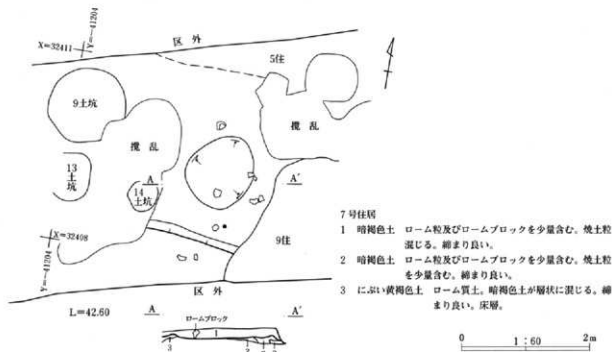
岡溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

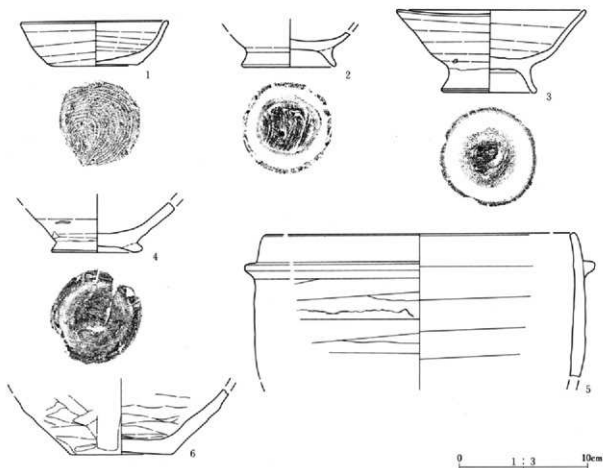
遺物 1は須恵器杯、2~4は須恵器碗、5、6は羽釜である。その他、土師器片多数、須恵器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺構の重複と調査区域に位置することにより、遺構の残存状態が悪い。また、竈も未検出のことから竪穴住居跡との推定である。出土遺物から10世紀ごろと比定される。

1区 竪穴住居跡



- 7号住居
- 1 暗褐色土 ローム粒及びロームブロックを少量含む。焼土粒混じる。締まり良い。
 - 2 暗褐色土 ローム粒及びロームブロックを少量含む。焼土粒を少量含む。締まり良い。
 - 3 にぶい黄褐色土 ローム質土。暗褐色土が層状に混じる。締まり良い。床層。

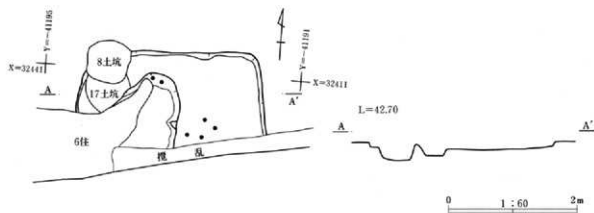


第20図 1区7号住居 平・断面図、出土遺物

8号住居 (第8・21図, P L 4)

位置 1区 X=32410~412 Y=-41191~195
 重複遺構 南西側で6号住居、東側に8号土坑と17号土坑と重複している。遺構確認と土層断面観察より本遺構は、8号土坑、6号住居より旧く、17号土坑については、新旧関係は不明である。
 形態 上部からの削平と遺構の重複、南側は攪乱と調査区境に位置するため全形は不明である。
 方位 計測不能
 規模 計測不能
 面積 (3.204)㎡
 壁高 計測不能
 床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。
 掘り方面の調査のみ実施。掘り方面は、ほぼ平坦で

ある。掘り方面で8号土坑、6号住居底下に17号土坑を検出したが、本移行に伴うものか不明である。
 ビット・柱穴 調査区内では未確認
 貯蔵穴 調査区内では未確認
 周溝 調査区内では未確認
 炉・竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかに構築されていると思われる。
 遺物 土師器片多数、須恵器片1点出土。小片のため図化できなかった。
 所見 遺構の重複と調査区境に位置することにより、遺構の残存状態が悪い。竈も未検出のことから竪穴住居跡との推定である。出土遺物からも時期を特定できなかった。



第21図 1区8号住居 平・断面図

9号住居 (第8・22図, P L 52)

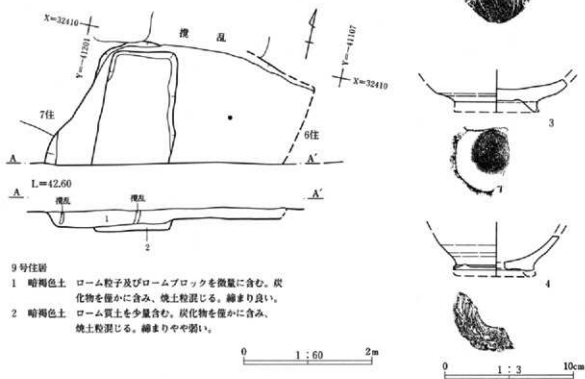
位置 1区 X=32407~410 Y=-41197~202
 重複遺構 西側で7号住居と東側で6号住居と重複している。遺構確認と土層断面観察より本遺構は、7号住居より新しいと思われる。6号住居とは攪乱のため新旧関係は不明である。
 形態 上部からの削平と遺構の重複、調査区境に位置するため全形は不明である。
 方位 計測不能
 規模 計測不能
 面積 (6.006)㎡
 壁高 北壁の一部と東壁を攪乱によって消失

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。
 遺構調査と土層観察により、一部ローム掘り方面をそのまま床面とし、掘り込んだ部分をローム土と暗褐色土の混土による埋め土を施して平坦な面を作っていたと推察できる。掘り方面は、中央部に長方形の掘り込みをもつ。調査時10号竪穴状遺構と区別したが整理時の検討により、本住居の掘り方の土坑と認定した。
 ビット・柱穴 調査区内では未確認
 貯蔵穴 調査区内では未確認
 周溝 調査区内では未確認
 炉・竈 調査区内では未確認

1区 竪穴住居・土坑跡

遺物 1は縄文土器、2は須恵器杯、3、4は須恵器碗である。その他、土師器片多数、須恵器片1点、灰釉陶器片1点出土。小片のため図化できなかった。1については、混入の可能性が高い。

所見 遺構の重複と調査区域に位置することにより、遺構の残存状態が悪い。また、竪も未検出のことからも竪穴住居跡であろうという推定である。出土遺物から10世紀ごろと比定される。



9号住居

- 1 暗褐色土 ローム粒子及びロームブロックを微量に含む。炭化物を僅かに含み、焼土粒混じる。締まり良い。
- 2 暗褐色土 ローム質土を少量含む。炭化物を僅かに含み、焼土粒混じる。締まりやや弱い。

第22図 1区9号住居 平・断面図、出土遺物

(2)土坑跡

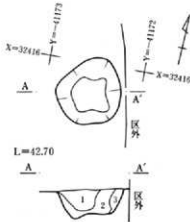
1区から17基の土坑跡を検出した。0区と同様に同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は難しく、同様の埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。ただ、出土遺物や堀土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、線路敷設時の土地整備、近世の宅地開発等により、上部からの削平や後世の擾乱が著しく、また、遺構の重複のため、残存状態は非常に悪かった。そ

れぞれの形態・規模については一覧表、遺構図を掲げてある。土坑は、主に調査区中央から東側で確認されている。ピットも含めて掘立柱建物跡、構列等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものはなかった。大部分の土坑は、楕円形か円形の形態をとっており、8・10号土坑が方形、12号土坑は隅丸長方形、1・13号土坑が不整形である。以下、土坑について詳述する。

1号土坑 (第8・23図、第3表、P L 4・52)

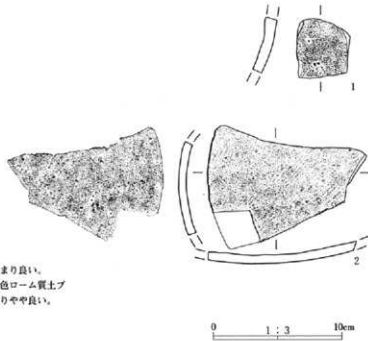
1号土坑は、不整形で調査区東側に位置する。断面形は台形を呈し、底部は、平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。埋土は、暗褐色砂質土を主

体にローム粒・ブロックを含む。遺物は、1が須恵器横瓶、2は須恵器甕である。その他、土師器出土。いずれも小片のため時期を特定できなかった。



1号土坑

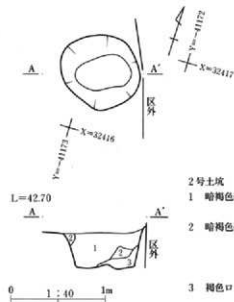
- 1 暗褐色砂質土 焼土粒、炭化物混じる。締まり良い。
- 2 暗褐色砂質土 焼土粒、炭化物混じる。褐色ローム質土ブロックが少量混じる。締まりやや良い。
- 3 褐色ローム質土 やや砂質。締まり良い。



2号土坑 (第8・23図、第3表、P L 4・53)

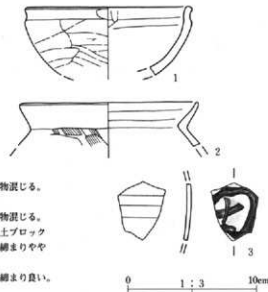
2号土坑は、楕円形で調査区東側に位置する。断面形は台形を呈し、土坑底部西側に2号ピットと重複する。埋土は、暗褐色砂質土を主体に若干の焼土粒と炭化物を含む。埋土の状況から2号ピット掘削

後2号土坑が掘られた可能性が高い。主に古墳時代の遺物が出土している。1は小型壺、2は土師器甕、3は時期不明の陶磁器、中世のかわらけなどが出土。3号土坑も同様の形態を持つことから、建物の柱跡も想定したが、確認できなかった。



2号土坑

- 1 暗褐色砂質土 焼土粒、炭化物混じる。締まり良い。
- 2 暗褐色砂質土 焼土粒、炭化物混じる。褐色ローム質土ブロックを少量含む。締まりやや良い。
- 3 褐色ローム質土 やや砂質。締まり良い。



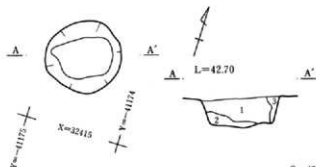
第23図 1区1・2号土坑 平・断面図、出土遺物

1区 土坑跡

3号土坑 (第8・24図、第3表、P.L.4)

3号土坑は、2号土坑の西側に近接し、楕円形で調査区東境に位置する。断面形は台形を呈し、底部は平坦である。底部東側に1号ピットと重複する。埋土は、暗褐色砂質土を主体に若干の焼土粒と炭化

物、ローム粒・ロームブロックを含む。2号土坑と同様に埋土の状況から1号ピット掘削後3号土坑が掘られた可能性が高い。主に古墳時代と推定される遺物が出土しているが、小片のため図化できる遺物はなかった。



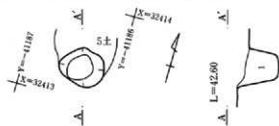
3号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒及びロームブロック、炭化物含む。締まり良い。
- 2 におい黄褐色ローム質土 1層暗褐色土が少量含む。締まり普通。
- 3 におい黄褐色ローム質土 1層暗褐色土と2層におい黄褐色ローム質土との混土。壁面の崩落土。締まりやや良い。

4号土坑 (第8・24図、第3表、P.L.4)

4号土坑は、調査区東側に位置し、楕円形で断面は円錐状を呈し、底面は平坦である。5号土坑と重複する。土層断面と埋土の状況から、本遺構の方が

古い。埋土は、暗褐色砂質土を主体に若干の焼土粒、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は出土していないため、時期を特定できなかった。



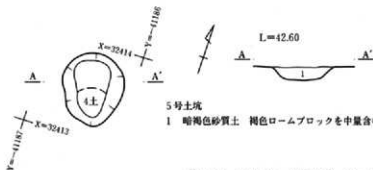
4号土坑

- 1 暗褐色砂質土 褐色土ロームブロックを少量含む。明赤褐色粒子をわずかに含む。締まり良い。

5号土坑 (第8・24図、第3表、P.L.4)

5号土坑は、調査区東側に位置し、楕円形で断面は皿状を呈し、底部は平坦である。4号土坑と重複する。土層断面と埋土の状況から、本遺構の方が新

しい。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は出土していないため、時期を特定できなかった。



5号土坑

- 1 暗褐色砂質土 褐色ロームブロックを中量含む。締まり良い。

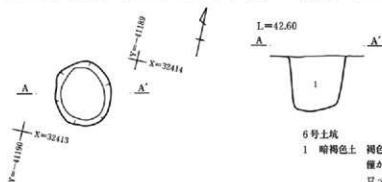
0 1:40 1m

第24図 1区3～5号土坑 平・断面図

6号土坑 (第8・25図、第3表、P L 4)

6号土坑は、調査区中央よりやや東側に位置し、1号住居に近接する。楕円形で断面は円筒形を呈し、深さ56cmを測る。底部は平坦である。埋土は、暗褐色

色土に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は土師器裏割部片出土。小片のため図化できず時期の特定もできなかった。



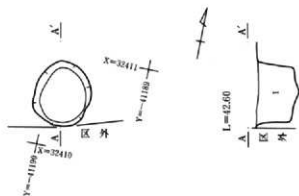
6号土坑

1 暗褐色土 褐色ロームブロックを少量含む。明赤褐色粒子を僅かに含む。締まり良い。下層ほど、ロームブロックを多く分布。やや粘性である。

7号土坑 (第8・25図、第3表、P L 5)

7号土坑は、調査区中央よりやや東側、調査区南境に位置する。楕円形で断面は円筒形を呈し、深さ44cmを測る。底部は平坦である。埋土は、暗褐色土

に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は土師器片5点出土。小片のため図化できず時期の特定もできなかった。



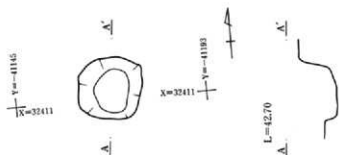
7号土坑

1 暗褐色土 褐色ロームブロックを少量含む。明赤褐色粒子が僅かに含む。締まりは良い。やや粘性。

8号土坑 (第8・25図、第3表)

8号土坑は、調査区中央よりやや東側に位置し、8号住居と17号土坑と重複する。埋土断面と調査から本遺構が一番新しい。方形で断面は薄錐形を呈し、

深さ22cmを測る。底部は丸い。遺物は土師器片4点、須恵器割部片1点出土。小片のため図化できず、時期の特定もできなかった。



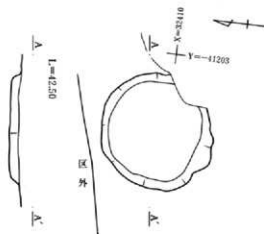
第25図 1区6～8号土坑 平・断面図

0 1 : 40 1m

1区 土坑跡

9号土坑 (第8・26図、第3表、P L 5・53)

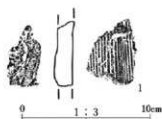
9号土坑は、調査区中央よりやや西側に位置し、擾乱により東南側一部消失している。楕円形で断面は皿状を呈し、深さやや浅く12cmを測る。埋土は、



9号土坑

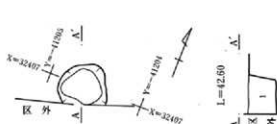
1 暗褐色砂質土 黄褐色ロームブロック及びローム粒子を少量含む。明赤褐色粒子を僅かに含む。やや粘性、締まり良い。

暗褐色砂質土を主体に、ローム粒・ロームブロック、白色軽石粒を含む。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。遺物は、1の埴輪片1点出土。ただ時期の特定はできなかった。



10号土坑 (第8・26図、第3表、P L 5)

10号土坑は、調査区中央よりやや西側、調査区南境に位置する。調査区外に遺構が延びると考えられ全形は不明である。楕円形で断面は台形を呈し、深さ28cmを測る。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、ローム粒・ロームブロック、白色軽石粒を含む。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。遺物は出土しなかった。そのため、時期の特定はできなかった。

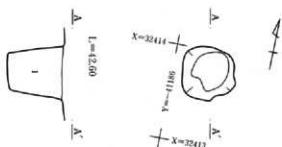


10号土坑

1 暗褐色砂質土 黄褐色ロームブロック及びローム粒子を少量含む。また、炭化物、明赤褐色粒子を僅かに含む。やや粘性で締まり良い。

11号土坑 (第8・26図、第3表、P L 5)

11号土坑は、調査区東側に位置し、4号溝に近接する。楕円形で断面は台形を呈し、深さ58cmを測る。底部は多少の凹凸はあるが平坦である。埋土は、暗褐色砂質土を主体に、ローム粒・ロームブロック、白色軽石粒を含む。遺物は、土師器胴部片3点出土。小片のため固化できず時期の特定もできなかった。



11号土坑

1 暗褐色砂質土 褐色ロームブロックが少量含まれる。明赤褐色粒子を僅かに含む。締まりは良い。

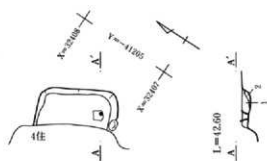


第26図 1区9～11号土坑 平・断面図、出土遺物

1区 土坑跡

12号土坑 (第8・27図、第3表、PL 5・53)

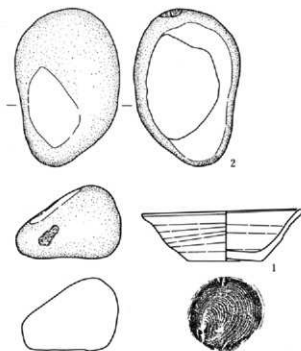
12号土坑は、調査区東側に位置し、4号住居と重複する。新旧関係は不明である。隅丸長方形で断面は台形を呈し、深さ12cmを測る。底部は平坦であ



12号土坑

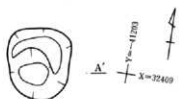
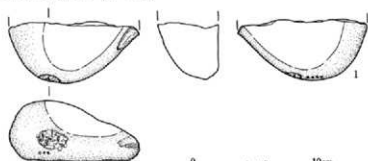
- 1 暗褐色土 におい黄褐色ローム質土少量含む。締まり弱い。
2 におい黄褐色ローム質土 1層暗褐色土を少量含む。
締まり普通。

る。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒を含む。遺物は、1が須恵器坏、2が礫石。他に土師器底部片1点出土。小片のため図化できなかった。遺物から10世紀と比定される。



13号土坑 (第8・27図、第3表、PL 5・53)

13号土坑は、調査区西側に位置し、7号竪穴住居と近接する。13号土坑の周囲が攪乱のため7号住居と重複関係は不明である。方形に近い不整形で断面は台形を呈し、深さ40cmを測る。底部は平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、焼土粒、炭化粒、ローム粒を含む。遺物は、1の磨石・礫石と小さい鉄滓が数点出ている。土師器底部片6点出土。小片のため図化できなかった。遺物から製鉄に関する遺構か、鍛冶場所としての7号住居との関連も想定できるが、情報が少なく、攪乱の影響のため、遺構の性格を特定できなかった。



L=42.60

13号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化粒、焼土粒を層状に含む。下層に大きめのロームブロック含む。

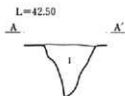
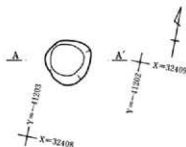
第27図 1区12・13号土坑 平・断面図、出土遺物

1区 土坑跡

14号土坑 (第8・28図、第3表、P L 5)

14号土坑は、調査区西側に位置し、7号住居と近接する。14号土坑の周囲が攪乱のため、13号土坑と同様に7号住居と重複関係は不明である。楕円形で

断面は三角形を呈し、深さ50cmを測る。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は出土していない。そのため時期の特定もできなかった。



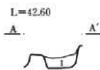
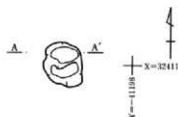
14号土坑

1 暗褐色土 大きめのロームブロックと炭化粒を少量含む。締まりが良い。

15号土坑 (第8・28図、第3表、P L 6)

15号土坑は、調査区西側に位置し、5号住居と近接する。5号住居が床面まで削平を受けていることから、5号住居との重複関係・新旧関係も不明である。楕円形で断面は台形を呈し、深さ14cmを測る。

埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は、土師器胴部片1点出土。小片のため図化できなかった。そのため、時期の特定もできなかった。



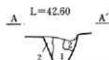
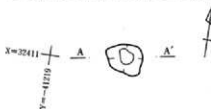
15号土坑

1 暗褐色土 黄褐色ローム土を少量含む。やや粘性。

16号土坑 (第8・28図、第3表、P L 6)

16号土坑は、調査区西側に位置し、5号住居と近接する。5号住居が床面まで削平を受けていることから、5号住居との重複関係・新旧関係も不明である。楕円形で断面は円錐形を呈し、深さ26cmを測る。

埋土は、暗褐色土を主体に、ロームブロックを含む。土層断面から柱痕と考えられる状況を呈し、5号堅穴住居跡の柱穴の可能性はある。遺物は出土しなかった。そのため、時期の特定はできなかった。



16号土坑

1 暗褐色土 黄褐色ロームブロックを少量含む。粘性ややあり。
2 にぶい黄褐色ローム土 明黄褐色土を少量含む。

第28図 1区14～16号土坑 平・断面図

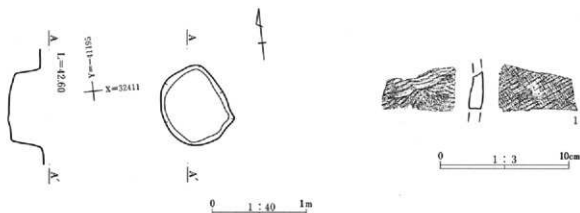


1区 土坑跡

17号土坑 (第8・29図、第3表、P.L6・53)

17号土坑は、調査区東側に位置し、6・8号住居、8号土坑と重複する。8号土坑、6号住居に掘り壊されていることから17号土坑は8号土坑、6号住居より旧く、8号住居との新旧関係・関連は不明であ

る。楕円形で断面は台形を呈する。遺物は1の須恵器胴部片、その他、土師器片、須恵器片が出土。小片のため図化できなかった。そのため、時期の特定もできなかった。黒褐色土が主体の埋土である。



第29図 1区17号土坑 平・断面図、出土遺物

第3表 1区 土坑一覧表

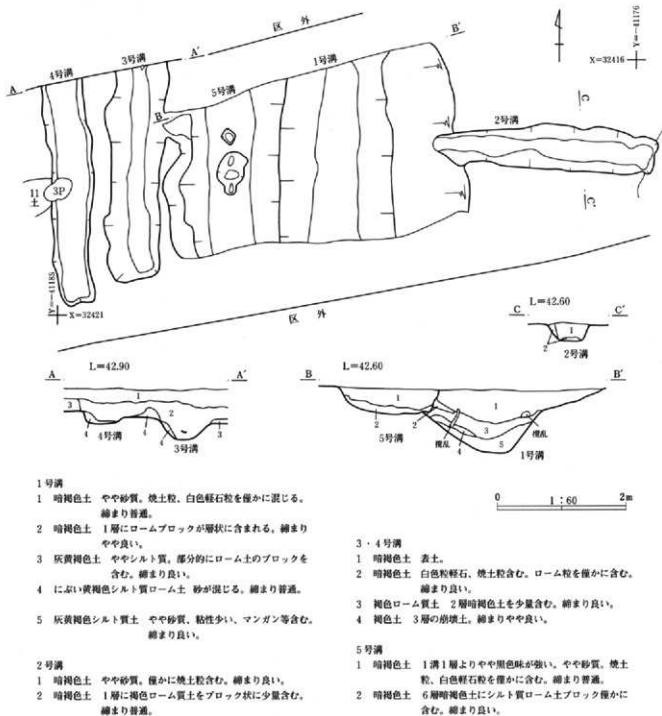
番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深度	
1	1号土坑	X=32415 Y=-41172	不整形	N-80° - E	0.70	0.65	0.24	
2	2号土坑	X=32416 Y=-41172	楕円形	N-75° - E	0.86	0.76	0.27	2号ピットと重複
3	3号土坑	X=32415 Y=-41174	楕円形	N-69° - E	0.80	0.72	0.30	1号ピットと重複
4	4号土坑	X=32413 Y=-41186	ほぼ円形	N-15° - W	0.50	0.40	0.42	5号土坑重複、4号土坑の方が古い。
5	5号土坑	X=32444 Y=-41184	楕円形	N-15° - W	-	0.65	0.14	4号土坑と重複、5号土坑の方が新しい。
6	6号土坑	X=32444 Y=-41173	楕円形	N-20° - W	0.66	0.66	0.56	
7	7号土坑	X=32410 Y=-41189	楕円形	N-9° - W	0.70	0.60	0.44	
8	8号土坑	X=32410 Y=-41193	やや方形	N-6° - E	0.68	-	0.22	17号土坑と重複、8号土坑の方が新しい。
9	9号土坑	X=32409 Y=-41203	楕円形	N-49° - E	1.23	1.14	0.12	攪乱により東南部一部消失
10	10号土坑	X=32406 Y=-41204	(方形)	N-22° - W	-	0.50	0.28	
11	11号土坑	X=32413 Y=-41185	楕円形	N-79° - E	0.60	0.59	0.58	4号溝と重複か?
12	12号土坑	X=32407 Y=-41205	隅丸長方形	N-23° - W	0.83	-	0.10	4号住居と重複、新旧関係は不明。
13	13号土坑	X=32408 Y=-41203	不整形	N-7° - W	0.75	0.62	0.40	
14	14号土坑	X=32408 Y=-41202	楕円形	N-3° - W	0.48	0.48	0.50	
15	15号土坑	X=32410 Y=-41198	楕円形	N-3° - W	0.44	0.40	0.14	
16	16号土坑	X=32410 Y=-41199	楕円形	N-86° - E	0.39	0.30	0.26	5号住居と重複、柱穴の可能性あり。
17	17号土坑	X=32410 Y=-41193	楕円形	N-20° - W	0.82	0.69	0.31	17号土坑と重複、8号土坑の方が新しい。

1区 溝跡

(3) 溝跡

後世の削平が深くまで及んでおり、また、6号溝を除き、いずれの溝も走行が調査区と直行しているため、全体を把握できず、残存状態も良好でなかった。また、遺物も溝の時期を決定できる状態のものは、あまり無く、溝について時期不明のものが多い。

埋土からの出土遺物は古代から近・現代のものまで混在することもあるが、点数が少数で小片ばかりの場合どちらが混入品か判断ができなかった。他遺構の埋土との比較と出土遺物から、中世～近世までの遺構が大半であると思われるが、古代まで遡る可能性が残る。



第30図 1区1～5号溝 平・断面図

1号溝跡 (第8・30図、P L 6)

位置 1区X=32413~417 Y=-41178~182

調査区東側に位置する

重複遺構 2・5号溝と重複。5号溝より古い。2号溝との新旧関係は不明。土層断面観察と埋土の状況から2号溝の方が新しい。

走向 北から南(N-0°)

形態 直線的で、断面形は法面の緩やかな逆台形状を呈する。

2号溝跡 (第8・30図)

位置 1区X=32414~415 Y=-41175~180

調査区東側に位置する

重複遺構 1・5号溝と重複。5号溝より古い。1号溝との新旧関係は不明。埋土からみると1号溝の方が新しい。

走向 東から西(N-87°-W)

形態 直線的で、断面形は逆台形状を呈する。東側は、攪乱のため消滅、西側は、1・5号溝と重複するため走行不明。

3号溝跡 (第8・30・31図、P L 6・53)

位置 1区X=32412~416 Y=-41183~185

調査区東側に位置する

重複遺構 5号溝と重複。5号溝との新旧関係は不明。

走向 北から南(N-0°)

形態 直線的で、断面形は法面のやや緩やかな逆台形状を呈する。南側は途中で消滅。

規模 検出全長 3.30m 上幅 0.72~0.90m

底幅 0.20~0.33m 深さ 0.40m

遺物 1は陶磁器であるが、時期不明である。その他、土師器片5点、須恵器片1点、陶器片1点出土。小片のため図化できなかった。

規模 検出全長 2.75m 上幅 2.60~3.00m

底幅 0.53~0.80m 深さ 0.88m

遺物 土師器片8点、須恵器片3点出土。小片のため図化できなかった。

所見 下層に砂層が含まれていることから流水の状況が考えられる。出土遺物から時期を特定できなかった。溝底部のレベルは、一方向への明瞭な推移を示さないが、周囲の確認面のレベルから北側から南への流下と考えられる。また、規模の大きさから用水用の溝の可能性も考えられる。

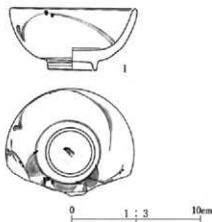
規模 検出全長 3.48m 上幅 0.48~0.70m

底幅 0.12~0.34m 深さ 0.24m

遺物 土師器片20点、陶器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋没土は砂質である。近現代の溝であり、流水のあった可能性が高い。溝底部のレベルは、東側が西側より、10cm程高く東から西への流下と考えられる。また、1号溝への排水溝の可能性も考えられる。6区2号溝と走向、埋没土とも酷似しているため、同一遺構の可能性もある。

所見 埋没土は砂質である。遺物からは時期を特定できなかったが、埋土の状況から、近現代の溝の可能性が高く、流水のあった可能性が高い。溝底部のレベルは、一方向への明瞭な推移を示さない。また、検出範囲も狭いため流下を特定できなかった。



第31図 1区3号溝 出土遺物

1区 溝跡

4号溝跡(第8・30図、P L 6)

位置 1区X=32412~416 Y=-41184~186

調査区東側に位置し、3号溝と並行する。

重複遺構 3号ピットと重複。11号土坑との新旧・重複関係は不明。3号ピットとの遺構調査から本遺構の方が新しいと思われる。

走向 北から南(N-5°-W)

形態 直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。南側は調査区の途中で消滅。

規模 検出全長 3.38m 上幅 0.53~0.72m

底幅 0.38~0.53m 深さ 0.28m

遺物 陶器1点、軟質陶器1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 埋没土は砂質である。遺物と埋土の状況から、近現代の溝の可能性が高い。3号溝と並行して走行しているところから、時期差なく掘り直した溝の可能性もある。埋没土から流水のあった可能性が高い。溝底部のレベルは、一方への明瞭な推移を示さない。また、検出範囲も狭いため流下を特定できなかった。

5号溝跡(第8・30図、P L 6)

位置 1区X=32413~416 Y=-41181~183

調査区東側に位置する。1・3号溝と並行する。

重複遺構 1号溝と重複。土層の断面観察と遺構平面調査から本遺構の方が1号溝より新しいと思われる。

走向 北から南(N-0°)

形態 直線的で、断面形は蒲鉾状を呈する。北側・南側ともに調査区外に延びていく。底面に土坑状の掘り込みを検出。

規模 検出全長 2.27m 上幅 1.34~1.56m

底幅 0.62~0.76m 深さ 0.40m

遺物 なし

所見 底面に土坑状の掘り込みを検出したが詳細は不明である。埋没土は砂質である。埋土の状況から、近現代の溝の可能性が高い。1号溝と並行して走行し、埋没後に掘削していることから、1号溝と同じ性格の溝の可能性もある。また、埋没土から流水のあった可能性が高い。溝底部のレベルは、一方への明瞭な推移を示さない。また、検出範囲も狭いため流下を特定できなかった。

6号溝跡(第8・32図)

位置 1区X=32405~406 Y=-41219~222

調査区西側に位置する

重複遺構 3号住居と重複。土層の断面観察と遺構平面調査から本遺構の方が3号住居より新しいと思われる。

走向 西から東(N-85°-E)

形態 直線的で、断面形は逆台形状を呈する。西側は調査区外に延びていく。東側は調査区途中で消失する。

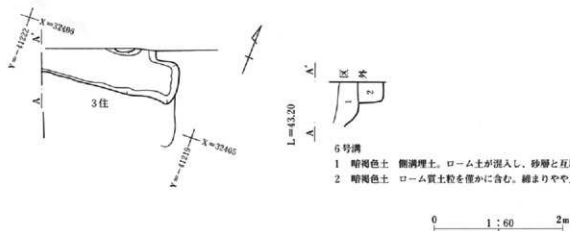
規模 検出全長 2.20m 上幅 0.60m

底幅 0.49~0.50m 深さ 0.40m

遺物 土師器片7点出土。小片のため図化できなかった。3号住居と重複していることから、混入の可能性が高い。

所見 埋没土は締まりの良い暗褐色土である。埋土の状況から、近現代の溝の可能性が高い。溝底部のレベルは、一方への明瞭な推移を示さず概ね平坦である。調査時、溝と認定したが、土坑の可能性もある。

6号溝



第32図 1区6号溝 平・断面図

(4)ピット跡

本遺跡から3基のピットを検出したが、いずれも他の遺構と重複しており、出土遺物もなく、埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものはほとんどなかった。また、掘立柱建物跡、欄列等の遺構関連との検討を整理時点で行ったが、認定するこ

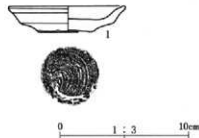
とはできなかった。1・2号ピットは土坑の底部に掘り込まれ、形態もほぼ同様なため、掘立柱建物跡、欄列等の関連も検討を加えてみたが、調査区東側6区には、該当するピット・土坑は存在していない。それぞれの形態・規模については一覧表に掲げた。

第4表 1区 ピット一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	規模 (m)			備考
				長径	短径	深度	
1	1ピット	X=32415 Y=-41174	楕円形	0.42	0.30	0.84	3号土坑と重複、1号ピットの方が古い。
2	2ピット	X=32153 Y=-41172	楕円形	0.40	0.34	1.02	2号土坑と重複、2号ピットの方が古い。
3	3ピット	X=32413 Y=-41184	楕円形	0.34	0.30	0.20	

(5)遺構外出土遺物 (第33図、P L53)

浜町遺跡1区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。1は須恵器坏で土師質土器と考えられる。その他、土師器片多数、須恵器片3点、陶器片3点、軟質陶器片が出土。小片のため図化できなかった。調査区が狭いこと、上部からの擾乱や削平のため、遺存状態が悪い。周辺に遺構の存在の可能性があるが、時代を特定することはできなかった。



第33図 1区 遺構外出土遺物

Ⅲ. 2区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡2区は、第2期調査の一環として行われ、平成13年10月30日より調査を開始した。調査区は、八瀬川の東岸から東武伊勢崎線の線路敷の北側に沿う延長100m区間である。浜町遺跡の北西部から南西部にあたる。東側が浜町1区であり、西側が塚畑遺跡である。調査地の水平レベルは、東側から、ゆるやかに西側にくだっている平坦地である。調査以前は、東武伊勢崎線の路線と住宅地として利用されており、それ以前は水田と住宅地として利用されていた。調査区は、西側が鉄道敷設時の造成が行われ、削平がローム層にまで及んでいた。また、コンクリート基礎やゴミ穴などが多くあることと、表面が削平されていることとで、遺構の残存状態がきわめて悪かった。さらに、火山灰等の時期確定のカギになる層も明確には残存しない。そのため、僅かな出土遺物と埋土からの推定となり時期を明確にできないものが多い。土坑4基、溝5条、ピット3基、焼土痕を調査した。古墳時代から近世までの遺物を検出したが、時期を特定するまでには至らなかった。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられず、0区、1区と同様ローム層下の地山堆積状況は、いずれも砂層を含む水性堆積土であり、暗色帯やテフラ層は検出されず、下位は砂礫層または粘土層に至る。このことから、生活に適していなかったものと推察される。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかったが、遺物は表面採取で土器を5点検出した。また、弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

表面採取による古墳時代の土器は、多数出土しているが、遺構の検出はなかった。当該期の遺跡の存在が想定されるものの、調査区が狭かったこと、遺存状態が悪かったことからその地点は特定できなかった。

奈良・平安時代

2区の奈良・平安時代の遺構・遺物と認められるものは検出できなかった。他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、表採取による遺物のみであった。

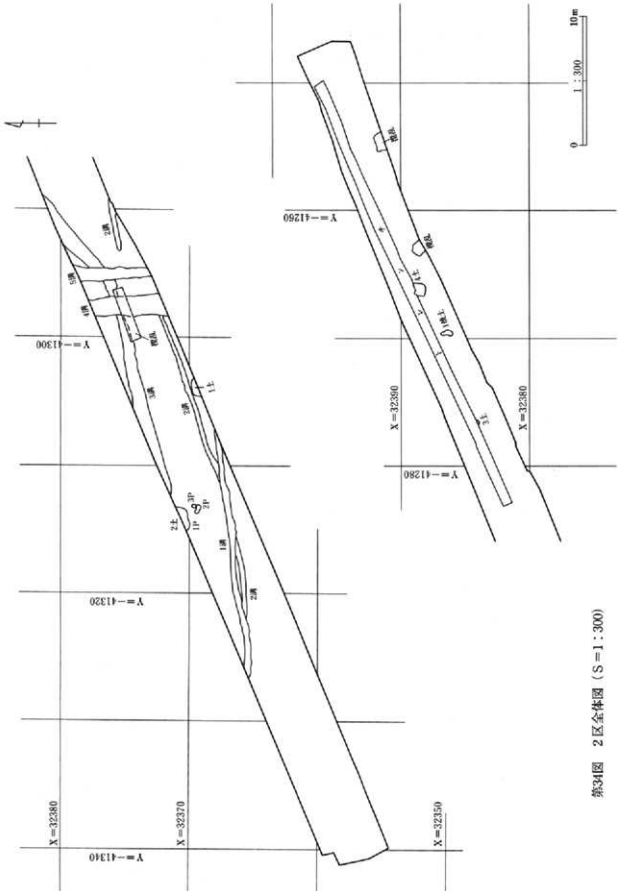
中・近世

土坑4基からは、土師器片を少数出土しているが、図化できる遺物はなかった。堀土の状況から当該期に該当するものと考えられる。溝5条のうち、1・4・5号溝の3条が当該期に該当すると考えられる。1号溝からは縄文土器が出土しているが、混入の可能性が高い。表面採取遺物として、近世陶器片3点、軟質陶器片10点、近世磁器片27点あったが、図化できる遺物はなかった。

時期不明遺構

溝2条は、時期を特定できる明確な遺物がなく、埋土と溝の形態、遺構の重複関係から判断せざるを得なかった。2号溝は出土遺物は土師器割部片1点のみであり、重複関係から1・4・5号溝より旧いが、時期を特定できなかった。また、3号溝は形態から区画溝の可能性はあるが、出土遺物は近世陶器片のため、時期を特定できなかった。ピット3基は、2号ピットに土師器片1点の出土のみで、明確な遺物もなく時期を特定できなかった。1号焼土痕は、周囲に該当する遺構もなく、焼土痕からも遺物は、時期を特定できなかった。

2区 遺構の概要



第34図 2区全体図 (S=1:300)

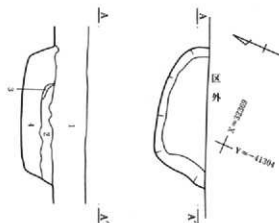
2区 土坑跡

(1)土坑跡

2区から4基の土坑跡を検出した。0区、1区と同様に同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は難しく、同様の埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。ただ、前述の土坑と同様に出土遺物から時期・用途を想定できたものはなかった。また、線路敷設時の土地整備、近世の宅地開発等により、上部からの削平や後世の攪乱が著しく、残存状態は非常に悪かった。それぞれの形態・規模につ

1号土坑（第34・35図、第5表、P L 8）

1号土坑は、調査区中央よりやや西側、調査区南境に位置するため、全形は確認できなかった。調査区内の状況から、不整形で断面形は台形を呈している。隅丸長方形の可能性もある。底部は、平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。埋土は、暗褐色砂質土を主体に焼土粒・ローム粒・ブロックを含む。遺物は、土師器片1点出土。小片のため時期を特定できず、図化もできなかった。埋土の状況から比較的新しい土坑と考えられる。



1号土坑

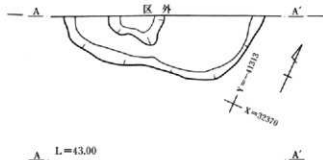
- 1 暗褐色土 旧表土。締まり強い。
- 2 暗褐色土 ローム土、焼土粒を僅かに含む。締まり普通。
- 3 ぶい赤褐色土 焼土のブロック。
- 4 暗褐色土 ローム土をブロック状に覆かに含む。覆かに焼土粒が混じる。締まりやや良い。

いては一覧表、遺構図を掲げてある。土坑は、主に調査区中央で確認されている。ピットも含めて掘立柱建物跡、横列等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみたが、該当するものはなかった。大部分の土坑は、円形か方形、隅丸長方形の形態をとっている。埋土から中世～近世にかけての土坑と考えられる。

以下、土坑について詳述する。

2号土坑（第34・35図、第5表、P L 8）

2号土坑は、楕円形で調査区西側の北境に位置し、遺構の北半分が調査区外にのびるため全形を確認できなかった。断面は台形を呈し、底部は西側に浅い掘り込みを持ち、緩やかに傾斜している。埋土は、上層が暗褐色土を主体とし、若干の焼土粒と炭化物を含み、下層はぶい黄褐色土を主体とし、ローム粒少量含む。遺物は、土師器底部片出土。小片のため図化できなかった。



2号土坑

- 1 砂礫層 現表土。
- 2 暗褐色土 旧表土。
- 3 暗褐色土 ローム粒を覆かに含む。焼土粒、炭化物が若干含まれる。締まり良い。
- 4 暗褐色土 3層のブロック。締まりやや良い。
- 5 ぶい黄褐色シルト質土 ロームブロックを少量含む。締まりやや強い。

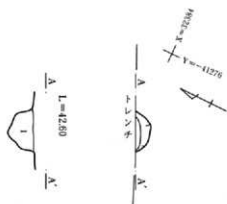
0 1:40 1m

第35図 2区1・2号土坑 平・断面図

3号土坑 (第34・36図、第5表、PL8)

3号土坑は、調査区中央やや東側に位置し、北半分を試掘トレンチにより削平されているため全形は確認できなかった。検出した状況から、楕円形を呈すると推察される。断面形は中位に段をもつ逆円錐

形を呈する。埋土は、暗褐色砂質土に白色軽石粒、ローム粒をわずかに含む。遺物は、土師器片1点出土。小片のため図化できなかった。埋土の状況から近世の土坑の可能性が高い。



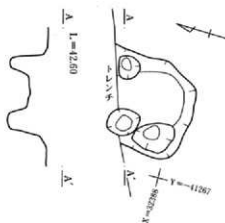
3号土坑

1 暗褐色土 1 暗褐色砂質ローム土が少量含まれる。白色軽石粒を僅かに含む。締まり普通。

4号土坑 (第34・36図、第5表、PL8)

4号土坑は、調査区東側に位置し、北半分を試掘トレンチにより削平されているため全形は確認できなかった。検出した状況から、隅丸長方形を呈すると推察される。断面形は逆台形を呈するが、底面法

面周辺に10~20cm程の掘り込みがある。埋土は、暗褐色砂質土に白色軽石粒、ローム粒を僅かに含む。遺物は、土師器片6点出土。小片のため図化できなかった。埋土の状況から近世の土坑の可能性が高い。



0 1:40 1m

第36図 2区3・4号土坑 平・断面図

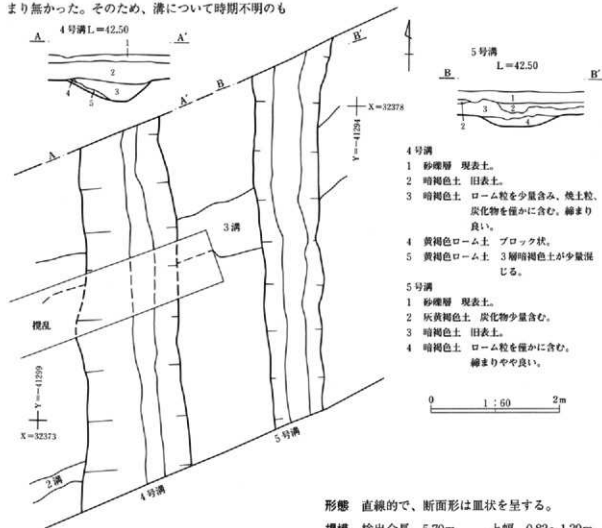
第5表 2区 土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			備考
					長径	短径	深さ	
1	1号土坑	X=32369 Y=-41303	(隅丸長方形)	N-76°-E	1.27	0.40	0.33	調査区外にのびるため全容は不明
2	2号土坑	X=32369 Y=-41313	(隅丸長方形)	N-64°-E	2.08	0.60	0.38	調査区外にのびるため全容は不明
3	3号土坑	X=32383 Y=-41276	(楕円形)	N-67°-E	0.44	0.18	0.26	北側を試掘トレンチの削平を受けていたため全容は不明
4	4号土坑	X=32387 Y=-41265	(隅丸長方形)	N-9°-E	0.80	1.00	0.18	北側を試掘トレンチの削平を受けていたため全容は不明

2区 溝跡

(2)溝跡

後世の削平が深くまで及んでおり、残存状態も良好でなかった。また、走行が調査区と並行している溝と直行している溝と大きく分けられる。ただ、いずれの溝も、全体を把握できず、また、遺物も小片が多く、遺構の時期を決定できる状態のものは、あまり無かった。そのため、溝について時期不明のもの



第37図 2区4・5号溝 平・断面図

5号溝 (第34・37図、P L 9)

位置 2区 X=32373~379 Y=-41294~296

調査区中央付近に位置する

重複遺構 調査区中央付近で3号溝と重複。遺構確認と土層断面観察により3号溝より本遺構の方が新しいと考えられる。4号溝と並行し、調査区外に延びていく。

走向 北から南(N-S)

のが多い。埋土からの出土遺物は、縄文時代から近現代のものまで混在し、また、少数で小片ばかりのため、どちらが混入品か判断ができなかった。他遺構の埋土との比較と出土遺物から、中世~近世までの遺構が大半であると思われるが、古代まで遡る可能性が残る。

- 4号溝
- 1 砂礫層 現表土。
 - 2 暗褐色土 旧表土。
 - 3 暗褐色土 ローム粒を少量含み、焼土粒、炭化物を僅かに含む。締まり良い。
 - 4 黄褐色ローム土 ブロック状。
 - 5 黄褐色ローム土 3層暗褐色土が少量混じる。
- 5号溝
- 1 砂礫層 現表土。
 - 2 灰黄褐色土 炭化物少量含む。
 - 3 暗褐色土 旧表土。
 - 4 暗褐色土 ローム粒を僅かに含む。締まりやや良い。

0 1:60 2m

形態 直線的で、断面形は皿状を呈する。

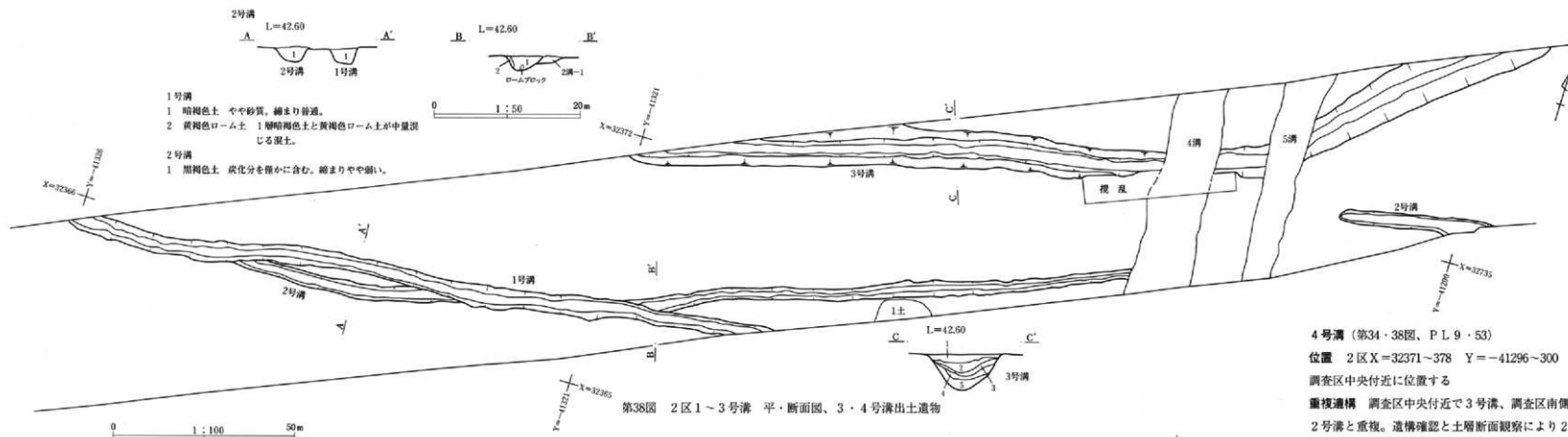
規模 検出全長 5.70m 上幅 0.82~1.20m

底幅 0.36~0.52m 深さ 0.08m

遺物 土師器胴部片 1点出土。小片のため図化できなかった。また、時期の特定も不可能であった。

所見 4号溝と同様に調査区に直行して並行する。

1区1・4号溝と同様である。出土遺物は器面が荒れ、摩滅も多いことから混入の可能性が高い。埋土の状況から比較的新しい溝と考えられる。底面レベルは、北側が南側より8cmほど高く、北から南への流下と考えられる。



第38図 2区1～3号溝 平・断面図、3・4号溝出土遺物

1号溝 (第34・38図、P.L 8)

位置 2区X=32365～368 Y=-41307～327

調査区中央部より西側に位置する

重複遺構 2号溝と重複。遺構埋土と土層断面の観察により1号溝の方が新しい。

走向 東から西(N-80°-E)

形態 直線的で、断面形は溝斜状を呈する。

2号溝と一部並行する。

規模 検出全長 18.56m 上幅 0.37～0.63m

底幅 0.10～0.31m 深さ 0.16m

遺物 縄文土器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物は混入の可能性が高い。底面レベルは、西側が東側より5cm程高く、西から東への流下と考えられる。埋土は、旧表土にちい土質を呈しており、近世以降の新しい溝と考えられる。

2号溝 (第34・38図、P.L 8)

位置 2区X=32365～372 Y=-41298～322

調査区中央部より西側に位置する

重複遺構 調査区西側で1号溝、と調査区中央付近で4号溝と重複。遺構埋土と土層断面の観察により1・4号溝より本遺構の方が古いと考えられる。

走向 北東から南西(N-28°-E)

形態 直線的で、断面形は溝斜状を呈する。1号溝と一部並行する。4・5号溝付近で一旦消滅し、5号溝の東側で現れ、調査区外に延びていく。

規模 検出全長 27.83m 上幅 0.21～0.48m

底幅 0.06～0.27m 深さ 0.16m

遺物 土師器胴部片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 明確な遺物がないため、時期推定は難しい。底面レベルは、流下の一方向への明確な推移を示さないが、1号溝の状況や周囲の確認面レベルから西から東への流下と考えられる。

3号溝 (第34・38図、P.L 8・9・53)

位置 2区X=32371～381 Y=-41289～311

調査区中央部やや西側に位置する

重複遺構 調査区中央付近で4・5号溝と重複。遺構確認と土層断面観察により4・5号溝より本遺構の方が古いと考えられる。1・2号溝と並行する。

走向 北東から南西(N-64°-E)

形態 やや直線的であるが、調査区中央付近で北寄りには走向をかえる。断面形は逆台形状を呈する。

規模 検出全長 22.13m 上幅 0.71～1.24m

底幅 0.18～0.36m 深さ 0.4m

遺物 1は近世陶器。その他、土師器胴部片1点出土。小片のため時期を特定できなかった。

所見 溝の形状と埋土の状況から、2区内で最も古い溝と考えられる。底面レベルは、西側が東側より5cm～8cmほど高く、1・2号溝の状況から、西から東への流下と考えられる。また、溝の形態から区画溝の可能性も考えられる。ただ、明確な遺物がないため、時期の推定はできなかった。

4号溝 (第34・38図、P.L 9・53)

位置 2区X=32371～378 Y=-41296～300

調査区中央付近に位置する

重複遺構 調査区中央付近で3号溝、調査区南側で2号溝と重複。遺構確認と土層断面観察により2・3号溝より本遺構の方が新しいと考えられる。5号溝と並行し、調査区外に延びていく。

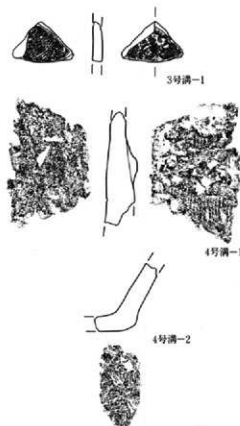
走向 北から南(N-S)

形態 直線的で、断面形は法面の緩やかな逆台形状を呈する。

規模 検出全長 5.54m 上幅 1.26～1.64m

底幅 0.18～0.35m 深さ 0.28m

遺物 1は円筒埴輪。2は近世陶器。その他、土師器胴部片4点、須恵器片1点、縄文土器片1点出土。所見 5号溝と同様に調査区に直行して並行する。1区1・4号溝と同様である。1の埴輪は器面が荒れ、摩滅も多いことから混入の可能性が高い。また、その他の遺物についても摩滅が多いことから混入の可能性が高い。埋土の状況から比較的新しい溝と考えられる。底面レベルは、北側が南側より3cmほど高く、北から南への流下と考えられる。



0 1:3 10cm

(3)焼土痕 (第34・39図、PL 9)

1号焼土痕

位置 2区 X=32385~387 Y=-41269~270

重複遺構 なし

形態 不整形

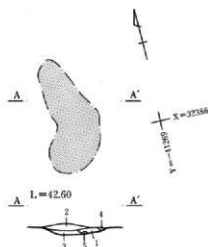
方位 計測不能 (N-79°-W)

規模 長軸0.92×短軸0.34m 厚さ0.05m

面積 計測不能

遺物 なし

所見 遺構確認面上で検出されたが、周囲に堅柱住居等の遺構はない。地山が直接焼土化しており、かつて何らかの理由で火が焚かれた痕と考えられる。時期は不明。かなり強く被熱化しているが、いくつかのブロックに分かれた状態で検出されたため、被熱当時の状況ではない。



1号焼土痕

- 1 暗褐色土 締まりやや弱い。
- 2 暗赤褐色土 1層暗褐色土が焼土化した層。
- 3 褐色ローム質土 漸移層。締まりやや弱い。
- 4 赤褐色焼土ブロック。
- 5 橙色焼土ブロック。

0 1:30 1m

第39図 2区1号焼土痕 平・断面図

(4)ピット跡 (PL 9)

本遺跡から3基のピットを検出した。ピット同士、近接しており、1・2号ピットは重複している。出土遺物も少なく、2号ピットからの土師器片1点のみである。埋土・重複関係などから時期・用途を想定できなかった。調査区内の検出できたピット数が少なく、掘立柱建物跡、横列等の遺構関連との検討

も行えなかった。1・2号ピットは、埋土、形態も近似しており、掘立柱建物跡、横列等の柱坑の立て替えの可能性がある。それぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置は遺跡全体図の中に提示した。

第6表 2区 ピット一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	規模 (m)			備考
				長径	短径	深度	
1	1ピット	X=32369 Y=-41313	(楕円形)	(0.32)	0.30	0.30	2号ピットと重複、新旧関係は不明。
2	2ピット	X=32369 Y=-41312	(楕円形)	(0.40)	0.36	0.28	1号ピットと重複、新旧関係は不明。
3	3ピット	X=32369 Y=-41312	不整形	0.31	0.30	0.14	

2区 遺構外出土遺物

(5)遺構外出土遺物 (第40図、P L53)

浜町遺跡2区で出土した遺構に伴わない遺物を報告する。1・2は縄文土器、その他、縄文土器2

点、土師器片多数、陶器片3点、軟質陶器片が出土。小片のため図化できなかった。また、時代を特定することもできなかった。



第40図 2区遺構外出土遺物



写真1 浜町遺跡 全景(東から)

IV. 3区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡3区は、平成13年11月20日より浜町遺跡第2次第2期調査として、東武桐生線の線路敷内と北側仮設立体工事部分の延長55m区間の調査を実施した。浜町遺跡の北西部にあたり、6区の北側に位置する。

調査3区は微高地の中でも、やや高台であり、西側と南側が緩やかにくだっている。そのため上部からの削平の影響を強く受けている。調査以前は、東武伊勢崎線の路線として利用されていた部分と住宅地として利用されていた部分である。鉄道敷設時の造成により中央付近がローム層まで削平されている部分と掘削により埋め戻されている部分がある。僅かに低い場所は遺構が残存しているが、掘り込みの深い遺構以外は、遺存状態はあまりよくなかった。また、火山灰等の時期確定のカギになる層も明確には残存しない。そのため、僅かな出土遺物と埋土からの推定となり時期を明確にできないものも多い。竪穴住居跡6軒、竪穴状遺構6軒、土坑5基、溝4条、ピット4基を調査した。縄文時代から近世までの遺物を検出した。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられなかった。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかった。遺物は表面採取で土器を3点検出した。また、弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

本遺跡で検出した遺構は、古墳時代以降のものと推定される。ただ、上部からの削平により、遺構の残存状況はあまりよくなかった。1・3・4号竪穴

状遺構からは古墳時代の遺物が出土しており、特に4号竪穴状遺構からは、多数の土器が出土した。また、2号土坑からは、完形の甕が出土した。ピットからも古墳時代と考えられる遺物が出土しているが、時期を特定できなかった。表面採取による古墳時代の土器も、多数出土しているが、それ以外の遺構については残念ながら検出はなかった。

周囲には当該期の遺跡の存在が想定されるものの、調査区が狭かったこと、遺存状態が悪かったことからその地点は特定できなかった。

奈良・平安時代

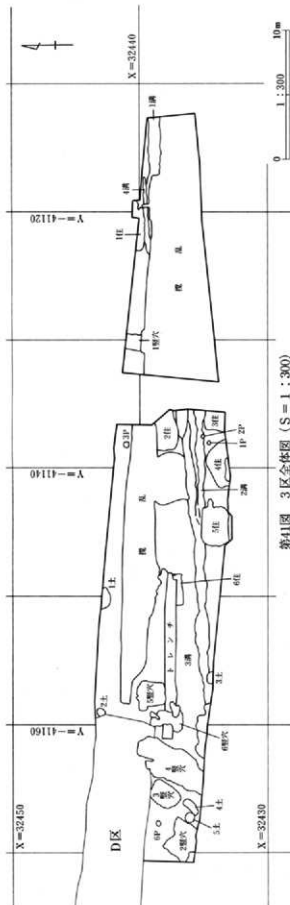
竪穴住居跡のほとんどが奈良・平安時代の遺構と考えられる。調査区が狭く、上部からの削平の影響のため竪穴住居全体を調査できたものは少なかった。調査できた6軒の中で比較的遺存状態が良い5号竪穴住居では、一部他の遺構との重複により消失している部分はあるものの住居全体を調査することができた。1号土坑は、底部に広い焼土の分布が認められ、他の土坑との相違が認められた。他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、遺構も検出できず、出土遺物等からは確認できなかった。

中・近世

この時期の検出遺構は、溝4条である。溝からは、いずれの溝からも古墳時代から中近世現代にかけての遺物が出土している。埋土の状況から近現代にちかい溝と考えられる。表面採取遺物として、かわらけや近世陶器口縁片、軟質陶器片などが出土しているが、図化できる遺物はなかった。

時期不明

3・4・6号土坑と4基のピットからは出土遺物もなく、調査区境に位置しているため全体を調査できず、時期を特定できなかった。



(1)竪穴住居跡

1号住居 (第41・42・43図、P L10・53)

位置 1区 X=32439~441 Y=-41119~124

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では、長方形であるが、北側が調査区外にのびるため全容は不明

方位 計測不能 (N-85° -W)

規模 長軸2.74×短軸 (0.52)m

調査区住居確認面のみ

面積 (1.926)㎡

壁高 24cm

床面 遺構平面では床面を確認できなかったが、土層断面観察から、中央部から西側にかけては、貼り床を持たず、地山ロームをそのまま床面として使用し、中央部から竈にかけての東側部分は8~12cmの埋め土を施し、床面とする。掘り方はほぼ平坦に造られている。

柱穴・貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 住居東側に2基確認。住居南東コーナーに位置すると推定される。1号竈に並行して2号竈を検出。両竈とも遺存状態はよくない。1号竈は、燃焼部幅推定0.44m、焚き口幅推定0.4m、燃焼部長さ0.64m、煙道部は消失のため未確認である。燃焼部付近に円筒埴輪 (人物埴輪の足の可能性あり) が支脚として利用されたものと考えられる。天井部と思われる土層が僅かに残っているが、袖等は不明である。

2号竈は、後世の削平のため使用面まで消失しており、掘り方調査のみ実施した。使用面としての焼土範囲は、長軸0.68m×0.30mである。なお、掘り方調査の結果、地山上面が焼土化しており、竈の作り替えの可能性もある。調査の結果、2号竈廃棄後、1号竈を設置したものと考えられる。

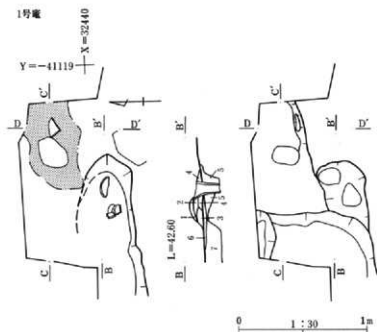
遺物 1は形象埴輪の上部か馬型埴輪の可能性がある。2は円筒埴輪、1号竈からの出土である。3は須恵器片、2号竈からの出土である。4・5は陶磁器、混入である。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。
2つの竪があることから竪の作り替えの行われた住居であると考えられるが、住居の重複の可能性も考えられる。出土遺物と埋土、住居の形態から奈良・平安時代と推定される。

1号住居

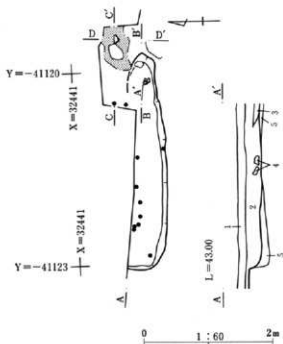
- 1 竪路路盤砕石
- 2 暗褐色砂質土 ローム粒僅かに含む。白色軽石粒、焼土粒、炭化分含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 にぶい黄色ローム質土をブロック状に中量含む。ローム粒を僅かに含む。白色軽石粒、焼土粒、炭化分含む。締まり良い。
- 4 暗褐色土 ローム粒僅かに含む。白色軽石粒、焼土粒・焼土ブロック、炭化分を中量含む。締まり良い。
- 5 暗褐色砂質土 2層に似るがローム粒が少ない。住居の貼床。

1号竪

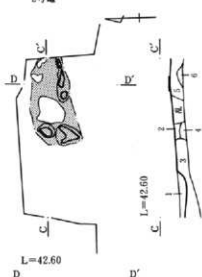


1号住居1号竪

- 1 黒褐色砂質土 焼土粒と炭化分を中量混じる湿土。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 炭化分少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 2層にぶい黄褐色砂質土に炭化物が中量混じる湿土。
- 4 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、焼土粒と炭化物が少量含む。
- 5 にぶい黄褐色ローム砂質土 地山。
- 6 暗褐色砂質土 表面は被熱で焼土化。炭化物が一面にのる。電使用面。
- 7 暗褐色砂質土 ローム粒を僅かに含む。焼土粒、炭化物も含む。住居床面。



2号竪

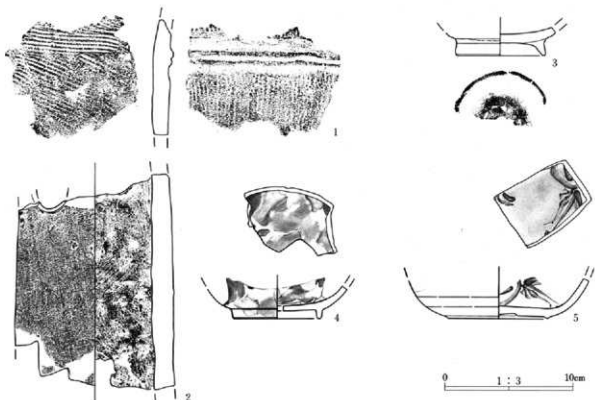


1号住居2号竪

- 1 暗褐色砂質土 ローム砂質土が層状になる。焼土粒、炭化物を含む。締まり良い。住居床層。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒を少量含む。上面に炭化物。電使用面の一部。
- 3 暗褐色砂質土 ローム粒を少量含む。焼土粒、炭化物も混じる。電掘り方土。
- 4 にぶい黄褐色ローム砂質土 3層暗褐色砂質土を少量含む。焼土粒、炭化物僅かに含む。
- 5 褐色砂質土 焼土粒、炭化物を僅かに含む。
- 6 明赤褐色土 焼土ブロック。

第42図 3区1号住居・竪 平・断面図

3区 竪穴住居跡



第43図 3区1号住居 出土遺物

2号住居 (第41・44・45図, P L 11・54)

位置 3区 X=32437~440 Y=-41137~139

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では、隅丸長方形であるが、東側が調査区端に位置し、北側と南側の壁の一部が上部からの攪乱をうけ、消失している。全体を調査していないため、全形は不明である。

方位 計測不能 (N-84°-E)

規模 長軸3.50×短軸 (2.14)m

調査区住居確認面のみ

面積 (4.122)㎡

壁高 上面からの削平を受けているため12cmしか確認できなかった。

床面 床面は、後世の削平を受け残存しない。掘り方は住居中央部に僅かな凹凸をもつが、ほぼ平坦である。

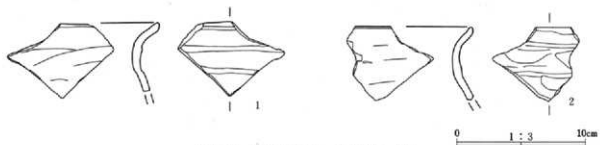
柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

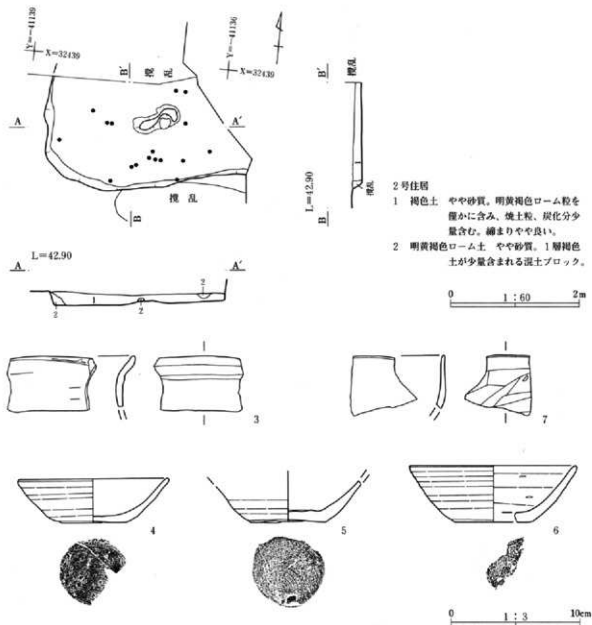
周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されている可能性がある。

遺物 1~3は土師器甕、4~6は須恵器坏、5は土師器椀である。土師器甕、坏の小片多数、須恵器甕割部片11点出土。小片のため図化できなかった。所見 本住居の時期は、出土遺物から9世紀ごろに比定される。



第44図 3区2号住居 出土遺物 (1)



第45図 3区2号住居 平・断面図、出土遺物 (2)

3号住居 (第41・46図、P L11・54)

位置 3区X=32433~435 Y=-41135~138

重複遺構 2号溝と重複、土層断面観察と遺構確認調査より本遺構の方が2号溝より古いと考えられる。

形態 調査区範囲内では、隅丸長方形であるが、東側・南側が調査区端に位置し、北側を2号溝により、消失している。そのため、全体を調査していないため、全形は不明である。

方位 計画不能 (N-4°-E)

規模 長軸 (1.64) × 短軸 (1.54) m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.484) m²

壁高 42cm

床面 床面は、貼り床を持たず、地山ローム土が硬化している。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

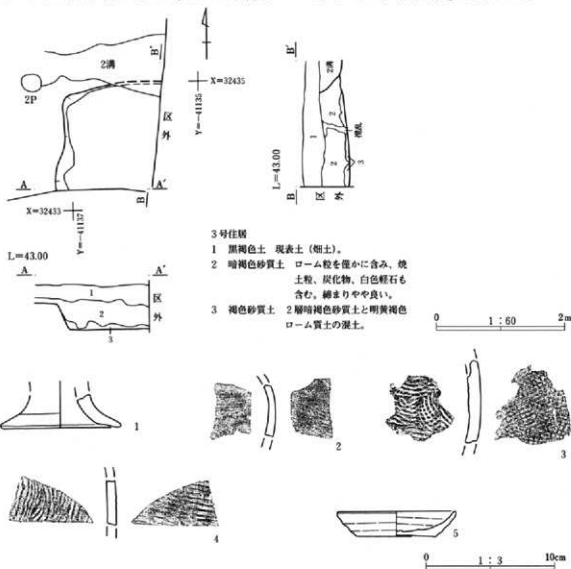
3区 竪穴住居跡

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されている可能性がある。

遺物 1は土師器台付甕、2～4は須恵器甕、1～4はいずれも小片のため、器形・整形痕などの情報が僅かしか得られず、時期を特定できなかった。5はかわらけであり、中世のものと考えられる。混入

である。その他、土師器片多数、須恵器片18点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物の出土が多く、形態も方形であるため、住居と認定したが、土坑の可能性もある。土層断面からも削平のため上部を消失している状況が窺える。そのため、時期は特定できなかった。



第46図 3区3号住居 平・断面図、出土遺物

4号住居 (第41・47図、P L11・54)

位置 3区X=32433~435 Y=-41138~141

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では、やや隅丸長方形を呈している。南側が調査区端に位置し、また、上部からの削平を受けているため、全体を調査していない。そのため、全形は不明である。

方位 計測不能(N-86°-E)

規模 長軸3.02×短軸(1.74)m

調査区住居確認のみ

面積 (4.500) m²

壁高 18cm

床面 床面は、貼り床を持たず、地山ローム土が硬化している。上部からの削平により、一部床土を消失している。掘り方はなく、住居東壁、調査区境界近くに0.4m×0.4m、深さ0.2mの土坑を確認するが、詳細は不明である。

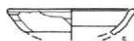
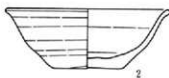
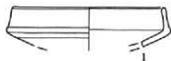
柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に構築されている可能性がある。

遺物 1は土師器坏、2は須恵器碗、3～5はかわらけであり、混入である。その他、土師器片多数、須恵器片18点出土。小片のため図化できなかった。所見 遺物の出土が多く、やや東側が歪曲しているが、形態も方形であるため、住居と認定した。埋土の状況からやや古い時代と考えられるが、遺物も各時代のものが混在し、時期を特定できなかった。



0 1 : 3 10cm

第47図 3区4号住居 平・断面図、出土遺物

3区 竪穴住居跡

5号住居 (第41・48・49・50図、P L 11・54・55)

位置 3区 X=32432~436 Y=-41142~146

重複遺構 3号溝と重複、遺構確認調査から本遺構の方が古いと考えられる。

形態 隅丸長方形を呈する。北側壁の一部を3号溝により消失。

方位 N-90° -E

規模 長軸3.02×短軸2.14m

面積 (5.328)㎡

壁高 20cm

床面 掘り方面から4~10cmほど埋め土を施して平坦な面をつくる。掘り方面は固くしめられ、床面が構築されている。掘り方面中央部に長軸0.48m×短軸0.40m、深さ0.16m程の床下土坑を検出する。

ピット 柱穴4基を検出する。

P 1 長軸32×短軸28cm 深さ8cm

P 2 長軸32×短軸28cm 深さ20cm

P 3 長軸36×短軸40cm 深さ16cm

P 4 長軸32×短軸28cm 深さ20cm

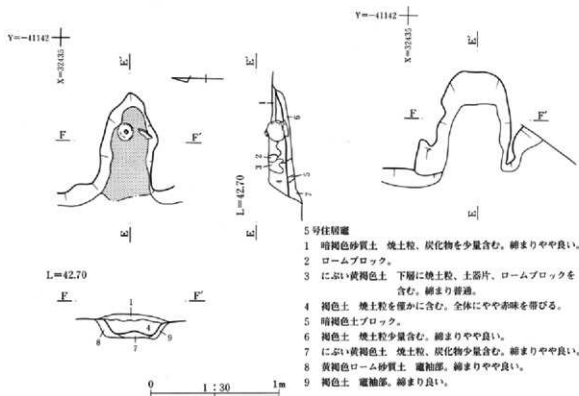
2・3号ピット間が広く、1・4号ピット間が狭く設置されている。いずれのピットも単層で、褐色砂質土主体にローム・ブロックが少量の埋土である。貯蔵穴 住居南東部コーナーに設置され、長径60cm、短径52cm、深さ12cmやや楕円形を呈する。

周溝 調査区内では未確認

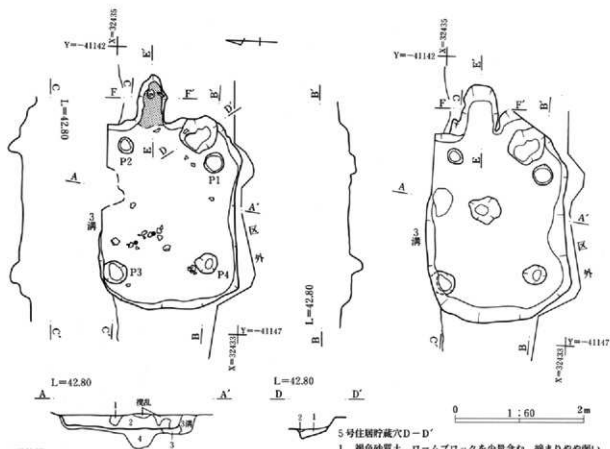
竈 住居東壁中央部よりやや北側に壁外に突出して構築されている。比較的遺存状態は良い。焚き口60cm、燃焼部幅80cm、燃焼部長さ80cm、煙道部64cmで心材を用いず粘土のみで構築している。燃焼部には土師器台付甕が逆位で据えられ、支脚として利用されたものと考えられる。

遺物 1は台付甕、2は小型甕、3~5は土師器甕、6・7・11は須恵器杯、8・9は須恵器碗、10は須恵器碗が欠、12は大甕の破片を転用した甕である。その他、土師器片多数、須恵器片15点出土。小片のため図化できなかった。

所見 本遺構は出土遺物から9世紀代に比定される。



第48図 3区5号住居竈 平・断面図



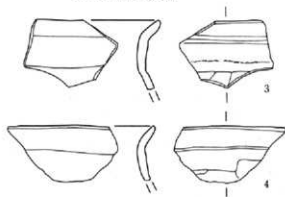
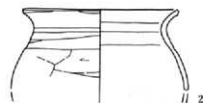
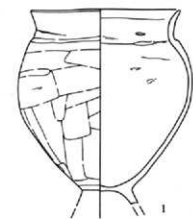
5号住居

- 1 黒褐色土 表土(畑土)。
- 2 暗褐色土 ローム粒を僅かに含み、焼土粒、炭化物も含む。締まりやや良い。

5号住居貯蔵穴D-D'

- 1 褐色砂質土 ロームブロックを少量含む。締まりやや強い。
- 2 褐色土 ロームブロック、炭化物を少量含む。締まり弱い。

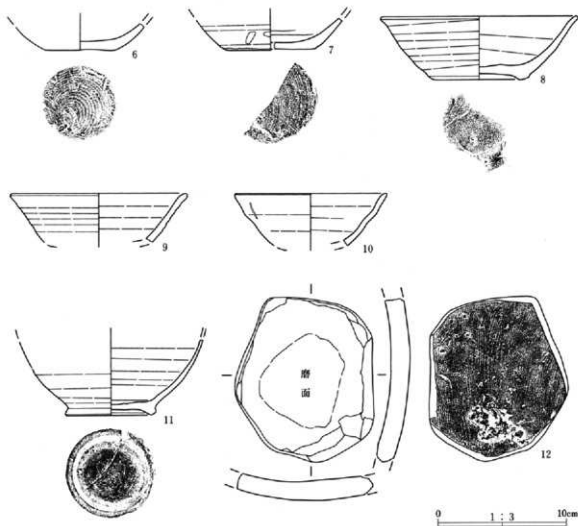
- 3 明黄褐色砂質ローム土 暗褐色砂質土が中量程含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色砂質土 ローム粒、焼土粒、炭化物を少量含む。締まりやや良い。掘り方理土。



0 1:3 10cm

第49図 3区5号住居 平・断面図、出土遺物(1)

3区 竪穴住居跡



第50図 3区5号住居 出土遺物 (2)

6号住居 (第41・51図、P.L12・55)

位置 3区 X=32437-439 Y=-41148-151

重複遺構 なし

形態 後世の削平により北側部分を、試掘トレンチにより中央部を消失している。上面からの削平を全体的に受け、遺構確認面で掘り方のみ検出した。そのため全形は不明である。

方位 N-84° - E

規模 長軸3.02×短軸2.14m

面積 (1.386)㎡

壁高 20cm

床面 後世の削平を受け、床面は残存していない。掘り方面はほぼ平坦である。掘り方面から8cm程の埋め土が残存していた。掘り方面東壁に1号土坑、

西壁に2号土坑を検出したが、1号土坑は、埋め土や位置的に見て、住居にともなうものとは、断定できなかった。2号土坑は、長軸72cm×短軸40cm、深さ34cmでやや隅丸長方形を呈する。

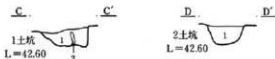
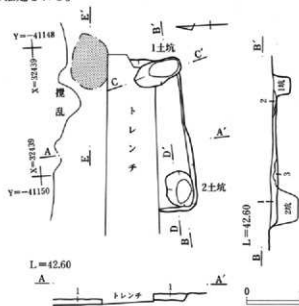
柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

竈 住居東壁中央部付近に構築されていると推察される。上面からの削平を受け、遺存状態が悪く、遺構平面確認時において長径84cm、短径56cm程の焼土しか確認できなかった。焚き口、燃焼部幅、燃焼部長さ、煙道部等詳細は不明であるが、煙道部のみ壁外に突出して構築されていたと推察できる。掘り方面では、燃焼部を土坑状に5cm程掘り下げ、煙道部にかけて緩やかに傾斜を造っている。

遺物 1・2とも須恵器柄。その他、土師器片38点、須恵器片2点出土。小片のため図化できなかった。所見 本遺構は、遺存状態が悪く、出土遺物も少ないため、時期を特定できなかった。奈良・平安時代と推定される。

3区 竪穴住居跡



6号住居内1号土坑

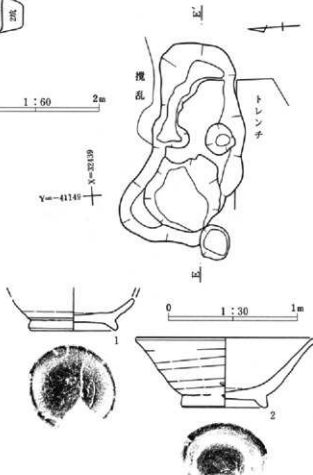
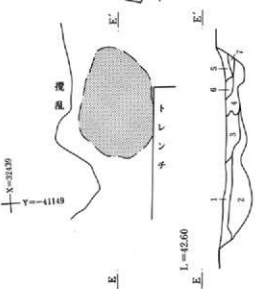
- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。大きめに炭化物も含む。締まりやや良い。
- 2 におい黄褐色土 ローム砂質土ブロック。締まり良い。

6号住居内2号土坑

- 1 暗褐色土 大きなロームブロックを僅かに含む。締まりやや良い。

6号住居

- 1 におい黄褐色砂質土 白色軽石粒とローム粒を少量含む。締まりやや良い。
- 2 明黄褐色砂質ローム土 1層におい黄褐色砂質土を中量含む。締まり良い。
- 3 におい黄褐色土 ローム粒少量含む。締まりやや強い。



6号住居

- 1 暗褐色砂質土 ローム粒を少量含む。焼土粒含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 1層暗褐色砂質土にローム砂質土の大きめブロックを中量含む。また、焼土粒を僅かに含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 1層暗褐色砂質土に橙色焼土粒を少量含む。締まり良い。
- 4 橙色焼土 大きめのブロックが主体。

- 5 暗褐色土 1層暗褐色砂質土に焼土粒、炭化物少量含む。締まりやや強い。
- 6 におい黄褐色土 焼土を少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒を少し含む。締まり普通。



第51図 3区6号住居 平・断面図、出土遺物

3区 堅穴状遺構跡

(2)堅穴状遺構跡

住居の可能性はあるものの、調査範囲の制限や後世の擾乱によって主要な部分が削平されていたり、竈・柱穴・明確な床構造等がなく、調査時には住居と認定出来なかった遺構について、堅穴状遺構とし

1号堅穴状遺構 (第41・52図、P L 13・55)

位置 3区 X=32408~410 Y=-41199~201

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では長方形を呈する。北側が調査区境に、南側が擾乱による削平、西側が鉄道関連構造物による削平を受け全形は不明である。

方位 計測不能

規模 計測不能 長軸(1.50)×短軸(1.23)m

調査区遺構確認面のみ

面積 計測不能

壁高 40cm

床面 北側が調査区境に、南側が擾乱による削平、西側が鉄道関連構造物による削平を受けているため、床面の一部の調査にとどまった。床面は一部

て調査を行った。一部に貼り床が認められたものもあったが、狭い調査区内では住居と認定できない。長方形を呈するものもあるが、溝の一部とも捉えられるので、ここでは堅穴状遺構として報告する。

地山ロームが硬化しているところと、ローム土と暗褐色土の混土による埋め土を施して平坦な面を造っていた部分がある。掘り方は、かなりの凹凸がある。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

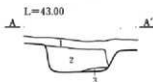
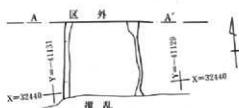
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

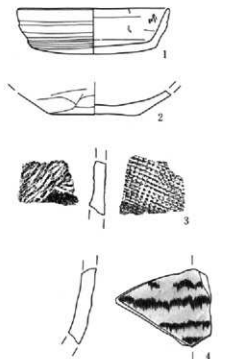
遺物 1は土師器坏、2は土師器甕、3は須恵器甕、4は中世の甕と考えられる。その他、土師器片多数、須恵器片15点出土。小片のため図化できなかった。

所見 1号堅穴状遺構は、長方形の形状を持つこと、一部貼り床面も検出したことから住居の可能性もあるが、土坑の可能性も考えられる。



1号堅穴状遺構

- 1 磁路路型砕石
- 2 暗褐色砂質土 ローム粒を稀かに含み、焼土粒、炭化分、白色軽石粒を少量含む。締まり良い。
- 3 にぶい黄褐色ローム砂質土 2層暗褐色砂質土を少量含む。締まり良い。



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

第52図 3区1号堅穴状遺構 平・断面図、出土遺物

2号竪穴状遺構 (第41・53図、P.L13・55)

位置 3区 X=32435~439 Y=-41167~171

重複遺構 なし

形態 調査区範囲内では不整形を呈する。南側と西側が調査区域に位置するため、全形は不明である。

方位 計測不能

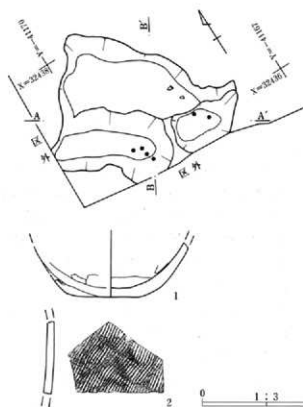
規模 計測不能 長軸(2.32)×短軸2.70m

調査区遺構確認面のみ

面積 計測不能

壁高 48~64cm

床面 北東側がテラス状に高まる。西壁から南壁に



第53図 3区2号竪穴状遺構 平・断面図、出土遺物

3号竪穴状遺構 (第41・54図、P.L13・55)

位置 3区 X=32436~440 Y=-41164~167

重複遺構 なし

形態 南東側が長く、北西側の短い隅九台形を呈する。

方位 計測不能

規模 長軸2.50×短軸1.72m

かけて溝状に掘りこみがなされている。掘り方面は、かなりの凹凸がある。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

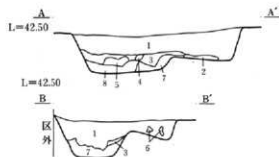
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1は土師器甕、2は須恵器甕。その他、土師器片多数、須恵器片16点出土。

所見 2号竪穴は、不整形な形状を持ち、南側が調査区外に出るため全形もわからず、性格も不明である。堀、溝の可能性も考えられる。



2号竪穴状遺構

- 1 暗褐色砂質土 白色軽石粒、炭化物少量含む。
細まりやや良い。
- 2 黒褐色土 やや粘性。
- 3 暗褐色土 1層暗褐色砂質土に、にぶい黄褐色ローム砂質土を中量含む。
- 4 黄褐色砂質ローム土 細まりやや良い。
- 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む、焼土粒を僅かに含む。
細まりやや良い。
- 6 にぶい黄褐色土 ローム粒を中量含む。細まりやや良い。
- 7 暗褐色土 1層暗褐色砂質土に、にぶい黄褐色ローム粒を少量含む。細まり普通。
- 8 暗褐色土 大きめのロームブロックを少量含む。細まり良い。

面積 (0.873) m² 調査区確認内

壁高 12~16cm

床面 床面は確認できず、掘り方面は多少の凹凸があるが、平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

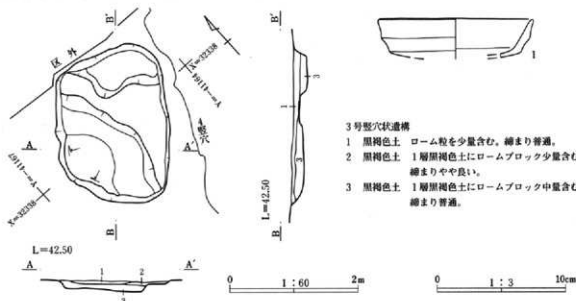
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

3区 竪穴状遺構跡

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1は須恵器坏、その他、土師器片15点、近世陶器片1点出土。小片のため図化できなかった。



第54図 3区3号竪穴状遺構 平・断面図、出土遺物

4号竪穴状遺構 (第41・55～59図、P L 13・55～57)

位置 0区・3区 X=32434～441

Y=-41161～166

重複遺構 なし

形態 不整形を呈する。浜町0区の9号土坑と17号ピットが、本構の一部であると分かった。やや溝状で南側は調査区外となるため全形は不明である。

方位 N-26° -E

規模 長軸(5.40)×短軸2.58m

調査区内確認のみ

面積 (13.540)㎡

壁高 20～48cm 暗褐色土と黄褐色土が互層となってレンズ状に堆積している。

床面 多数の土師器・須恵器が出土した。床面は確認できなかった。全体的に掘り方は多少の凹凸があるが、平坦である。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

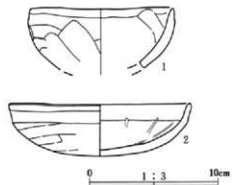
周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

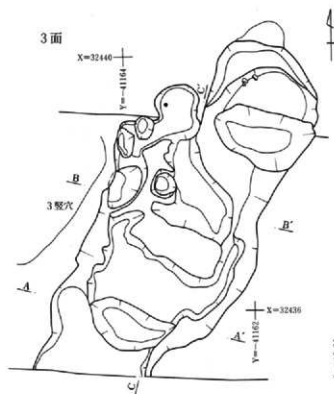
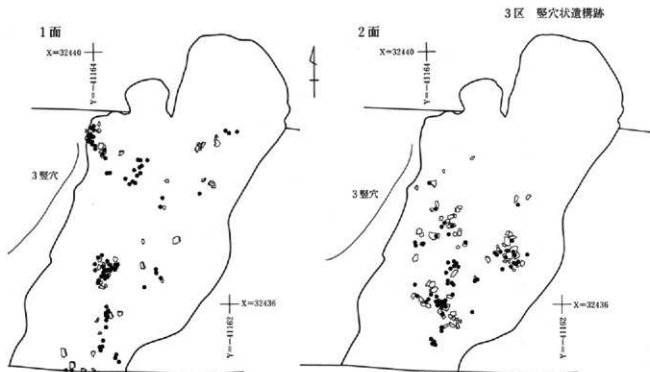
所見 3号竪穴状遺構は、竈、柱穴等がないが、やや長方形を呈することから、住居の可能性がある。

遺物 1～5は土師器坏、6は土師器碗、7～10は土師器小型壺、11～20は土師器壺、21・22・24は長胴壺、23は土師器大壺、25は高坏、26～29は石器。その他、土師器副部片多数、須恵器片33点、近世陶器片2点出土。小片のため図化できなかった。

所見 4号竪穴状遺構は、多数の土師器・須恵器が出土し、自然堆積により埋没している。法面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状を呈することから溝の可能性が高い。特に浜町0区に自然河道があり、水辺祭祀の可能性や、土器溜まりの可能性もある。

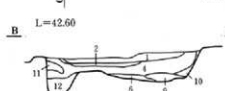
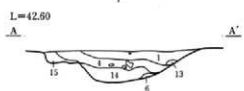


第55図 3区4号竪穴状遺構 出土遺物 (1)

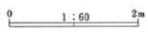


4号整穴状遺構

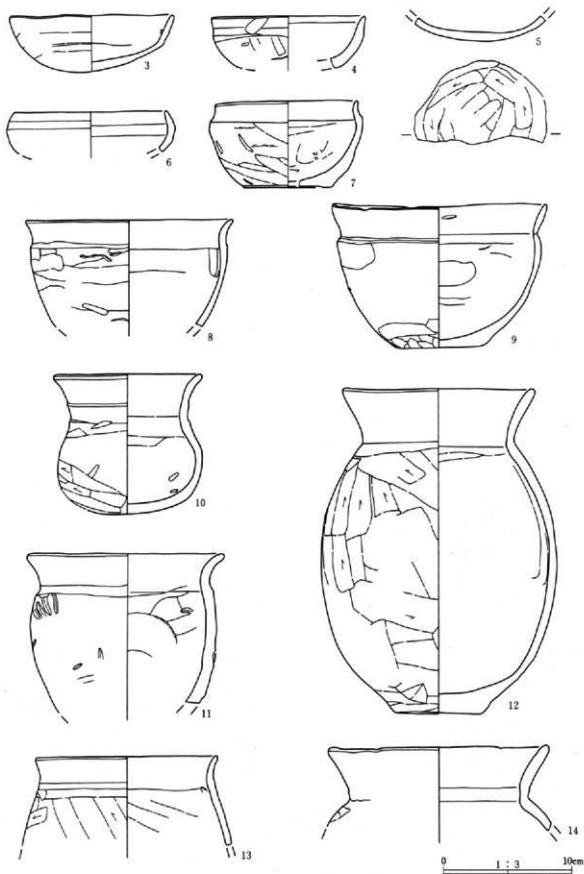
- 1 黒褐色土 やや粘性。ローム粒微量。締まり良い。
- 2 黄褐色砂質ローム土 1層ブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 白色軽石粒含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 やや砂質。ローム粒僅か。焼土粒少量含む。締まりやや良い。
- 5 暗褐色土 4層土に、にぶい黄褐色ロームブロック(厚10mm)少量含む。締まりやや良い。
- 6 暗褐色土 やや砂質。焼土粒少量含む。締まりやや良い。
- 7 にぶい黄褐色砂質ローム土
- 8 前年度の埋土。
- 9 暗褐色土 4層土に大きめのブロックを中量含む。締まり良い。
- 10 にぶい黄褐色ローム質土 4層土を少量含む。
- 11 暗褐色土 白色軽石粒含む。締まりやや良い。
- 12 にぶい黄褐色土 にぶい黄褐色ローム質土のブロックを含む。締まりやや良い。
- 13 にぶい黄褐色ローム質土 1層土を少量含む。
- 14 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。締まりやや良い。
- 15 黄褐色ローム質土 4層土を少量含む。締まりやや良い。



第56図 3区4号整穴状遺構 平・断面図

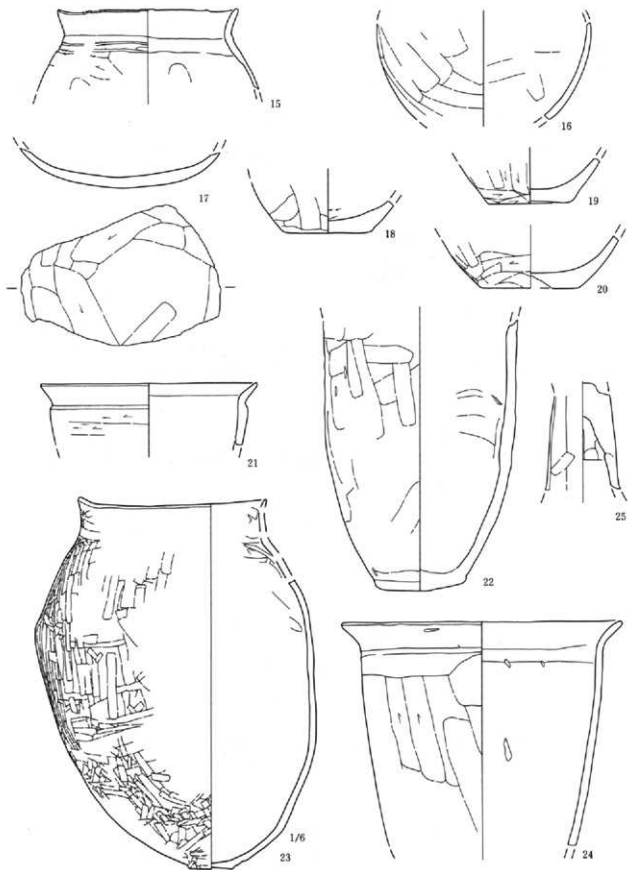


3区 竖穴状遺構跡



第57图 3区4号竖穴状遺構 出土遺物 (2)

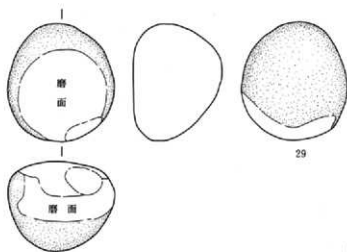
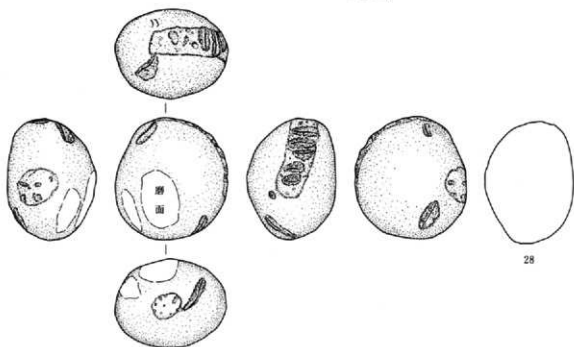
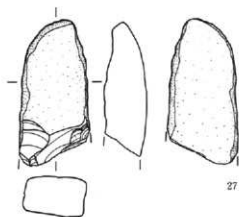
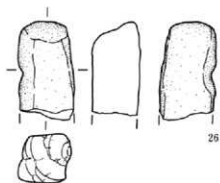
3区 竖穴状遗構跡



第58图 3区4号竖穴状遺構 出土遺物 (3)

0 1 3 10cm

3区 豎穴状遺構跡



0 1 : 3 10cm

第59图 3区4号豎穴状遺構 出土遺物 (4)

3区 竪穴状遺構跡

5号竪穴状遺構 (第41・60図、P.L14・57)

位置 3区X=32438~441 Y=-41156~159

重複遺構 なし

形態 隅丸長方形を呈する

方位 計測不能

規模 長軸2.23×短軸1.90m

面積 4.390m²

壁高 16cm

床面 床面は確認できず、掘り方面は多少の凹凸があるが、概ね平坦である。掘り方面西壁ぎわ中央付近に長径0.60m、短径0.56m、深さ0.30mのやや方形を呈する1号土坑、中央やや南側に長径0.64m、短

径0.48m、深さ0.24mのやや台形を呈する2号土坑を検出した。

ピット・柱穴 調査区内では未確認

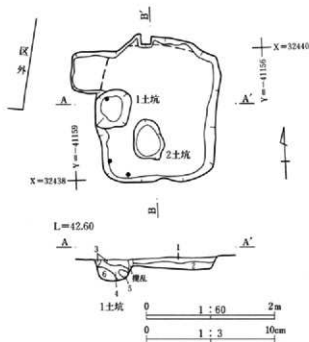
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1は形象埴輪。その他、土師器刷部片多数、須恵器片3点出土。小片のため固化できなかった。

所見 5号竪穴状遺構は、やや長方形を呈することから、住居の可能性は高いが、竈・柱穴等がないため断定はできなかった。



第60図 3区5号竪穴状遺構 平・断面図、出土遺物



6号竪穴状遺構 (第41・61図、P.L14)

位置 3区X=32436~440 Y=-41159~161

重複遺構 なし

形態 不整形を呈する。北壁と東壁の一部が攪乱により、中央部を試掘トレンチにより削平を受けているため全形は不明。

方位 計測不能

規模 長軸2.62×短軸0.93m

面積 (2.556)m²

壁高 16cm

床面 攪乱と試掘トレンチのため遺存状態は悪く、床面は確認できなかった。掘り方面は概ね平坦である。北側に長径0.60m、短径0.56m、深さ0.68mの不整形を呈する1号土坑、1号土坑の南側に楕円形の浅い掘り込みと、西壁南側に長径0.92m、短径0.76m、深さ0.16mの不整形を呈する2号土坑を検出した。

3区 堅穴状遺構・土坑跡

ピット・柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

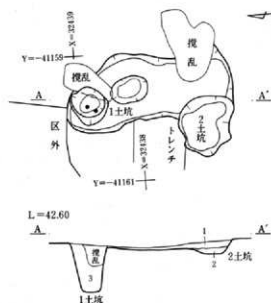
周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 土師器胴部片多数、須恵器片2点出土。小片のため因化できなかった。

所見 6号堅穴状遺構は、性格不明な遺構である。

2つの土坑と攪乱の混合したものが、3つの土坑の重複の可能性も考えられる。



6号堅穴状遺構

- 1 暗褐色砂質土 ローム粒層かに、焼土粒、炭化物とともに大さめの粒子少量含む。締まりやや良い。
- 2 におい黄褐色ローム土 1層暗褐色砂質土を中層含む。締まりやや良い。
- 3 黒褐色土 ブロック。締まりやや弱い。

第61図 3区6号堅穴状遺構 平・断面図

(3)土坑跡

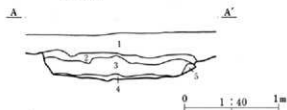
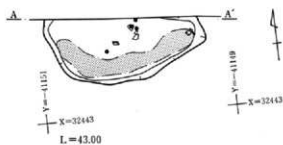
3区から5基の土坑跡を検出した。前調査区と同様に同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は難しく、埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。ただ、出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、前調査区と同様に上部からの削平や後世の攪乱が著しく、遺構の重複のため、残存状態は非常に悪

かった。それぞれの形態・規模については一覧表、遺構図を掲げてある。土坑は、主に調査区北境と南境で確認されており、主に円形か不整形の形態をとっている。1号土坑から3号土坑は時期を特定できたが、4・5土坑は時代を特定できなかった。以下、土坑について詳述する。

1号土坑 (第41・62図、第7表、P L12・57)

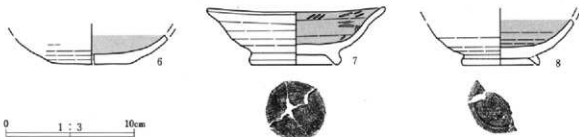
1号土坑は、不整形で調査区中央やや西側北境に位置する。遺構の北側が調査区外に延びるため全形は不明である。断面形は台形を呈し、底部は、平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。また、セクション上には明示されなかったが南壁沿いに焼土が分布している。埋土は、暗褐色砂質土を主体にロー

ム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む。遺物は、1～6、8が須恵器碗、7は須恵器坏か皿が出土。その他、土師器片14点、須恵器片8点出土。小片のため時期・器種を特定できなかった。出土遺物と土坑の状況から火葬を伴う土坑墓の可能性も考えられる。遺物から10世紀と比定される。



1号土坑

- 1 礫路踏盤砕石
- 2 暗褐色砂質土 白色軽石粒少量、炭化分含む。締まり普通。
- 3 暗褐色土 砂質。ローム粒僅か、焼土粒、炭化物含む。締まり良い。
- 4 におい黄褐色ローム土 3層暗褐色土を中量含む。締まりやや良い。
- 5 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量含むブロック。



2号土坑 (第41・62・63図、第7表、P L12・57)

2号土坑は、楕円形で調査区西境、0区に近接する場所に位置する。断面形は方形で、円筒形の掘り方をもつ。埋土は、上層がやや粘性の暗褐色土、下層がにおい黄褐色土を主体としている。埋土は、人

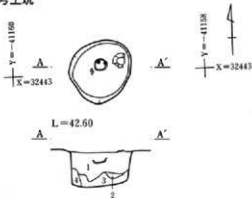
為的な埋没状況を示している。1・2とも土師器坏、2の底部は木葉痕である。出土位置は上層である。6世紀後半と考えられる。遺物は、その他、土師器片が出土。小片のため図化できなかった。主に古墳時代と考えられる。



第62図 3区1号土坑 平・断面図、1・2号土坑出土遺物

3区 土坑跡

2号土坑



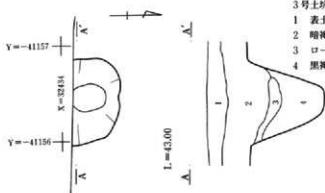
2号土坑

- 1 暗褐色土 やや粘性。白色軽石粒と炭化物僅かに含む。締まりやや良い。
- 2 1層暗褐色土と3層にふい黄褐色土の混土。
- 3 にふい黄褐色土 やや粘性。締まり普通。
- 4 黄褐色土 やや粘性。3層にふい黄褐色土を少量含む。締まりやや良い。

3号土坑 (第41・63図、第7表、P L12)

3号土坑は、楕円形で調査区西側南境に位置する。断面形は上部が広がり、上層30cmから円筒形になっている。底部は概ね平坦である。埋土は、暗褐色土

を主体に、上層には白色軽石粒を含み、下層は含まない。遺物は土師器片少数、近世陶器片少数出土。小片のため固化できる遺物はなかった。埋土の状況から、近現代の遺構と考えられる。

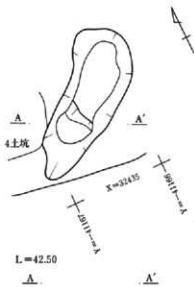


3号土坑 (近・現代)

- 1 表土 田耕作土。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒含む。
- 3 ローム質砂土 4層黒褐色土を少量含むブロック。
- 4 黒褐色土 やや砂質。ロームブロックを僅か、焼土粒、炭化分少量含む。締まり普通。

4号土坑 (第41・63図、第7表、P L13)

4号土坑は調査区西側に位置し、不整形である。5号土坑と重複し、土層断面の観察から、4号土坑の方が新しいと考えられる。断面は蒲鉾状を呈し、底面はなだらかな平坦面である。埋土は、上層の一部を暗褐色土でローム粒を僅かに含む。下層は黒褐色土が主体である。遺物は土師器片少数出土。小片のため固化できず、遺物から時期を特定できなかった。



4号土坑

- 1 暗褐色土 わずかにローム粒含む。締まり普通。
- 2 黒褐色土 締まり普通。

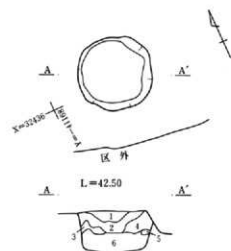
0 1:40 1m

第63図 3区2～4号土坑 平・断面図

5号土坑 (第41・64図、第7表、P.L13)

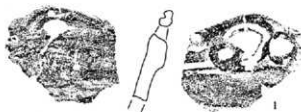
5号土坑は、調査区西側に位置し、円形である。4号土坑と重複し、土層断面の観察から、5号土坑の方が古いと考えられる。断面は漏斗状を呈し、底面はなだらかな面である。埋土は、にぶい黄褐色土

と暗褐色土、黒褐色土が互層となっている。埋没土の状況から人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は、1が縄文土器深鉢、その他、土師器片少数出土。小片のため図化できず、遺物から時期を特定できなかった。



5号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 炭化物含む。締まり普通。
- 2 黒褐色土 締まり普通。
- 3 にぶい黄褐色土 大きめのロームブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 5 にぶい黄褐色土 砂質ロームブロック。
- 6 暗褐色土 砂質。ロームブロックを部分的に含む。締まり普通。

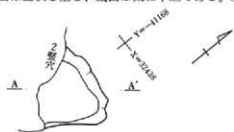


0 1:3 10cm

6号土坑 (第41・64図、第7表)

6号土坑は、調査区西側に位置し、南西側が2号堅穴状遺構と重複する。そのため、全形は不明である。断面は皿状を呈し、底面は概ね平坦である。埋

土は、2号堅穴状遺構とかわらず、暗褐色土が主体である。そのため、新旧関係も明らかにできなかった。遺物もなく、埋土の状況からも時期を特定できなかった。



0 1:40 1m

第64図 3区5・6号土坑 平・断面図、5号土坑出土遺物

第7表 3区 土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深度		
1	1号土坑	X=32442 Y=-41149	(隅丸長方形)	N-80°-E	1.72	0.60	0.28	須恵器碗	北側が調査区外となるため全容は不明
2	2号土坑	X=32442 Y=-41158	楕円形	N-62°-E	0.68	0.60	0.35	土師器杯	
3	3号土坑	X=32434 Y=-41155	(楕円形)	N-88°-W	0.80	0.60	0.86	土師器小片	南側が調査区外となるため全容は不明
4	4号土坑	X=32435 Y=-41165	(不整形)	N-54°-E	1.62	0.60	0.42	土師器小片	5号土坑と重複。土層断面の観察から本遺構の方が新しい。南側が調査区外となるため全容は不明
5	5号土坑	X=32435 Y=-41166	円形	N-64°-W	0.78	0.78	0.25	縄文土器、土師器小片	4号土坑と重複。土層断面の観察から本遺構の方が古い。
6	6号土坑	X=32438 Y=-41168	(不整形)	N-50°-E	1.08	1.04	0.15	遺物なし	2号堅穴状遺構と重複。新旧関係は不明。全形不明。

3区 溝跡

(4) 溝跡

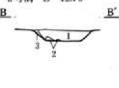
後世の削平が深くまで及んでおり、前区同様に残存状態は良好でなかった。また、3区の溝は調査区と並行して走向している。3区の溝は比較的新しい時期と考えられる。いずれの溝も、全体を把握できず、埋土からの出土遺物は、古墳時代から近・現代

のものまで混在しており、また、点数が少数で小片ばかりのため、どちらが混入品か判断ができなかった。他遺構の埋土との比較と出土遺物から、中世～近世・現代までの遺構が大半であると思われる。

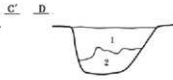
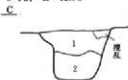
1号溝 L=43.00



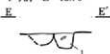
2号溝 L=42.70



3号溝 L=42.70



4号溝 L=42.70



1号溝 (近・現代)

- 1 黒褐色土 砂質土、礫、ゴミ混じる。上面に踏懸碎石がのる。
- 2 黒褐色土 1層黒褐色土に褐色砂少量含む混土。締まり強い。
- 3 暗褐色砂土 ローム質砂土少量含む。締まりやや弱い。

2号溝 (近・現代)

- 1 暗褐色土 ローム粒僅かに含む。
- 2 にぶい黄褐色土 ロームブロック。
- 3 にぶい黄褐色土 ローム質砂土に2層にぶい黄褐色ロームブロックを少量含む。

3号溝 (近・現代)

- 1 暗褐色土 ローム粒僅か、焼土粒、炭化分少量含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 1層暗褐色土に大きめのロームブロックを少量含む混土。締まり普通。

4号溝 (近・現代)

- 1 暗褐色砂土 ローム砂質土僅かに少量含む。締まりやや弱い。



第65図 3区1～3号溝 断面図

1号溝跡 (第41・65・66・67図、P L14・57)

位置 3区 X=32438~440 Y=-41112~120

調査区中央部より東側に位置する。

重複遺構 4号溝と重複。遺構埋土と土層断面の観察により本遺構(1号溝)の方が新しい。

走向 東から西(N-88°-E)

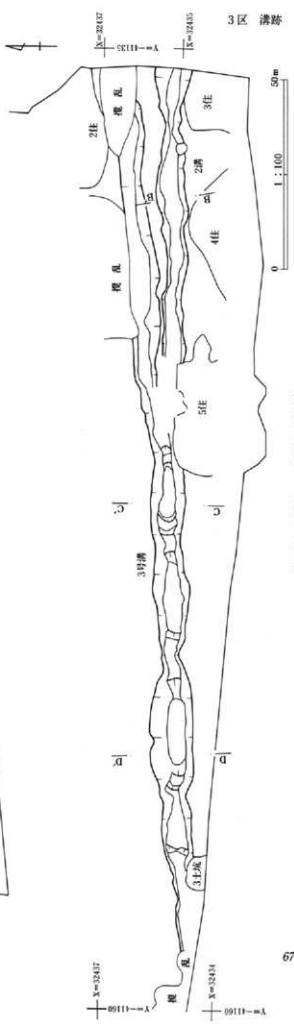
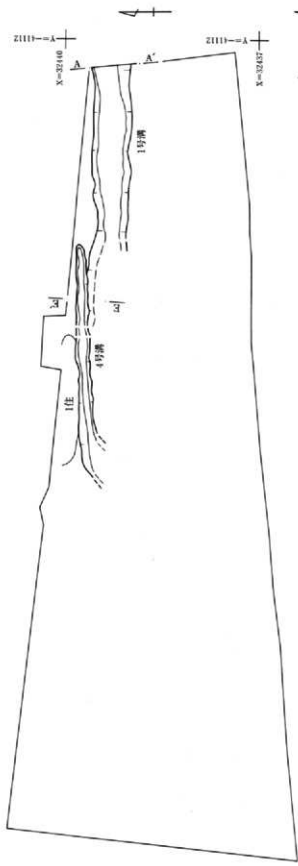
形態 直線的で、断面形は皿状を呈する。4号溝と一部並行する。

規模 検出全長 4.50m 上幅 0.72~1.06m

底幅 0.38~0.72m 深さ 0.16m

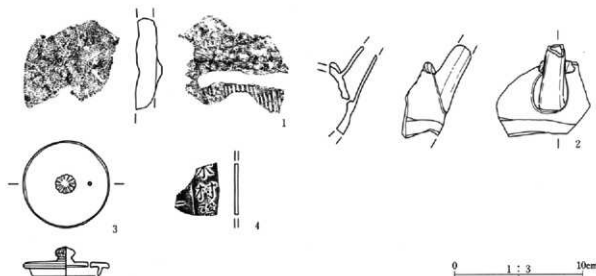
遺物 1は埴輪、2は陶器急須、3は急須の蓋、4はガラス、その他、土師器片多数、須恵器9点、近世11点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物、土層断面の観察から埋土は、旧表土にちかい土質を呈しており、新しいものと考えられる。現代の溝の可能性が高い。



第66图 3区1~4号溝 平面图

3区 溝跡



第67図 3区1号溝 出土遺物

2号溝跡 (第41・65・66・68図、P L57)

位置 3区 X=32434~436 Y=-41135~144

調査区中央部に位置する。

重複遺構 3号住居と重複。遺構埋土と土層断面の観察により本遺構(2号溝)の方が新しい。

走向 東から西(N-90°-E)

形態 直線的で、断面形は逆台形を呈する。

3号溝と一部並行する。西側は5号住居付近で消失、東側は、調査区外に延びていく。

規模 検出全長 7.64m 上幅 0.36~0.73m

底幅 0.06~0.52m 深さ 0.30m

遺物 1は須恵器環、その他、埋土より土師器胴部片多数、瓦片、陶器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物、土層断面の観察から埋土は、旧表土にちかい土質を呈しており、新しいものと考えられる。現代の溝の可能性が高い。

3号溝跡 (第41・65・66・69図、P L4・58)

位置 3区 X=32434~437 Y=-41136~159

調査区中央部に位置する。

重複遺構 5号住居、3号土坑と重複。遺構埋土と土層断面の観察により、5号住居より本遺構(3号溝)の方が新しく、3号土坑より古い。

走向 東から西(N-80°-E)

形態 直線的で、断面形は逆台形を呈する。2号溝と一部並行する。西側は調査区外に延びていく。東側は調査区外付近で消失する。調査区東側の4号溝か1号溝と同じ溝の可能性もある。



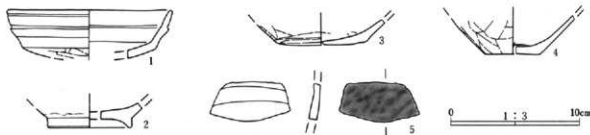
第68図 3区2号溝 出土遺物

規模 検出全長 21.44m 上幅 0.46~1.12m

底幅 0.20~0.56m 深さ 0.56m

遺物 1は土師器環、2・3は土師器甕、4は須恵器碗、5は灰釉陶器、他に土師器胴部片多数、須恵器14点など古墳時代から近世にかけての遺物が出土。遺物は混入の可能性が高い。

所見 土層断面の観察から埋土は、旧表土にちかい土質を呈しており、比較的新しい時期の溝と考えられるが、出土遺物からは、時期の特定はできなかった。埋土が類似しており、2号溝か3号溝と同じ溝の可能性もある。



第69図 3区3号溝 出土遺物

4号溝跡 (第41・65・66・70図, P L14・58)

位置 3区X=32439~440 Y=-41117~124

調査区東側に位置する。

重複遺構 1号溝と重複。遺構埋土と土層断面の観察により本遺構(4号溝)の方が古い。

走向 東から西(N-86°-E)

形態 直線的で、断面形は深い碗状を呈する。

1号溝と一部並行する。

規模 検出全長 5.50m 上幅 0.20~0.45m

底幅 0.09~0.24m 深さ 0.21m

遺物 1は須恵器杯、2は陶器、その他、土師器調部片少数、近世陶器片7点出土。須恵器、土師器は混入の可能性が高い。小片のため図化できなかった。所見 遺物、土層断面の観察から埋土は、旧表土にちかい土質を呈しており、新しいものと考えられる。現代の溝の可能性が高い。粗土が酷似しており、2号溝か3号溝と同じ溝の可能性もある。



第70図 3区4号溝 出土遺物

(5)ピット跡

本遺跡から4基のピットを検出した。いずれのピットも土師器片の数点しか出土せず、時期の特定や図化を行うことができなかった。1号ピットは、調査区中央やや東側に位置し、3号住居と4号住居に近接している。2号ピットは1号ピットに近接し、2号溝と重複しており、2号ピットの方が新しい。3号ピットは、調査区中央付近北側に位置する。埋土には土師器片少数、炭化分、焼土粒が含まれており

第8表 3区 ピット一覧表

り柱穴の可能性はあるが、遺構に伴うものの可能性が高い。調査区境に位置し、周囲に遺構もないことから、特定することはできなかった。6号ピットは調査区西側、北側部分に位置する。0区と近接するため、0区、3区周囲の遺構との関連を検討を加えてみたが、特定できなかった。いずれのピットも、埋土・重複関係などから時期・用途を想定できなかった。ピットそれぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置は遺跡全体図の中に提示した。

番号	遺構番号	位置	形態	規模 (m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深さ		
1	1ピット	X=32434 Y=-41137	円形	0.36	0.32	0.50	土師器小片	
2	2ピット	X=32434 Y=-41137	楕円形	0.32	0.28	0.20	土師器小片	2号溝と重複、ピットの方が新しい。
3	3ピット	X=32440 Y=-41138	楕円形	0.52	0.48	0.54		
4	6ピット	X=32438 Y=-41167	楕円形	0.44	0.38	0.17	土師器小片	

3区 遺構外出土遺物

(6) 3区の遺構外出土遺物 (第71図、P L 58)

浜町遺跡3区で出土した遺構に伴わない遺物を時代別に報告する。なお、旧石器、縄文時代、弥生時代の明確な遺物は、確認されていない。

古墳時代

明らかに古墳時代のものと思われるものは、1は土師器杯、2は土師器甕、3は土師器高杯、4は須恵器杯、5は埴輪片。その他、土師器片多数、須恵器片23点出土。摩耗が激しく小片のため図化できなかった。

奈良・平安時代

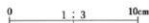
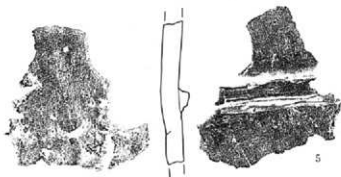
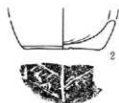
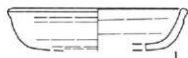
検出された、遺物は、土師器口縁片と削部片が多数出土。時期を特定するまでには至らなかった。また、表面採取遺物は小片のため図化できなかった。

中・近世

6はかわらけである。この時期の検出遺構はなく、表面採取遺物として、その他、現代のものも含む陶磁器片37点出土。小片のため図化できる遺物はなかった。

時期不明

7は墨であるが遺構に伴わないため時期を特定できなかった。このほかにも、小片の鉄滓が出土している。



第71図 3区遺構外 出土遺物

V. 5区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡5区は、東武伊勢崎線の線路敷内の浜町3区・6区の東側、太田駅方面に向かって190mの区間（浜町5区）である。浜町遺跡の中央部分にあたると思われる。調査は、第3次・第4次調査の2年間にわたり、住居撤収作業と工事の進捗関係から、3地区に分けて調査を行った。第3次調査は平成14年8月1日から東側、平成15年3月3日から西側を、第4次調査として平成15年4月1日より、浜町遺跡5区の中央部と浜町遺跡6区を並行して調査に着手した。調査以前は、鉄道敷地、住宅地として利用されており、平坦地となっていた。浜町遺跡の他の地区と同様に東武鉄道敷設時（東武伊勢崎線は明治43年（1910）開通）または、その後の補修時の造成等や住宅跡地のため攪乱が所々に及んでいる。ただ、浜町遺跡5区は住宅地として利用されていたこと、比較的低位部分が多いことから、他の地区に比して遺構・遺物の遺存状態がよく、古墳時代から奈良・平安時代の遺構と遺物を検出した。調査地は、微高地であり、比高差10cm程で緩やかに西側を下る。竪穴住居跡38軒、土坑77基、溝14条、ピット95基、井戸2基、遺物集中1を調査した。縄文時代から近世までの遺物を検出した。

旧石器時代

調査範囲内において、浜町遺跡の他地区と同様に旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられなかった。

縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と認められるものは検出できなかったものの、遺物は17号溝より尖頭器、表面採取と竪穴住居より土器を4点、37号土坑から石鏃を検出した。また、弥生時代の遺構と認められる検出は一例もなかった。なお、他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性がある。

古墳時代

5区で検出した遺構は、古墳時代以降のものとして推定される。竪穴住居跡はいずれも残りが悪く、床面まで削平が及んでいたこと、また、調査区の幅が狭いこと、遺構の重複が多かったことなどから、竪穴住居全体が調査できず、詳細が不明なものが多い。竪穴住居跡の半数にあたる24軒、土坑17基から古墳時代と想定される遺物が多数出土している。ピットからも古墳時代と考えられる遺物が出土しているが、時期を特定できなかった。表面採取による古墳時代の土器も、多数出土しているが、それ以外の遺構については残念ながら検出はなかった。

奈良・平安時代

竪穴住居跡8軒が奈良・平安時代のもと考えられる。比較的遺存状態がよく、貼り床や柱穴、床面を巡る周溝も確認することができ、中には当時の構築状況を窺わせる竈をもつ竪穴住居もあった。竈の残存が良好の住居が2軒あり、そのうちの1軒は、竈の構築材として凝灰岩を切り出して利用していた。44・46・47号土坑は当該時期のものと考えられる。46号土坑からは、須恵器坏が出土している。その他にも遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

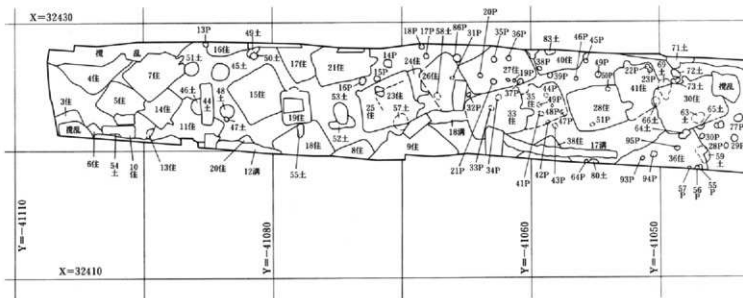
中・近世

土坑と溝が該当すると考えられる。この時期の検出遺構はなく、僅かに表面採取遺物として、近世陶器片3点、軟質陶器片1点出土。いずれも小片のため図化できなかった。

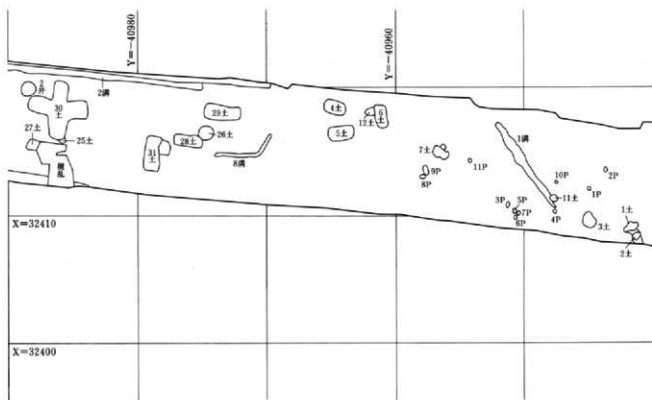
近・現代

4・5・6号溝が出土遺物と埋土の関係からこの時期に該当すると考えられる。

5区 遺構の概要

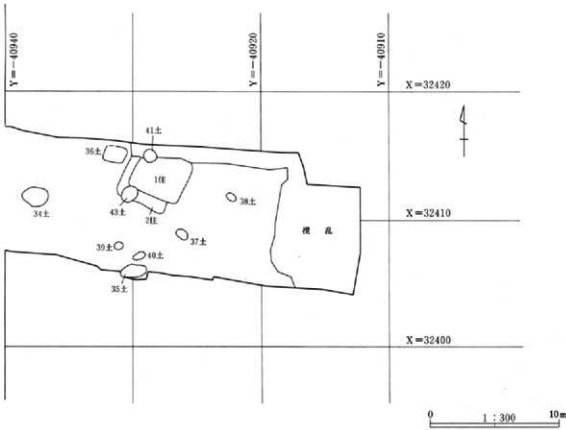
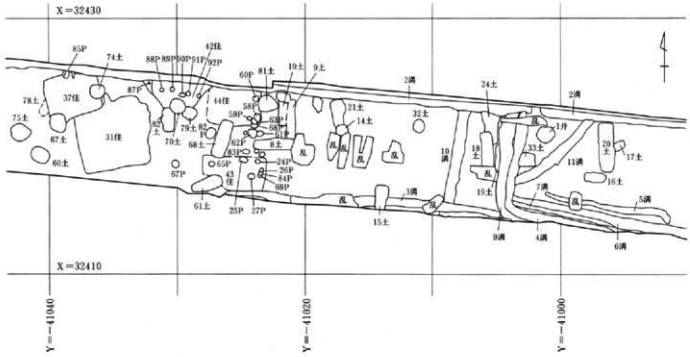


波線の土坑及びピットは掘り方面から検出された遺構



第72図 5区全体図 (S = 1 : 300)

5区 遺構の概要



5区 竪穴住居跡

(1) 竪穴住居跡

1号住居 (第72~77図、P L 16・58~61)

位置 5区 X=32411~415 Y=-40925~931

重複遺構 2号住居、41・43号土坑と重複。遺構平面確認と土層断面の状況により41・43号土坑より旧く、2号住居より新しいと考えられる。

形態 住居北側を試掘トレンチと攪乱によって消失しているため全形は不明である。確認範囲内では、隅丸長方形を呈する。

方位 計測不能 (N-68°-W)

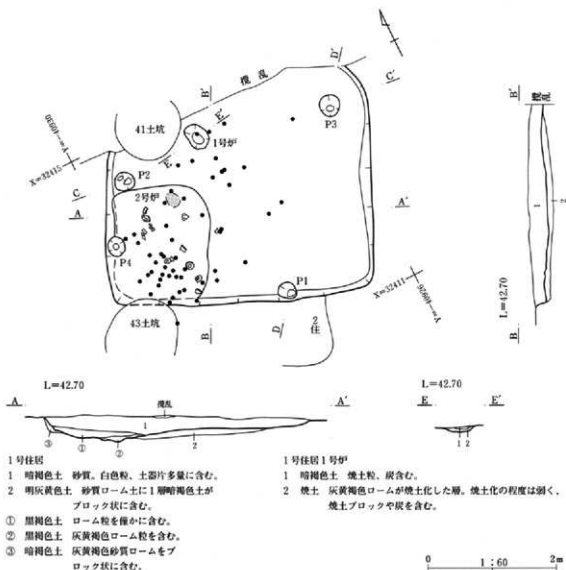
規模 長軸4.20×短軸3.56m

調査区住居確認のみ

面積 (11.475) m²

壁高 24cm

床面 掘り方面から4cm~12cmほど暗褐色土と明灰黄色砂質ローム土によって平坦な面を造り、床面を構築している。掘り方は住居中央部に径2.04m~1.64m、深さ0.12mの土坑状の掘り込みと南西壁付近を10cm程掘り込んでいる。多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦に造られている。調査時42号土坑と扱われたが、出土遺物の大半が1・2号住居の遺物と接合すること、住居に対する位置から、1号住居の掘り方と考えた。



1号住居

- 1 暗褐色土 砂質。白色粒、土器片多量に含む。
- 2 明灰黄色土 砂質ローム土に1層暗褐色土がブロック状に含む。
- ① 黒褐色土 ローム粒を僅かに含む。
- ② 黒褐色土 灰黄褐色ローム粒を含む。
- ③ 暗褐色土 灰黄褐色砂質ロームをブロック状に含む。

1号住居1号炉

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭含む。
- 2 焼土 灰黄褐色ロームが焼土化した層。焼土化の程度は弱く、焼土ブロックや炭を含む。

第73図 5区1号住居 平・断面図

ピット P 1 径24×34cm、深さ12cm

P 2 径24×34cm、深さ12cm

P 3 径24×34cm、深さ12cm

P 4 径24×34cm、深さ12cm

P 1～P 4の4基確認された。位置的に見てP 3が主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉 住居北東側1号炉跡と西側2号炉跡を検出。1号炉は、長径40.4cm×短径28cmの楕円形で深さ4cm程窪めた地焼炉である。2号炉は、24cm×20cmの楕円形で深さ2cm程窪めた地焼炉である。

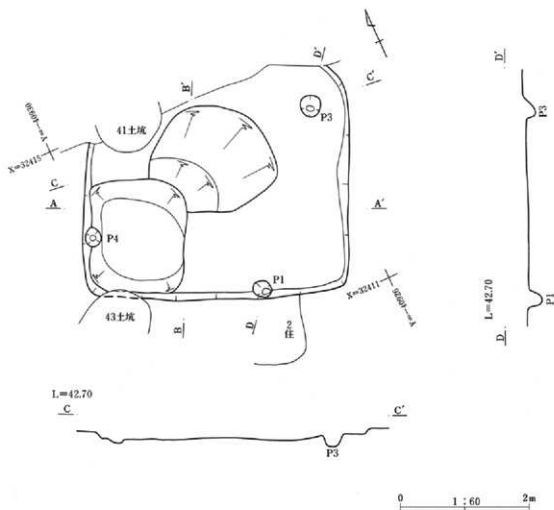
遺物 1～5は土師器坏、6・7は土師器小型甕、8・13は土師器小型埴、9・44は土師器手捏ね土器、10は土師器埴、11・12・14は土師器小型壺、15～33は土師器甕、34は土師器小型高坏、35～43は土師器高坏出土。その他、土師器片多数、焼成粘土塊出土。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。

2基の炉があり、1号炉は、この住居のものと考えられる。2号炉は住居に伴うかどうか不明である。

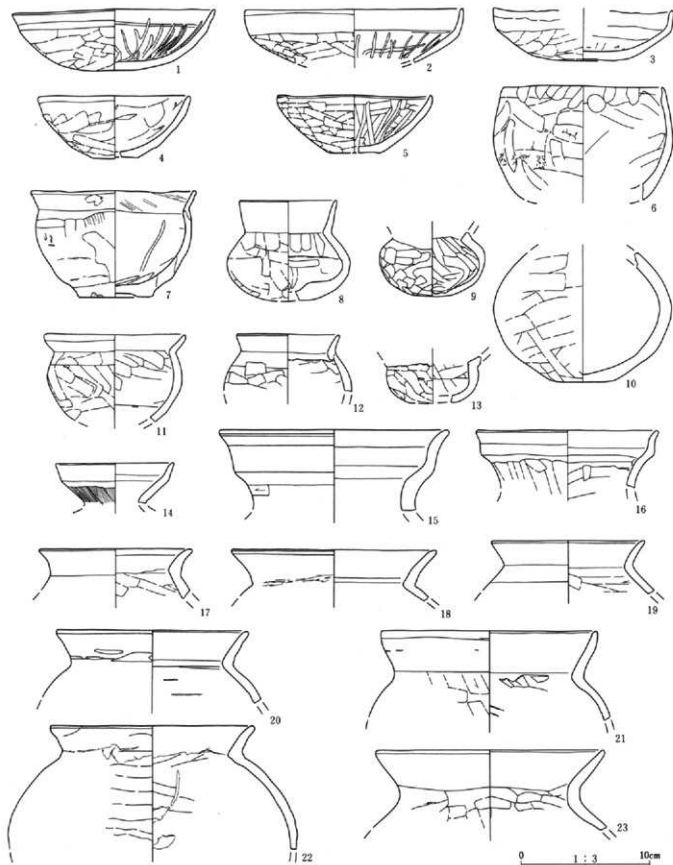
あるいは、炉の作り替えの行われた住居であると考えられる。また、焼失住居の可能性もある。

出土遺物から5世紀ごろと比定される。

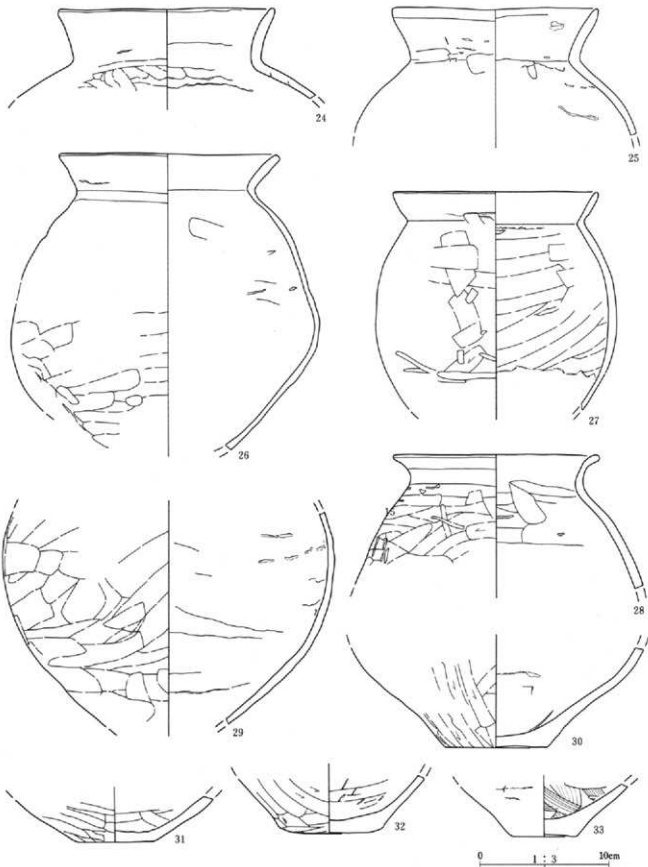


第74図 5区1号住居掘り方 平・断面図

5区 竖穴住居跡

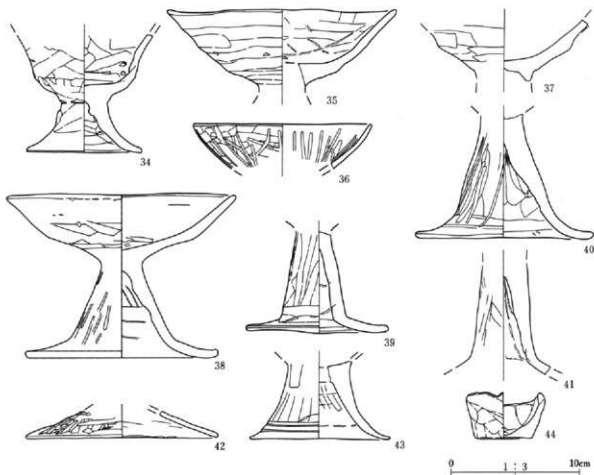


第75图 5区1号住居 出土遗物 (1)



第76图 5区1号住居 出土遗物 (2)

5区 竪穴住居跡



第77図 5区1号住居 出土遺物 (3)

2号住居 (第72・78・79図、P L16・61)

位置 5区X=32410~415 Y=-40927~932

重複遺構 1号住居、41・43号土坑と重複。遺構平面確認と土層断面の状況により1号住居、41・43号土坑より旧いと考えられる。

形態 住居北側を試掘トレンチと攪乱によって消失、北東側の大半を他の遺構と重複しているため全形は不明である。確認範囲内では、隅丸長方形を呈する。

方位 計測不能 (N-67° -W)

規模 長軸4.08×短軸3.36m

調査区住居確認面のみ

面積 (5.535)㎡

壁高 4cm

床面 掘り方面から8cm程暗褐色土と明灰黄色砂質ローム土によって平坦な面を造り、床面を構築して

いる。1号住居より床面が高く、遺存状態はあまりよくない。掘り方は住居南壁付近を5cm~10cm程掘り下げている。

ピット 径28cm~40cm、深さ12cm~20cm程のピットを3基検出する。

貯蔵穴 調査区内では未確認

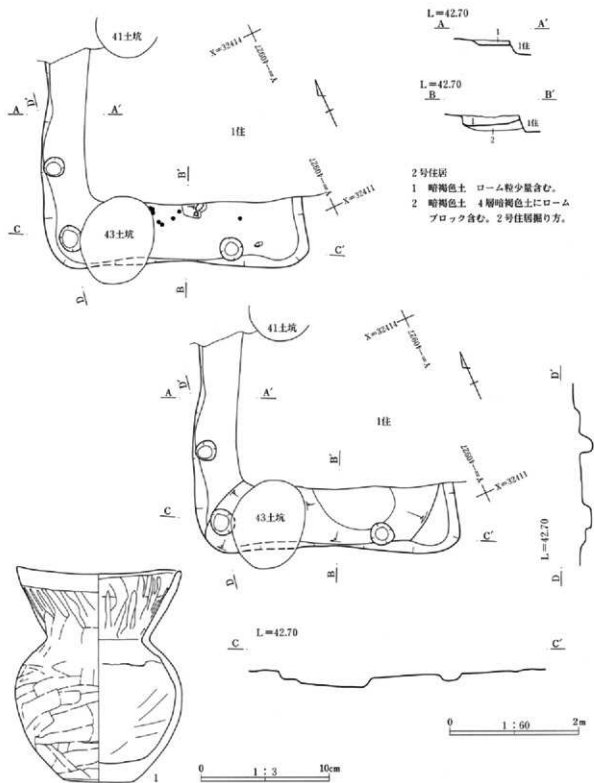
周溝 調査区内では未確認

炉 径24cm~36cm、深さ16cm程の焼土を検出。1号住居が北側部分を打ち壊しているため全形は不明。地焼炉の可能性もある。掘り方堀土が焼土化していることから、この住居に付随するものと考えられる。

遺物 1は土師器埴、2・3は土師器坏、4・5は土師器甕、6・7は高坏、8・9焼成粘土塊。その他、土師器片多数、須恵器胴部片2点、縄文土器片1点出土。

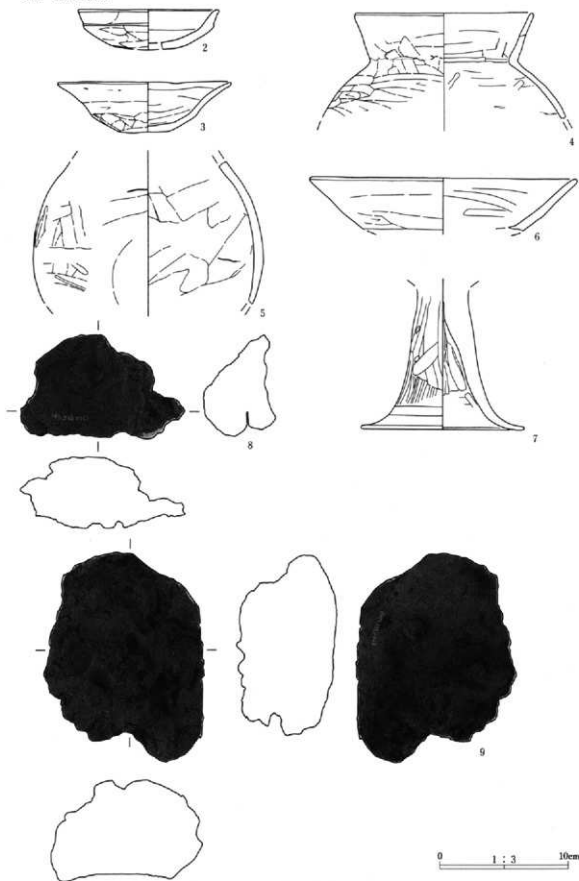
所見 出土遺物は、主に古墳時代前期の遺物が多く出土している。1号住居との重複のため遺物の混入

が著しい。住居の形態から古墳時代前期の竪穴住居と推察される。



第78図 5区2号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

5区 竖穴住居跡



第79图 5区2号住居 出土物 (2)

3号住居 (第72・80・81図, P L 17・61)

位置 5区 X=32421~424 Y=-41094~097

重複遺構 6号住居と重複しているが、攪乱のため新旧関係不明。

形態 隅丸長方形。西側を調査区外、南側が調査区外と攪乱となるため全形不明。

方位 計測不能 (N-12°-W)

規模 長軸(2.12)×短軸(2.00)m

調査区住居確認面のみ

面積 (1.539)m²

壁高 46cm

床面 掘り方面から、4cm~16cm程の埋土を施し平坦な面を造る。調査区域の壁セクションより推測される。

ピット P 1 径0.32~0.28cm、深さ22cm P 1は主柱穴の可能性がある。

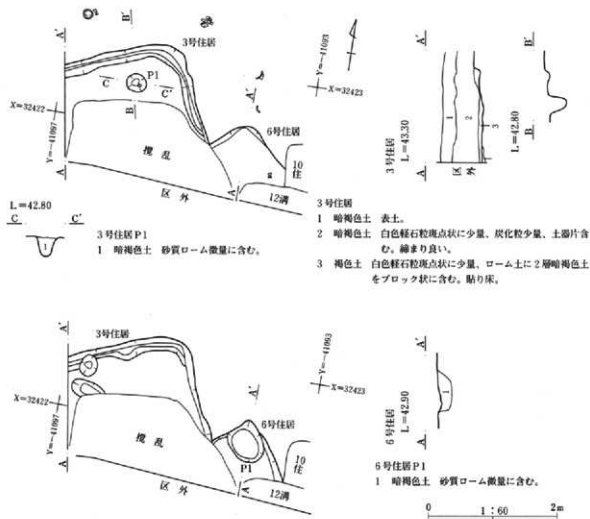
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 北壁と東壁の一部で確認。一部で途切れ全周しない。

竈 調査区外のいずれかの壁に構築されている。

遺物 1は土師器坏、2は土師器甕、3・4は高坏、5は土師器器台、6は須恵器長頸壺の頸部であるが混入と考えられる。その他、土師器片多数、須恵器胴部片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明であるが、遺物の出土状況から5世紀ごろと比定される。



第80図 5区3・6号住居 平・断面図

5区 竪穴住居跡

6号住居 (第72・82図、P.L18・63)

位置 5区X=32421~424 Y=-41094~097

重複遺構 3・10号住居・12号溝、本住居は10号住居、12号溝より古い。3号住居とは新旧関係不明。

形態 西側を3号住居と攪乱により消失、南側を12号溝により消失し全形不明。

方位 計測不能 (N-2°-E)

規模 長軸(0.80)m×短軸計測不能

調査区住居確認面のみ

面積 (0.675)m²

壁高 10cm

床面 床面から6cm~10cm程の貼り床を施す。掘り

方では北コーナに、20cm程の床下土坑を検出。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

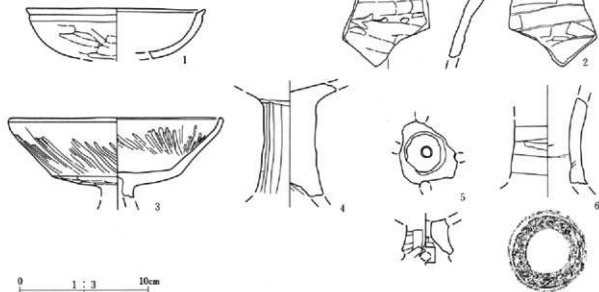
周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認

遺物 1は土師器杯、2は須恵器坏、3は土師器甕。その他、土師器口縁部片3点、胴部片24点、底部片2点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明であるが、出土遺物から6世紀と比定される。

3号住居



第81図 5区3号住居 出土遺物

6号住居



第82図 5区6号住居 出土遺物

4号住居 (第72・83・84図、P L17・62)

位置 5区 X=32410~415 Y=-40927~932

重複遺構 なし

形態 擾乱と上部からの削平の為、西壁と北壁を一部確認しただけである。全形不明。

方位 計測不能 (N-31° - E)

規模 長軸(4.00)×短軸(3.00)m

調査区住居確認のみ

面積 (7.281) m²

壁高 35cm

床面 暗褐色土に、ロームブロック・ローム粒を混ぜた土層を貼り床としている。掘り方は褐色土を埋めて、平坦な面を造り、北壁側に2ヶ所床下土坑の窪みが見られる。

ピット P1 径0.48×計測不能、深さ0.16cm

P2 径0.52×0.48cm、深さ0.12cm

P3 径1.24×0.76cm、深さ0.20cm

P4 径0.60×0.52cm、深さ0.79cm

P1~P4の4個検出された。P4は支柱穴の可能性があるが、他は掘り込みの可能性が高い。

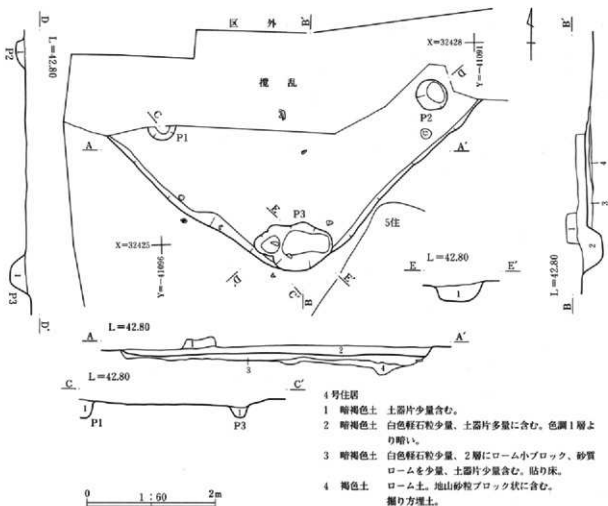
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認

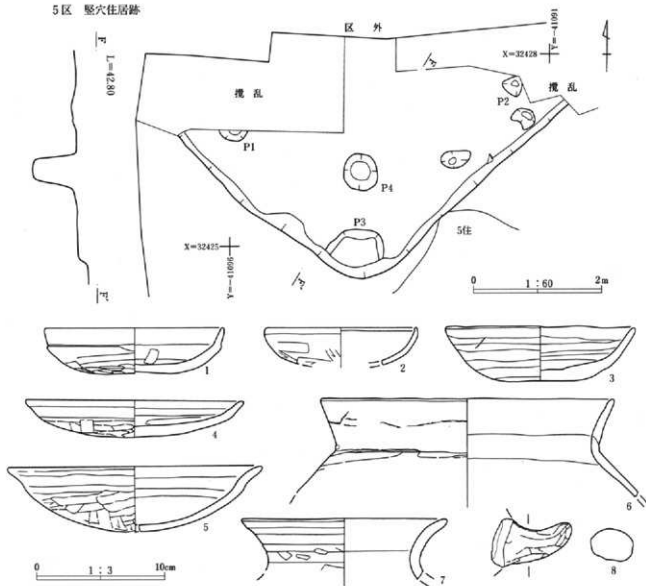
遺物 1~5は土師器坏、6・7は土師器甕、8は甌。その他、土師器片多数、須恵器銅部片10点、口縁部片1点出土。小片のため固化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明であるが、出土遺物から8世紀ごろと比定される。



第83図 5区4号住居 平・断面図

5区 竪穴住居跡



第84図 5区4号住居掘り方 平・断面図 出土遺物

5号住居 (第72・85~87図、P L 17・18・62・63)

位置 5区X=32422~426 Y=-41090~094

重複遺構 7・14号住居。本住居は7号住居より旧く、14号住居より新しい。

形態 隅丸長方形。東側を7号住居、南側を攪乱によって削平され、全形は不明。上部からも削平を受けている。

方位 計測不能 (N-60° - W)

規模 長軸2.98×短軸2.56m

調査区住居確認面のみ

面積 (7.353) m²

壁高 20cm

床面 上部から削平を受けており、遺構確認面が床面である。掘り方は南側を高く造り、北側を8cm~10cm程低くしている。暗褐色土とロームブロックを埋土とし、床面を造っている部分と掘り方の床部分がある。

ビット P 1 径40×36cm、深さ16cm

P 2 径48×40cm、深さ20cm

P 3 径40×36cm、深さ8cm

P 4 径48×28cm、深さ20cm

P 5 径36×16cm、深さ4cm

P 1~P 5の5基確認された。P 3・P 4は主柱穴の可能性はある。

貯蔵穴 調査区内では未確認

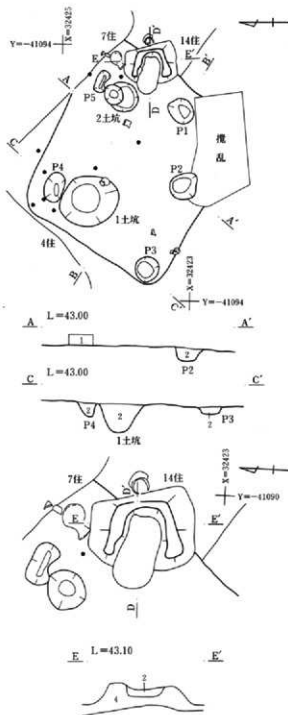
周溝 調査区内では未確認

竈 焼き口41cm・袖幅62cm・燃焼部40cm。上部からの削平を受け、使用面の一部を検出。掘り方調査のみ実施。煙道部は土器の埋められた土坑により、壊され消失している。

遺物 1は土師器坏, 2は土師器碗, 3は土師器長胴

竈で竈を掘り壊した土坑に伏せられて出土。4～7・9は土師器甕, 8は小型甕, 10は土師器壺, 11は埴, 12は小型埴, 13～15は高坏, 16は長頸壺で竈の横の覆土上から出土。17は勾玉で混入か、別遺構の存在の可能性がある。その他、焼成粘土塊出土。

所見 重複と攪乱のため全体を調査できず、詳細は不明であるが、出土遺物から6世紀後半と比定される。



第85図 5区5号住居・竈 平・断面図



5号住居

- 1 暗褐色土 白色軽石粒少量、土器片碎らに含む。
- 2 暗褐色土 上面が床面、下面掘り方。ロームブロック含む。

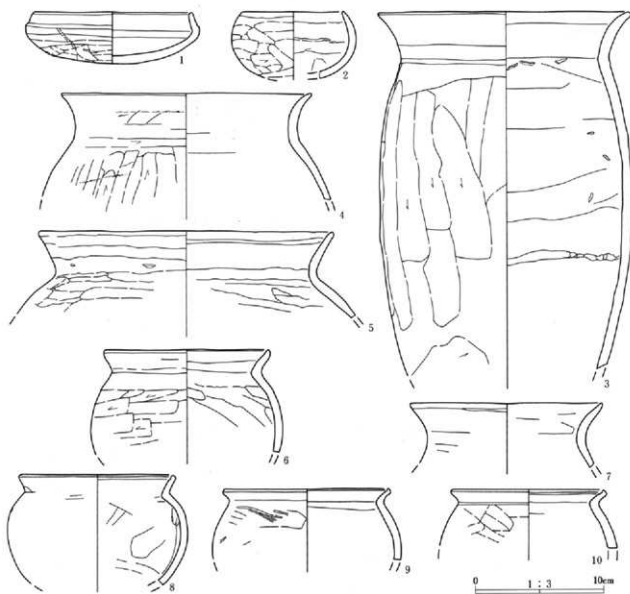
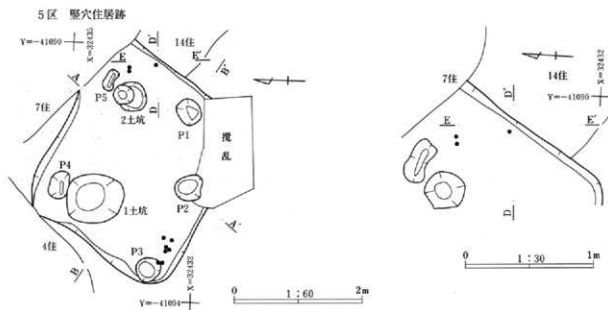
0 1:60 2m



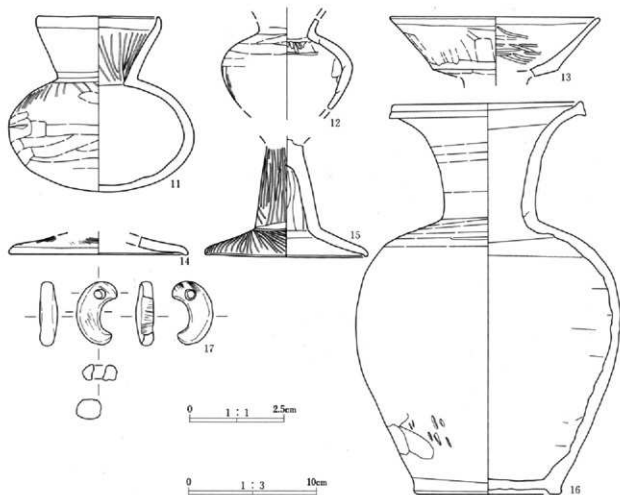
5号住居竈

- 1 暗褐色土 焼土粒含む。
- 2 褐色土 焼土粒、焼土ブロック多量に含む。
- 3 明褐色土 砂質ローム主体、焼土粒少量含む。
- 4 暗褐色土 砂質ロームブロック含む。

0 1:30 1m



第86图 5区5号住居掘り方 平・断面图 出土遺物 (1)



第87図 5区5号住居 出土遺物 (2)

7号住居 (第72・88~90図、P L 18・63・64)

位置 5区 X=32424~428 Y=-41086~092

重複遺構 5・14号住居、51号土坑、本住居は5・14号住居より新しく、51号土坑より古い。

形態 長方形。北側を撓乱により消失。全形不明。

方位 計測不能 (N-50° -E)

規模 長軸4.06×短軸3.06m

調査区住居確認面のみ

面積 (10.800)m²

壁高 43cm

床面 掘り方から4cm~12cmの埋土(褐色土)を施し、床面を構築。掘り方は多少の凸凹があるが、平坦である。住居北東隅から壁に沿って、西壁端まで浅い掘り込みが巡る。

ピット P 1 径40×36cm、深さ12cm

P 2 径32×28cm、深さ18cm

南壁側にある

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 南側から北壁の一部まで周囲する。

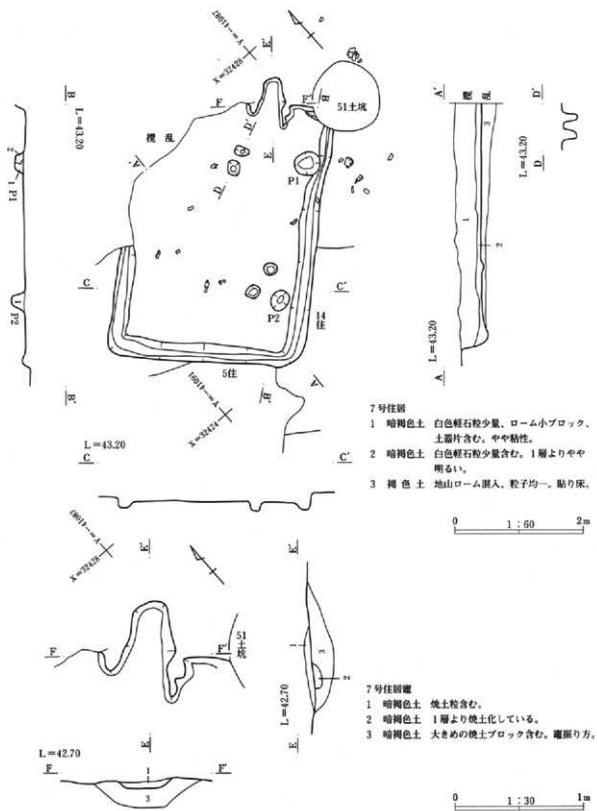
竈 煙道部68cm・袖幅70cm・焚き口45cm 煙道部は壁外に突出する。遺存状態が悪く、使用面が僅かに確認出来る。袖部、天井部の詳細は不明。掘り方は、竈中央を掘り下げ竈床を構築している。

焼土 調査区内では未確認

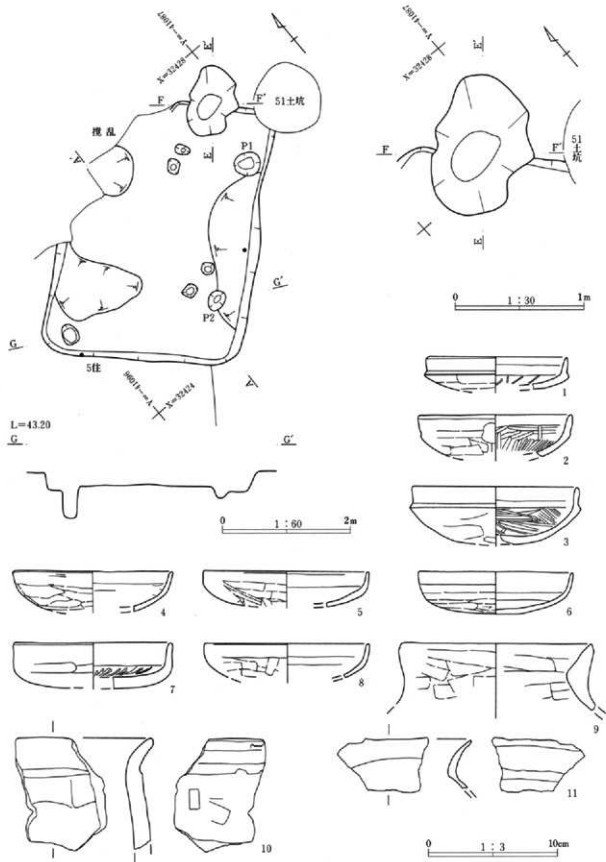
遺物 1~8は土師器杯、9~12は土師器甕、13は土師器埴か坏、14は土師器瓶、15は須恵器蓋、16は須恵器蓋、その他、土師器片多数、須恵器片18点、焼成粘土塊など出土。小片のため図化できなかった。所見 全体を調査できないため詳細は不明である。

5区 竪穴住居跡

出土遺物から6世紀後半から7世紀頃と比定される。

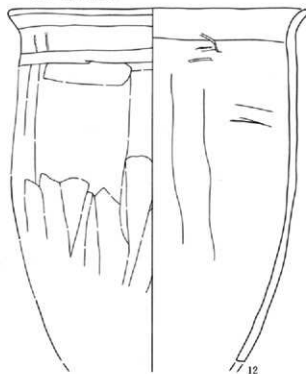


第88図 5区7号住居・竪 平・断面図



第89図 5区7号住居掘り方 平・断面図 出土遺物 (1)

5区 竪穴住居跡



第90図 5区7号住居 出土遺物 (2)

8号住居 (第72・91・92図, P L 19・64)

位置 5区 X=32419~421 Y=-41072~076

重複遺構 9・18号住居。本住居は9号住居より旧く、18号住居より新しい。

形態 調査区内に、住居コーナーの一部のみ検出。調査区境のため全形不明。

方位 計測不能 (N-22° -W)

規模 長軸(2.38)m×短軸(1.28)m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.646)m²

壁高 18cm

床面 掘り方から12cm~24cm程、埋土を施し床面を構築。掘り方は径88cmの床下土境を確認。

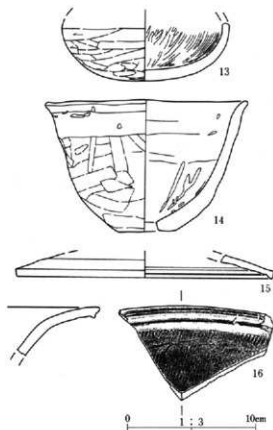
柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

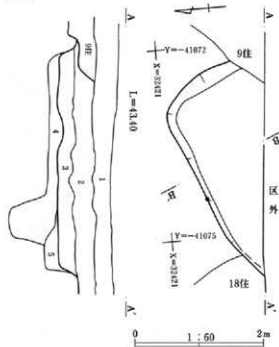
周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に、構築されていると考えられる。

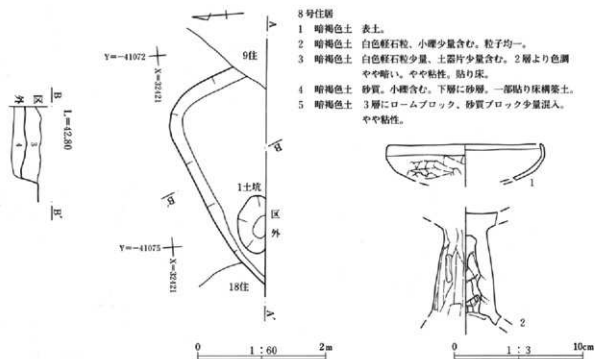
遺物 1は土師器高坏、2は土師器高坏、その他土師器片多数、須恵器片4点出土。



所見 全体を調査できないため詳細は不明であるが、出土遺物から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



第91図 5区8号住居 平・断面図



第92図 5区8号住居掘り方 平・断面図 出土遺物

9号住居 (第72・93～95図、P L 19・64・65)

位置 5区 X=32419～422 Y=-41068～073

重複遺構 8・23号住居。本住居は8号住居より新しく、23号住居より古い。

形態 調査区境に位置し、南側は調査区外、北側は23号住居に壊され、全形不明。

方位 計測不能 (N-18° -W)

規模 長軸(3.0)m×短軸(1.4)m

調査区住居確認面のみ

面積 (4.194) m²

壁高 22cm

床面 上部からの削平の為、床面は残存しない。土層断面観察から、掘り方から16cm埋土を施し床面を構築している。掘り方は、竜南側付近で10cm程の浅い土坑状の掘り込みを確認。床下から多量の土器が出土した。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

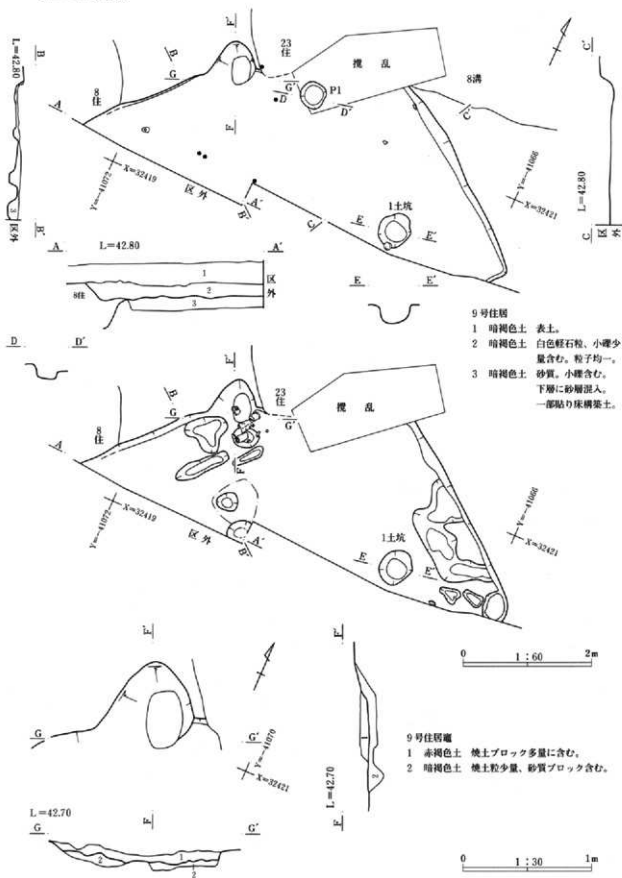
周溝 なし

竈 煙道部56cm・袖幅(83)cm・焚き口(73)cm、遺存状態は悪い。竈袖部、天井部は確認が出来なかった。使用面と思われる面は、削平されている。調査は掘り方のみである。

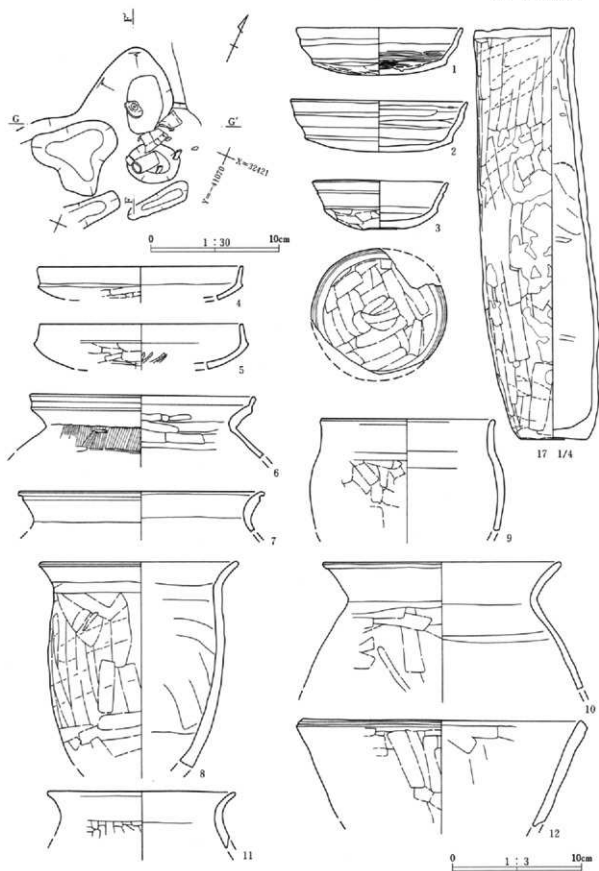
遺物 1～5は土師器杯、6はS字状口縁台付甕、7～11は土師器甕、12は鉢、13・16は台付甕、14・15は土師器高杯、17は土師器筒型土器である。7・12・13は掘り方から出土。その他、土師器片多数、須恵器片2点、石出土。小片のため図化できなかった。

所見 工事の都合上平成14・15年度に分かれて調査が行われた住居である。当初29号住居とは別遺構として調査が行われたが、整理時に出土遺物と住居の形態から9・29号住居は同一遺構と認定した。出土遺物から6世紀後半から7世紀頃と比定される。

5区 壑穴住居跡

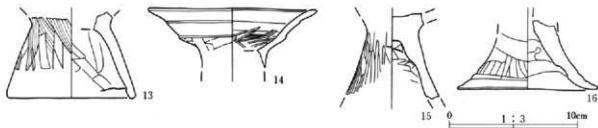


第93図 5区9号住居掘り方・竈 平・断面図



第94图 5区9号住居 出土遺物 (1)

5区 竪穴住居跡



第95図 5区9号住居 出土遺物 (2)

10号住居 (第72・96図, P.L.19)

位置 5区 X=32420~423 Y=-41090~094

重複遺構 6号住居・12号溝・54号土坑。本住居は6号住居との新旧関係不明。12号溝、54号土坑より新しい。

形態 調査区境に位置し、南側が他遺構と重複しているため全形不明。

方位 計測不能

規模 長軸2.46×短軸(0.93)m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.277) m²

壁高 8cm

床面 掘り方から12cm程、暗褐色土により埋土を施し床面を構築。

柱穴 調査区内では未確認

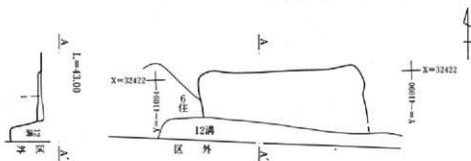
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認

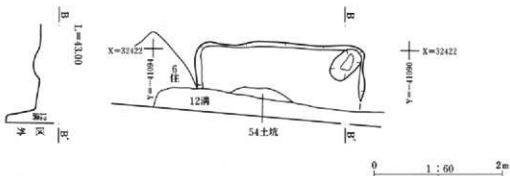
遺物 土師器胴部片9点、底部片1点、須恵器片1点出土。小片のため固化できなかった。

所見 出土遺物もなく、竈等の内部施設も確認できず、また、全体を調査できないため詳細は不明である。時期不明。



10号住居

1 暗褐色土、白色軽石粒少量、ローム含む。粒子均一。



第96図 5区10号住居掘り方 平・断面図

11号住居 (第72・97~100図、P L 19・20・65)

位置 5区X=32420~424 Y=-41084~090

重複遺構 13・14号住居・12号溝。本住居は、13号住居より新しく、14号住居より古い。また、12号溝より古い。

形態 調査区境に位置し、北東壁で12号住居と南側を12号溝で消失。全形不明。

方位 計測不能 (N-55° -W)

規模 長軸4.30m×短軸(2.38)m

調査区住居確認のみ

面積 (6.021)㎡

壁高 20cm

床面 柱穴と考えられるピットを3基確認する。2cm~4cmの埴土を施し、平坦面を造る。掘り方面は、住居中央を6cm程掘り込んでいる。多少の凹凸を残すが概ね平坦である。

ピット P 1 径36×36cm、深さ20cm

P 2 径36×36cm、深さ16cm

P 3 径60×53cm、深さ20cm

P 4 径44×40cm、深さ8cm

P 1~P 4の4基を確認。P 1・P 2とP 4は支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 調査区内では未確認

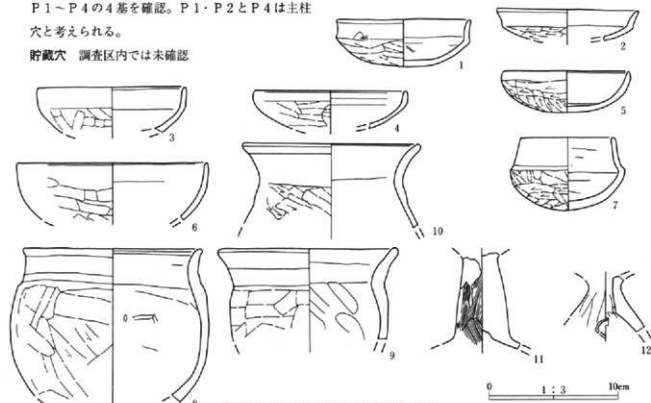
周溝 調査区内では未確認

焼土 調査区内では未確認

竈 煙道部102cm・袖幅(60)cm・焚き口(52)cm、上部からの割平により、遺存状態はよくない。東側袖部を上部からの擾乱により消失。焚き口から煙道部にかけて、緩やかに立ち上がっている。煙道部のみ壁外に突出する。

遺物 1~7は土師器坏、8~10は土師器甕、11は土師器高坏、12は土師器器台、13は須恵器壺、14は須恵器甕、15は陶器壺、16は敲石である。その他、土師器片多数、須恵器片26点、陶器片1点出土。

所見 11・12号住居と2軒の竪穴住居跡として調査が行われた竪穴住居跡である。整理時、遺物等の検討を行い、遺物に若干の時代差が認められるものの1軒の竪穴住居跡として報告した。なお、遺構の重複と調査区境に位置するため、全形を確認できず、詳細は不明である。出土遺物から7世紀と比定される。



第97図 5区11号住居 出土遺物 (1)

5区 竪穴住居跡

13号住居 (第72図、P.L.20)

位置 5区 X=32421~422 Y=-41089~090

重複遺構 11号住居・12号溝と重複 本住居は11号住居、12号溝より古い。

形態 11号住居、12号溝により全形不明。

方位 計測不能

規模 長軸(0.52)×短軸(0.50)m

調査区住居確認のみ

面積 (0.243)m²

壁高 30cm

床面 床面は2cm~4cm程の埋土を施す。掘り方は

概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

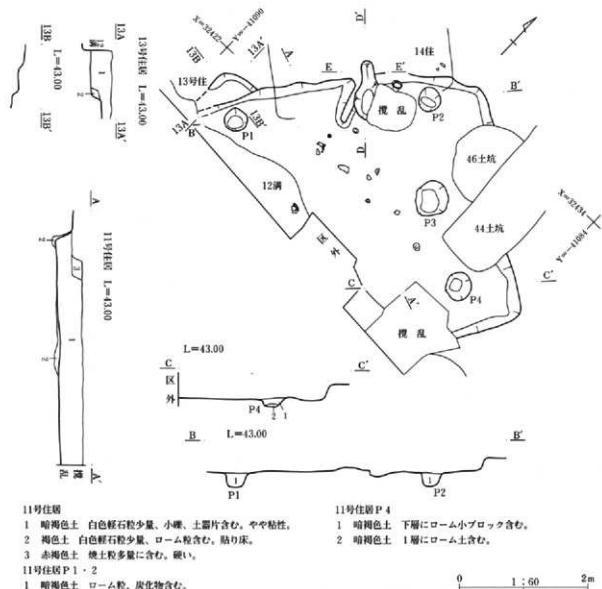
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

遺物 土師器壺口縁部片4点、胴部片20点、須恵器胴部片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。

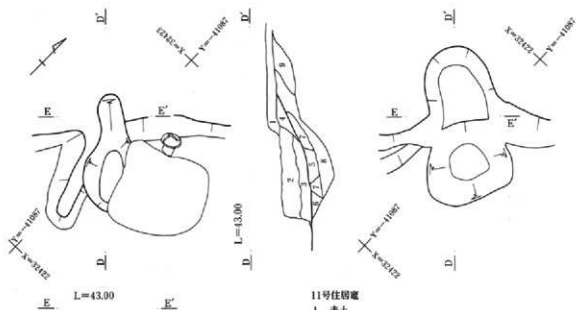
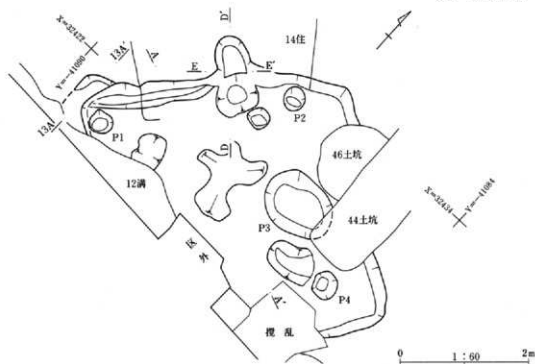
出土遺物から時期を特定できなかったが、調査状況から古墳時代と推定される。



- 11号住居
- 1 暗褐色土 白色軽石粒少量、小礫、土器片含む。やや粘り。
 - 2 褐色土 白色軽石粒少量、ローム粒含む。粘り床。
 - 3 赤褐色土 機土粒多量に含む。硬い。
- 11号住居 P1・2
- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物含む。

- 11号住居 P4
- 1 暗褐色土 下層にローム小ブロック含む。
 - 2 暗褐色土 1層にローム土含む。

第98図 5区11・13号住居 平・断面図



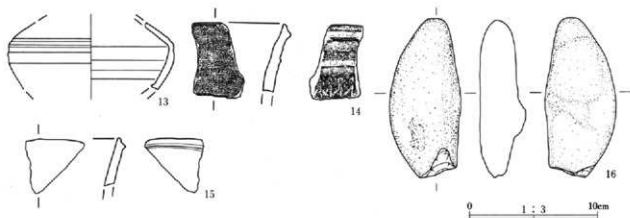
11号住居遺

- 1 表土 焼土粒含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒含む。
- 3 暗褐色土 4層に似る。焼土ブロックやや小さく少量。
- 4 暗褐色土 ロームブロック、焼土ブロック含む。
- 5 暗褐色土 8層に似る。焼土粒少ない。
- 6 暗褐色土 ロームブロック中量含む。
- 7 焼土 竈床面。
- 8 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒多量に含む。竈掘り方。
- 9 暗褐色土 ロームブロック含む。

0 1 : 30 1m

第99図 5区11号住居掘り方・竈平・断面図

5区 竪穴住居跡



第100図 5区11号住居 出土遺物 (2)

14号住居 (第72・101・102図、P.L20・65)

位置 5区X=32422~425 Y=-41087~091

重複遺構 5・7・11号住居と重複。本住居は5・7号住居より旧く、11号住居より新しい。

形態 上部からの削平を受け、重複遺構が多く全形不明。

方位 計測不能 (N-43° -W)

規模 長軸(1.34)×短軸(0.86)m

調査区住居確認のみ

面積 (5.715)㎡

壁高 20cm

床面 上部からの削平を受け、遺存状態は良くない。床面は土層断面から、2cm程の埋土で構築されていると推察できるが、平面調査では床面と認定できる面が、検出できなかった。

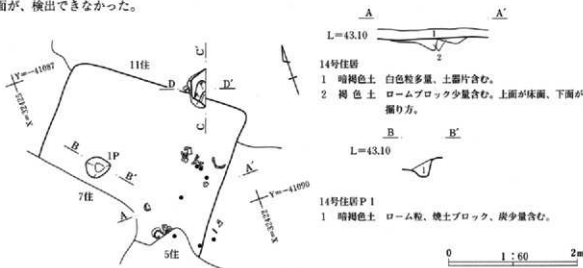
ピット P1径36×32cm、深さ28cm

貯蔵穴 調査区内では未確認

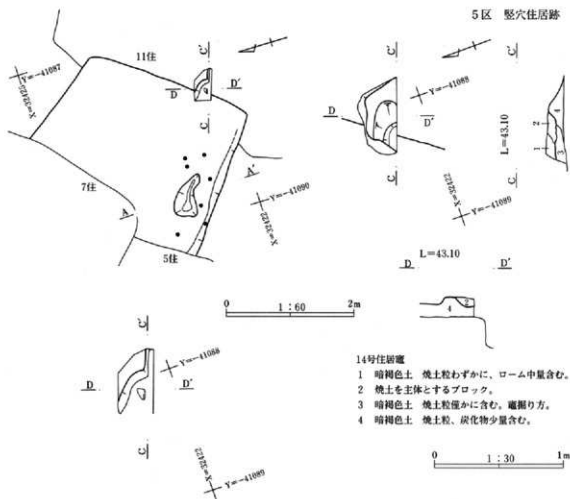
周溝 調査区内では未確認

竈 煙道部58cm・袖幅(26)cm・焚き口(16)cm、竈本体は概ね壁面に構築されている。遺存状態は竈右半分が消失している。袖部左半分は確認できない。天井部は、暗褐色土と砂質ロームで構築されている。燃焼部は壁立ち上がりに位置し、煙道部は住居外に突出している。

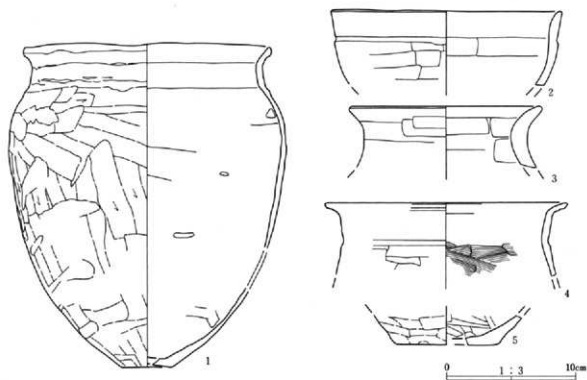
遺物 1・3~5は土師器甕、2は土師器浅鉢、5は混入の可能性が高い。その他、S字状口縁台付甕など土師器片多数、須恵器割部片8点、鉄屑出土。所見 全体を調査できないため詳細は不明であるが、出土遺物から9世紀頃と比定される。



第101図 5区14号住居 平・断面図



- 14号住居竈
- 1 暗褐色土 焼土粒わずかに、ローム中量含む。
 - 2 焼土を主体とするブロック。
 - 3 暗褐色土 焼土粒僅かに含む。竈掘り方。
 - 4 暗褐色土 焼土粒、炭化物少量含む。



第102図 5区14号住居掘り方・竈 平・断面図 出土遺物

5区 竪穴住居跡

15号住居 (第72・103~105図、P L20・66)

位置 5区 X=32422~427 Y=-41079~084

重複遺構 19号住居と重複。本住居は19号住居より古い。

形態 長方形。南東コーナーを19号住居と擾乱によって消失。

方位 計測不能 (N-67° - E)

規模 長軸3.78×短軸3.60m

調査区住居確認面のみ

面積 (13.014) m²

壁高 14cm

床面 上部からの削平で遺存状態が悪い。床面の一部で遺構確認をした。床面は12cm~16cmの埋土を2回に分けて施している。柱穴は6基確認した。掘り

方は住居中央に10cm~15cm程の浅い掘り込みがある。

ピット P 1 径32×30cm、深さ12cm

P 2 径44×42cm、深さ20cm

P 3 径28×28cm、深さ32cm

P 4 径36×32cm、深さ8cm

P 5 径36×32cm、深さ40cm

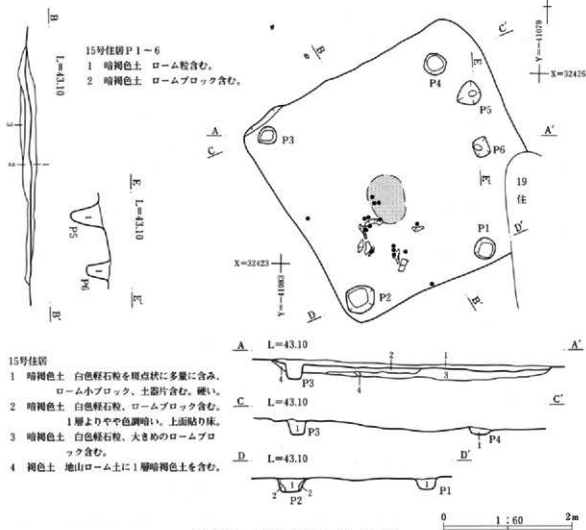
P 6 径28×24cm、深さ28cm

P 1~P 6を確認する。P 2とP 3は主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

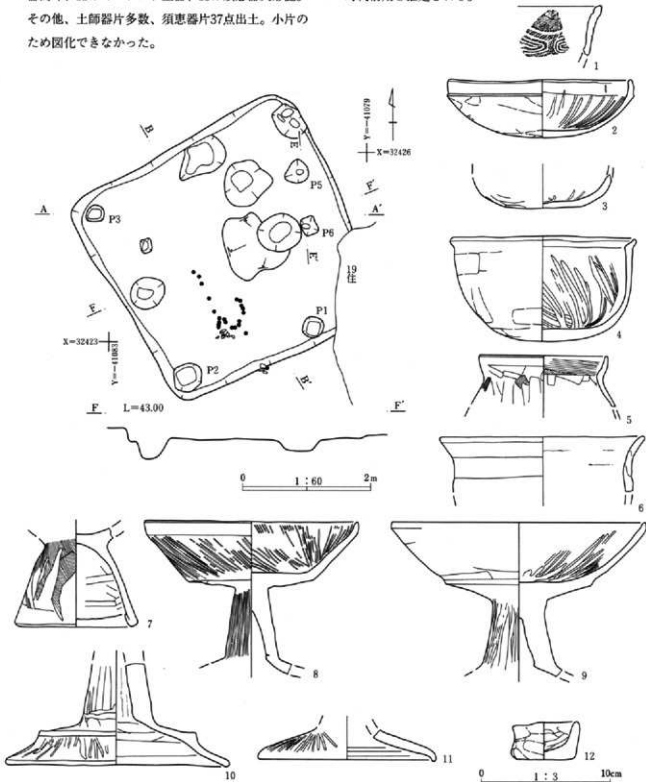
焼土 住居中央やや南西よりに径76cm×56cmの焼土痕を検出。炉跡と考えられる。



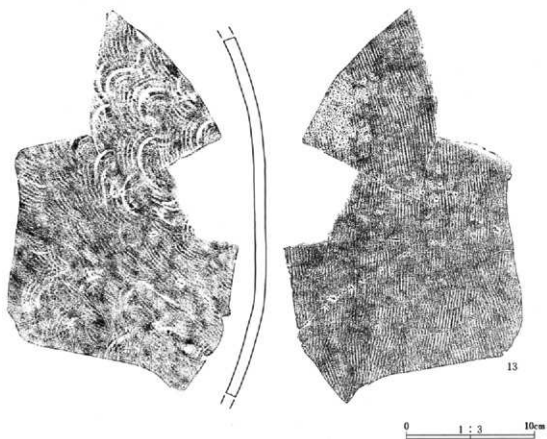
5区 竪穴住居跡

遺物 1は縄文の注口土器で混入したもの。2・3は土師器坏、4は土師器碗、5は土師器小型甕、6は土師器甕、7はS字状口縁台付甕、8～11は土師器高坏、12はミニチュア土器、13は須恵器大形甕。その他、土師器片多数、須恵器片37点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。古墳時代前期～後期の遺物が出土しており、遺物から時期を特定できなかったが、住居の形状から古墳時代前期と推定される。



第104図 5区15号住居掘り方 平・断面図 出土遺物 (1)



第105図 5区15号住居 出土遺物 (2)

16号住居 (第72・106図、P L66)

位置 5区 X=32427~429 Y=-41081~086

重複遺構 13号ピットと重複。本住居は13号ピットより古い。

形態 調査区境に位置し東側を攪乱、西側を13号ピットで消失。全形不明。

方位 計測不能 (N-89° - E)

規模 長軸3.30×短軸(1.15)m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.131)m²

壁高 14cm

床面 床面は10cm~12cm程の埋土を施し、床面を構築している。P 1は土坑の可能性がある。P 2は住居に伴う可能性があるが、P 3は低い。掘り方は、住居中央と東側に10cm程の掘り込みがある。掘り方は概ね平坦である。

ピット P 1径68×64cm、深さ8cm

P 2径28×24cm、深さ32cm

P 3径32×32cm、深さ16cm

ピット3基を確認。

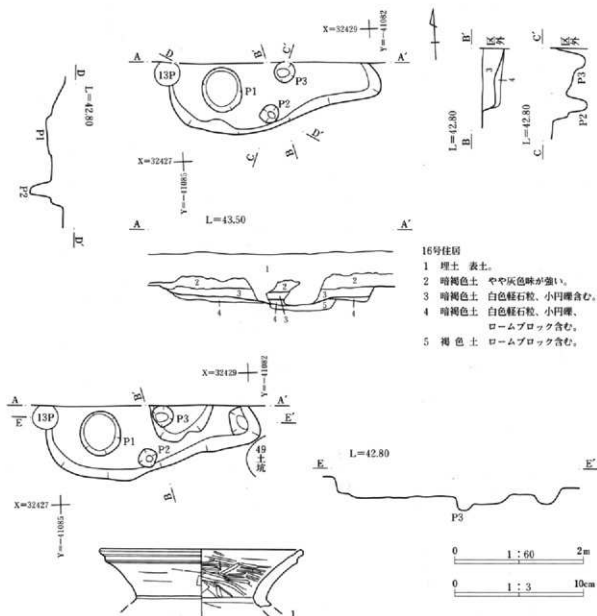
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

炉・竈 調査区内では未確認

遺物 1は土師器壺、P 2からの出土。その他、土師器片多数、須恵器胴部片1点、軽石2点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。出土遺物は小片が多く、時期を特定できなかったが、出土遺物の1と土師器片から、古墳時代前期と推定される。



第106図 5区16号住居・掘り方 平・断面図 出土遺物

5区 竪穴住居跡

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

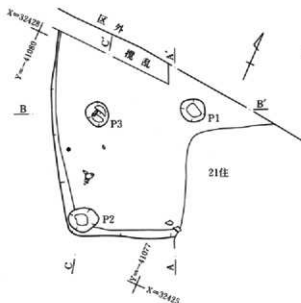
竈 調査区内確認出来ず。21号住居により消失したか、調査区外のいずれかの壁と思われる。

焼土 調査区内では未確認

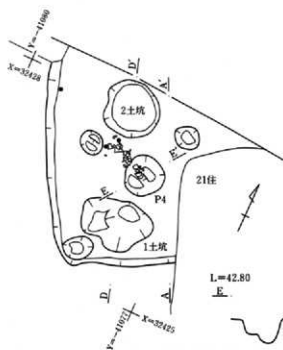
遺物 1は土師器坏, 2は須恵器甕, 3~5は土師器甕, 6は長胴甕, 7は須恵器甕である。2~4は掘り方より、7は2号土坑より出土。その他、土師器片多数、須恵器片9点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。

6世紀後半から7世紀前半と比定される。



L=42.80



L=42.80



17号住居

- 1 暗褐色土 白色軽石粒微量、ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 白色軽石粒微量、ローム小ブロック含む、遺物含む。1層より色調やや暗い。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒微量、ロームブロック多量に含む。
- 4 褐色土 ロームブロック含む。
- 5 暗褐色土 上層からの混入土。

17号住居 P1

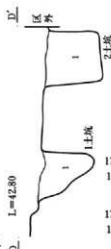
- 1 暗褐色土 地山砂層含む。

17号住居 P2

- 1 暗褐色土 焼土粒、ローム粒僅かに含む。

17号住居 P3

- 1 暗褐色土 ローム粒僅かに含む。



17号住居内1号土坑

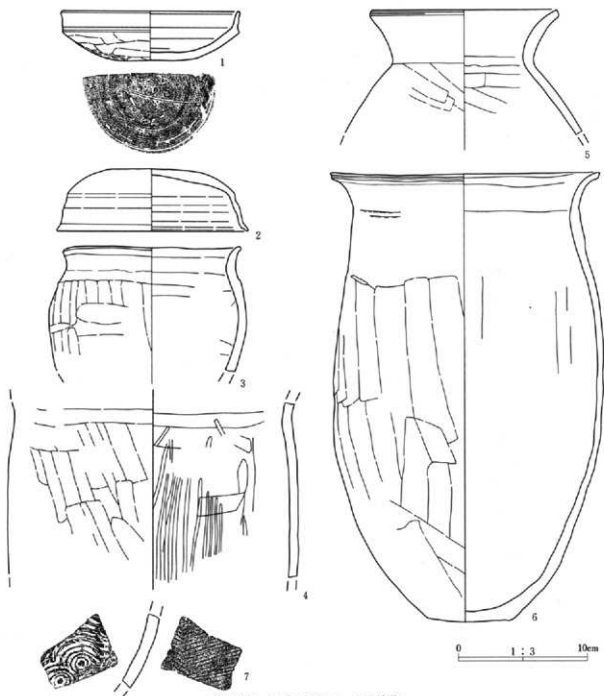
- 1 暗褐色土 白色軽石粒、ローム粒少量含む。粒子均一。

17号住居内2号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒僅か、砂、小礫含む。



第107図 5区17号住居・掘り方 平・断面図



第108図 5区17号住居 出土遺物

18号住居 (第72・109・110図、P.L21・67)

位置 5区 X=32419~423 Y=-41075~081

重複遺構 8・19号住居・55号土坑・12号溝と重複、本住居は他の重複遺構より古い。

形態 調査区境に位置し、重複以降のため全形不明。

方位 計測不能 (N-17° -W)

規模 長軸(4.00)×短軸(3.20)m

調査区住居確認のみ

面積 (9.216)㎡

壁高 6cm

床面 上部からの削平を受け、掘り方まで一部壊されている。床面は4cm~16cm程の埋土を施し、床面を構築している。柱穴3基確認。掘り方は住居中央北寄りに、径128cm×56cm、深さ10cm~20cmの掘り込みあり。

5区 竪穴住居跡

ピット P 1 径48×36cm、深さ28cm

P 2 径36×36cm、深さ20cm

P 3 径52×48cm、深さ12cm

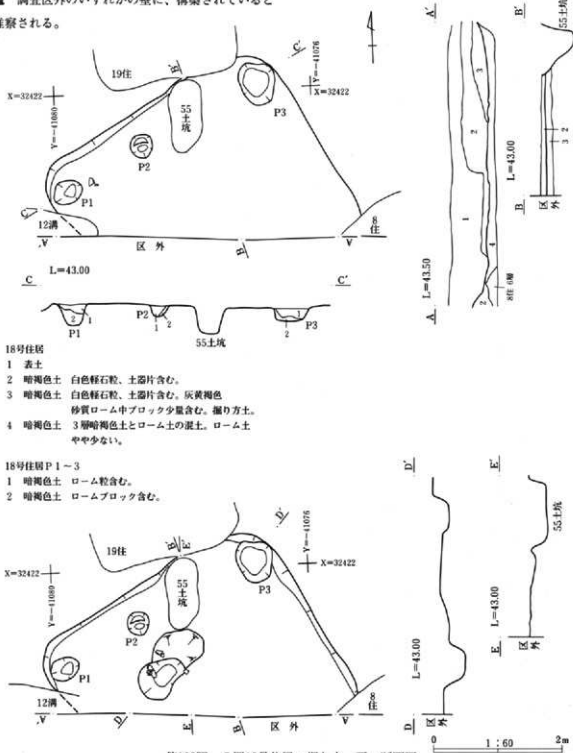
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区外のいずれかの壁に、構築されていると推察される。

遺物 1は土師器杯、2は土師器甕、掘り方より土師器甕片出土。その他、土師器片多数、須恵器片1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 全体を調査できないため詳細は不明である。出土遺物から古墳時代後半と比定される。



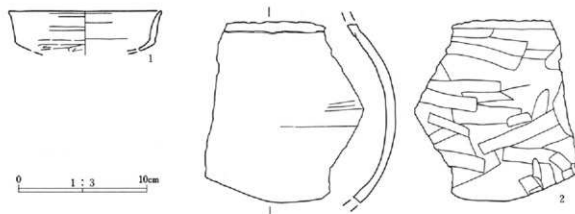
18号住居

- 1 表土
- 2 暗褐色土 白色軽石粒、土器片含む。
- 3 暗褐色土 白色軽石粒、土器片含む。灰黄褐色砂質ローム中ブロック少量含む。掘り方土。
- 4 暗褐色土 3層暗褐色土とローム土の混土。ローム土やや少ない。

18号住居 P 1-3

- 1 暗褐色土 ローム粒含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。

第109図 5区18号住居・掘り方 平・断面図



第110図 5区15号住居 出土遺物

19号住居 (第72・111～113図、P.L21・67)

位置 5区X=32422～425 Y=-41077～080

重複遺構 15・18号住居と重複、本住居は他の重複遺構より古い。

形態 隅丸長方形

方位 計画不能 (N-1°-W)

規模 長軸2.74×短軸2.30m

調査区住居確認面のみ

面積 5.886m²

壁高 70cm

床面 上部から削平を受け、一部掘り方まで消失し遺存状態は悪い。調査は掘り方中心で行った。柱穴と思われるピットを4基確認。竈南西に土坑を確認したが、貯蔵穴の可能性がある。掘り方は、東西壁に径40cm～44cmの掘り込みがあり、西コーナーから中央に溝状に掘り込みがある。

ピット P1 径32×24cm、深さ8cm

P2 径32×32cm、深さ20cm

P3 径34×34cm、深さ16cm

P4 径20×20cm、深さ8cm

土坑 1 土坑径40×計画不能、深さ20cm

P1～P4は主柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

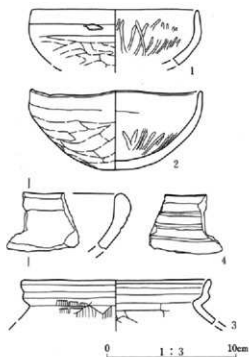
焼土 調査区内では未確認

竈 煙道部58cm、袖幅(80)cm、燃焼部(42)cm、上部からの削平で、遺存状態は悪く使用面まで掘られ煙

道部は消失。掘り方では、中央部を4cm～5cm程掘り下げ、褐色土により埋め土を施し燃焼部を構築している。

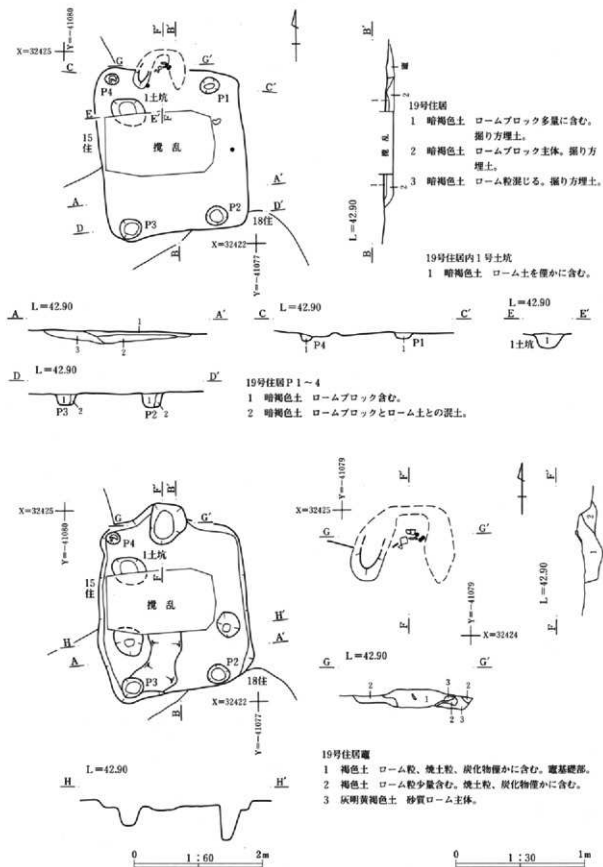
遺物 1は土師器杯、2は土師器碗、3はS字状口縁台付甕、4は土師器鉢、5は小型甕、6～8は土師器甕、9は土師器高坏。4・6は掘り方面出土。その他、土師器片多数、須臾器片4点出土。

所見 出土遺物から古墳時代後半5世紀後半から6世紀ごろと比定される。

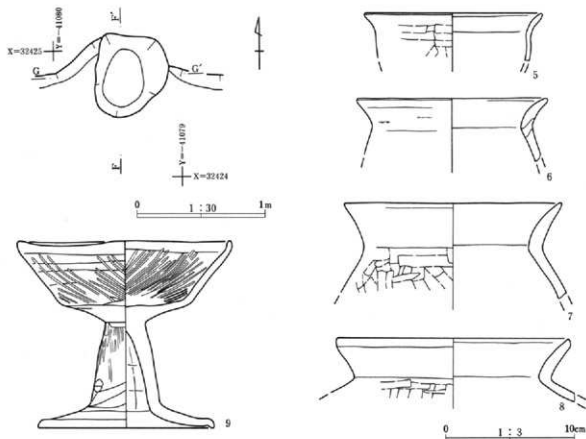


第111図 5区19号住居 出土遺物 (1)

5区 竪穴住居跡



第112図 5区19号住居・掘り方 平・断面図



第113図 5区19号住居竪掘り方 平面図 出土遺物 (2)

20号住居 (第72・114・115図、P L 22・68)

位置 5区 X=32420~422 Y=-41081~084

重複遺構 12号溝と重複、本住居は12号溝より古い。

形態 調査区境にあり、12号溝に切られるため全形不明。

方位 計測不能 (N-6°-E)

規模 長軸(1.34)×短軸(1.10)m

調査区住居確認面のみ

面積 (0.279)m²

壁高 8cm

床面 上部からの削平により、遺存状態は悪い。床面は4cm程埋土を施している。掘り方は北コーナーに径32cm×16cm、深さ7cm程の掘り込みが見られる。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

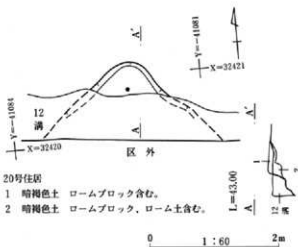
周溝 調査区内では未確認

竈 調査区外の壁に位置すると推察できる。

焼土 調査区内では未確認

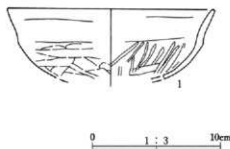
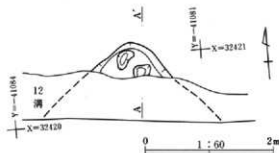
遺物 1は土師器坏、床面よりの出土。その他、土師器片3点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物からは、古墳時代後半5世紀後半から6世紀ごろと推定される。



第114図 5区20号住居 平・断面図

5区 竪穴住居跡



第115図 5区20号住居掘り方 平・断面図 出土遺物

21号住居 (第72・116-118図、P.L22・68)

方位 N-74°-E

位置 5区 X=32425-429 Y=-41074-078

規模 長軸4.18×短軸2.98m

重複遺構 17号住居と重複、本住居は17号住居より新しい。

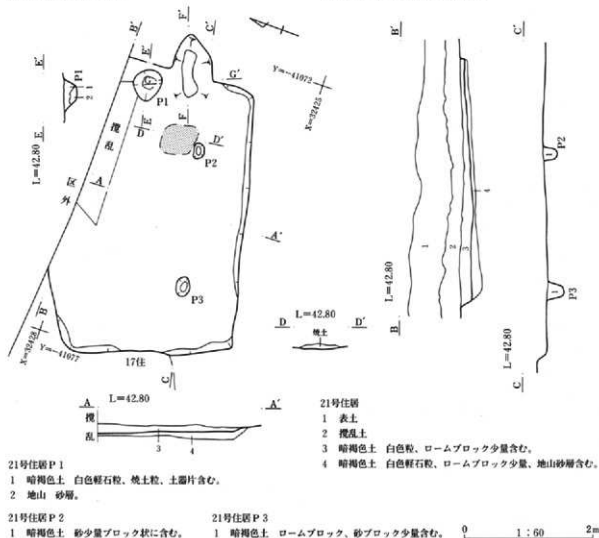
調査区住居確認面のみ

面積 (10.215) m²

形態 調査区境にあり、北側を攪乱により削平されているため全形不明。

壁高 10cm

貯蔵穴 調査区内では未確認



21号住居 P1

- 1 暗褐色土 白色軽石粒、焼土粒、土器片含む。
- 2 地山 砂層。

21号住居 P2

- 1 暗褐色土 砂少量ブロック状に含む。

21号住居 P3

- 1 暗褐色土 ロームブロック、砂ブロック少量含む。

21号住居

- 1 表土
- 2 攪乱土
- 3 暗褐色土 白色粒、ロームブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 白色軽石粒、ロームブロック少量、地山砂層含む。

床面 床面は掘り方面より12cm~24cm程の埋土を施し、貼り床としている。ピット3基確認。掘り方面は凹凸があり、かなり掘り窪めている。ピット2基確認。

ピット P 1 径48×40cm、深さ18cm

P 2 径24×16cm、深さ16cm

P 3 径32×24cm、深さ26cm

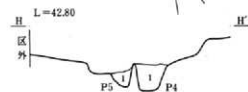
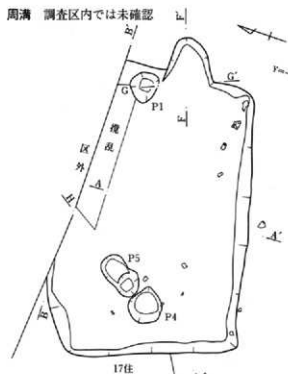
P 4 径60×52cm、深さ36cm

P 5 径72×36cm、深さ22cm

P 1~P 3は床面上で検出、P 2・P 3が主柱穴と考えられる。P 4・P 5は掘り方面で検出。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認



21号住居 P 4

1 暗褐色土 炭化物、土器片少量含む、やや粘性。

21号住居 P 5

1 暗褐色土 ロームブロック、地山砂層含む。

21号住居 竈

1 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。

0 1:50 2m

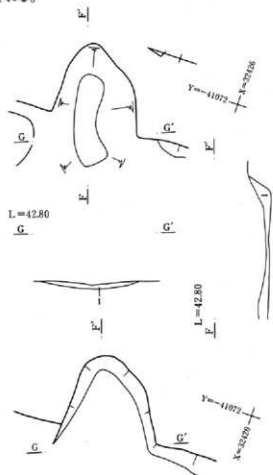
焼土 径108×92cm、厚さ6~8cm

竈西側にあり。

竈 煙道部102cm、袖幅(73)cm、上部からの削平により使用面消失、掘り方のみ調査。煙道部は急峻な立ち上がりを持つように、また、焚き口部分は垂直に掘りこまれている。床面と同じ土で燃焼部を構築している。

遺物 1は土師器坏で竈掘り方出土。2・3は土師器甕、4・5は高台付椀、6はかわらけで混入の可能性が高い。7・8は須恵器蓋。その他、埴輪片少数、土師器片多数、須恵器片26点出土。小片のため図化できなかった。

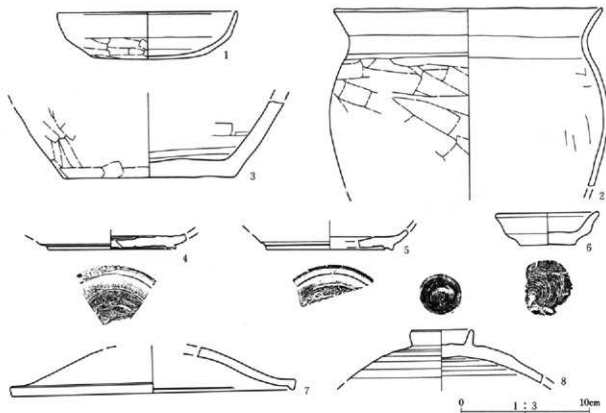
所見 出土遺物からは、8世紀から9世紀頃と推定される。



0 1:30 1m

第117図 5区21号住居・竈・掘り方 平・断面図

5区 竪穴住居跡



第118図 5区21号住居 出土遺物

23号住居 (第72・119図、P L22・68)

位置 5区X=32421~426 Y=-41069~073

重複遺構 9・24・25号住居、57号土坑と重複本住居は9・25号住居、57号土坑より新しく、24号住居より古い。

形態 隅丸長方形

方位 計測不能 (N-44° -E)

規模 長軸3.68×短軸2.76m

調査区住居確認のみ

面積 4.824㎡

壁高 計測不能

床面 上部からの削平により、遺存状態は悪い。床面は4cm程埋土を施している。掘り方は住居中央部に径56cm×32cm、深さ40cm、径44cm×40cm、深さ80cm程の掘り込みが見られる。掘り方面より2cm~4cm程の褐色土により埋土を施している。竈南東側と北東側に焼土を確認し、住居北壁と西壁にビット2基を確認した。掘り方面も概ね平坦である。竈下より柱穴1基を確認した。

ビット P1 径36×36cm、深さ32cm

P2 径52×40cm、深さ30cm

P1・P2は床面上で検出。

貯蔵穴 調査区内では未確認

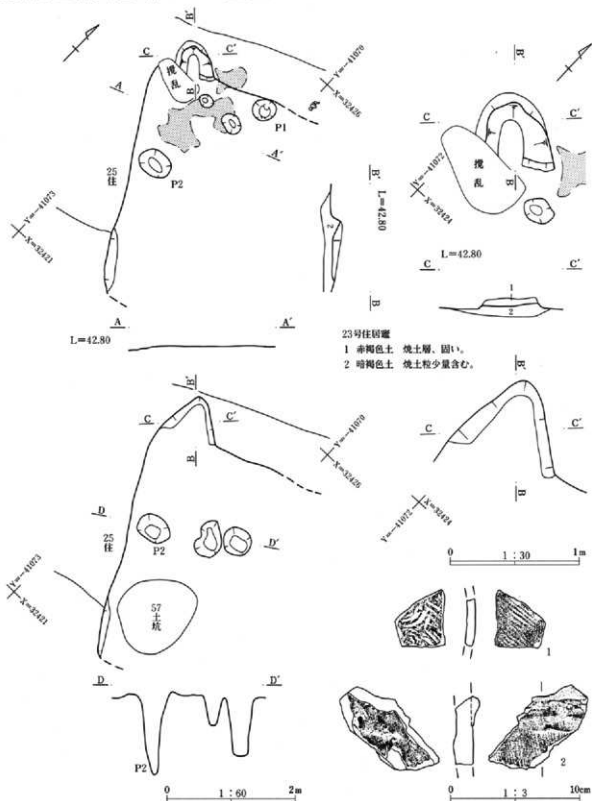
周溝 調査区内では未確認

竈 左袖部から焚き口中央付近攪乱のため消失。竈長さ57cm、竈幅(40)cm、袖幅等上部からの削平により遺構確認面が使用面であった。使用面は煙道部にむかって緩やかに立ち上がりを持つように構築されている。掘り方面は、床面を僅かに掘り窪め、暗褐色土で燃焼下部を構築している。

遺物 1は須恵器甕、2は円筒埴輪、その他、埴輪片1点、土師器片少数、須恵器片26点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺構確認面が床面で25号住居とほとんど高低差がなく、掘り方調査により住居範囲を確認した。本住居は調査区境に位置していること、西側を14年度、東側を15年度に調査が行われたこと、上部から

の削平が著しいことから東側部分は消失していた。住居の重複関係と埋土の状況から奈良・平安時代と推定される。



第119図 5区23号住居・竪穴 平・断面図 出土遺物

5区 竪穴住居跡

24号住居 (第72・120図、P L22・68)

位置 5区 X=32424~427 Y=-41068~070

重複遺構 23・25号住居と重複。本住居は土層断面観察により23・25号住居より新しい。

形態 隅丸長方形。西側は未検出。

方位 計測不能 (N-5°-W)

規模 長軸3.20×短軸(1.16)m

調査区住居確認面のみ

面積 5.184㎡

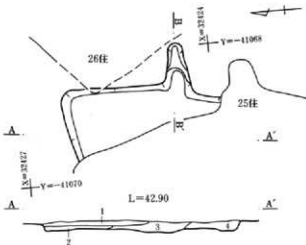
壁高 16cm

床面 掘り方床と考えられる。土層断面から、一部貼り床を行っている状況も見られる。

柱穴 調査区内では未確認

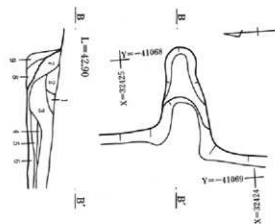
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認



竈 煙道部26cm、燃焼部40cm、袖幅50cm、焚き口32cm、比較的遺存状態が良く、煙道部も残っている。天井は暗褐色土、袖・煙道は褐色土を使用している。燃焼部から煙道部にかけて、緩やかに立ち上がる。径10cm程の煙道があったと考えられる。

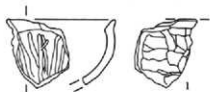
遺物 1は土師器坏、2は円筒埴輪。2つとも産覆土から出土。その他、埴輪片2片、土師器片多数、須恵器片2点出土。小片のため固化できなかった。所見 本住居は調査区域に位置していること、西側を14年度、東側を15年度に調査が行われたこと、上部からの削平が著しいことから西側部分は消失していた。出土遺物からは、時期を特定できなかったが、住居の重複関係と土層の状況から奈良・平安時代と推定される。



24号住居

- 1 暗褐色土 固く締まる。焼土粒、炭、白色粒を含む。
- 2 暗褐色土 やや軟質。焼土粒、炭、白色粒を含む。
- 3 暗褐色土 固く締まる。焼土粒、炭化物、黄褐色土粒、白色粒を含む。
- 4 暗褐色土 焼土を多量に含む。

0 1 : 60 2m



24号住居竈

- 1 暗褐色土 焼土粒多量に含む。やや軟質。
- 2 暗褐色土 焼土粒含む。締まりやや良い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土、焼土、炭化物層らに含む。粘性有り。
- 4 暗褐色土 焼土多量に含む。やや軟質。
- 5 にぶい褐色土 黄褐色粘質土、焼土含む。軟質。
- 6 にぶい褐色土 焼土ブロック多量に含む。軟質。
- 7 にぶい褐色土 焼土、マンガング粒含む。締まりやや良い。
- 8 にぶい褐色土 黄褐色土、焼土含む。締まりやや良い。
- 9 暗褐色土 黄褐色土、焼土少量層らに含む。締まり良い。

0 1 : 30 1m



0 1 : 3 10cm

第120図 5区24号住居・竈 平・断面図 出土遺物

25号住居 (第72・121～126図、P L22・68・69)

位置 5区 X=32421～426 Y=-41069～073

重複遺構 23・24号住居、57号土坑と重複。本住居は24号住居より旧く、57号土坑より新しい。23号住居との新旧関係は不明。

形態 隅丸長方形

方位 N-5°-W

規模 長軸4.11×短軸3.45m

調査区住居確認面のみ

面積 (16.090)m²

壁高 15cm

床面 23号住居との重複のため南東側の大部分を消失。住居南西コーナー付近に貯蔵穴と考えられる土坑と焼土を確認した。竈右袖付近と東壁中央付近、北西コーナーとコーナー付近にピット4基検出。掘り方面では、北壁中央付近に浅い掘り込みをもち、西壁付近にピット2基確認した。

ピット P 1 径44×40cm、深さ20cm

P 2 径36×32cm、深さ20cm

P 3 径30×24cm、深さ60cm

P 4 径48×44cm、深さ48cm

P 5 径56×52cm、深さ36cm

P 6 径54×44cm、深さ36cm

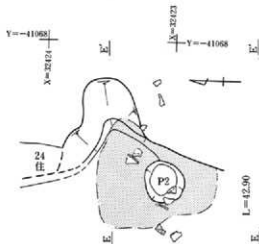
貯蔵穴 住居南西隅に設置されている。長軸102cm、短軸100cm、深さ44cmのやや長方形を呈する。暗褐色土主体の埋土中に土器片と底面に埴輪片、土釜片、羽釜片を多数出土する。

周溝 調査区内では未確認

竈 上部からの削平を受け、遺存状態が悪く、遺構確認面が竈使用面であった。そのため掘り方調査のみ実施した。燃燒部長さ72cm、燃燒部幅100cm、焚き口60cm程である。掘り方面では焚き口部分を垂直に、煙道部に向けて緩やかに立ち上がるよう掘り留めてある。

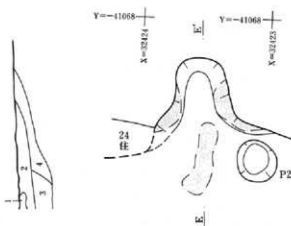
遺物 1は土師器坏、2は須恵器坏、3は土師器埴、4は須恵器輪、5は土師器坏、6～8は須恵器坏、9は土師器壺、10は土師器土釜、11は土師器壺、12～14は土師器羽釜、15は土師器埴、16・17は須恵器壺、18～29は埴輪、30は鉄製品(鑿)、31は燧石である。その他、土師器片多数、須恵器片多数、焼成粘土塊など出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物からと住居の重複関係と埋土の状況から10世紀から11世紀頃と比定される。



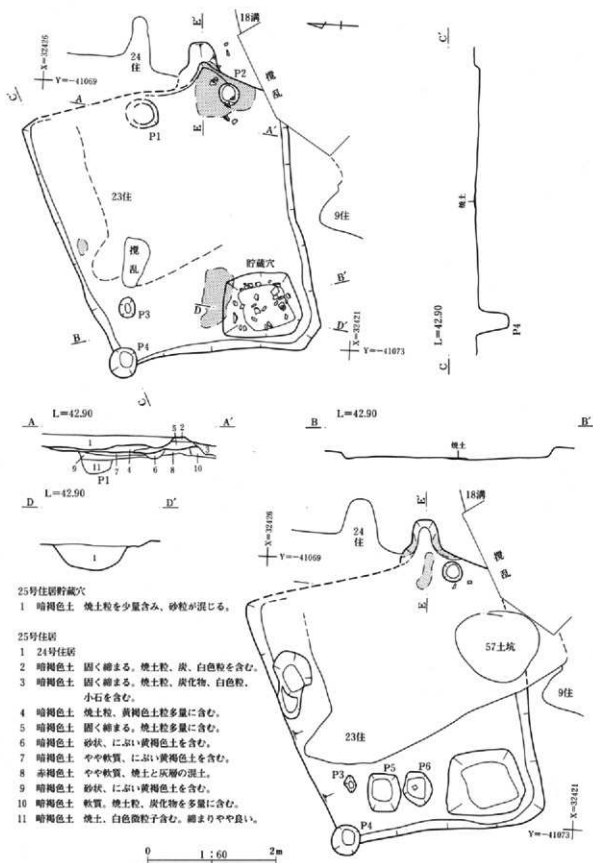
25号住居竈

- 1 暗褐色土 やや軟質、黄褐色土粒を含む。
- 2 赤褐色土 やや軟質、焼土を多量に含む。
- 3 赤褐色土 やや軟質、焼土、にぶい褐色土粒を含む。
- 4 暗褐色土 やや軟質、黄褐色土粒を含む。



第121図 5区25号住居竈 平・断面図

5区 竪穴住居跡



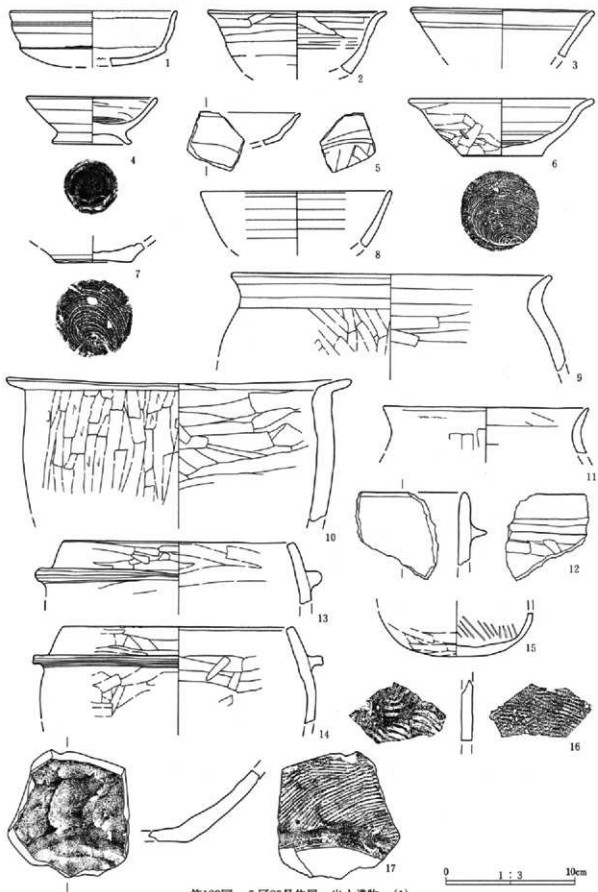
25号住居貯蔵穴

1 暗褐色土 焼土粒を少量含み、砂粒が混じる。

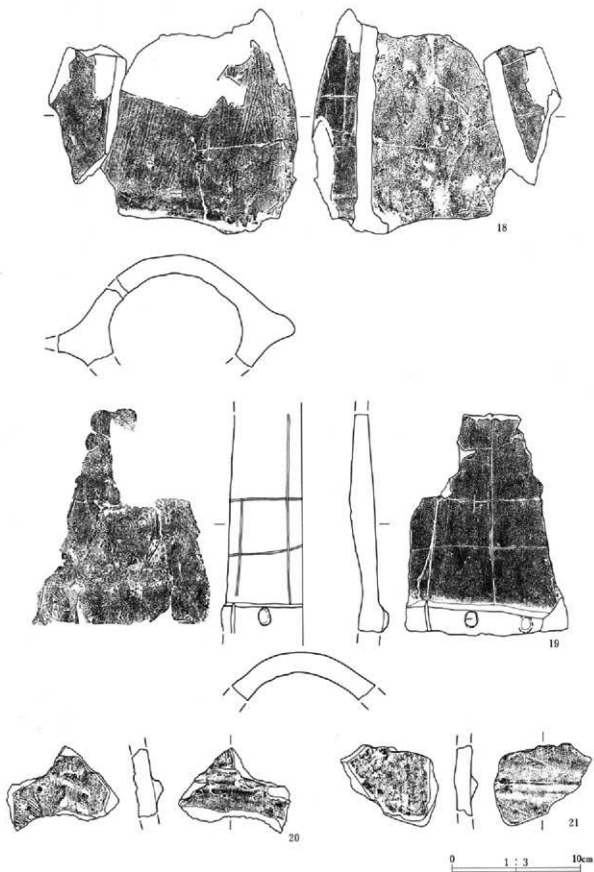
25号住居

- 1 24号住居
- 2 暗褐色土 固く締まる。焼土粒、炭、白色粉を含む。
- 3 暗褐色土 固く締まる。焼土粒、炭化物、白色粉、小石を含む。
- 4 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土粒多量に含む。
- 5 暗褐色土 固く締まる。焼土粒多量に含む。
- 6 暗褐色土 砂状、にぶい黄褐色土を含む。
- 7 暗褐色土 やや軟質、にぶい黄褐色土を含む。
- 8 赤褐色土 やや軟質、焼土と灰層の混土。
- 9 暗褐色土 砂状、にぶい黄褐色土を含む。
- 10 暗褐色土 軟質、焼土粒、炭化物を多量に含む。
- 11 暗褐色土 焼土、白色微粒子含む。締まりやや良い。

第122図 5区25号住居・掘り方 平・断面図

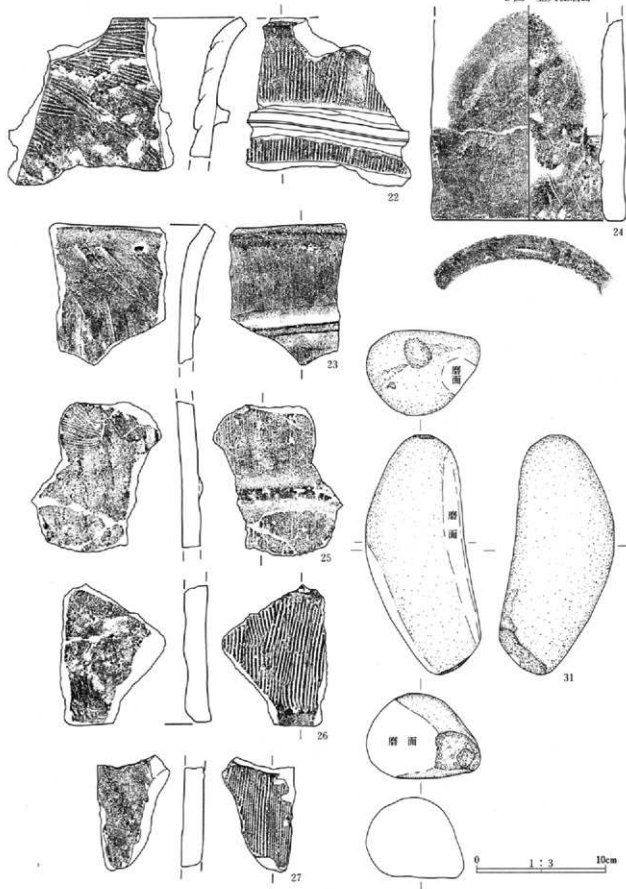


第123圖 5区25号住居 出土遺物 (1)



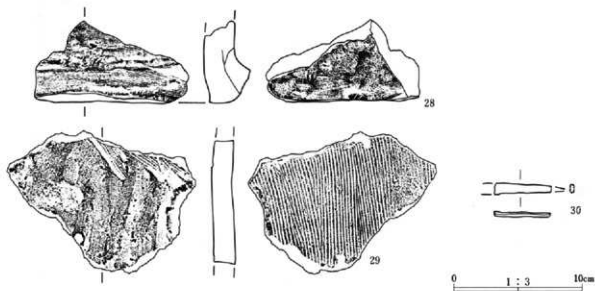
第124图 5区25号住居 出土遺物 (2)

5区 竖穴住居跡



第125图 5区25号住居 出土遺物 (3)

5区 竪穴住居跡



第126図 5区25号住居 出土遺物 (4)

26号住居 (第72・127・128図、P L23・70)

位置 5区 X=32423~428 Y=-41065~069

重複遺構 24・27号住居・58号土坑・18号溝・31・86ピットと重複。本住居は24号住居より新しく、他の重複遺構より古い。

形態 上部からの削平と重複遺構が多いため、全形不明。住居西側は上部からの削平のため消失、西壁は一部確認。隅丸長方形と推定される。

方位 計測不能 (N-42° -W)

規模 長軸(3.80)×短軸(2.90)m

調査区住居確認面のみ

面積 (9.081)㎡

壁高 20cm

床面 遺構確認面が床面のため、掘り方調査のみ実施。土層断面から20cm程埋土を施し、床面を構築。

掘り方はやや凹凸し、住居南側が一番高く、西側もやや高く、北側をやや低く掘り込んでいる。

ピット P 1 径56×44cm、深さ14cm

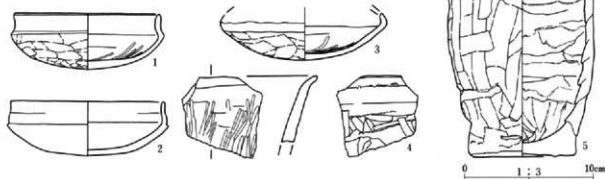
P 2 径34×30cm、深さ32cm

P 3 径42×40cm、深さ13cm

P 1とP 3が主柱穴の可能性がある。

土坑 1 土坑径50×42cm、深さ60cm

2 土坑径50×44cm、深さ20cm



第127図 5区26号住居 出土遺物

貯蔵穴 調査区内では未確認

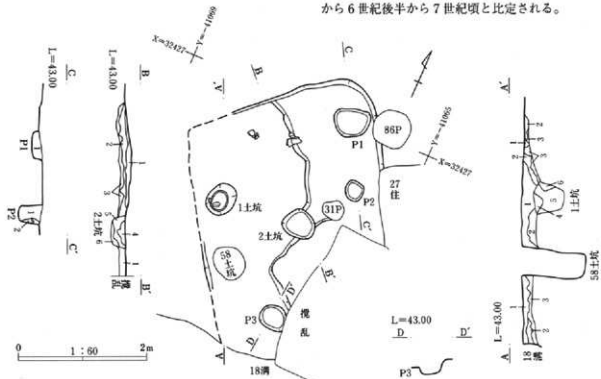
周溝 調査区内では未確認

竈 重複により消失したと思われる。

焼土 調査区内では未確認

遺物 1～3は土師器坏、4・5は土師器甕、1は1号土坑より出土。その他、土師器片多数、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物からと住居の重複関係と埋土の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



26号住居 P1・2

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、小礫少量含む。

26号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子疎らに含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子少量、黄褐色土ブロック疎らに含む。1層より軟質。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 白色微粒子少量、焼土粒、炭疎らに含む。締まりやや良い。
- 5 暗褐色土 にぶい黄褐色土ブロック僅か、焼土粒、炭化物疎らに含む。やや軟質。
- 6 暗褐色土 砂質。にぶい黄褐色土ブロック中量含む。ボソボソした土。

第128図 5区26号住居 平・断面図

27号住居 (第72・129・130図、P L23・70)

位置 5区X=32424~428 Y=-41059~066

重複遺構 ビット19~21・ビット35~37と重複。本住居が一番古い。

形態 不整形(やや台形)

方位 計測不能(N-55°-E)

規模 長軸5.16×短軸3.22m

調査区住居確認面のみ

面積 (14.058) m²

壁高 26cm

床面 確認面が床面の為、掘り方調査のみ実施。20cm程埋土を施し床面を構築。掘り方は深く掘り込み、東側を6cm~8cm程高く掘り残している。

ビット P1径52×42cm、深さ20cm

土坑 1土坑148×92cm、深さ20cm

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 遺構確認面が使用面のため、掘り方調査を実施。

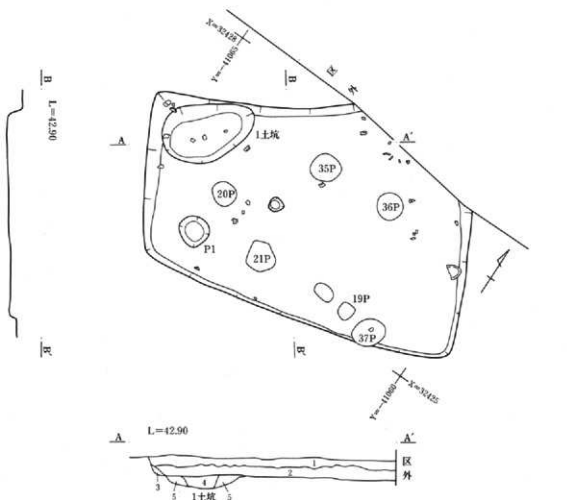
5区 竪穴住居跡

袖部、天井部は消失している。焼成部は調査区外となるため、一部のみ確認した。掘り方は20cm程掘り込み、褐色土層により寛底部を構築している。

遺物 1～3は土師器坏、4は須恵器高台付椀、5～9は土師器甕、10は須恵器壺、11・12は土師器高坏、13は石皿、焼成粘土塊3点出土。13は縄文時代の

の石器を台石として転用している。4・7・10は混入と考えられる。その他、土師器片多数、須恵器片多数、焼成粘土塊などが出土。小片のため図化できなかった。

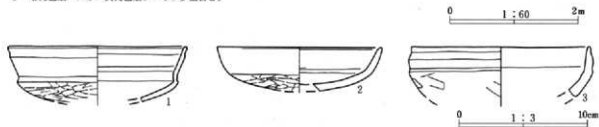
所見 出土遺物からと住居の重複関係と埋土の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



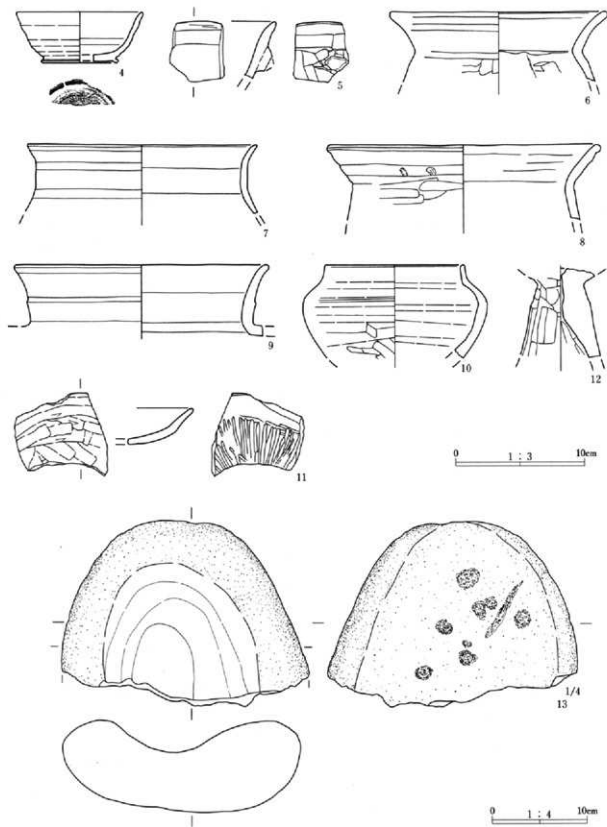
27号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子ごく僅かに含む。
- 2 暗褐色土 しぶい黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土 しぶい黄褐色土ブロック少量含む。

- 4 暗褐色土 しぶい黄褐色土ブロック、炭化物ごく僅かに含む。
- 5 暗褐色土 砂質。焼土粒僅かに含む。



第129図 5区27号住居 平・断面図 出土遺物 (1)



第130图 5区27号住居 出土遗物 (2)

5区 竪穴住居跡

28号住居 (第72・131～133図、P.L.23・70・71)

位置 5区X=32421～425 Y=-41052～058

重複遺構 41号住居・ピット50・51と重複している。本住居は重複遺構より新しい。

形態 長方形

方位 N-81°-E

規模 長軸4.04×短軸3.40m

調査区住居確認のみ

面積 12.339m²

壁高 30cm

床面 床面中央を掘り残し、壁周辺を8cm～14cm程掘り込み埋土を施し床面とした。北西コーナーに焼土痕がある。掘り方でピット4基確認した。概ね平坦な掘り方である。

ピット P1径56×48cm、深さ36cm

P2径48×40cm、深さ40cm

P3径64×40cm、深さ32cm

P4径40×32cm、深さ28cm

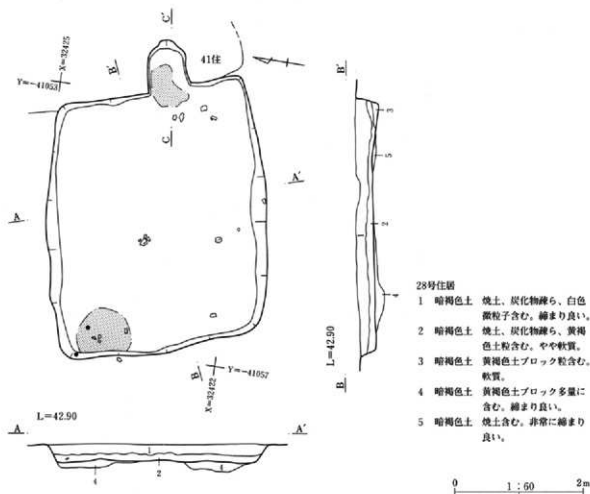
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

焼土 径84×72cm、深さ20～32cm

北西コーナーに位置する。別遺構の焼土の可能性もある。

竈 竈全長80cm、袖部66cm、焚き口63cm、燃焼部66cm、煙道部34cm、東壁に構築。褐色粘土で天井部、袖部を造る。燃焼部から煙道部にかけて、急峻な立ち上がりとなっている。掘り方は中央を径36cm×28cm深さ20cm程掘り抜いて、燃焼部床を構築。

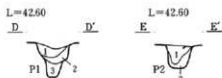
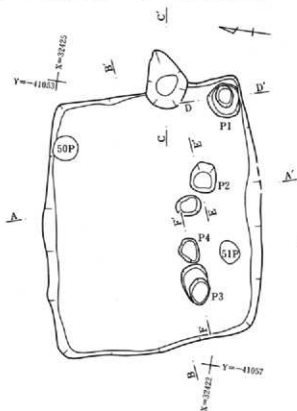


第131図 5区28号住居 平・断面図

遺物 1・2は土師器杯、3・4は須恵器杯、5～7は土師器甕、8・9は須恵器甕、10・11は須恵器蓋。その他、土師器片多数、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。この他、焼成粘土塊が

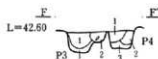
出土しているが、混入と考えられる。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から9世紀頃と比定される。



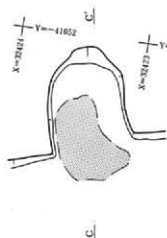
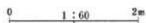
28号住居 P1・2

- 1 暗褐色土 砂質、焼土粒含む、締まり良い、
- 2 暗褐色土 砂質、黄褐色土含む、やや軟質、
- 3 暗褐色土 砂質、黄褐色土ブロック含む、



28号住居 P3・4

- 1 暗褐色土 砂質、黄褐色土含む、締まり良い、
- 2 暗褐色土 黄褐色土、砂利含む、締まり良い、
- 3 暗褐色土 砂質、黄褐色土、砂利、小石含む、

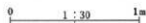
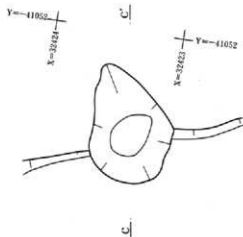


28号住居竪

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物含む、締まり良い、
- 2 褐色土 焼土粒多量に含む、締まり良い、
- 3 褐色土 焼土層、やや粘性、

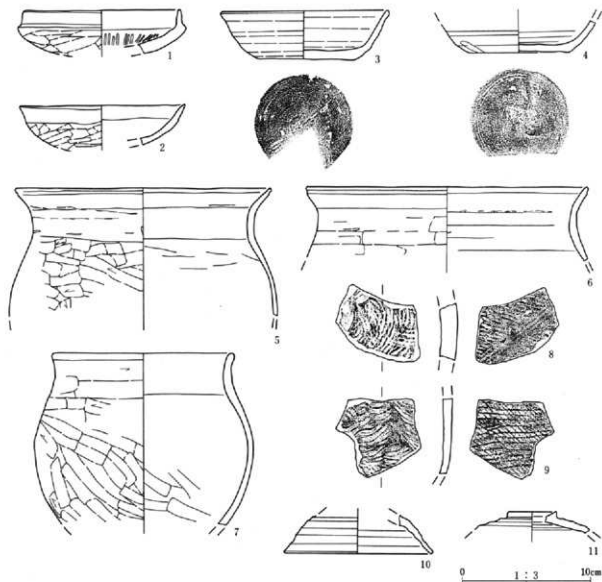


- 4 赤褐色土 焼土多量に含む、締まりやや良い、
- 5 暗褐色土 砂質、黄褐色土ブロック含む、締まり良い、
- 6 暗褐色土 黄褐色土含む、軟質、
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量に含む、締まり良い、



第132図 5区28号住居掘り方・竪 平・断面図

5区 竪穴住居跡



第133図 5区28号住居 出土遺物

30号住居 (第72・134～136図、P L24・71・72)

位置 5区 X=32421～426 Y=-41044～051

重複遺構 36・41号住居・63～66・69号土坑と重複する。本住居は64号土坑より旧く、他の重複遺構より新しい。

形態 長方形。上部からの削平と重複遺構のため全形不明。

方位 N-24° -W

規模 長軸5.18×短軸3.82m

調査区住居確認のみ

面積 (15,705)㎡

壁高 28cm

床面 やや柔らかい暗褐色土と黄褐色土を4cm程の厚さで、床面とした。竈やや南側に落ち込みがある。掘り方は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。掘り方で63・66・69号土坑を確認。

ピット P 1 径40×24cm、深さ16cm

P 2 径44×42cm、深さ16cm

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 住居北西コーナーから南東コーナーまで廻る。

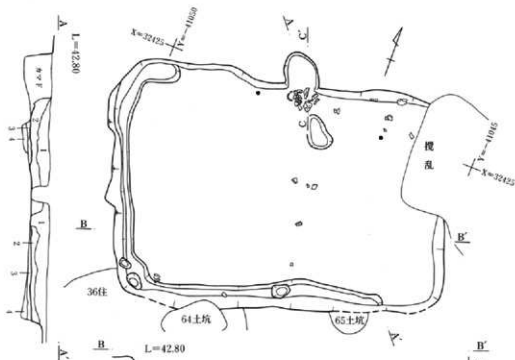
竈 煙道部57cm、袖幅50cm、燃焼部42cm、煙道部は削平で消失。暗褐色粘土で天井部を構築。袖部につ

いては不明。

遺物 1~10は土師器坏, 11は土師器甕, 12は須恵器甕, 13は土師器高坏, 14はミニチュア土器, 15・16は土師器長脚甕が出土。その他、土師器片多数、

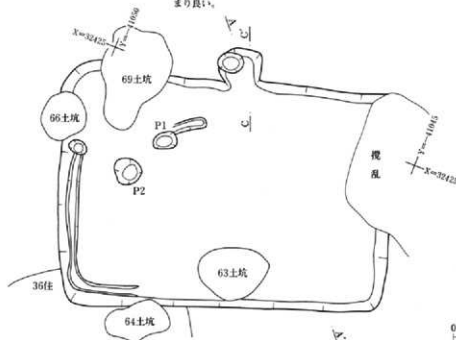
須恵器片多数、焼成粘土塊出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から古墳時代後期と比定される。



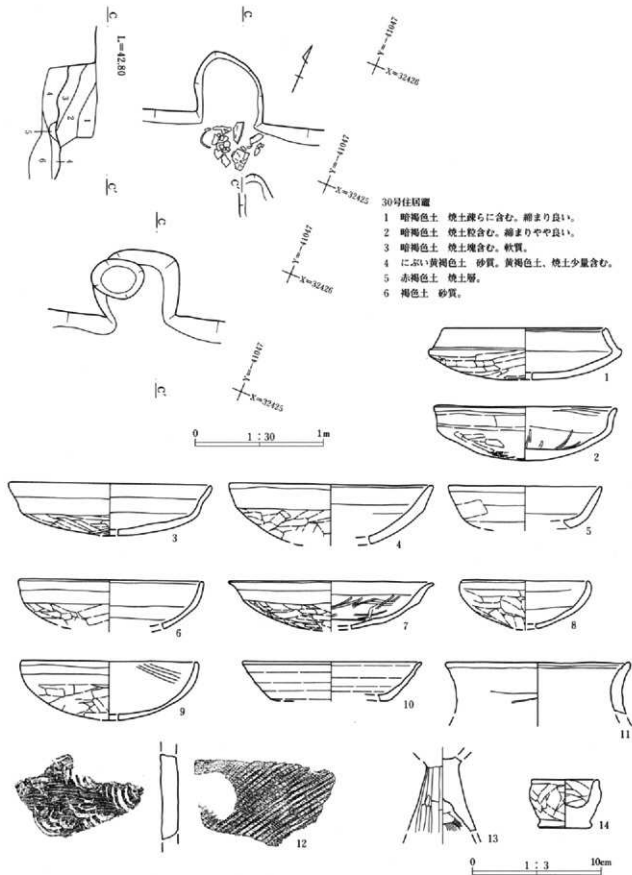
30号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子、炭化物含む。締まり良い。 3 褐色土 砂質、黄褐色土含む。やや軟質。
2 暗褐色土 焼土粒1層より多く、黄褐色土、炭化物含む。締まり良い。 4 濃い黄褐色土 砂質、暗褐色土含む。

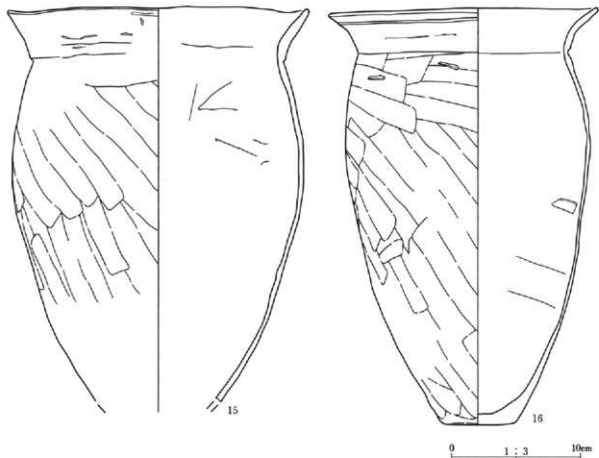


第134图 5区30号住居 平・断面図

5区 竪穴住居跡



第135図 5区30号住居竈・掘り方 平・断面図 出土遺物 (1)



第136図 5区30号住居 出土遺物 (2)

31号住居 (第72・137~140図、P L 24・72・73)

位置 5区 X=32418~425 Y=-41032~038

重複遺構 37号住居・74号土坑と重複。本住居は37号住居・74号土坑より古い。

形態 長方形。東壁が不整形。

方位 N-18° -W

規模 長軸6.02×短軸5.05m

調査区住居確認面のみ

面積 26.604㎡

壁高 22cm

床面 床面は2cm~8cm程の埋土を施し、床面としている。柱穴4基確認。掘り方は西壁付近に径80cm×76cm、深さ10cm、東壁付近に径248cm×134cmの土坑状の窪みを持ち、多少の凹凸はあるが概ね平坦である。ピット5基確認。

柱穴 1 柱穴径52×48cm、深さ40cm

2 柱穴径46×36cm、深さ36cm

3 柱穴径48×48cm、深さ44cm

4 柱穴径40×36cm、深さ40cm

柱穴間距離は概ね260cm~270cmである。

ピット P 1 径64×52cm、深さ36cm

P 2 径36×32cm、深さ36cm

P 3 径40×32cm、深さ24cm

P 4 径32×28cm、深さ28cm

P 5 径32×28cm、深さ12cm

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

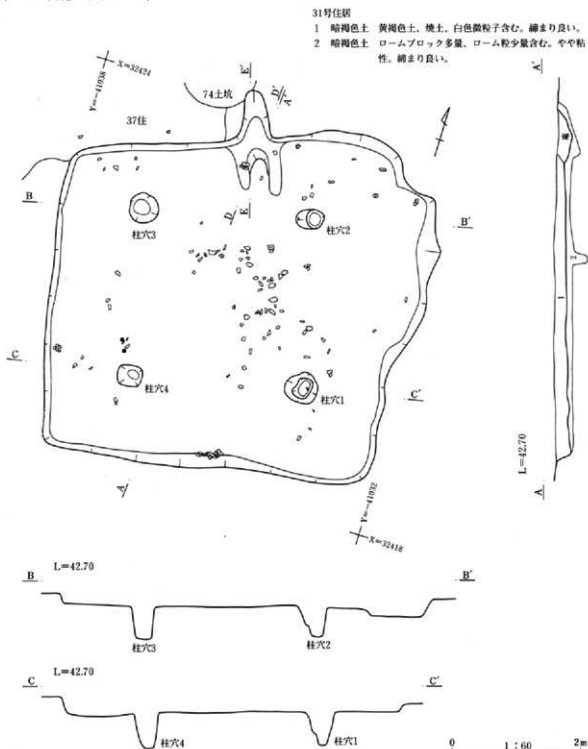
焼土 調査区内では未確認

竈 煙道部90cm、燃焼部長さ70cm、燃焼部幅64cm、焚き口幅30cm。住居内に燃焼部を持ち、壁から煙道部が76cm程突出している。燃焼部から煙道部にかけて急峻な立ち上がりを示す。掘り方は燃焼部から煙道部にかけて、掘り込みを造り竈底部を構築している。

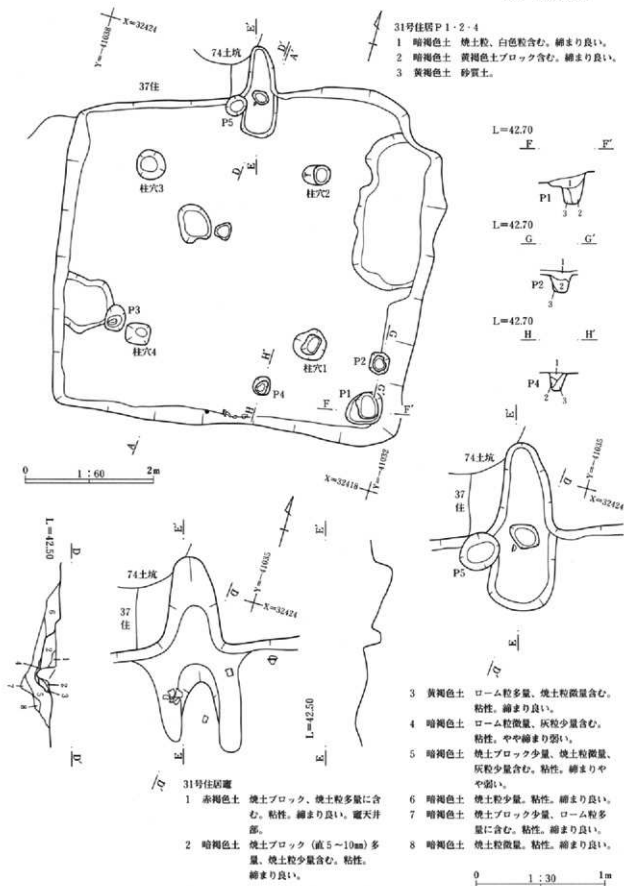
5区 整穴住居跡

遺物 1～18は土師器甕、19はS字状口縁台付甕で掘り方から出土。20～23は土師器甕、24は高坏、25は刀子、26・27は磁石、28は砥石、29は剣形石製品。その他、土師器片多数、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から7世紀末から8世紀初めと比定される。

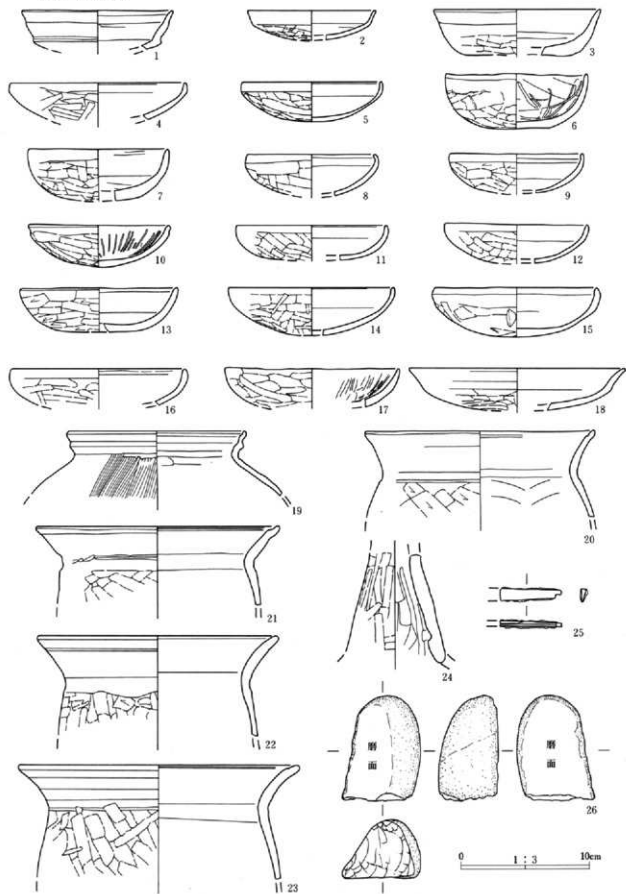


5区 竪穴住居跡

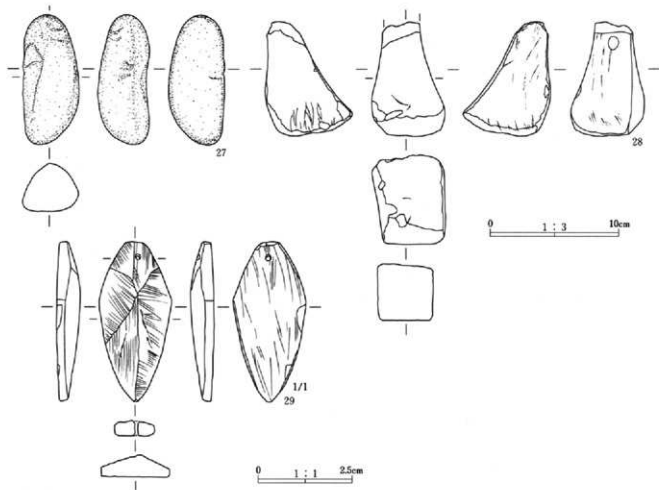


第138図 5区31号住居掘り方・竈 平・断面図

5区 竖穴住居跡



第139图 5区31号住居 出土遺物 (1)



第140図 5区31号住居 出土遺物 (2)

33号住居 (第72・141～143図、P L 24・73・74)

位置 5区 X=32420～425 Y=-41060～065

重複遺構 17・18号溝・33・34号ピット重複。本住居は溝より旧く、33・34号ピットより新しい。

形態 隅丸長方形。上部からの削平と他の重複遺構により、遺存状態は悪い。

方位 N-79° - E

規模 長軸4.46×短軸3.58m

調査区住居確認面のみ

面積 (12.843) m²

壁高 43cm

床面 床面は掘り方の一部をそのまま利用し、一部8cm程の埋土を施し床面を構築。住居中央は18号溝により、掘り方で壊されている。掘り方面は概ね平坦で、竈両側に2基土坑状遺構がある。

土坑 1土坑径66×64cm、深さ56cm

2土坑径64×56cm、深さ60cm

1土坑は主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

焼土 調査区内では未確認

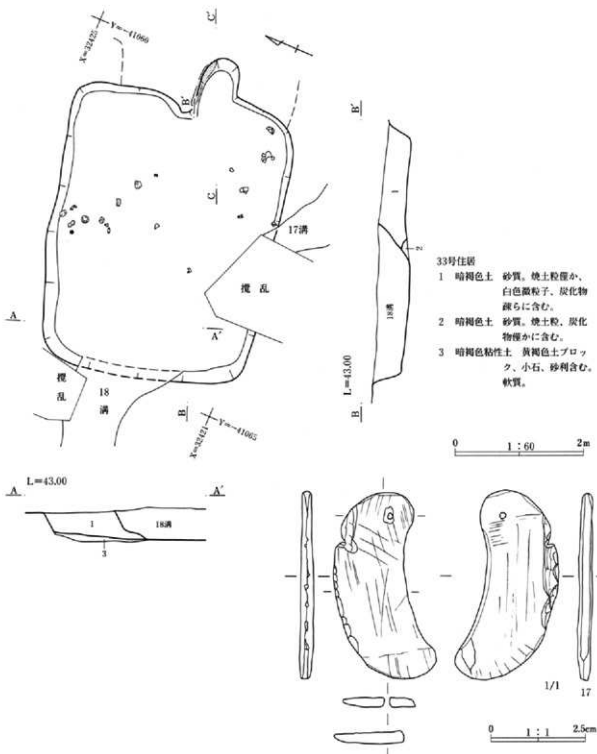
竈 東壁中央やや南側に、燃焼部を構築する。煙道部は壁外に構築。調査区内竈の確認状況では燃焼部長さ80cm、燃焼部幅61cm、焚き口49cmであり、遺存状態は悪い。確認面から5cm～8cm掘り下げると使用面であった。その為、天井部と袖部は確認出来なかった。燃焼部から煙道部は緩やかに立ち上がる。煙道は消失。

5区 整穴住居跡

遺物 1～4は土師器坏で4は掘り方出土。5・6は須恵器坏、7は土師器碗、8～10は土師器甕、11は土師器埴、12は須恵器蓋、13は瓶で竈から出土。14・16は紡錘車、15は砥石、17は勾玉。その他、土

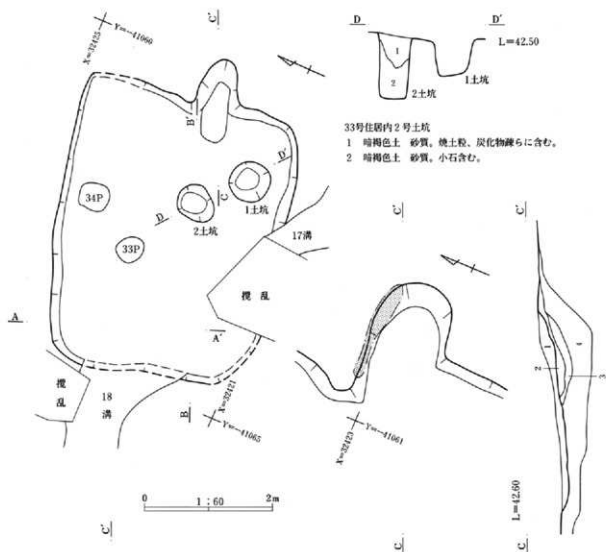
師器片多数、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から7世紀から8世紀頃と比定される。



第141图 5区33号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

5区 竪穴住居跡

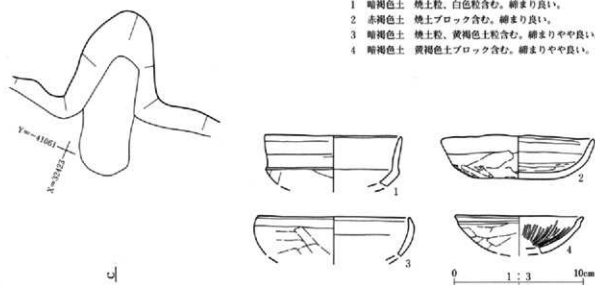


33号住居内2号土坑

- 1 暗褐色土 砂質、焼土粒、炭化物跡らを含む。
- 2 暗褐色土 砂質、小石含む。

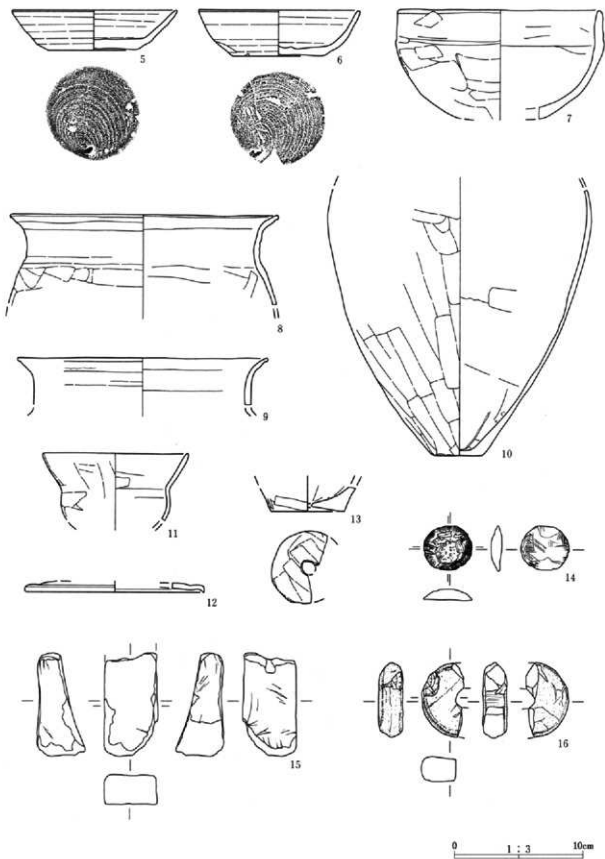
33号住居竈

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粒含む。締まり良い。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土粒含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。締まりやや良い。



第142図 5区33号住居・竈・掘り方 平・断面図 出土遺物 (2)

5区 竖穴住居跡



第143图 5区33号住居 出土遺物 (3)

35号住居 (第72・144図、P.L24・74)

位置 5区 X=32422~426 Y=-41057~061

重複遺構 33号住居、40~42・44・47・48号ピットと重複。本住居は33号住居より旧く、40~42・44・47・48号ピットより新しい。

形態 上部からの削平と他の重複遺構により、全形不明。西側に向かうほど消失。残存状態から隅丸長方形と推定される。

方位 N-19°-W

規模 長軸(3.12)×短軸2.84m

調査区住居確認面のみ

面積 (8.739)m²

壁高 18cm

床面 土層断面から4cm~8cm程貼り床を施し、床面を構築している。床面を東側は検出できたが、主軸から33号住居方向西側は、上部からの削平のため検出できなかった。掘り方は概ね平坦である。

35号住居

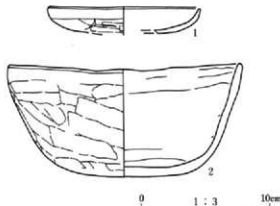
- 1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子、炭化物層かに含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物層かに含む。
- 3 におい黄褐色土 黄褐色土ブロックまばらに含む。
- 4 におい黄褐色土 黄褐色土ブロック多量に含む。

35号住居竪

- 1 赤褐色土 焼土ブロック多量に含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 焼土、炭化物少量含む。
- 4 暗褐色土 締まりやや弱い。焼土・炭化物を少量含む。
- 5 におい黄褐色土 黄褐色土ブロック、黄褐色砂を含む。

0 1:60 2m

0 1:30 1m



第144図 5区35号住居・竪 平・断面図 出土遺物

柱穴 調査区内では未確認

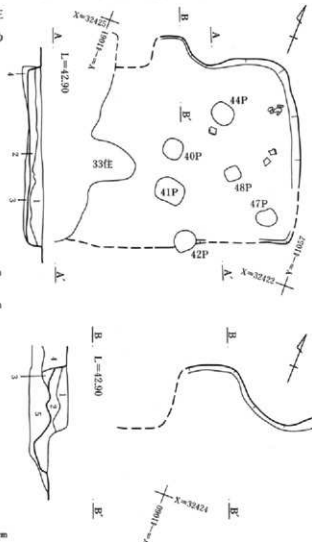
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 焼焼部長さ47cm、袖幅(95)cm、北壁に竈を構築。焼焼部は壁外にある。上部からの削平により煙道部・袖部・焼焼部左側が消失し、竈の遺存状態は悪い。竈の残存状況から、焼焼部をにおい黄褐色土で竈底部を構築している。焼焼部から煙道部にかけて急峻な立ち上がりをもつ。

遺物 1は土師器坏、2は須恵器鉢、その他、土師器片多数、須恵器片多数出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から7世紀から8世紀頃と比定される。



5区 竪穴住居跡

36号住居 (第72・145・146図、P.L.24・25・74)

位置 5区 X=32418~422 Y=-41046~054

重複遺構 30号住居・59・64号土坑・55~57号ピットと重複。本住居は30号竪穴住居、64号土坑、55~57号ピットより旧く、59号土坑より新しい。他に93~95号ピットを確認した。

形態 長方形。調査区境に位置し、重複遺構のため全形不明。

方位 N-64° - E

規模 長軸(5.38)×短軸(3.04)m

調査区住居確認のみ

面積 (13.059)m²

壁高 20cm

床面 床面は4cm程の褐色土で貼り床をしている。掘り方は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

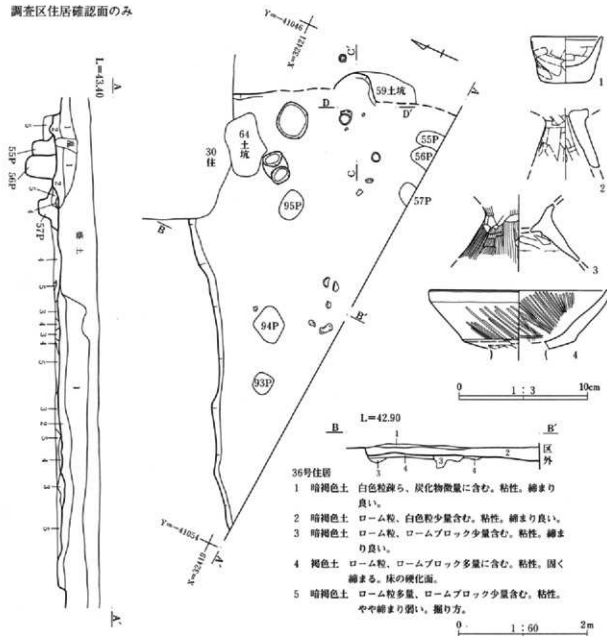
柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

焼土 調査区内では未確認

竈 遺構確認面が竈使用面のため、遺存状態が悪く、



36号住居

- 1 暗褐色土 白色粘障ら、炭化物微量に含む。粘性。締まり良い。
- 2 暗褐色土 ローム粒、白色粒少量含む。粘性。締まり良い。
- 3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。粘性。締まり良い。
- 4 褐色土 ローム粒、ロームブロック多量に含む。粘性。固く締まる。床の硬化面。
- 5 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。粘性。やや締まり強い。掘り方。

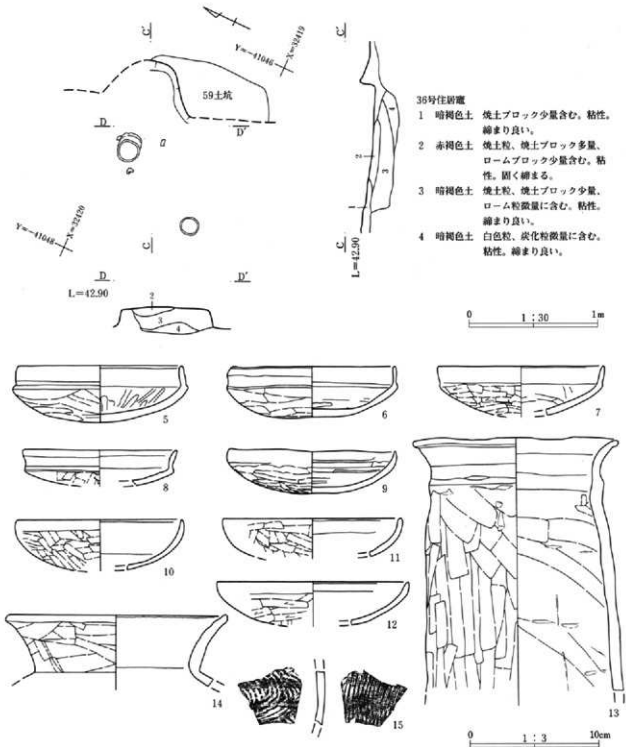
第145図 5区36号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

天井部、煙道部、袖部を消失している。掘り方面では16cm程掘り下げ、底面を構築している。竈下に59号土坑を検出した。

遺物 1はミニチュア土器、2・4は土師器高坏、3は土師器台付甕、5~12は土師器坏、13は土師器

長胴甕、14は土師器甕、15は須恵器甕、その他、土師器片多数、須恵器片多数、焼成粘土塊出土。小片のため固化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



第146図 5区36号住居竈 平・断面図 出土遺物 (2)

5区 竪穴住居跡

37号住居 (第72・147~150図、P.L25・75・76)

位置 5区 X=32421~426 Y=-41036~041

重複遺構 31号住居・67・74・78号土坑・2号溝・85号ピットと重複。本住居は67・74号土坑・2号溝より旧く、31号住居、78号土坑、85号ピットより新しい。

形態 長方形。遺構の重複が多く全形不明。

方位 N-1°-E

規模 長軸4.32×短軸3.44m

調査区住居確認面のみ

面積 (11.259)㎡

壁高 22cm

床面 床面は8cm~12cm程の、暗褐色土を埋土とし床を構築。掘り方は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。竈南西側に径160cm×118cm、深さ50cm程の土坑を検出した。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

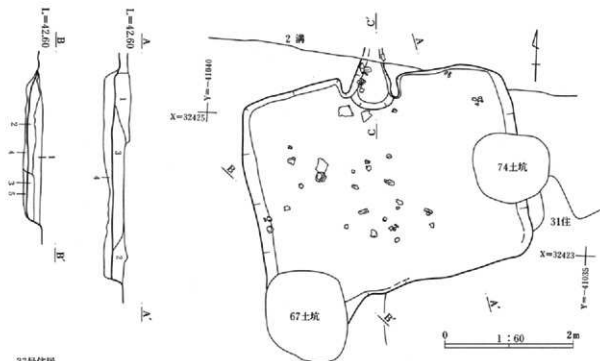
周溝 調査区内では未確認

焼土 調査区内では未確認

竈 熱焼部長さ62cm、熱焼部幅95cm、煙道部28cm、焚き口幅60cm、住居内に熱焼部を持ち、煙道部を壁外に突出するが、2号溝により消失している。掘り方面は20cm程掘り込み、竈底部を構築する。熱焼部下に85号ピットを検出。

遺物 1~12は土師器片、13・14はS字状口縁台付甕で混入と考えられる。15~18は土師器甕、19は台付甕、20は土師器高坏、21は須恵器大形甕、22は須恵器長頸壺、23は土師器甕か、24は磁石。その他、土師器片多数、須恵器片多数、焼成粘土塊出土。小片のため図化できなかった。

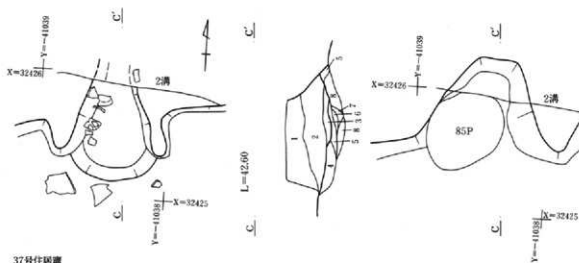
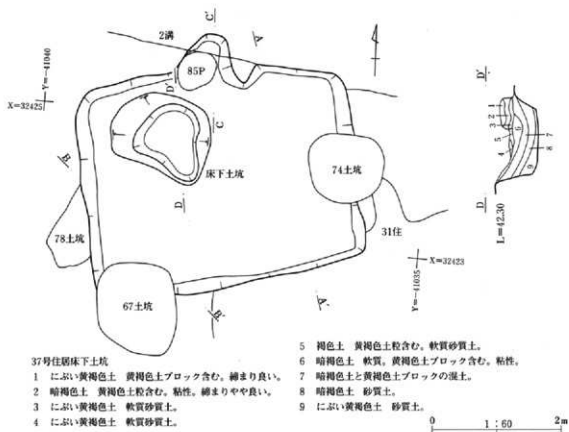
所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から7世紀から8世紀頃と比定される。



37号住居

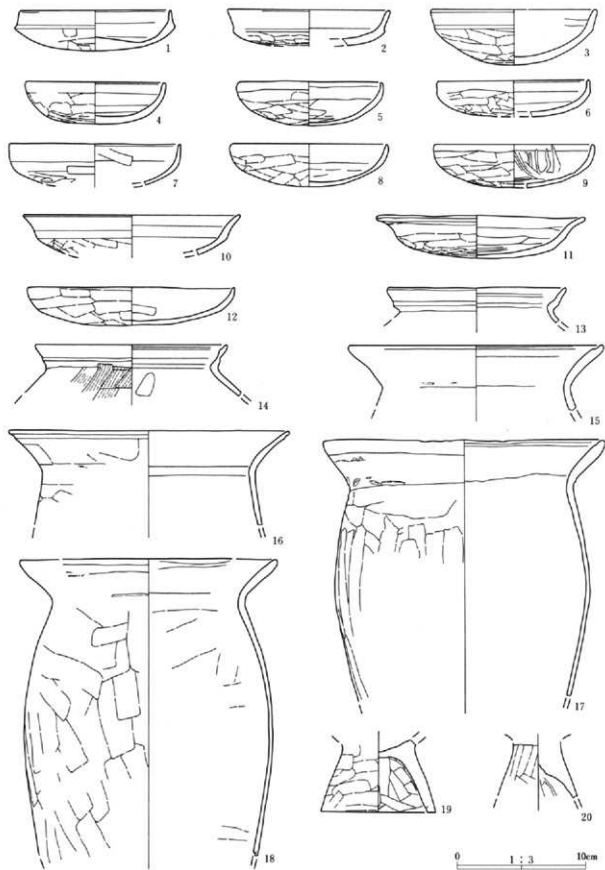
- | | |
|--|---|
| <p>1 暗褐色土 焼土、ロームブロック微量、ローム粒、白色粒少量含む。粘性、締まり良い。</p> <p>2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、白色粒、炭化粒少量含む。粘性あり。締まり良い。</p> | <p>3 暗褐色土 ロームブロック多量、焼土粒微量、炭化粒少量含む。粘性、締まり良い。</p> <p>4 暗褐色土 白色粒疎らに含む。粘性、締まり良い。</p> <p>5 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック多量に含む。軟質。</p> |
|--|---|

第147図 5区37号住居 平・断面図

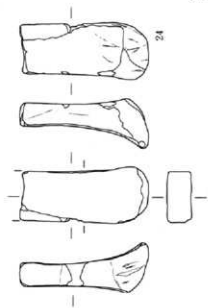
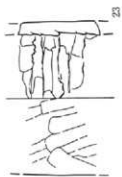
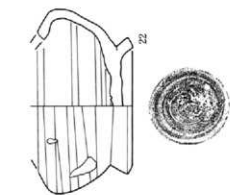
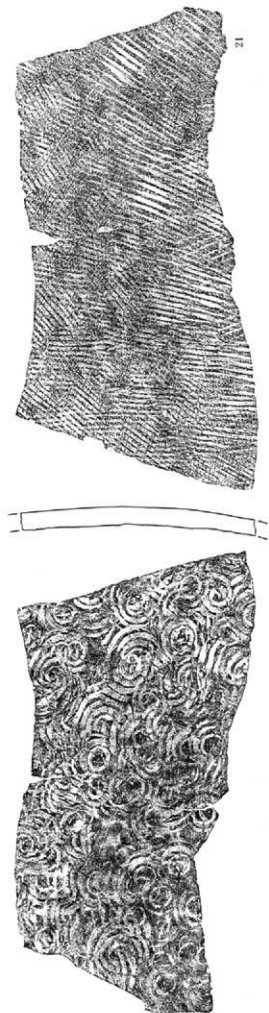


第148図 5区37号住居掘り方・竈・掘り方 平・断面図

5区 竖穴住居跡



第149图 5区37号住居 出土遗物 (1)



5区 豎穴住居跡



第150图 5区37号住居 出土遺物 (2)

5区 竪穴住居跡

38号住居 (第72・151図、P.L.25)

位置 5区 X=32419~421 Y=-41057~061

重複遺構 17号溝と重複。本住居は17号溝より古い。

形態 調査区境に位置し、また、17号溝との重複のため、全形不明。調査区内の状況から長方形を呈すると推察される。

方位 計測不能 (N-85° -W)

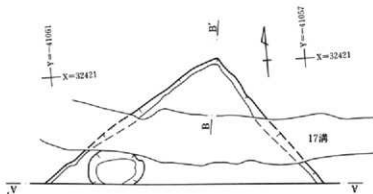
規模 長軸(3.16)×短軸(2.30)m

調査区住居確認のみ

面積 (4.113)m²

壁高 22cm

床面 上部からの削平と17号溝の為、床面を検出できなかった。掘り方調査のみ実施。土層断面から4cm程の埋土を施し、床面を構築したと考えられる。掘り方面はやや凹凸である。北西壁付近に土坑を検出した。



38号住居

- 1 暗褐色土 白色粒微量、焼土粒、炭化物疎らに含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒少量含む。締まりやや良い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒、焼土粒、炭化物含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック、黄褐色土粒、焼土粒、炭化物含む。やや粘性。床面。

柱穴 調査区内では未確認

土坑 1土坑径90×52cm、深さ14cm

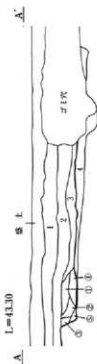
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 住居東壁調査区境に位置する。平面的には確認できなかったが、土層断面により確認した。調査区内竈袖は消失していた。竈は、燃焼部から煙道部へ緩やかにたちあがる。掘り方面は燃焼部下を掘り込み、粘性の暗褐色土で構築している。

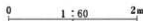
遺物 土師器片19点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物もなく、遺構の遺存状態が悪いため時期を特定できなかった。



38号住居竈

- ① 暗褐色土 焼土粒疎らに含む。締まりやや良い。
- ② 暗褐色土 黄褐色土粒含む。やや粘性。締まりやや弱い。
- ③ 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック含む。締まりやや弱い。
- ④ 暗褐色土 砂質、黄褐色土、焼土ブロック含む。締まりやや弱い。
- ⑤ 暗褐色土 黄褐色土粒含む。締まり良い。



第151図 5区38号住居 平・断面図

40号住居 (第72・152図、P L25・76)

位置 5区 X=32425~428 Y=-41055~060

重複遺構 38・39号ピット、83号土坑と重複。本住居が古い。

形態 調査区境にあり全形不明

方位 計測不能 (N-80° - E)

規模 長軸3.64×短軸(1.73)m

調査区住居確認のみ

面積 (5.211)m²

壁高 14cm

床面 住居中央南側は、掘り方をそのまま床面にしている。東側は4cm程の埋土を施し、平坦な床面を構築している。掘り方は概ね平坦である。掘り方面からピット3基を確認。

ピット P1径28×20cm、深さ11cm

P2径56×24cm、深さ11cm

P3径72×44cm、深さ11cm

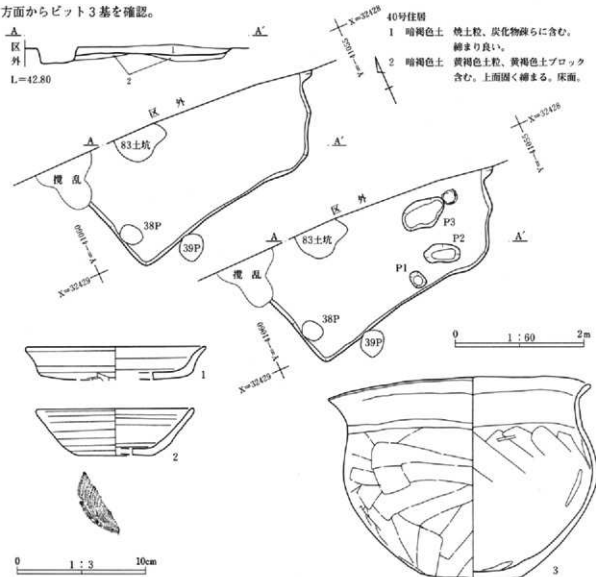
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外の住居壁にあると推察される。

遺物 1は土師器杯、2は須恵器杯、3は土師器甕。1・3は掘り方面より出土。その他、土師器片多数、須恵器片20点出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺物も少なく、遺構の遺存状態が悪いため時期を特定できなかった。古墳時代後期と推定される。



第152図 5区40号住居・掘り方 平・断面図 出土遺物

5区 竪穴住居跡

41号住居 (第72・153・154図、P L25・76)

位置 5区 X=32422~427 Y=-41050~054

重複遺構 28・30号住居、66・69号土坑、22・23号ピットと重複。本住居は28・30号住居、22号・23号ピットより旧く、66・69号土坑より新しい。

形態 不整長方形 他の重複遺構の爲全形不明。

方位 N-14° -W

規模 長軸3.72×短軸3.26m

調査区住居確認のみ

面積 (10.116) m²

壁高 20cm

床面 床面は掘り方から8cm程の埋土を施し、さらに厚さ4cm程の、黄褐色土と暗褐色土の混土を貼り、床面を構築している。床面から柱穴1基と土坑1基を検出した。掘り方面からピット3基検出した。南西コーナーで2基の土坑を検出した。

ピット P1 径40×40cm、深さ12cm

P2 径42×32cm、深さ30cm

P3 径36×28cm、深さ40cm

P4 径60×44cm、深さ40cm

土坑 1土坑径60×32cm、深さ30cm

2土坑径92×48cm、深さ35cm

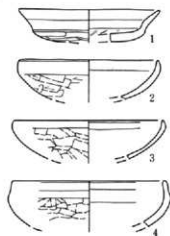
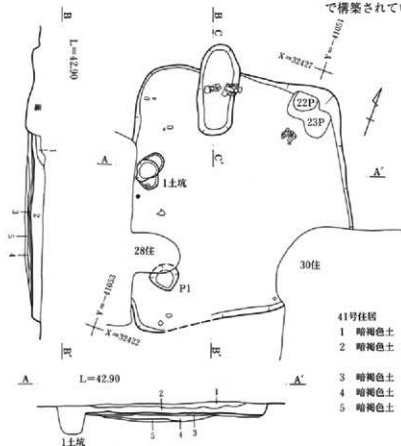
3土坑径48×36cm、深さ48cm

P1が位置的に見て支柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 調査区内では未確認。P4が貯蔵穴の可能性はある。

周溝 調査区内では未確認

竈 住居北壁中央よりやや西側に位置する。上部からの削平のため、遺構確認面が使用面であった。遺存状態が悪く、天井部、袖部とも消失しており、掘り方調査のみ実施した。燃焼部は住居壁際に構築されていたと推察される。明確に燃焼部、煙道部、焚き口を区別できない。竈長さ144cm、燃焼部幅54cm、焚き口幅35cmである。僅かに使用面が灰褐色土で構築されている。



41号住居

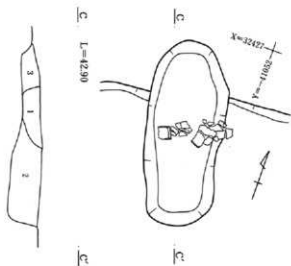
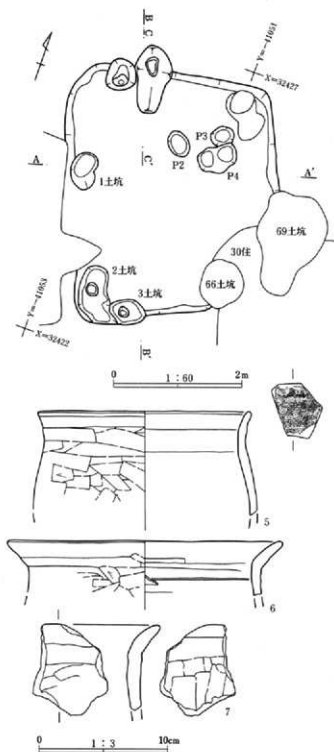
- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粒、炭化物含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒、白色粒、炭化物含む。黄褐色土ブロック層らに含む。
- 3 暗褐色土 灰を上面に含む。固く締まり良い。貼り床。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。締まり良い。
- 5 暗褐色土 黄褐色土砂粒含む。締まり弱い。

0 1:60 2m

第153図 5区41号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

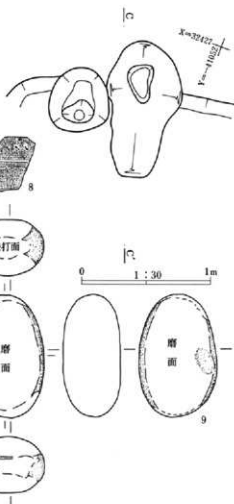
遺物 1～4は土師器坏、5～7は土師器甕、8は須恵器壺、9は敲石。その他、土師器片多数、須恵器片6点出土。小片のため図化できなかった。所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から6世紀から7世紀頃と比定される。

5区 竪穴住居跡



41号住居窟

- 1 赤褐色土 焼土ブロック多量を含む。
- 2 赤褐色土 焼土ブロック多量、黄褐色土粒、黄褐色土ブロック含む。
- 3 褐色土 焼土粒、黄褐色土粒含む。粘性。



第154図 5区41号住居掘り方・竈・掘り方 平・断面図 出土遺物 (2)

5区 竪穴住居跡

42号住居 (第72・155・156図、P.L.26・76)

位置 5区 X=32423~426 Y=-41027~033

重複遺構 2溝、70・79・82号土坑、87~92号ピットと重複。本住居はいずれの重複遺構より古い。

形態 調査区境に位置し、他の重複遺構のため全形不明。方形あるいは長方形と推察される。

方位 計測不能 (N-49° -W)

規模 長軸(2.70)×短軸(2.60)m

調査区住居確認面のみ

面積 (6.687)㎡

壁高 18cm

床面 上部からの削平と床面まで及び遺存状態が悪

い。掘り方面のみ調査をした。土層断面観察から、床面は掘り方から2cm~8cm程、暗褐色土で埋土を施し、平坦面を構築していると推察される。掘り方面は、多少の凹凸があるが概ね平坦である。北側2溝との境に径60cm×(44)cm、深さ20cmの落ち込みがある。

柱穴 調査区内では未確認

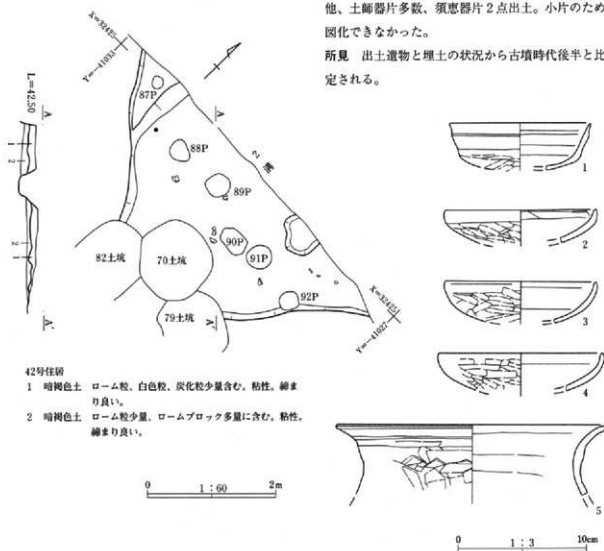
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。調査区外のいずれかの壁に位置すると推察される。

遺物 1~4は土師器杯、5・6は土師器甕、7は土師器台付甕、8は高杯。2は掘り方面より出土。その他、土師器片多数、須恵器片2点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と埋土の状況から古墳時代後半と比定される。

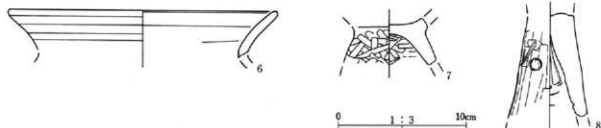


42号住居

1 暗褐色土 ローム粒、白色粒、炭化粒少量含む。粘性。締まり良い。

2 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック多量に含む。粘性。締まり良い。

第155図 5区42号住居 平・断面図 出土遺物 (1)



第156図 5区42号住居 出土遺物 (2)

43号住居 (第72・157図、P L26)

位置 5区 X=32416~420 Y=-41023~029

重複遺構 61・68号土坑、3号溝、24~27・65・69・94号ピットと重複。本住居は重複遺構より古い。

形態 調査区境に位置し、他の重複遺構が多いため全形不明。調査区内では長方形を呈する。

方位 計測不能 (N-2°-E)

規模 長軸4.90×短軸(2.60)m

調査区住居確認面のみ

面積 (10.404)m²

壁高 32cm

床面 調査時、重複遺構による削平のため、平面的

に床面を確認できなかった。そのため、掘り方調査を実施した。土層断面観察から6cm~8cm程の埋土を施し、床面を構築していると推察される。掘り方は概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

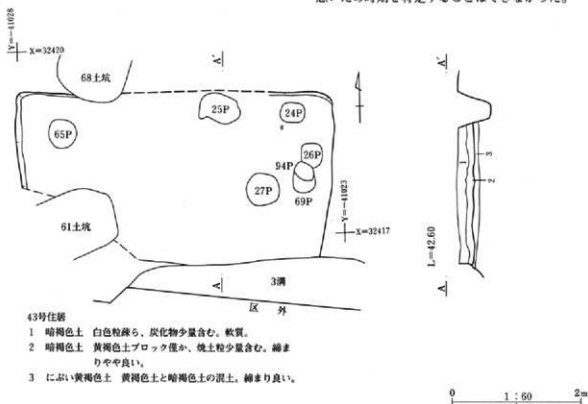
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。他の重複遺構のため消失したと考えられる。

遺物 土師器1点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物がほとんどなく、遺構も遺存状態が悪いため時期を特定することはできなかった。



43号住居

- 1 暗褐色土 白色粒疎ら、炭化物少量含む。軟質。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック僅か、焼土粒少量含む。締まりやや良い。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。締まり良い。

第157図 5区43号住居 平・断面図

5区 竪穴住居跡

44号住居 (第72・158図、P.L.26・77)

位置 5区 X=32421~425 Y=-41023~028

重複遺構 68・81号土坑、2号溝、58・59・60・63

・68号ピットと重複。本住居は重複遺構より古い。

形態 調査区境に位置し、他の重複遺構と上部からの削平による西壁付近の消失のため、全形不明。

方位 計測不能 (N-84°-W)

規模 長軸(4.20)×短軸(2.28)m

調査区住居確認面のみ

面積 (10.728)㎡

壁高 10cm

床面 上部からの削平のため床面は消失している。

そのため掘り方調査のみ実施した。掘り方は、概ね平坦で、住居中央から西壁付近に、方形の掘り込みとピット3基を検出した。

ピット P1 径28×28cm、深さ6cm

P2 径40×36cm、深さ5cm

P3 径32×30cm、深さ3cm

P1は位置的にみて、支柱穴の可能性がある。

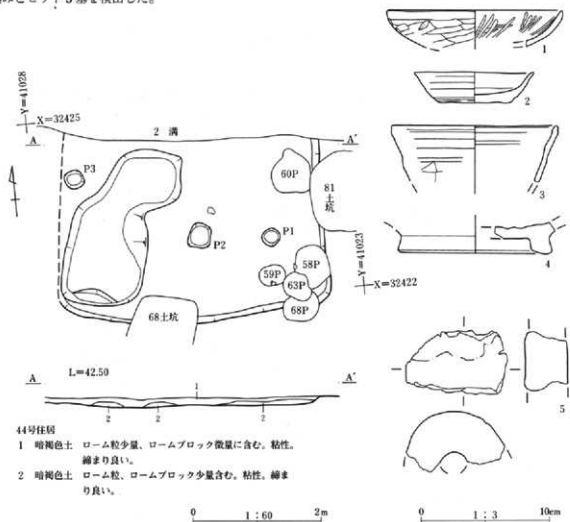
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。他の重複遺構による消失か、調査区外のいずれかの壁に構築されていると推察される。

遺物 1・2は土師器坏、3は土師器鉢、4は須恵器、5は羽口。その他、土師器片33点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物も少なく、遺構も遺存状態が悪いため時期を特定することはできなかった。



第158図 5区44号住居 平・断面図 出土遺物

(2) 土坑跡

5区から77基の土坑跡を検出した。5区の東側と西側は平成14年度に、5区中央は平成15年度に調査が行われた。そのため、調査が年度をまたいで行われた遺構も一部ある。他の調査区と同様に同一遺構確認面上での調査であるため明確な時期判定は難しかった。埋没土の土質・色調及び遺物の検討を行った。ただ、出土遺物や埋土・重複関係などから時期・用途を想定できたものは少なかった。また、住宅跡地のためか、上部からの削平や後世の攪乱があるものの、他の調査区に比して遺構の残存状況は良かった。それぞれの形態・規模については一覧表、遺構図を掲げている。土坑は、主に調査区中央から東側で確認されている。ピットも含めて掘立柱建物跡、溝列等の関連に着目し、整理時に検討を加えてみた

1号土坑 (第72・159図、第9表、P L27)

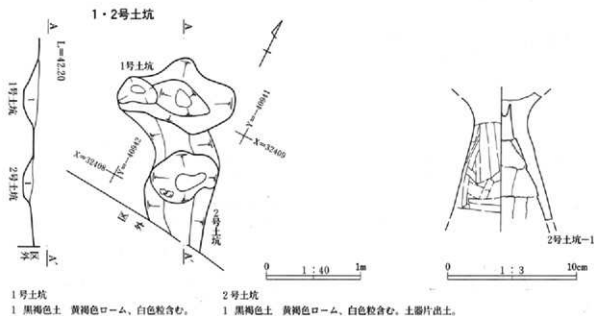
2号土坑 (第72・159図、第9表、P L27・77)

2号土坑は、不整形で調査区東側南境に位置し、1号土坑と重複する。断面形は漏斗状を呈し、底部は平坦なレベルであるが、小さな凹凸をもつ。埋土

が、該当するものはなかった。土坑は、調査区境に位置していたり、他の遺構との重複のため全形を確認できないものも多数あった。土坑を平面形態から、長方形(隅丸長方形も含む)、楕円形か円形、不整形に分けられる。調査時1号整穴住居跡と重複する42号土坑、25号住居内に位置する56号土坑は、遺物との検討の結果、貯蔵穴と判断した。単独の遺構として35・69号土坑からは、大量の完形の遺物が出土し、儀式的などが行われていたと想定できる。

以下、土坑について詳述する。

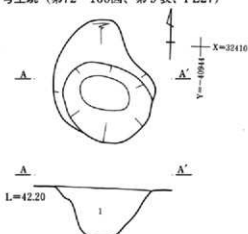
は、黒褐色土を主体にローム粒・ブロックを含む。遺物は、1の土師器高坏である。土師器片が出土しているが、図化できるものはなかった。時期を特定できなかった。



第159図 5区1・2号土坑 平・断面図、2号土坑出土遺物

5区 土坑跡

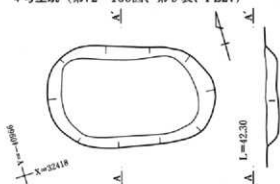
3号土坑 (第72・160図、第9表、PL27)



3号土坑

1 におい黄褐色土 黄褐色ロームを斑状に多量に含む。

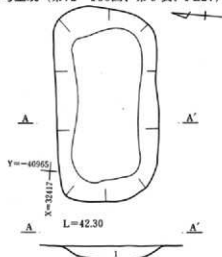
4号土坑 (第72・160図、第9表、PL27)



4号土坑

1 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に少量、黄褐色ローム粒を多量に含む。

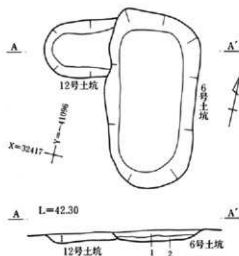
5号土坑 (第72・160図、第9表、PL27)



5号土坑

1 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に少量、黄褐色ローム粒を多量に含む。

6号・12号土坑 (第72・160図、第9表、PL27・28)



6号土坑

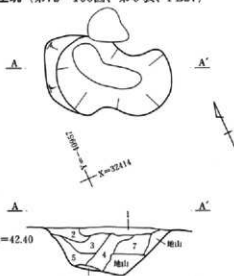
1 暗褐色土 黄褐色ローム粒を含む。

2 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に多量、黄褐色ローム粒を含む。

12号土坑

1 暗褐色土 暗褐色土とにおい黄褐色土と黄褐色ロームとの混土。

7号土坑 (第72・160図、第9表、PL27)



7号土坑

1 暗褐色土 現代の覆土

2 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に多量、黄褐色ローム粒を含む。

3 暗褐色土 黄褐色ローム粒を含む。

4 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に多量、黄褐色ローム粒を含む。

5 暗褐色土 黄褐色ロームをブロック状に、黄褐色ローム粒を含む。

6 におい黄褐色土 黄褐色ロームブロック主体、暗褐色土少量を含む。

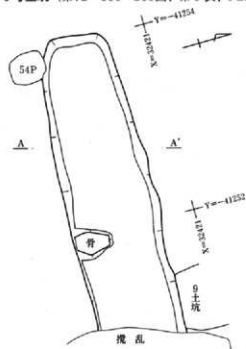
7 におい黄褐色土 黄褐色土ロームブロック主体、暗褐色土を含む。

第160図 5区3～7・12号土坑 平・断面図

0 1:40 1m

8号土坑 (第72・161・261図、第9表、PL28)

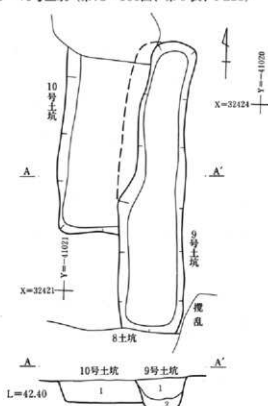
9・10号土坑 (第72・161図、第9表、PL28)



A L=42.40 A'

8号土坑

1 黒褐色土 黄褐色土ローム、白色粒、ローム粒少量含む。



A L=42.40 A'

9号土坑

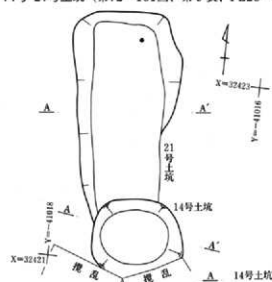
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

2 黒褐色土 ローム粒中量含む。

10号土坑

1 暗褐色土 黄褐色土ロームブロック僅かに含む。

14号・21号土坑 (第72・161図、第9表、PL28・29)



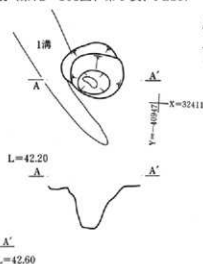
A L=42.60 A'

21号土坑

1 暗褐色土 黄褐色土ローム粒多量、白色粒含む。

14号土坑

11号土坑 (第72・161図、第9表、PL28)



L=42.20

A L=42.60 A'

L=42.60

14号土坑

1 黒褐色土 黄褐色土ロームブロック少量、黄褐色土ローム粒多量含む。

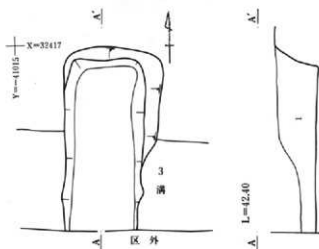
2 におい黄褐色土 黄褐色土ロームと黒褐色土との混土。

第161図 5区 8～11・14・21号土坑 平・断面図

0 1:40 1m

5区 土坑跡

15号土坑 (第72・162図、第9表、PL28)

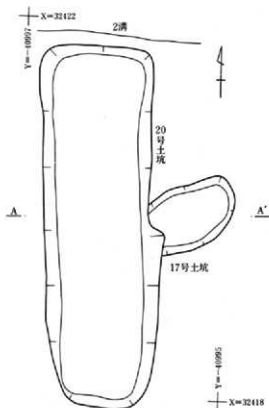


15号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色ロームブロックを多量に含む。やや粘性、締まり良い。

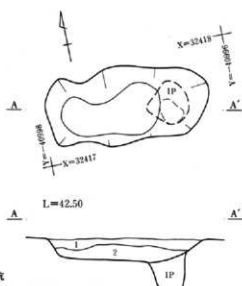
17号土坑・20号土坑(第72・162図、第9表、P.L.29・77)

17・20号土坑は、調査区東側に位置し、重複する。20号土坑に17号土坑が掘り壊されていることから、20号土坑が新しく、17号土坑が古い。17号土坑の遺物は、小片のため図化できなかつた。20号土坑は、南北に長い隅丸長方形を呈する。断面は四角形



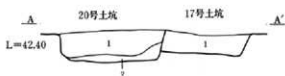
第162図 5区15~17・20号土坑 平・断面図 20号土坑出土遺物

16号土坑 (第72・162図、第9表、PL28)



16号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色ローム粒を含む。
2 暗褐色土 黄褐色ロームブロック、黄褐色ローム粒多量を含む。を呈し、深さ40cmを測る。底部は多少の凹凸があるが平坦である。堀土は、黒褐色土を主体に、黄褐色ロームブロックを含む。遺物は、1の灰軸陶器胴部片。その他、土師器片61点、須恵器片5点出土したが、図化できず、2基の土坑とも時期の特定ができなかつた。



17号土坑

- 1 黒褐色土 黄褐色ローム粒を含む。

20号土坑

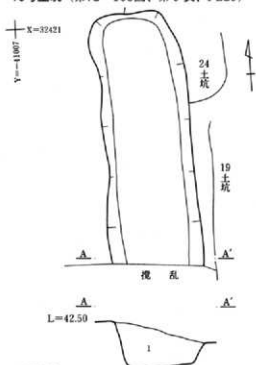
- 1 黒褐色土 黄褐色ロームブロック多量を含む。
2 褐色土 黄褐色ロームブロック多量を含む。

0 1:40 1m



0 1:3 10cm

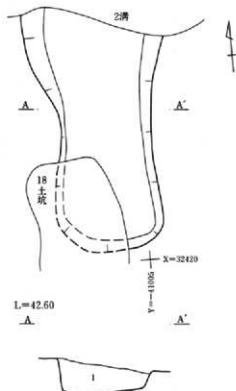
18号土坑 (第72・163図、第9表、PL29)



18号土坑

1 黒褐色土 黄褐色ロームブロック、黄褐色ローム粒多量に含む。

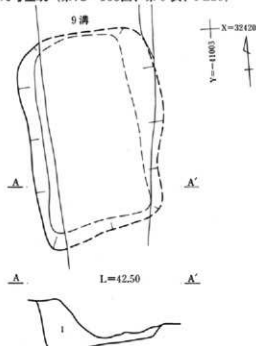
24号土坑 (第72・163図、第9表、PL29)



24号土坑

1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。

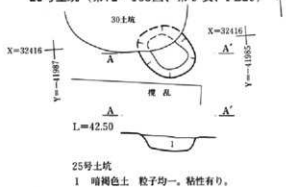
19号土坑 (第72・163図、第9表、PL29)



19号土坑

1 灰黄褐色土 黄褐色土ロームブロック多量に含む。

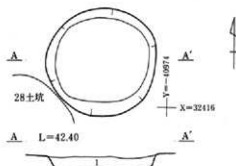
25号土坑 (第72・163図、第9表、PL29)



25号土坑

1 暗褐色土 粒子均一、粘性有り。

26号土坑 (第72・163図、第9表、PL30)



26号土坑

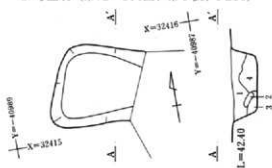
1 暗褐色土 ローム粒、ブロック少量含む。粒子均一、粘性。

第163図 5区18・19・24～26号土坑 平・断面図

0 1:40 1m

5区 土坑跡

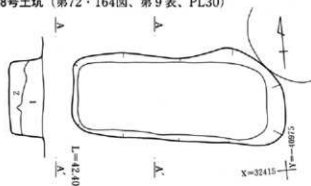
27号土坑 (第72・164図、第9表、PL30)



27号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック斑点状に多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒徑かに含む。粘性有り。
- 4 黒褐色土 ローム小ブロック少量含む。粘性。

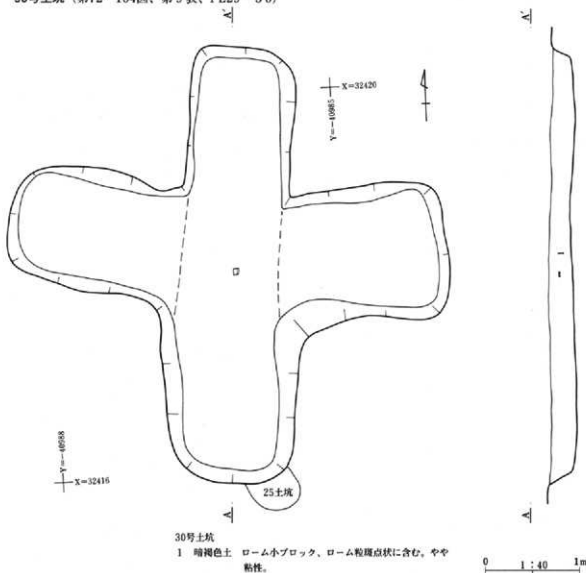
28号土坑 (第72・164図、第9表、PL30)



28号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック多量に含む。粘性。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。粘性。色調やや明色。

30号土坑 (第72・164図、第9表、PL29・30)

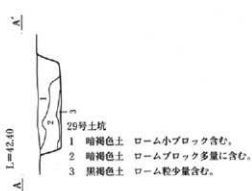
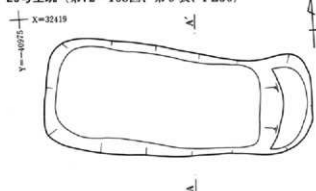


30号土坑

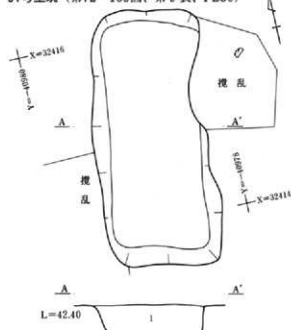
- 1 暗褐色土 ローム小ブロック、ローム粒斑点状に含む。やや粘性。

第164図 5区27・28・30号土坑 平・断面図

29号土坑 (第72・165図、第9表、PL30)



31号土坑 (第72・165図、第9表、PL30)

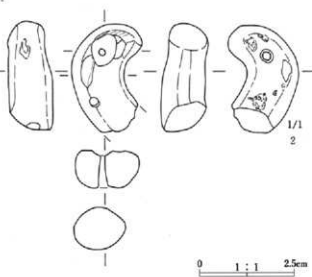
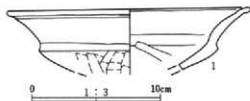
31号土坑
1 暗褐色土 ローム小ブロック、ローム粒斑点状に多量に含む。

33号土坑 (第72・165図、第9表、PL31)

33号土坑
1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック僅かに含む。

32号土坑 (第72・165・166図、第9表、P L 30・77)

32号土坑は、調査区東側中央よりに位置し、2・10号溝跡に近接する。南北に長い楕円形で断面は台形を呈し、深さ25cmを測る。底部は概ね平坦である。掘土は、黒褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は、1が土師器高坏坏部、2は勾玉である。その他、土師器胴部片33



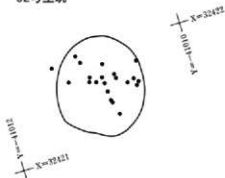
第165図 5区29・31・33号土坑 平・断面図 32号土坑出土遺物

5区 土坑跡

点出土してるが、小片のため図化できなかった。竪穴住居の貯蔵穴の残骸か墓坑の可能性があるが、周囲に関連する時期の遺構を検出できず、土坑の性格

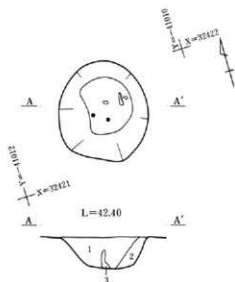
を特定することはできなかった。出土遺物の状況から6世紀後半と比定される。

32号土坑



32号土坑

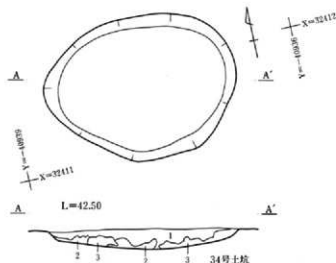
- 1 黒褐色土 ローム粒、赤褐色粒を斑状状に含む。綿まりよい。
- 2 暗褐色土 1層黒褐色土とローム小ブロックの混土。
- 3 黄褐色土 ロームブロック。



34号土坑 (第72・166図、第9表、P L31・77)

34号土坑は、調査区東側に位置する。東西に長い楕円形で断面は皿状を呈し、底面は多少の凹凸はあるが、平坦である。堀土は、暗褐色砂質土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は、1の土

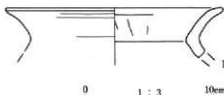
師器甕口縁部片である。その他、土師器甕口縁部片、胴部片、底部片51点出土してるが、小片のため図化できなかった。周囲に関連する時期の遺構を検出できず、土坑の性格を特定することはできなかった。出土遺物の状況から古墳時代後期と比定される。



34号土坑

- 1 暗褐色土 粒子均一。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量混じる。粒子均一。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量混じる。粒子均一。色調明るい。

0 1:40 1m

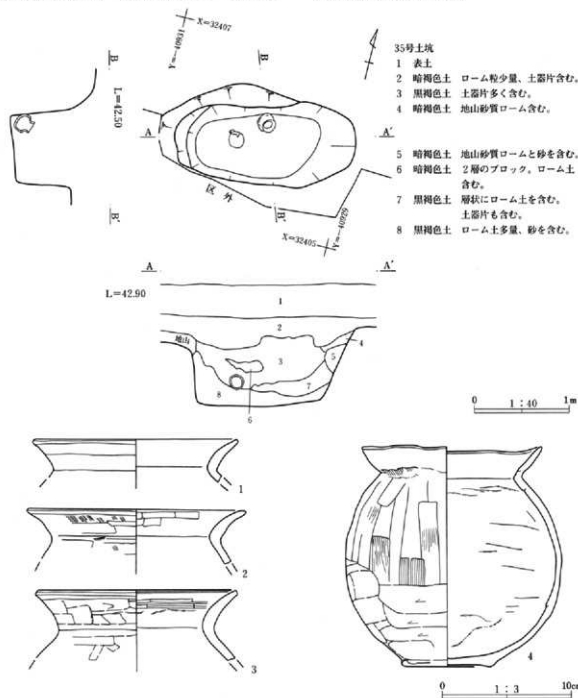


第166図 5区32・34号土坑 平・断面図 34号土坑出土遺物

35号土坑 (第72・167・168図、第9表、P L31・77・78)

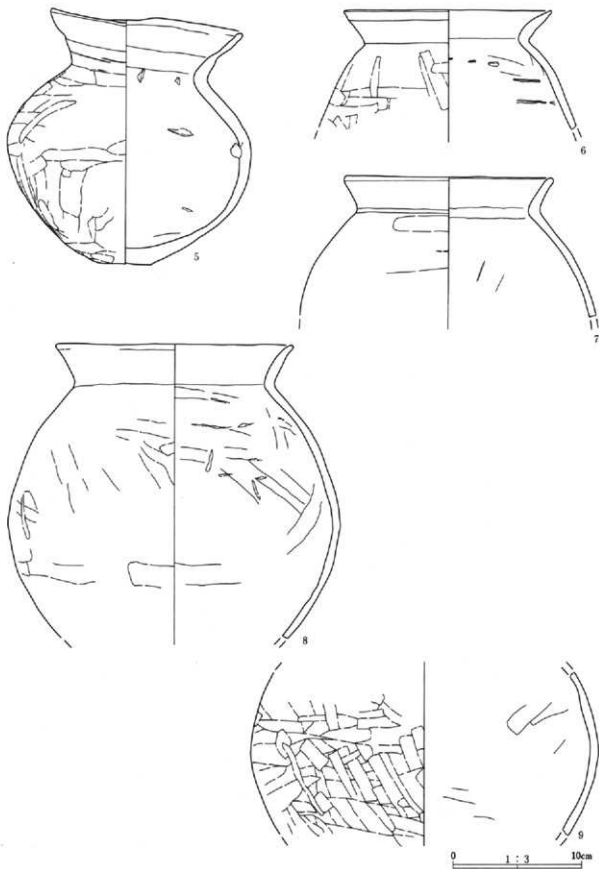
35号土坑は、調査区東側、南区境に位置し、40号土坑と近接する。不整形であるが、やや東西に長い。断面は台形を呈し、深さ78cmを測る。底部は、土層断面に表せなかったが灰褐色粘性土を敷き詰めてあり、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。人為埋没土の可能性はある。遺物1～9は土師器甕で4・5はほぼ

宛形の甕、1～3・6～9は甕の口縁部から胴部片である。その他、土師器片多数、須恵器胴部片2点出土しているが、小片のため図化できなかった。土器溜まりか、墓坑の可能性はあるが、周囲に関連する時期の遺構を検出できず、土坑の性格を特定することはできなかった。出土遺物の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



第167図 5区35号土坑 平・断面図 出土遺物 (1)

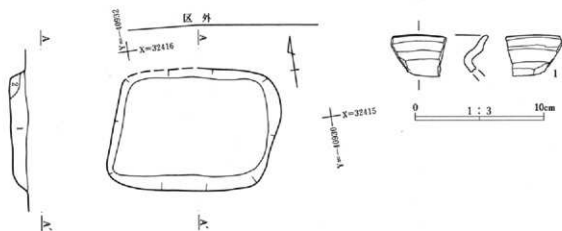
5区 土坑葬



第168图 5区35号土坑 出土遗物 (2)

36号土坑 (第72・169図、第9表、P L31・78)

36号土坑は、調査区東側に位置し、調査区北境と1・2号住居に近接する。北壁一部消失している。隅丸長方形で断面は台形を呈し、深さ21cmを測る。底部は、やや凹凸がある。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロック、白色軽石粒を含む。



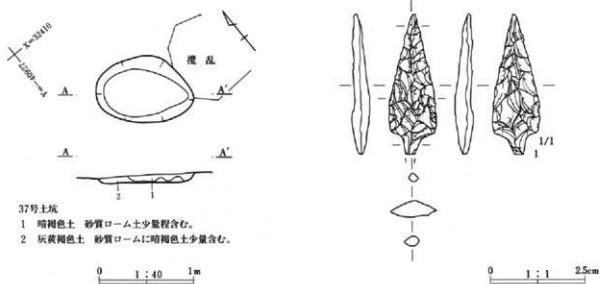
36号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、白色軽石含む。
- 2 明灰褐色砂質ローム土 地山。

37号土坑 (第72・169図、第9表、P L31・78)

37号土坑は、調査区東側に位置する。やや東西に長い楕円形で、深さ5cm～7cmを測る。底部は概ね平坦である。遺物は、1の石鏃である。その他、土

師器片6点出土しているが、小片のため図化できなかった。1は、混入の可能性が高い。出土遺物、埋土の状況から時期を特定することはできなかった。



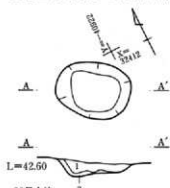
37号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ローム土少量含む。
- 2 灰黄褐色土 砂質ロームに暗褐色土少量含む。

第169図 5区36・37号土坑 平・断面図 出土遺物

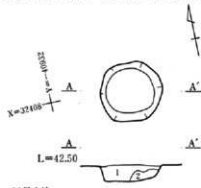
5区 土坑跡

38号土坑 (第72・170図、第9表、PL31)



- 38号土坑
 1 暗褐色砂質土 焼土粒含む。
 2 明灰黄褐色砂層 地山。

39号土坑 (第72・170図、第9表、PL31)

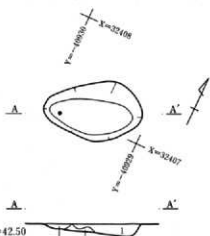


- 39号土坑
 1 暗褐色土 炭化物含む。締まり弱い。
 2 暗褐色土 灰黄褐色砂質ロームを中量含む。

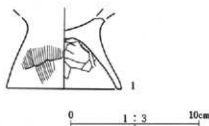
40号土坑

40号土坑は調査区東側、35号土坑と近接する。やや東西に長い楕円形で、断面は西側の浅い台形を呈し、深さ13cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、

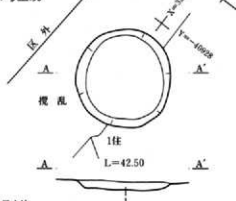
暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は、1土師器台付甕の脚部が出土した。出土遺物や埋土の状況から時期を特定することはできなかった。



- 40号土坑
 1 暗褐色土
 2 暗褐色土 砂質ローム少量含む。
 3 黒褐色土 炭化物少量含む。締まり良い。



41号土坑



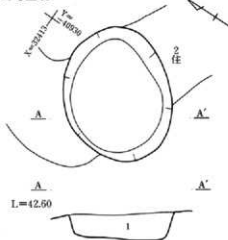
- 41号土坑
 1 暗褐色土 部分的に灰黄褐色砂質ロームをブロック状に含む。

41号土坑 (第72・170図、第9表、P L32)

43号土坑 (第72・171図、第9表、P L32・78)

43号土坑は、調査区東側に位置し、1・2号住居と重複する。1・2号住居を掘り壊しているところから、本遺構の方が新しいと考えられる。ほぼ円形で断面は皿状を呈し、深さ21cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、灰黄褐色砂質ロームブロックを含む。遺物は、1の高坏。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。1は混入の可能性が高い。出土遺物や埋土の状況から時期を特定することはできなかった。

43号土坑



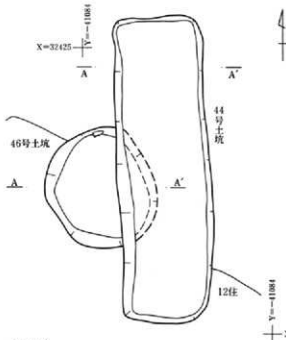
43号土坑

1 暗褐色土 灰黄褐色砂質ロームブロックを僅かに含む。



44・46号土坑 (第72・171図、第9表、P L32・78)

44・46号土坑は、調査区西側に位置し、12号住居と重複。調査状況から46号土坑は12号住居より新しく、44号土坑より古い。44号土坑は長方形で断面長方形。46号土坑は楕円形で、断面長方形、深さ20cmを測る。底部は多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

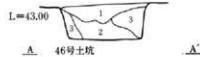


44号土坑

- 1 暗褐色土 白色粉、砂質ロームブロック少量含む。土器片多量に含む。
- 2 暗褐色土 白色粉少量、ローム小ブロック多量に含む。繻まり良し。
- 3 暗褐色土 白色粉、ローム粉少量含む。粒子均一。繻まり良し。

る。埋土は、暗褐色土を主体に、ロームブロック、焼土粒を含む。46号土坑から1・2の須恵器坏出土。その他、土師器片、須恵器片が出土するが、小片のため図化できなかった。出土遺物と埋土の状況から奈良・平安時代と比定される。

A. 44号土坑 A'

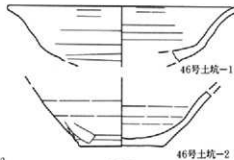


A. 46号土坑 A'



46号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、炭化物、砂質ロームブロック少量含む。



46号土坑-2

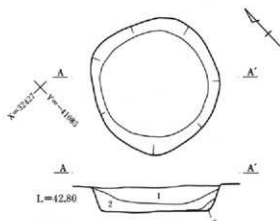


第171図 5区43・44・46号土坑 平・断面図 43・46号土坑出土遺物

5区 土坑跡

45号土坑 (第72・172図、第9表、P L32・78)

45号土坑は、調査区西側中央に位置し、15・16号住居、44号土坑と近接する。ほぼ円形で断面は台形を呈し、深さ29cmを測る。底部は、多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、

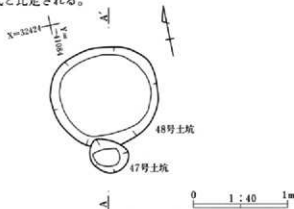


45号土坑

- 1 暗褐色土 白色細粉状、ローム小ブロック少量、土器片含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 粒子が細かく、白色粒少量、ローム小ブロック。下層に砂を含む。締まり良い。
- 3 暗褐色土 白色粒が少なくなる。2層より色調やや明色。

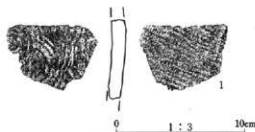
47号土坑 (第72・172図、第9表、P L32・78)

47号土坑は、調査区西側に位置し、48号土坑と重複する。遺構確認の状況から48号土坑より新しい。楕円形で、断面は四角形を呈し、深さ30cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、ロームブロック、白色粒、下層に遺物破片を少量含む。遺物は、1の完形の土師器坏である。その他、土師器片16点出土したが、小片のため固化できなかった。出土遺物と埋土の状況から奈良・平安時代と比定される。



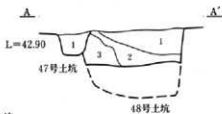
第172図 5区45・47・48号土坑 平・断面図 45・47号土坑出土遺物

ローム粒・ロームブロック、白色粒を含む。遺物は、1の須恵器甕胴部片出土。その他、土師器片多数、須恵器胴部片5点出土しているが、小片のため固化できなかった。出土遺物と埋土の状況から古墳時代と比定される。



48号土坑 (第72・172図、第9表、P L32)

48号土坑は、調査区西側に位置し、南側で47号土坑と重複する。遺構確認の状況から47号土坑より古い。ほぼ円形で、断面は皿状を呈し、深さ70cmを測る。底部は、多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロックを少量含む。土層断面調査時は深さ35cmで底部と判断したが、調査の結果、掘り方は深さ70cmを測る状況になった。そのため、エレベーションを断面に付け加えてある。遺物は、土師器片多数出土したが、小片のため固化できなかった。重複遺構と埋土の状況から古墳時代後半と比定される。



47号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック、白色粒少量、土器片少量含む。締まり良い。

48号土坑

- 1 暗褐色土 砂質ロームブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒程かに含む。炭少量含む。
- 3 暗褐色土 砂質ロームブロック中量含む。

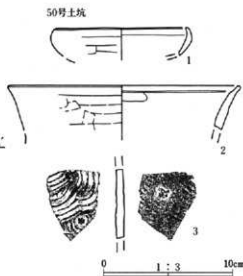


49号・50号土坑 (第72・173図、第9表、P L32・33・78)

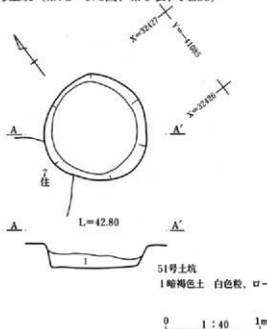
49・50号土坑は、調査区西側に位置する。50号土坑が49号土坑を掘り壊していることから、50号土坑の方が新しい。49号土坑は楕円形で、断面は浅い皿状を呈する。50号土坑は円形で断面は四角形を呈し、深さは154cmを測る。底部は、概ね平坦である。



遺物は、1が土師器環、2は土師器甕、3は須恵器甕である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。周囲の状況や出土遺物から、土坑の性格を特定できなかった。柱穴か、井戸の可能性も考えられる。出土遺物や埋土の状況から古墳時代後半と比定される。



51号土坑 (第72・173図、第9表、PL33)



51号土坑
1 暗褐色土 白色粒、ローム粒少量含む、締まり良い。

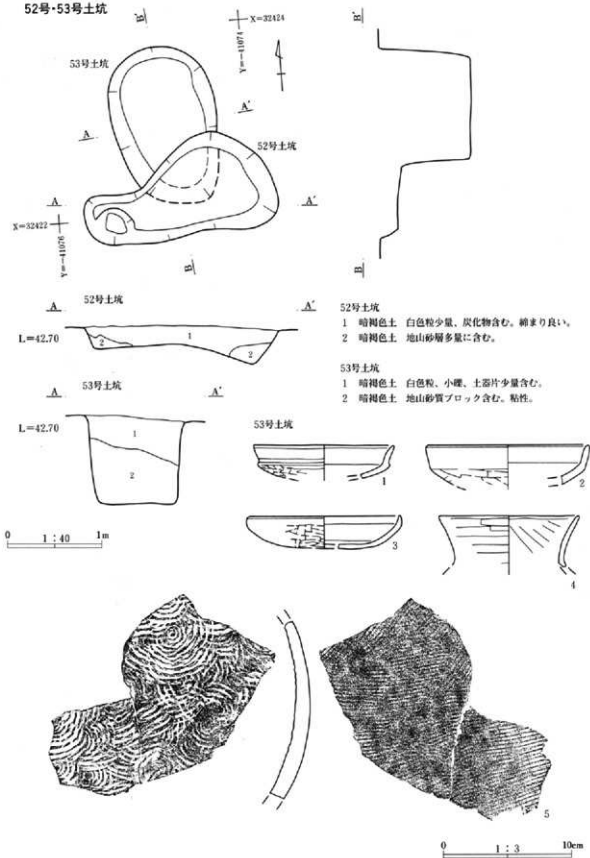
52号・53号土坑 (第72・173・174図、第9表、P L33・78)

52・53号土坑は、調査区西側に位置。52号土坑が53号土坑を掘り壊していることから、本遺構の方が新しい。52号土坑は不定形で、深さ20cm。53号土坑は隅丸長方形で、52号土坑にほぼ直交する。断面は四角形で、深さ72cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、白色粒、小礫を含む。遺物は、1・2・3が土師器環、4は土師器甕、5は須恵器甕である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物と埋土の状況から古墳時代後半と推定。

第173図 5区49～51号土坑 平・断面図 50号土坑出土遺物

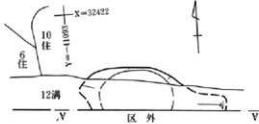
5区 土坑跡

52号・53号土坑



第174図 5区52・53号土坑 平・断面図 53号土坑出土遺物

54号土坑 (第72・175図、第9表、PL33)



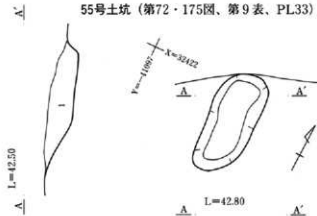
54号土坑

1 暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む

57号土坑 (第72・175図、第9表、P L33・78)

57号土坑は、調査区西側に位置し、平成14年度調査と15年度調査の境界にある。23号住居と重複。遺構確認と調査状況から本遺構の方が古い。楕円形で断面は台形を呈し、深さ122cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒・ロームブロック、小円礫を含む。遺物は、1・2が土師器杯、3は土師器蓋、4は須恵器蓋、5は須

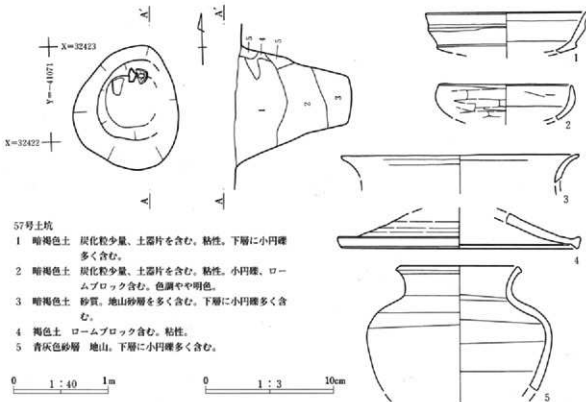
55号土坑 (第72・175図、第9表、PL33)



55号土坑

1 暗褐色土 粒子均一、
2 暗褐色土 地山ローム混入土。

恵器短頸壺である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため固化できなかった。遺構の形態と埋土の状況から井戸の可能性が高い。出土遺物の状況から奈良・平安時代と比定される。



57号土坑

1 暗褐色土 炭化粒少量、土器片を含む。粘性。下層に小円礫多く含む。
2 暗褐色土 炭化粒少量、土器片を含む。粘性。小円礫、ロームブロック含む。色調やや明色。
3 暗褐色土 砂質。地山砂層を多く含む。下層に小円礫多く含む。
4 褐色土 ロームブロック含む。粘性。
5 青灰色砂層 地山。下層に小円礫多く含む。

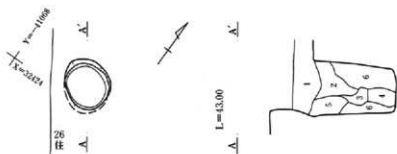
0 1:40 1m

0 1:3 10cm

第175図 5区54・55・57号土坑 平・断面図 57号土坑出土遺物

5区 土坑跡

58号土坑 (第72・176図、第9表、PL33)



58号土坑

- 1 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック、焼土粒・焼土ブロック、白色微粒子、炭化物僅かに含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック、白色微粒子少量、炭化物僅かに含む。締まりやや良い。

- 3 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土ブロック多量に含む。
- 4 暗褐色土 砂質。焼土粒微量に含む。
- 5 暗褐色土 砂質。焼土粒僅かに含む。
- 6 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土とにおい黄褐色土少量含む。

59号土坑 (第72・176図、第9表、P L34・79)

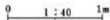
59号土坑は、調査区中央に位置し、36号住居と重複する。36号住居の竈下から検出されたため本遺構の方が古い。不整形であるが、やや南北に長い。断面は台形を呈し、深さ80cmを測り、底部は平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に焼土粒、炭化物、ロ

ーム粒・ロームブロックを含む。下層はにおい黄褐色土である。遺物は、1の土師器坏口縁部である。その他、土師器台付甕の底部、土師器胴部片多数、須恵器口縁片1点出土しているが、小片のため図化できなかった。重複遺構、出土遺物の状況から古墳時代後半と比定される。



59号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒、ブロック含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 砂質。黄褐色土粒疎らに含む。締まり良い。粒子細かい。
- 3 暗褐色土 砂質。黄褐色土粒含む。
- 4 におい黄褐色土 砂質。黄褐色ブロック、小石含む。



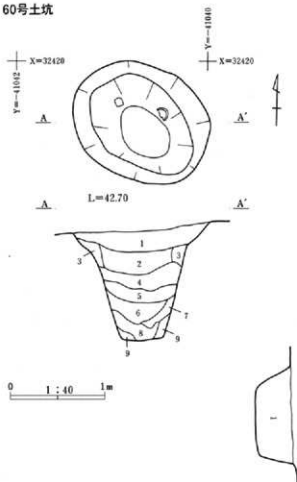
第176図 5区58・59号土坑 平・断面図 59号土坑出土遺物

60号土坑 (第72・176・177図、第9表、P L34・79)

60号土坑は、調査区中央に位置する。東西に長い楕円形である。断面は上位から44cmほどでややくびれ、そのまま細まっていく。深さ126cmを測る。底部は、西側がやや低い緩やかな勾配を持つ。埋土は、上層が暗褐色土を主体に、焼土粒、炭化物、におい

黄褐色土を含み、下層はにおい黄褐色砂質土である。遺物は、1の土師器坏である。その他、土師器片18点出土しているが、小片のため図化できなかった。遺構平面と土層断面、埋土の状況から、井戸の可能性がある。出土遺物の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。

60号土坑



61号土坑

1 1 におい黄褐色土 黄褐色土微量、円礫僅かに含む。軟質。

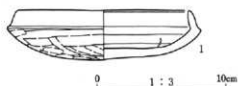
63号土坑 (第72・177・178図、第9表、P L 34・79)

63号土坑は、調査区中央に位置し、30号住居と重複する。30号住居を掘り壊していることから、本土坑の方が新しい。楕円形で、断面は漏斗状になっており、上位44cmほどで急にすぼまり下位は円筒形となっている。深さ118cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土主体におい黄褐色土を含む。遺物は、1～3が土師器甕。その他、土師器片多数、須恵器片5点出土しているが、小片のため図化できなかった。

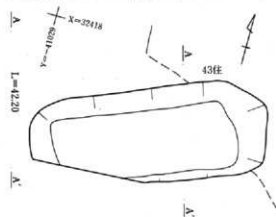
出土遺物の状況から6世紀後半から7世紀頃と比定される。

60号土坑

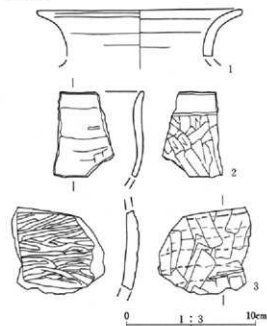
- 1 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック、白色微粒子薄らに含む。粘まり良い。
- 2 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック、白色微粒子少量、炭化物僅かに含む。
- 3 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土少量、焼土粒僅かに含む。
- 4 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土中量、炭化物僅かに含む。
- 5 暗褐色土 焼土粒と炭化物を僅かに含む。
- 6 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土ブロック、褐色土、焼土粒、炭化物僅かに含む。
- 7 暗褐色土 砂質。におい黄褐色土僅かに含む。
- 8 におい黄褐色土 砂質。炭化物僅かに含む。
- 9 におい黄褐色土 砂質。



61号土坑 (第72・177図、第9表、PL34・79)

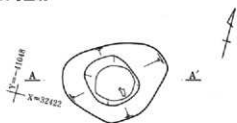


63号土坑



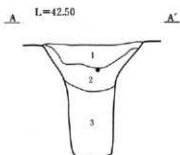
5区 土坑跡

63号土坑



63号土坑

- 1 暗褐色土 砂質。黄褐色土粒、赤色土粒含む。締まりやや良い。

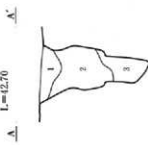
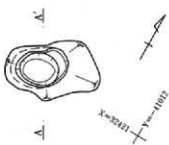


- 2 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック、小石含む。締まりやや良い。
3 暗褐色土 砂質。小石含む。

64号土坑 (第72・178図、第9表、P L34・79)

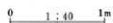
64号土坑は、調査区中央に位置し、30・36号住居と重複する。遺構確認時より、64号土坑がいずれの遺構よりも新しい。不整形であるが、やや東西に長い。断面はやや2段の袋状で、上位32cmで一旦狭まり、68cmのところでもう一度狭まり径30cmほどの円筒形で底部に至る。深さ110cmを測る。底部は、やや南が高い斜面となっている。埋土は、暗褐色土を

主体に、焼土粒、白色粒、ローム粒・ロームブロックを含む。遺物は、1の須恵器甕胴部片である。その他、土師器片多数、須恵器口縁片・胴部片2点出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物と埋土の状況から時期を特定することはできなかった。平面の形態と土層断面の状況から井戸の可能性もある。



64号土坑

- 1 暗褐色土 焼土ブロック微量、白色粒含む。粘性。締まり良い。
2 暗褐色土 ローム粒少量、焼土粒微量含む。粘性。締まり良い。1層より色調暗い。
3 暗褐色土 砂質。小石含む。



第178図 5区63・64号土坑 平・断面図 64号土坑出土遺物

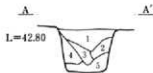
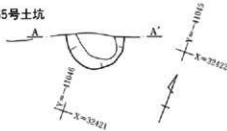
65号土坑 (第72・179図、第9表、P L34・79)

65号土坑は、調査区中央に位置し、30号住居南側で重複する。30号住居に掘り壊されていることから、65号土坑の方が古い。重複のため全形は不明であるが、調査区の状況から楕円形を呈すると推察される。断面は四角形で、底部は、概ね平坦である。埋土は、上層が暗褐色土を主体に、焼土粒、白色粒、

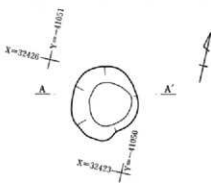
黄褐色土ブロックを含む。底部付近の下層はにぶい黄褐色土である。遺物は、1の土師器台付甕底部片である。その他、土師器片21点出土しているが、小片のため図化できなかった。重複関係、出土遺物と埋土の状況から8世紀以前と考えられるが、時期を特定することはできなかった。

5区 土坑跡

65号土坑



66号土坑 (第72・179図、第9表、PL34)



65号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色粉含む。締まり強い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土、焼土少量含む。締まり強い。
- 3 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック微量、焼土少量含む。締まりやや良い。
- 4 暗褐色土 砂質。焼土少量含む。締まりやや良い。
- 5 におい黄褐色土 砂質。円礫少量含む。



66号土坑

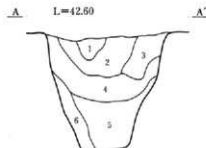
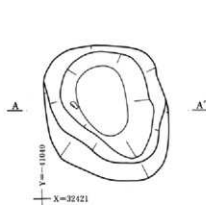
- 1 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物疎らに含む。締まり強い。
- 2 暗褐色砂質土 黄褐色土疎らに含む。締まり強い。

67号土坑 (第72・179・180図、第9表、P L34・79)

67号土坑は、調査区中央に位置し、37号住居南西コーナーで重複する。37号住居を掘り壊していることから本遺構の方が新しい。平面は方形にちかい不整形で、断面は台形を呈する。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土と黒褐色土を主体に、白色粒、焼土粒、黄褐色土ブロックを含む。遺物は、1・2は土師器甕口縁部片である。その他、S字型口縁部片や土師器片が多数、須恵器胴部片2点出土しているが、小片のため図化できなかった。遺物は37号住と重複しているため混入の可能性もある。土坑の性格や時期を特定することはできなかった。

67号土坑

- 1 黒褐色土 焼土粒、白色微粒子疎らに含む。粘性。締まり良い。
- 2 暗褐色土 白色微粒子微量に含む。粘性。締まり良い。
- 3 黒褐色土 白色微粒子微量に含む。締まり強い。
- 4 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック多量に含む。粘性。締まり良い。



- 5 黒褐色土 焼土、炭化物微量に含む。粘性。締まり良い。
- 6 暗褐色土 におい黄砂質土微量に含む。粘性。締まり良い。

0 1:40 1m

第179図 5区65~67号土坑 平・断面図 65号土坑出土遺物

5区 土坑跡

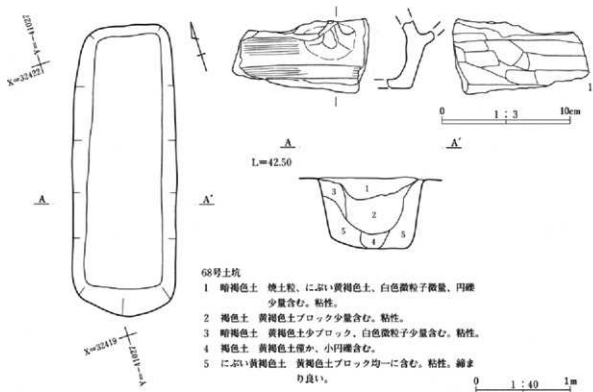


第180図 5区67号土坑 出土遺物

68号土坑 (第72・181図、第9表、P L35・79)

68号土坑は、調査区中央に位置し、43号住居北壁側・44号住居南壁側で重複する。いずれの遺構も掘り壊していることから本遺構の方が新しい。隅丸長方形で南北にやや長い、断面は台形を呈する。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土と褐色土を主体に、焼土粒、白色粒、黄褐色土ブロックを含む。

人為埋没の可能性がある。遺物は、1の内耳鍋である。その他、土師器片、須恵器片少数出土しているが、小片のため図化できなかった。また、出土遺物から時期を特定することはできなかった。ただ、平面の形態、埋土の状況から、中近世の遺構と推定される。



68号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、にぶい黄褐色土、白色微粒子微量、円礫少量含む。粘性。
- 2 褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。粘性。
- 3 暗褐色土 黄褐色土少ブロック、白色微粒子少量含む。粘性。
- 4 褐色土 黄褐色土薄か、小円礫含む。
- 5 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック均一に含む。粘性。締まり良い。

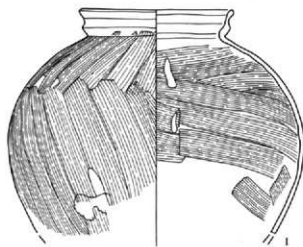
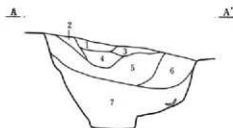
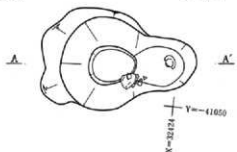
第181図 5区68号土坑 平・断面図 出土遺物

69号土坑 (第72・182図、第9表、P L35・79)

69号土坑は、調査区中央に位置し、30号住居北壁、41号住居東壁で重複する。いずれの遺構も掘り壊していることから本遺構の方が新しい。平面は鍵穴型にちかい不整形で、断面は椀型を呈する。底部は、概ね平坦である。深さは92cmを測る。埋土は、暗褐色土と黒褐色土を主体に、白色粒、焼土粒、炭

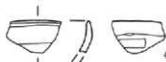
化粒、黄褐色土ブロックを含む。遺物は、1がS字台付壺、2は土師器埴、3・4は土師器坏である。その他、土師器片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物の状況から古墳時代と比定される。土坑の形態、掘り方の状況から2基の土坑の重複と推察されるが、土坑の性格を特定することはできなかった。

69号土坑



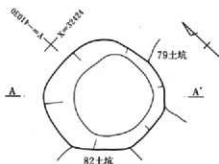
69号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子、炭化物含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子、炭化物含む。黄褐色土ブロック層らに含む。
- 3 黒褐色土 炭化物含む。締まり強い。
- 4 黒褐色土 炭化物層らに含む。締まり弱い。
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、炭化物含む。締まり強い。
- 6 黄褐色土 炭化物層らに含む。締まり強い。
- 7 黄褐色土 粘性。軟質。



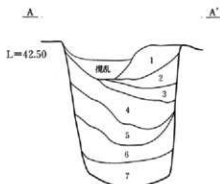
0 1:3 10cm

70号土坑 (第72・182図、第9表、PL35)



70号土坑

- 1 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック僅か、焼土粒、白色微粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 砂質。黄褐色土少ブロック僅かに含む。粘性。
- 3 暗褐色土 砂質。黄褐色土、小円礫含む。
- 4 暗褐色土 砂質。黄褐色土僅か、焼土粒含む。
- 5 濃い黄褐色土 砂質。黄褐色砂多量に含む。



- 6 暗褐色土 砂質。黄褐色土含む。粘性。
- 7 暗褐色土 砂質。黄褐色土多量に含む。

0 1:40 1m

第182図 5区69・70号土坑 平・断面図 69号土坑出土遺物

5区 土坑跡

71号土坑 (第72・183図、第9表、P L35・79)

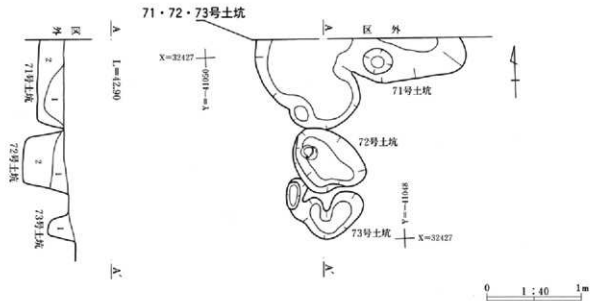
71号土坑は、調査区中央、北区境に位置し、2号溝と重複する。2号溝を掘り抜いていることから、本土坑の方が新しい。調査区境に位置するため全形は不明である。やや東西に長い不整形である。断面は台形を呈し、深さ28cmを測る。底部は、中央にピット状の掘り込みをもつが、概ね平坦である。埋土

は、暗褐色土を主体に、黄褐色土ブロックを含む。遺物は、1土師器高坏である。その他、土師器片少数出土しているが、小片のため図化できなかった。また、1は混入の可能性が高い。埋土や出土遺物から土坑の性格を特定することはできなかった。2号溝が比較的新しい時代(近世)の遺構と考えられることから本土坑も近世以降と推定される。

72号土坑 (第72・183図、第9表、P L35・79)

72号土坑は、調査区中央、北区境よりに位置し、71・73号土坑と近接する。不整形であるが、やや南北に長い。断面は台形を呈し、深さ34cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、黄褐色ブロックを含む。遺物は、1のほぼ完形の土

師器小型甕である。その他、遺物は出土していない。埋土の状況と出土遺物から土坑の性格を特定することはできなかった。周囲に竪穴住居が重複して出土していることから、掘り方まで削平された住居跡の貯蔵穴の可能性も考えられる。出土遺物から6世紀後半から7世紀頃と比定される。



71号土坑

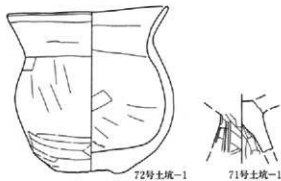
- 1 暗褐色土 砂質。黄褐色土ブロック、赤色土粒疎らに含む。
- 2 暗褐色土 砂質。下層の砂を少量含む。

72号土坑

- 1 暗褐色土 白色粒、焼土、炭化物を疎らに含む。黄褐色土粒含む。締まり良い。
- 2 黄褐色土 暗褐色土含む。締まり弱い。

73号土坑

- 1 暗褐色土 焼土、白色炭粒子、炭化物疎らに含む。締まり良い。

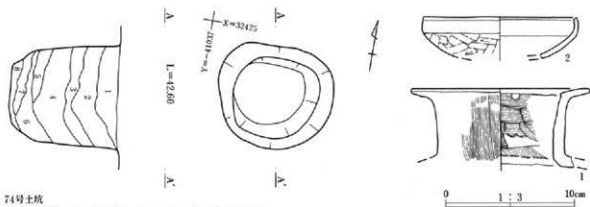


第183図 5区71～73号土坑 平・断面図 出土遺物

74号土坑 (第72・184図、第9表、P.L35・79)

74号土坑は調査区中央、37号住居東壁付近に位置し、37号住居と重複する。37号住居を掘り壊していることから本土坑の方が新しい。楕円形で、断面はU字状を呈し、深さ123cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、ローム粒、黄褐色土粒、焼土粒を含む。中層に20cmほどのに

黄褐色土が含まれる。遺物は、1が土師器壺、2は土師器坏出土。その他、土師器小片多数出土しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物と埋土の状況から7世紀から8世紀頃と比定される。土坑の性格は特定することはできなかったが、平面の形態と土層断面の状況から井戸の可能性がある。



74号土坑

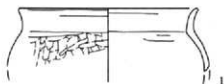
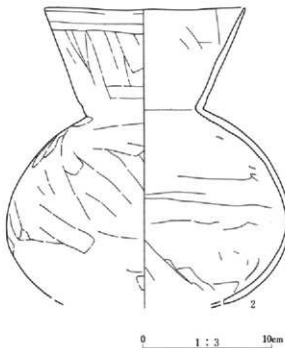
- 1 暗褐色土 ローム粒疎ら、ロームブロック多量、白色粒少量含む、粘性、締まり良い。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量、雑礫らを含む、粘性、締まり良い。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量、ロームブロック疎ら、白色粒微量含む、粘性、締まり良い。

0 1:40 1m

- 4 暗褐色土 ローム粒微量、炭化粒少量含む、粘性、締まり良い。
- 5 暗褐色土 砂粒多量を含む、粘性、締まり良い。
- 6 暗褐色土 炭化粒微量含む、粘性、締まり良い。
- 7 暗褐色土 砂粒多量を含む、粘性、締まり強い。
- 8 暗褐色土 シルト質、粘性強、締まり非常に良い。

75号土坑 (第72・184・185図、第9表、P.L35・79)

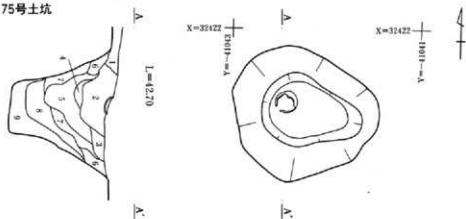
75号土坑は、調査区中央に位置する。東西に長い楕円形である。南北断面は台形を呈し、東西断面は袋状である。深さ110cmを測る。底部は、多少窪んでいる。埋土は、暗褐色土を主体に、白色粒、炭化物、白色土粒を少量含む。遺物は、1・3が土師器甕、2は土師器大型埴、4は台付甕である。その他、土師器片多数出土している。甕類が多数出土していることから、井戸の可能性が高い。出土遺物から古墳時代後期と比定される。



第184図 5区74号土坑 平・断面図 74・75号土坑出土遺物 (1)

5区 土坑跡

75号土坑



75号土坑

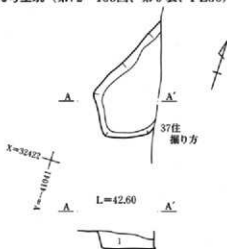
- 1 暗褐色土 白色粒含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 白色粒含む。黒褐色の炭化物のシミあり。
- 3 暗褐色土 白色粒含む。軟質。
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒含む。締まり弱い。
- 5 褐色土 黄褐色土粒含む。粘性。締まり弱い。

- 6 黄褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。締まりやや良い。壁の崩落土。
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒多量に含む。締まりやや良い。壁の崩れ。
- 8 暗褐色土 砂質。黄褐色土粒含む。粘性。
- 9 暗褐色土 砂質。黄褐色土粒、小石、砂利含む。粘性。



0 1 : 3 10cm

78号土坑 (第72・185図、第9表、PL36)

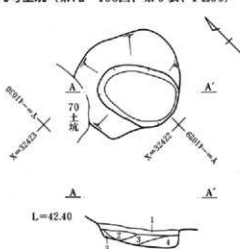


78号土坑

- 1 暗褐色土 焼土粒僅か、白色微粒子少量含む。下部に黄褐色土ブロック含む。

0 1 : 40 1m

79号土坑 (第72・185図、第9表、PL36)

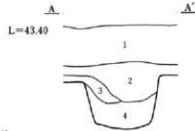


79号土坑

- 1 褐灰色土 黄褐色土含む。粘性。締まり弱い。
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロック含む。粘性。締まり弱い。
- 3 暗褐色土 砂質。赤色土少量含む。締まり弱い。
- 4 灰黄褐色土 粘性。締まり弱い。

第185図 5区75・78・79号土坑 平・断面図 75号土坑出土遺物 (2)

80号土坑 (第72・186図、第9表)



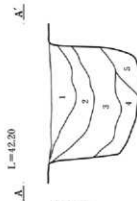
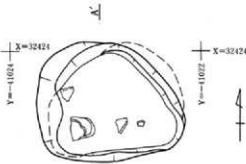
80号土坑

- 1 暗褐色土 焼土、白色粒、炭化物含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土含む。締まりやや弱い。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。締まり強い。
- 4 灰黄褐色土 黄褐色土粒・ブロック多量に含む。締まり弱い。

81号土坑 (第72・186図、第9表、P L36)

81号土坑は調査区中央、44号住居東壁に位置し、44号住居と重複する。42号住居を掘り壊していることから、81号土坑の方が新しい。楕円形で、断面は台形を呈し、深さ27cmを測る。底部は、概ね平坦である。埋土は、暗褐色土を主体に、黄褐色土プロ

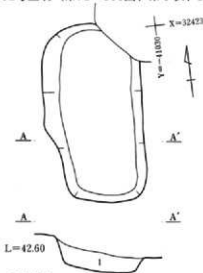
クを含む。遺物は土師器片多数とかわらけが出しているが、小片のため図化できなかった。出土遺物から中世と考えられる。土坑の性格を特定することはできなかった。



81号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色土含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック疎らに含む。
- 3 暗褐色土 砂質。締まり良い。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。締まりやや良い。壁の崩れ。

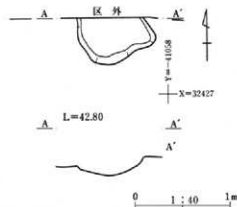
82号土坑 (第72・186図、第9表、PL36)



82号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック疎ら、炭化粒微量含む。粘性。締まり良い。

83号土坑 (第72・186図、第9表)



第186図 5区80~83号土坑 平・断面図

0 1 : 40 1m

5区 土坑跡

第9表 5区 土坑一覧表

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模(m)			出土遺物	備考
					長径	短径	深さ		
1	1号土坑	X=32407 Y=-40941	不整形	N-28°-E	1.20	0.80	0.16	土師器高坏	2号土坑重複。
2	2号土坑	X=32407 Y=-40940	不整形	N-28°-E	0.96	0.72	0.16	土師器小片	1号土坑重複。
3	3号土坑	X=32409 Y=-40944	不整形	N-6°-W	1.30	1.10	0.15		袋状に掘り込んでいる。
4	4号土坑	X=32417 Y=-40963	隅丸長方形	N-70°-W	1.72	1.04	0.12		
5	5号土坑	X=32416 Y=-40963	隅丸長方形	N-82°-E	2.04	1.08	0.16		
6	6号土坑	X=32417 Y=-40960	隅丸長方形	N-12°-W	1.82	0.92	0.14		12号土坑重複。12号土坑より新しい。
7	7号土坑	X=32414 Y=-40955	不整形	N-45°-W	1.40	0.61	0.60		
8	8号土坑	X=32420 Y=-41022	全形不明	N-90°	(1.88)	0.98	0.08	人骨出土	54号ピット・9号土坑と重複。本土坑が新しい。
9	9号土坑	X=32420 Y=-41020	不整形	N-3°-E	3.06	0.52	0.30		隅丸長方形と推察できる。
10	10号土坑	X=32420 Y=-41021	全形不明	N-1°-E	(1.82)	(0.84)	0.24		
11	11号土坑	X=32411 Y=-40947	楕円形	N-48°-W	0.66	0.58	0.48		
12	12号土坑	X=32417 Y=-40961	全形不明	N-74°-E	(0.66)	0.61	0.10		6号土坑重複。本土坑が古い。
13	14号土坑	X=32421 Y=-41017	楕円形	N-82°-W	1.00	0.86	0.34		21号土坑重複。本土坑が新しい。
14	15号土坑	X=32415 Y=-41013	不整形	N-2°-E	(1.92)	0.92	0.44		3号溝重複。本土坑が新しい。
15	16号土坑	X=32417 Y=-40996	不整形	N-88°-W	1.70	0.80	0.21		1号ピットとの新旧関係不明。
16	17号土坑	X=32418 Y=-40995	全形不明	N-47°-W	(0.88)	0.67	0.25		20号土坑重複。本土坑が古い。
17	18号土坑	X=32418 Y=-41005	隅丸長方形	N-2°-W	(2.65)	0.92	0.45		24号土坑重複。本土坑が新しい。
18	19号土坑	X=32418 Y=-41003	隅丸長方形	N-70°-W	2.10	1.42	0.5		4・9号溝重複。本土坑が一番古い。
19	20号土坑	X=32419 Y=-40995	隅丸長方形	N-0°	3.80	1.10	0.4	灰輪陶器	17号土坑重複。本土坑が新しい。
20	21号土坑	X=32412 Y=-41015	長方形	N-7°-W	(1.96)	0.86	0.2		14号土坑重複。本土坑が古い。
21	24号土坑	X=32420 Y=-41005	全形不明	N-20°-W	2.34	0.96	0.46		18号土坑重複。右側を18号土坑により消失。本土坑が古い。
22	25号土坑	X=32415 Y=-40985	楕円形	N-35°-W	(0.59)	0.50	0.18		30号土坑重複。北側を30号土坑により消失。本土坑が古い。
23	26号土坑	X=32416 Y=-40974	円形	N-90°	1.15	1.15	0.14		
24	27号土坑	X=32415 Y=-40988	隅丸長方形	N-72°-W	(0.86)	0.82	0.3		東側掘削で消失。
25	28号土坑	X=32415 Y=-40975	隅丸長方形	N-83°-W	2.22	0.88	0.35		
26	29号土坑	X=32417 Y=-40972	隅丸長方形	N-84°-W	2.84	1.10	0.22		
27	30号土坑	X=32416 Y=-40984	不整形	N-3°-E	4.60	4.57	0.29	土師器片少数出土	25号土坑重複。本土坑が新しい。2層の土坑が重複した可能性もある。
28	31号土坑	X=32413 Y=-40978	長方形	N-11°-E	2.65	1.18	0.3	土師器釜、他に土師器片少数出土	東側を掘削で消失。
29	32号土坑	X=32421 Y=-41010	楕円形	N-2°-E	1.08	0.92	0.25	高坏・勾玉	6世紀後半か。
30	33号土坑	X=32418 Y=-41002	隅丸長方形	N-90°	(1.20)	1.05	0.3		4号溝重複。本土坑が古い。西側を4号溝で消失。
31	34号土坑	X=32411 Y=-40996	楕円形	N-77°-W	2.00	1.52	0.2	土師器釜、他に土師器片少数出土	6世紀後半か。
32	35号土坑	X=32405 Y=-40929	不整形	N-77°-E	1.90	0.80	0.78	土師器釜が多数出土	床面に灰色粘性土が敷かれ、平坦な面が造られる。
33	36号土坑	X=32414 Y=-40930	隅丸長方形	N-76°-W	1.70	1.28	0.21	土師器S字罎	遺物は流れ込みの可能性が高い。
34	37号土坑	X=32408 Y=-40925	楕円形	N-51°-W	1.02	0.70	0.05	石鏝	石鏝は縄文時代。
35	38号土坑	X=32411 Y=-40922	楕円形	N-61°-W	0.80	0.60	0.1		
36	39号土坑	X=32407 Y=-40930	ほぼ円形	N-78°-W	0.66	0.60	0.14		
37	40号土坑	X=32406 Y=-40929	楕円形	N-66°-E	1.04	0.63	0.13	台付罎	遺物は流れ込みの可能性が高い。
38	41号土坑	X=32414 Y=-40928	円形	N-37°-W	1.02	1.00	0.08		

5区 土坑跡

番号	遺構番号	位置	形態	主軸方向	規模 (m)			出土遺物	備考
					長さ	短径	深さ		
40	43号土坑	X=32411 Y=-40929	楕円形	N-32°-E	1.40	1.12	0.21	土師器高坏	1・2号住重復。本土坑が新しい。遺物は混入。
41	44号土坑	X=32422 Y=-41084	隅丸長方形	N-0°	3.22	0.94	0.36		12号住・46号土坑重復。本土坑が一番新しい。
42	45号土坑	X=32425 Y=-41083	楕円形	N-46°-W	1.44	1.03	0.29	須恵器壺、他に土師器片多数	
43	46号土坑	X=32423 Y=-41085	楕円形	N-18°-W	1.26	1.13	0.2	須恵器坏、他に土師器片多数	12号住・44号土坑重復。12号住より新しく44号土坑より古い。
44	47号土坑	X=32422 Y=-41083	楕円形	N-27°-W	0.42	0.38	0.3	土師器坏	48号土坑重復。本土坑が新しい。
45	48号土坑	X=32422 Y=-41083	ほぼ円形	N-71°-E	1.12	1.06	0.35		47号土坑重復。本土坑が古い。
46	49号土坑	X=32427 Y=-41081	長方形	N-59°-E	1.10	(0.42)	0.1		16号住・50号土坑重復。16号住とは新旧不明。50号土坑より古い。
47	50号土坑	X=32427 Y=-41081	楕円形	N-54°-E	0.60	0.58	1.54	土師器壺、坏、須恵器壺	49号土坑重復。本土坑が新しい。
48	51号土坑	X=32426 Y=-41085	ほぼ円形	N-52°-W	1.10	1.10	0.14		7号住重復。本土坑が新しい。
49	52号土坑	X=32421 Y=-41073	不整形	N-85°-E	1.97	-	0.5		53号土坑重復。本土坑が古い。
50	53号土坑	X=32422 Y=-41074	隅丸長方形	N-10°-W	1.70	1.04	0.72	土師器坏・壺、須恵器壺	52号土坑重復。本土坑が新しい。袋状に掘り込まれている。
51	54号土坑	X=32421 Y=-41091	全形不明	N-83°-W	1.46	(0.47)	0.38		10号住・12号溝重復。本土坑が一番古い。
52	55号土坑	X=32422 Y=-41077	隅丸長方形	N-0°	1.13	0.50	0.3		18号住重復。本土坑が新しい。
54	57号土坑	X=32421 Y=-41070	楕円形	N-0°	1.36	(0.78)	1.22	須恵器短頸壺、土師器坏・壺、須恵器壺	23号住重復。本土坑が古い。井戸の可能性がある。
55	58号土坑	X=32424 Y=-41067	ほぼ円形	N-45°-W	0.54	0.48	1.02		26号住重復。本土坑が新しい。
56	59号土坑	X=32419 Y=-41046	不整形	N-25°-W	1.30	0.88	0.8	土師器坏	25号住直下に重復。本土坑が古い。
57	60号土坑	X=32418 Y=-41040	楕円形	N-46°-W	1.45	1.25	1.26	土師器坏	掘り込み深く、井戸の可能性あり。
58	61号土坑	X=32416 Y=-41036	全形不明	N-67°-W	2.50	1.02	0.36		43号住重復。本土坑が新しい。
59	63号土坑	X=32422 Y=-41046	楕円形	N-63°-E	1.12	0.84	1.18	土師器壺	30号住重復。本土坑が新しい。下部にいくほど径が細い。
60	64号土坑	X=32420 Y=-41047	不整形	N-67°-E	1.00	0.53	1.1	須恵器壺	35号住重復。本土坑が新しい。深く、袋状の掘り方。
61	65号土坑	X=32421 Y=-41046	全形不明	N-71°-E	0.60	(0.32)	0.45	土師器台付壺	30号住重復。本土坑が古い。
62	66号土坑	X=32423 Y=-41050	楕円形	N-10°-W	0.80	0.68	0.34		30-41号住重復。本土坑が新しい。
63	67号土坑	X=32421 Y=-41032	不整形	N-32°-W	1.58	1.30	1.02	土師器壺、台付壺など遺物多数出土	貯蔵穴か。
64	68号土坑	X=32419 Y=-41025	長方形	N-17°-E	3.05	1.10	0.82	内耳鍋	43号住重復。本土坑が新しい。
65	69号土坑	X=32423 Y=-41049	不整形	N-7°-W	1.58	1.04	0.92	土師器坏、坏	30-41号住重復。本土坑が新しい。平面孤形型。儀式か墳墓か。
66	70号土坑	X=32422 Y=-41029	楕円形	N-42°-W	1.28	1.14	1.3		79・82号土坑重復。本土坑が新しい。
67	71号土坑	X=32426 Y=-41047	全形不明	N-90°	2.22	(0.95)	0.28	土師器高坏	調査区域のため全形は確認できなかった。平面は不整形である。
68	72号土坑	X=32425 Y=-41048	不整形	N-48°-W	0.80	0.64	0.34	土師器小型壺	71・73号土坑重復。本土坑が新しい。
69	73号土坑	X=32425 Y=-41048	不整形	N-57°-W	0.74	0.68	0.22		72号土坑重復。本土坑が古い。
70	74号土坑	X=32423 Y=-41035	楕円形	N-9°-W	1.25	1.18	1.23	土師器壺・坏	37号住重復。本土坑が新しい。井戸の可能性あり。
71	75号土坑	X=32420 Y=-41041	楕円形	N-1°-W	1.52	1.32	1.1	土師器坏・台付壺・壺	東側が広がっている。
72	78号土坑	X=32422 Y=-41040	全形不明	N-25°-E	(0.96)	0.73	0.15		37号住掘り方下重復。本土坑が古い。
73	79号土坑	X=32422 Y=-41038	楕円形	N-12°-W	1.18	1.12	0.27		42号住・70号土坑重復。本土坑は42号住より新しく70号土坑より古い。
74	80号土坑	X=32419 Y=-41054	全形不明	N-84°-W	0.78	(0.30)	0.7		調査区域に有り。
75	81号土坑	X=32423 Y=-41022	やや楕円形	N-1°-E	1.16	1.24	1	かわらけ	遺物は中層か、混入の可能性もある。
76	82号土坑	X=32421 Y=-41030	隅丸長方形	N-82°-W	1.90	0.89	0.17		42号住・70号土坑重復。本土坑は42号住より新しく70号土坑より古い。
77	83号土坑	X=32427 Y=-41058	全形不明	N-1°-E	0.70	(0.44)	0.21		

5区 溝跡

(3) 溝跡

溝についても時期不明のものが多かった。埋土からの出土遺物は古代から近・現代のものまで混在している。溝は主に東西に走行する溝が大半である。南北に走行する溝は4・9号溝と同様に走行を途中から東西に変更していると思われる。さほど時間差

のない溝の重複の場合や、出土遺物が少数で小片ばかりの場合どちらが混入品か判断ができなかった。他遺構との埋土との比較、遺構の重複関係と出土遺物から中世から近世までの遺構が大半であるが、古墳時代～中世と考えられる遺構もある。

1号溝 (第72・187図, P L 38)

位置 5区 X=32410~418 Y=-40947~952

調査区東側に位置する。

重複遺構 11号土坑と重複する。遺構平面確認の状況より本遺構の方が古い。

走向 北西から南東 (N-33° -W)

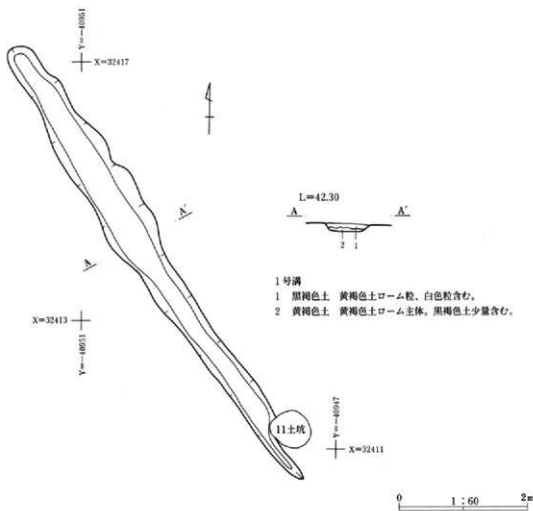
形態 直線的で、断面形は皿状を呈する。調査区内北側から現れ、南側の調査区内で消失。

規模 検出全長 8.46m 上幅 0.20~0.82m

底幅 0.06~0.44m 深さ 0.12m

遺物 土師器胴部片4点出土。図化できなかった。

所見 時期は不明であるが、遺物の出土、埋土の状況から古墳時代から奈良・平安時代と考えられる。



第187図 5区1号溝 平・断面図

2号溝 (第72・188・189図、P.L.38・80)

位置 5区 X=32419~428 Y=-40974~41054

調査区中央から東側、調査区境に位置する。

重複遺構 4・9~11号溝、11・24・71号土坑と重複する。遺構平面確認の状況より、4・9~11号溝、11・24号土坑、より本遺構が新しく、71号土坑より古い。

走向 北西から南東(N-84°-W)

形態 直線的で、北側を擾乱により消失している。そのため断面形は不明である。土層断面の観察から箱状を呈すると推察される。調査区内北側中央付近から現れ、調査区境を走行し、東側調査区内で消失

している。

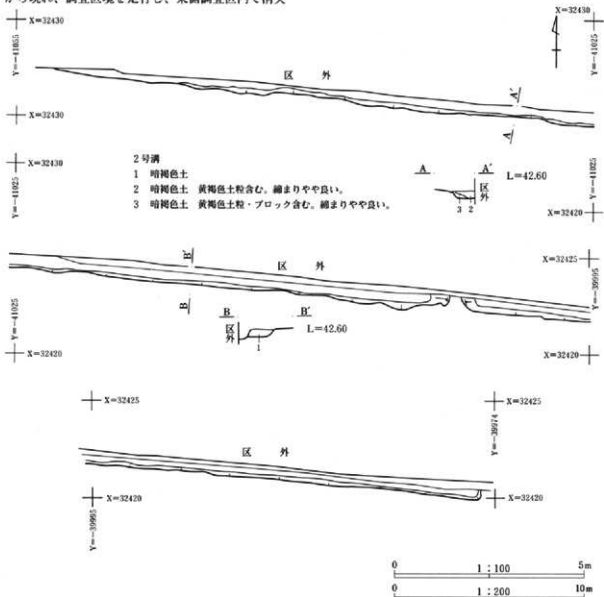
規模 検出全長 76.66m 上幅 (0.74)m

底幅 (0.32~0.50)m 深さ (0.27)m

調査区内2号溝状況のみ計画

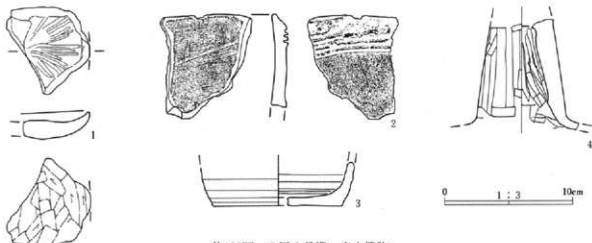
遺物 1は土師器坏、2は三河のコンロ、3は榎木鉢、4は土師器高坏出土。江戸時代から近世にかけての遺物が多い。古墳時代の土師器、須恵器などの破片も多く検出するが、摩滅しているものが多く、本遺構に流れ込んだ可能性が高い。

所見 遺物の出土状況から、江戸時代から近世に利用されたと考えられる。



第188図 5区2号溝 平・断面図

5区 溝跡



第189図 5区2号溝 出土遺物

3号溝 (第72・190図、P.L38・80)

位置 5区X=32414~417 Y=-41005~41027

調査区中央付近から東側、調査区南境に位置する。

重複遺構 4・9・10号溝、43号住居、15号土坑と重複する。遺構平面確認と土層断面観察により4・9号溝、15号土坑より旧く、43号住居、10号溝より新しい。

走向 東から西 (N-86° -W)

形態 直線的であり、一部攪乱によって消失している。断面形状は、台形状を呈する。溝東側は4号溝の下から現れ、西側は、調査区南側区境へと続き消失している。

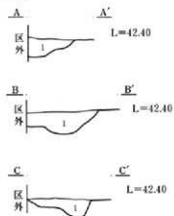
規模 検出全長 10.18m 上幅 0.40~0.90m

底幅 0.12~0.40m 深さ 0.40m

遺物 1は近世の土製品、2は須恵器甕が出土。古墳時代から幕末・近世にかけての遺物が多く出土した。土師器、須恵器などの破片を多数検出するが、摩滅しているものが多く流れ込みの可能性がある。

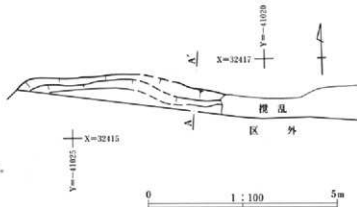
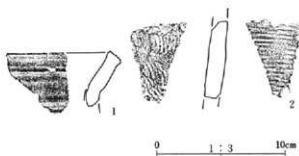
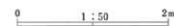
所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から江戸時代に利用されたと考えられる。また、12号溝の出土遺物と埋土の状況が酷似しており、同一遺構の可能性もある。

3号溝



3号溝

1 暗褐色土 ロームブロック、白色粒少量含む。粘性。



第190図 5区3号溝 平・断面図 出土遺物

10号溝 (第72・191図、P.L.39・80)

位置 5区 X=32414~423 Y=-41007~009

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 2・3号溝と重複する。本溝は重複遺構より古い。

走向 北-南 (N-10° - E)

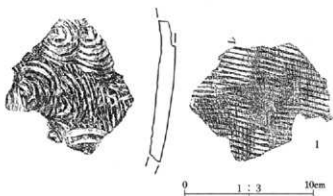
形態 調査区北側で2号溝により消失し、南側は一部3号溝で消失され、調査区外にのびていくと推察される。断面形状は緩やかな逆台形を呈する。

規模 検出全長 (8.44)m 上幅 1.00~0.80m

底幅 0.80~0.38m 深さ 0.34m

遺物 1は須恵器甕が出土。古墳時代~中世の土師器片、須恵器片が多数出土した。

所見 遺物の出土状況と遺構の重複関係から、長くても古墳時代から中世に利用されたと考えられる。出土遺物の破断面の摩擦が少ない事から、利用期間が短い遺構ではないかと考えられる。



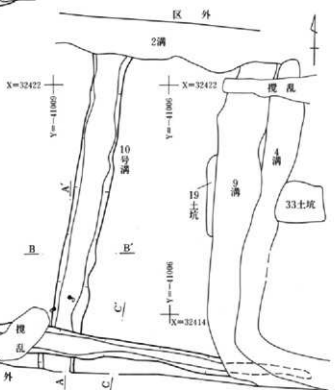
10号溝



10号溝

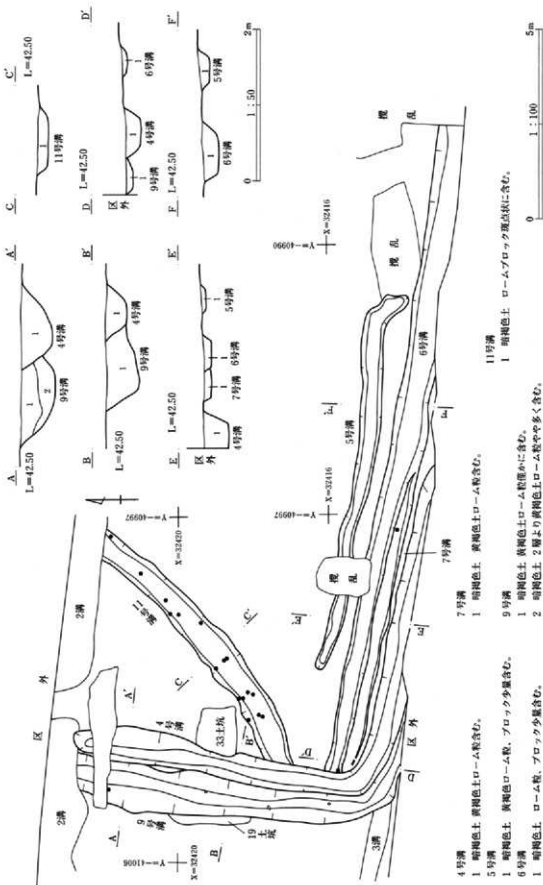
- 1 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック層かを含む。白色粒少量含む。粘性やや強い。
- 2 暗褐色土 ローム粒僅か、ロームブロック、白色粒少量含む。粘性やや強い。

0 1:50 2m



0 1:100 5m

第191図 5区2~4・9・10号溝 平・断面図 出土遺物



第192図 5区4～7・9・11号溝 平・断面図

4号溝 (第72・192・193図、P.L.38・80)

位置 5区 X=32413~423 Y=-40996~41005

調査区中央付近から東側、調査区南境に位置する。

重複遺構 2・6・7・9・11号溝、19・33号土坑と重複する。本溝は6・7号溝と19・33号土坑より新しく、2号溝より古い。9・11号溝とは新旧関係不明である。

走向 北から調査区内を直直し、東へ向かう。

(N-13° - E) (N-80° - W)

形態 断面形状は逆台形を呈する。

5号溝 (第72・192図、P.L.38)

位置 5区 X=32413~417 Y=-40991~41001

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 なし

走向 西から南東 (N-75° - W)

形態 西から南東方向に走行し、南東端部は南へ曲がる。断面形状は皿状である。

6号溝 (第72・192図、P.L.38)

位置 5区 X=32412~417 Y=-40897~41004

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 4・7号溝と重複する。本溝は4号溝より旧く、7号溝より新しい。

走向 西から東 (N-78° - W)

形態 調査区中央で、西側は4号溝に切られ東側は調査区外に延びる。断面形状は皿状である。

7号溝 (第72・192図、P.L.38)

位置 5区 X=32413~416 Y=-40996~41004

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 4・6号溝と重複する。本溝は4・6号溝より古い。

走向 やや北西~南東 (N-79° - W)

形態 西側を4号溝に切られ、東側は4・6号溝によって消失。断面形状は皿状を呈する。

規模 検出全長 14.00m 上幅 0.55~0.90m

底幅 0.20~0.40m 深さ 0.40m

遺物 1は寛永通宝で9号溝との重複によりどちらに帰属するか分からない。須恵器甕出土。古墳時代~江戸時代。土師器片、須恵器片多数出土。遺物の摩耗が激しく図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から江戸時代に利用されたと考えられる。9号溝との遺物が重複しており、どちらが混入品か判断がつかない遺物が多数ある。

規模 検出全長 36.43m 上幅 0.30~0.55m

底幅 0.16~0.40m 深さ 0.18m

遺物 古墳時代~奈良・平安時代。土師器5点・須恵器1点出土。図化できなかった。

所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から奈良・平安時代に利用されたと考えられる。

規模 検出全長 (17.20)m 上幅 0.40~0.88m

底幅 0.20~0.52m 深さ 0.12~0.20m

遺物 古墳時代~奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。いずれの遺物も摩滅気味である。

所見 出土遺物は、小片が多く時期は不明である。7号溝と並行した走向であり、埋土も酷似していることから、掘り直した溝の可能性もある。

規模 検出全長 (7.90)m 上幅 (0.42)m

底幅 (0.18)~(0.32)m 深さ 0.12m

遺物 古墳時代~江戸時代の遺物が出土している。やや摩滅した土師器・須恵器の小片・高坏脚部、火鉢の脚等が覆土から出土した。

所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から江戸時代に利用されたと考えられる。

5区 溝跡

9号溝 (第72・192・193図、P.L38・39・80)

位置 5区X=32414~424 Y=-41002~005

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 2・3・4号溝、19号土坑と重複する。
2・4号溝より旧く、3号溝、19号土坑より新しい。

走向 北~南

(N-13° - E) (N-80° - W)

形態 北から調査区内を南に向かい、南東方向に曲がる。断面形状は逆台形を呈する。

規模 検出全長 (6.74)m 上幅 0.55~1.32m

底幅 0.38~0.14m 深さ 0.48m

11号溝 (第72・192図、P.L39・80)

位置 5区X=32417~422 Y=-40997~41004

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 2・4号溝と重複。本溝は、出土遺物から重複遺構より古い。

走向 北東~南西 (N-45° - E)

形態 北東側を2号溝で消失し、南西側を4号溝で消失する。断面形状は皿状を呈する。

遺物 1は木炭痕のある土師器甕、2は焙烙、3は砥石、4は古銭などの古墳時代から近世の遺物が出土。やや摩耗の激しい、土師器甕か壺の底部が出土。その他、土師器片多数出土。小片のため固化できなかった。4号溝との遺物が重複しており、どちらが混入品か判断がつかない遺物が多数ある。

所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から近世に利用されたと考えられる。

規模 検出全長 (7.62)m 上幅 0.95~0.68m

底幅 0.66~0.35m 深さ 0.14m

遺物 1の土師器坏が出土。古墳時代~奈良・平安時代の土師器片、須恵器片多数出土。遺物の破断面は、摩滅が少ない。

所見 遺物の出土状況から、長くても古墳時代から奈良・平安時代に利用されたと考えられる。また、遺物の破断面の摩滅が少ないことから、長期間利用されていた溝ではない。

4号溝



4号・9号溝

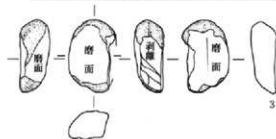
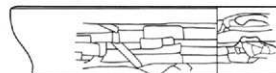


11号溝



0 1:3 10cm

9号溝



0 1:1 2.5cm

第193図 5区4・9・11号溝 出土遺物

8号溝 (第72・194図、P.L.39)

位置 5区 X=32414~417 Y=-40969~40974

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 なし

走向 西~東 (N-90°-E)

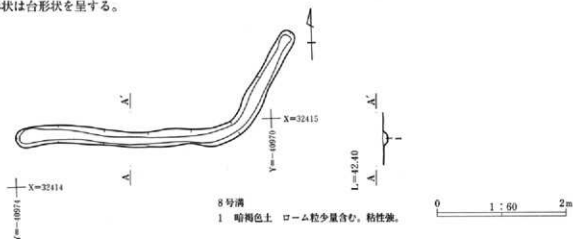
形態 北東から途中で曲がり、西へ走行する。断面形状は台形状を呈する。

規模 検出全長 5.16m 上幅 0.28~0.24m

底幅 0.08~0.24m 深さ 0.08m

遺物 なし

所見 出土遺物もなく、埋土の状況からも時期を特定できなかった。

8号溝
1 暗褐色土 ローム粒少量含む、粘性強。

第194図 5区8号溝 平・断面図

18号溝 (第72・195図、P.L.39)

位置 5区 X=32422~424 Y=-41065~069

調査区中央やや西よりに位置する。

重複遺構 9・26・33号住居跡と重複する。本溝は重複住居より新しい。

走向 西~東 (N-2°-E)

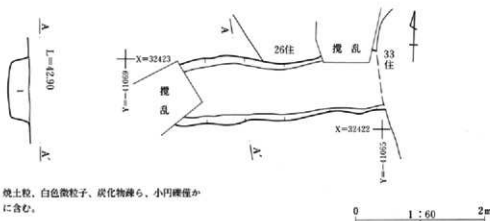
形態 西から東に走行。西側は攪乱より消失、東側は竪穴住居跡調査の為消失。17号溝と合流する可能性もある。

規模 検出全長 (2.92)m 上幅 0.88~1.09m

底幅 0.70~0.82m 深さ 0.50m

遺物 なし

所見 遺構の重複関係、埋土の状況から近世の溝と考えられる。

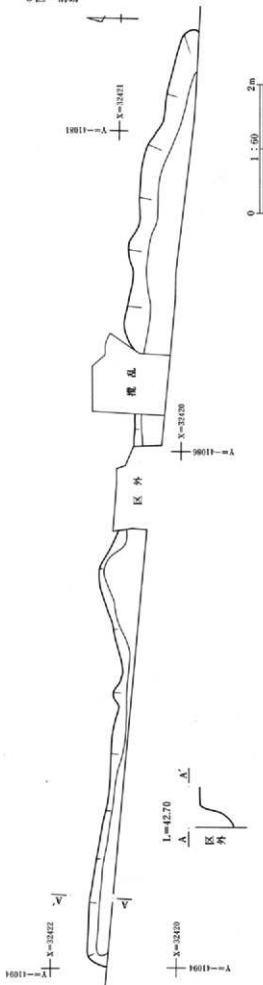


18号溝

1 暗褐色土 焼土粒、白色微粒子、炭化物粒ら、小円礫僅かに含む。

第195図 5区18号溝 平・断面図

5区 溝跡



12号溝 (第72・196図、P.L39)

位置 5区 X=32419~422 Y=-40079~41094
調査区西側、区南境ぞいに位置する。

重複遺構 6・10・11・13・18・20号住居、54号土坑と重複する。本溝は全ての重複遺構より新しい。

走向 東~西 (N-40° -W)

形態 東側は攪乱で消失し、西側は調査区外にのびていく。調査区境のため、全形・断面形状は不明である。

規模 検出全長 (10.38)m

上幅 (0.72~0.16)m

底幅 (0.60~0.04)m

深さ (0.28~0.45)m

調査区内の状況のみ計測。

遺物 刷毛目のはいた土師器、江戸時代の焙烙、明治時代の十能瓦、中世から近世の遺物が多く出土。いずれも小片のため図化できなかった。

所見 5世紀から7世紀にかけての竪穴住居跡 (6・10・11・13・18・20号住居) のいずれの遺構よりも新しい重複関係や、土師器、焙烙 (江戸時代)、十能瓦 (明治時代) などの長い間にわたる遺物の出土状況、さらに、埋土の状況から、長くても中世から近世の溝と考えられる。

また、3号溝の出土遺物と埋土の状況が酷似しており、同一遺構の可能性がある。

第196図 5区12号溝 平・断面図

17号溝 (第72・197図、P.L.39・80)

位置 5区 X=32419-421 Y=-41053-062

調査区中央付近に位置する。

重複遺構 33・38号住居と重複する。本溝は33・38号住居跡より新しい。

走向 北西～東

(N-63°-W) (N-3°-W)

形態 北西側は攪乱により消失、西から2mほど東に走行をかえる。東側は36号住居付近で消失する。

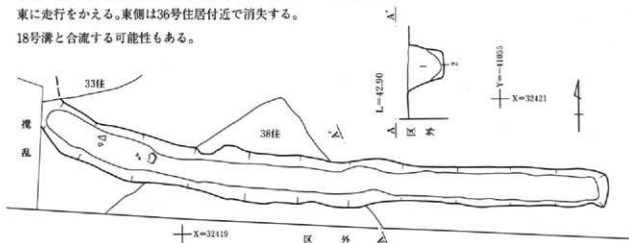
18号溝と合流する可能性もある。

規模 検出全長 9.00m 上幅 0.52~0.80m

底幅 0.24~0.40m 深さ 0.54m

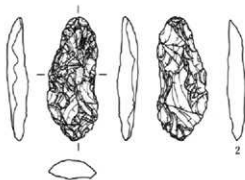
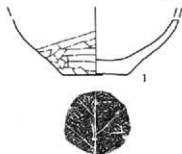
遺物 1は底部に木炭痕のある土師器甕、2は尖刀器、3は摺り鉢が出土。その他、土師器片、須恵器片など古墳時代から中世の遺物多い。

所見 遺構の重複関係、遺物の出土状況、埋土の状況から、長くても古墳時代の後半から近世の溝と考えられる。

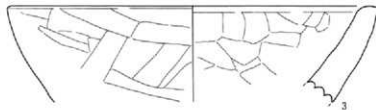


17号溝

- 1 暗褐色土 砂質、黄褐色土、赤褐色土、小石、砂利含む。締まりやや弱い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロック含む。締まり強い。



0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第197図 5区17号溝 平・断面図 出土遺物

5区 井戸跡

(4) 井戸跡

5区から2基の井戸を検出した。いずれの井戸も調査区中央付近、溝集中地域に近接する。1号井戸は、埋土の状況から近現代まで使用されていたと考

えられる。2号井戸については、埋土の状況、出土遺物から時期を特定できなかった。両者は、規模・形態は酷似していることから、時間差なく使用されていた可能性がある。

5区1号井戸跡 (第72・198図、P.L.36・80)

位置 5区 X=32420~422 Y=-41000~002

重複遺構 なし

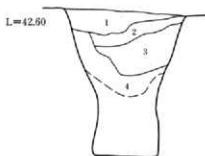
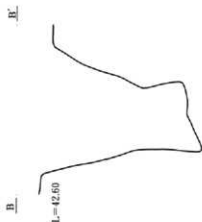
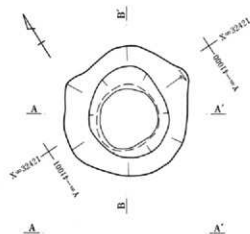
形態 確認面では、やや方形にちかい楕円形を呈する。断面は上位から108cm付近までゆるやかに細まり、径60cmを測る。その下位はやや末広がりとなり、径70cm程の筒状を呈する。北東側の上面が大きく広がっている。

方位 N-32° -E

規模 長径1.36m、短径1.30m、深さ1.56m

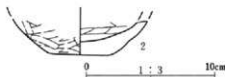
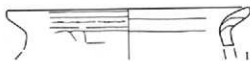
遺物 1・2は土師器甕、その他、土師器口縁部片2点、胴部片7点出土。小片のため図化できなかった。

所見 調査開始時、遺構名を23号土坑とつけていたが、調査の結果、井戸跡と確認できたため、1号井戸とした。上層に20cmほど現代のビニール、ゴミ等の攪乱で埋め戻されていることから、近現代まで使用されていた井戸と考えられる。



1号井戸

- 1 暗褐色土 現代の攪乱
- 2 暗褐色土 黄褐色土ローム粒含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ローム粒と黄褐色ブロック少量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ローム多量に含む。



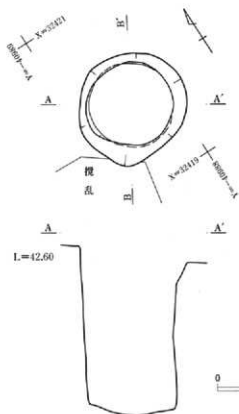
第198図 5区1号井戸 平・断面図 出土遺物

5区2号井戸跡 (第72・199図、P.L36・80)

位置 5区X=32419~421 Y=-40987~989

重複遺構 なし

形態 確認面では、楕円形を呈する。断面は上位14~20cm付近でやや細まり、その下位は径90cm程の筒状を呈する。



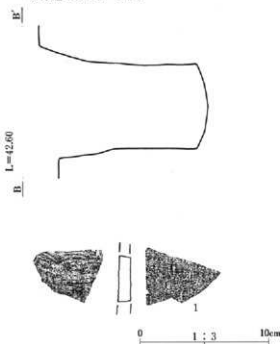
第199図 5区2号井戸 平・断面図 出土遺物

方位 N-29° - E

規模 長径1.18m、短径1.14m、深さ1.60m

遺物 1は須恵器甕胴部片。その他、埴輪片1点、土師器底部片1点出土。小片のため図化できなかった。いずれも混入の可能性が高い。

所見 埋土の状況がわからず、出土遺物からも時期を特定できなかった。



(5) ビット跡

本遺跡から93基のビットを検出した。いずれのビットも土師器片を数点しか出土せず、時期の特定や図化を行うことができなかった。ほとんどの遺構は新しい時代のものである。調査区中央、溝が集中して検出された位置よりも西側に集中して確認されている。そのため、掘立柱建物跡や横列等の検討を加えてみたが、該当する遺構を確認することはできなかった。調査区域に位置し、周囲に遺構もないことから、特定することはできなかった。埋土・重複関係などから時期・用途を想定できなかった。ビットそれぞれの形態・規模については一覧表に掲げ、位置は遺跡全体図の中に提示した。

49号ビット (第72・200図、第10表、PL80)



81号ビット (第72・200図、第10表、PL38・80)



第200図 5区49・81号ビット 出土遺物

5区 ビット跡

第10表 5区 ビット一覧表

番号	遺構番号	位置	形状	規模(m)			出土遺物	備考
				長径	短径	深さ		
1	1号ビット	X=32412 Y=-40945	不整形	0.32	0.27	0.08		
2	2号ビット	X=32413 Y=-40943	楕円形	0.40	0.30	0.12		
3	3号ビット	X=32410 Y=-40951	楕円形	0.50	0.28	0.30		
4	4号ビット	X=32410 Y=-40947	楕円形	0.34	0.30	0.22		
5	5号ビット	X=32411 Y=-40950	楕円形	0.40	0.30	0.18		
6	6号ビット	X=32409 Y=-40950	楕円形	0.30	0.22	0.20		
7	7号ビット	X=32410 Y=-40950	楕円形	0.34	0.30	0.22		
8	8号ビット	X=32412 Y=-40957	楕円形	0.46	0.33	0.42		
9	9号ビット	X=32413 Y=-40957	楕円形	0.80	0.42	0.33		
10	10号ビット	X=32412 Y=-40947	楕円形	0.30	0.24	0.30		
11	11号ビット	X=32414 Y=-40954	楕円形	0.30	0.30	0.28		
12	13号ビット	X=32428 Y=-41085	楕円形	0.40	0.40	0.20	16号住重履。本ビットが新しい。	
13	14号ビット	X=32426 Y=-41070	楕円形	0.75	0.62	0.34		
14	15号ビット	X=32425 Y=-41071	楕円形	0.50	0.44	0.28		
15	16号ビット	X=32425 Y=-41072	楕円形	0.64	0.56	0.33		
16	17号ビット	X=32427 Y=-41067	楕円形	0.40	0.36	0.14		
17	18号ビット	X=32427 Y=-41068	楕円形	0.40	0.40	0.18		
18	19号ビット	X=32425 Y=-41061	楕円形	0.27	0.24	0.14	27号住重履。本ビットが新しい。	
19	20号ビット	X=32425 Y=-41063	楕円形	0.38	0.34	0.35	27号住重履。本ビットが新しい。	
20	21号ビット	X=32425 Y=-41062	不整形	0.50	0.46	0.42	27号住重履。本ビットが新しい。	
21	22号ビット	X=32426 Y=-41050	楕円形	(0.48)	(0.28)	0.24	41号住・23号ビット重履 41号住より新しい。 23号ビットとの新旧関係不明。	
22	23号ビット	X=32426 Y=-41050	不整形	0.72	0.48	0.16	41号住・22号ビット重履 41号住より新しい。 22号ビットとの新旧関係不明。	
23	24号ビット	X=32418 Y=-41023	方形	0.38	0.30	0.18	43号住重履。	
24	25号ビット	X=32418 Y=-41024	不整形	0.38	0.36	0.53	43号住重履。本ビットが新しい。	
25	26号ビット	X=32418 Y=-41023	方形	0.40	0.34	0.23	43号住・69号ビット重履。43号住より新しく。 69号ビットより古い。	
26	27号ビット	X=32417 Y=-41024	楕円形	0.53	0.53	0.34	43号住重履。	
27	28号ビット	X=32420 Y=-41044	楕円形	0.45	0.34	0.30		
28	29号ビット	X=32420 Y=-41044	楕円形	0.58	0.53	0.40		
29	30号ビット	X=32420 Y=-41046	楕円形	0.47	0.44	0.22		
30	31号ビット	X=32425 Y=-41065	楕円形	0.36	0.30	0.18	26号住重履。	
31	32号ビット	X=32424 Y=-41064	日字形	0.34	0.30	0.34		
32	33号ビット	X=32423 Y=-41062	楕円形	0.44	0.40	0.22	34号住重履。本ビットが新しい。	
33	34号ビット	X=32423 Y=-41062	方形	0.46	0.42	0.35	33号住重履。本ビットが新しい。	
34	35号ビット	X=32426 Y=-41062	楕円形	0.46	0.44	0.72	27号住重履。	
35	36号ビット	X=32426 Y=-41061	楕円形	0.44	0.40	0.50	27号住重履。	
36	37号ビット	X=32425 Y=-41060	楕円形	0.52	0.42	0.33	27号住重履。	
37	38号ビット	X=32426 Y=-41059	楕円形	0.35	0.28	0.24		
38	39号ビット	X=32425 Y=-41058	楕円形	0.44	0.36	0.22		
39	40号ビット	X=32423 Y=-41059	楕円形	0.35	0.32	0.12	35号住重履。	
40	41号ビット	X=32422 Y=-41059	楕円形	0.50	0.37	0.20	35号住重履。	
41	42号ビット	X=32422 Y=-41058	楕円形	0.35	0.32	0.34	35号住重履。	
42	43号ビット	X=32421 Y=-41058	不整形	0.36	0.36	0.38		
43	44号ビット	X=32424 Y=-41058	日字形	0.36	0.34	0.18	35号住重履。	
44	45号ビット	X=32426 Y=-41055	日字形	0.32	0.32	0.39		
45	46号ビット	X=32425 Y=-41056	日字形	0.32	0.30	0.48		
46	47号ビット	X=32422 Y=-41057	楕円形	0.34	0.24	0.22	35号住重履。	
47	48号ビット	X=32423 Y=-41058	方形	0.24	0.20	0.30	35号住重履。	

5区 ビット跡

番号	遺構番号	位置	形態	規模 (m)			出土遺物	備考
				長さ	幅	深さ		
48	49号ビット	X=32425 Y=-41054	円形	0.44	0.44	0.50	土師器環	
49	50号ビット	X=32424 Y=-41052	楕円形	0.40	0.38	0.28		28号住重複。
50	51号ビット	X=32421 Y=-41054	楕円形	0.38	0.30	0.26		28号住重複。
51	53号ビット	X=32420 Y=-41023	不定形	0.42	0.38	0.21		
52	54号ビット	X=32419 Y=-41023	方形	0.36	0.32	0.40		8号土坑重複。
53	55号ビット	X=32418 Y=-41046	全形不明	(0.32)	0.26	0.33		36号住重複。
54	56号ビット	X=32418 Y=-41046	全形不明	0.34	0.34	0.47		36号住重複。
55	57号ビット	X=32418 Y=-41047	全形不明	(0.22)	0.32	0.25		36号住重複。
56	58号ビット	X=32422 Y=-41023	不整形	0.62	0.54	0.18		40号住・63号ビット重複。本ビットより40号住 が古い、63号ビットより古い。
57	59号ビット	X=32422 Y=-41024	楕円形	0.42	0.32	0.10		40号住重複。
58	60号ビット	X=32423 Y=-41023	不整形	0.72	0.64	0.23		40号住・81号土坑重複。
59	61号ビット	X=32420 Y=-41023	不整形	0.40	(0.24)	0.40		66号ビット重複。本ビットが古い。
60	62号ビット	X=32420 Y=-41023	不整形	0.73	0.70	(0.15)		66号ビット重複。本ビットが新しい。
61	63号ビット	X=32421 Y=-41023	不整形	0.50	0.42	0.45		40号住・58・59・68号ビット重複。本ビット が一番新しい。
62	64号ビット	X=32419 Y=-41055	円形	0.26	0.26	0.37		
63	65号ビット	X=32418 Y=-41027	円形	0.46	0.46	0.16		43号住重複。
64	66号ビット	X=32420 Y=-41023	不整形	0.38	(0.32)	0.32		61・62号ビット重複。
65	67号ビット	X=32418 Y=-41029	楕円形	0.63	0.51	0.40		
66	68号ビット	X=32421 Y=-41023	不整形	0.60	0.48	0.26		40号住・63号ビット重複。本ビットは40号住 より新しく、63号ビットより古い。
67	69号ビット	X=32417 Y=-41023	全形不明	-	0.36	0.20		43号住・26号ビット重複。本ビットは43号住 より新しく、26号ビットより古い。
68	70号ビット			-	-	0.42		平面図なし。
69	71号ビット			-	-	0.36		平面図なし。
70	72号ビット			-	-	0.14		平面図なし。
71	73号ビット			-	-	0.38		平面図なし。
72	74号ビット			-	-	0.32		平面図なし。
73	75号ビット			-	-	0.30		平面図なし。
74	76号ビット			-	-	0.30		平面図なし。
75	77号ビット	X=32422 Y=-41043	楕円形	0.70	0.62	0.29		
76	78号ビット			-	-	0.30		平面図なし。
77	79号ビット			-	-	0.38		平面図なし。
78	80号ビット			-	-	0.21		平面図なし。
79	81号ビット			-	-	0.80	土師器環	平面図なし。
80	82号ビット	X=32420 Y=-41027	楕円形	0.88	0.74	1.35		
81	83号ビット	X=32419 Y=-41024	楕円形	0.56	0.40	0.40		
82	84号ビット	X=32417 Y=-41023	楕円形	0.82	0.24	0.32		43号住内。
83	85号ビット	X=32425 Y=-41038	不整形	0.69	0.55	0.94		37号住裏側り方下にあり。
84	86号ビット	X=32426 Y=-41065	楕円形	0.62	0.62	0.21		26号住東壁付近。
85	87号ビット	X=32424 Y=-41032	楕円形	0.20	0.16	0.10	土師器環	42号住内。
86	88号ビット	X=32424 Y=-41031	楕円形	0.36	0.32	0.10		42号住内。
87	89号ビット	X=32424 Y=-41030	楕円形	0.38	0.36	0.10		42号住内。
88	90号ビット	X=32423 Y=-41029	不整形	0.48	0.30	0.10		42号住内。
89	91号ビット	X=32424 Y=-41029	楕円形	0.40	0.36	0.60		42号住内。
90	92号ビット	X=32423 Y=-41028	楕円形	0.28	0.28	0.25		42号住内。
91	93号ビット	X=32419 Y=-41051	楕円形	0.30	0.30	0.40		36号住内。
92	94号ビット	X=32419 Y=-41050	不整形	0.46	0.45	0.46		36号住内。
93	95号ビット	X=32419 Y=-41048	楕円形	0.48	0.25	0.34		36号住内。

5区 遺物集中部

(6) 遺物集中部

1号遺物集中部 (第201・202図, P.L.81)

位置 5区 X=32417~424 Y=-41008~020

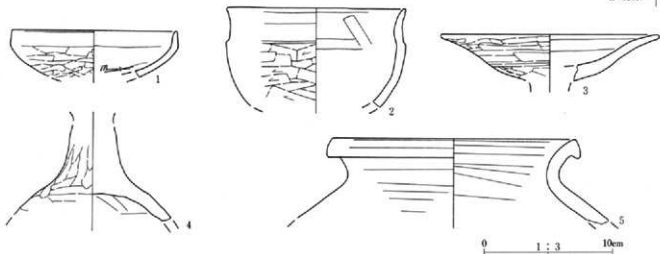
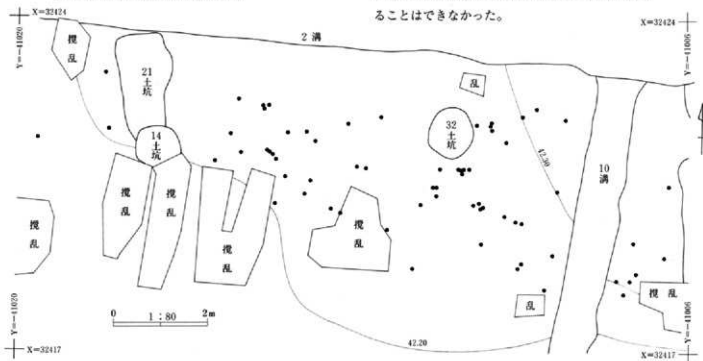
重複遺構 32号土坑

形態・方位 計画不能

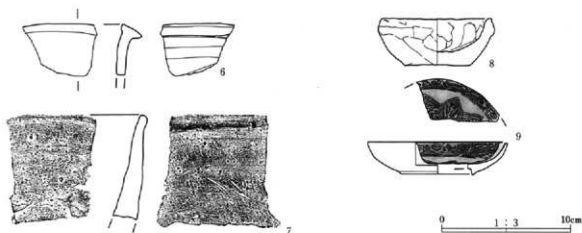
規模 長径1.36m、短径1.30m、深さ1.56m

遺物 1は土師器坏、2は土師器小型甕、3・4は土師器高坏、5・6は須恵器壺、7は須恵器甕、8は手捏ね土器、9は軟質陶磁器皿出土。その他、土師器片多数、須恵器片多数、陶器片、近世口縁片など古墳時代から近現代の遺物出土。

所見 32号土坑周辺に遺物を集中的に検出した。レベルは42.20mから42.30mである。遺物は破片が多く、完形品はない。宅地踏地のため、近現代の遺物は廃棄されたものと考えられる。また、古墳時代の遺物の多くは、32号土坑との関連したものか、あるいは住居掘り方まで上部からの削平を受け、遺物のみ残存した可能性もある。1号遺物集中部を境に堅穴住居跡が疎らとなり、南北方向に走行する溝が集的に現れる場所である。また、1・2号住居との間は溝と土坑のみ検出されている。このことから集落境の土器廃棄場所の可能性もある。時期を特定することはできなかった。



第201図 5区1号遺物集中部 平・断面図 出土遺物



第202図 5区1号遺物集中部 出土遺物

(7) 5区の遺構外出土遺物 (第203～206図、P L81～83)

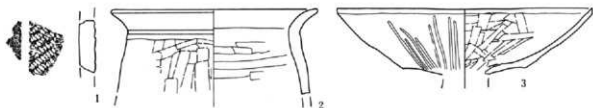
浜町遺跡5区で出土した遺物の中から、遺構に伴わない遺物、グリッドで一括として取り上げたものの遺構出土遺物と接合できなかった遺物を報告する。

縄文時代、古墳時代から近現代までの遺物が多数出土している。旧石器、弥生時代に関する明確な遺物は確認されなかった。1点だけではあるが、表面採取されている縄文土器については、近隣の塚畑遺跡、宮内遺跡において縄文時代中期から後期にかけての土器が出土していることから考えてみて、浜町遺跡においても同時期の遺構の存在の可能性も考えられる。しかし、遺物の質・量から考えると、今回の調査範囲においてははっきり縄文時代の遺構として報告できるものも見つかっていないことから、近隣からの流れ込みの可能性が高いと考えられる。なお、5区から出土している遺物は古墳時代から奈良・平安時代が主体であり、当該期の遺構のほとん

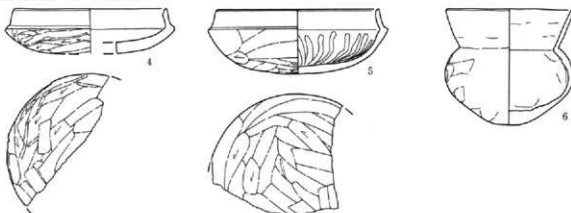
どは、遺物を多く含んだ、約30cm～40cmの暗褐色土下より検出されている。住居覆土と表土は酷似しており、遺構確認が難しく、調査のためグリッド採取も行わざるをえなかった。そのため整理時にグリッド位置と遺構位置の確認を行いながら、土器接合・復元をおこなった。グリッド位置に属する遺構から出土した遺物と接合できた遺物も多数あった。一方、遺構出土の遺物と接合しないもの、時代を特定できた遺構と時期の合わないもの、性格の不明なもの、明らかに近現代の時期のものについては、グリッド出土遺物として掲載した。また、表面採取の土器については、遺構外遺物として報告してある。記載した遺物は、縄文時代、古墳時代前期から近現代まで多数あり、当地域が集落域として縄文時代から連続と続いていることを示唆していると考えられる。

5区 遺構外出土遺物

X=32405 Y=-40935



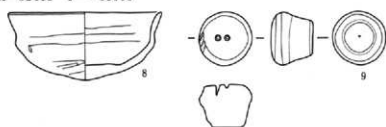
X=32410 Y=-40940



X=32410 Y=-40995



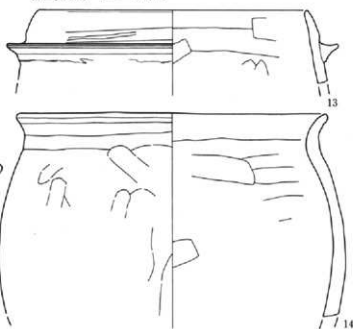
X=32415 Y=-41005



X=32420 Y=-41040



X=32420 Y=-41070



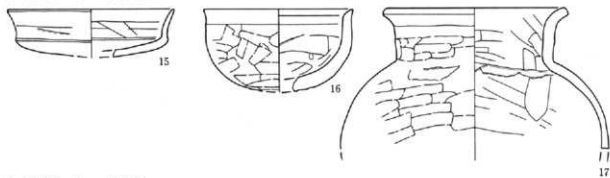
X=32420 Y=-41005



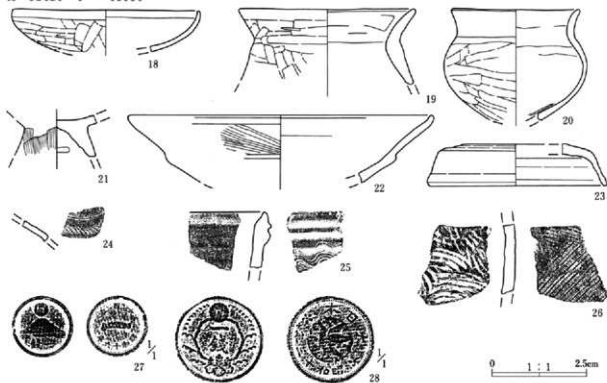
0 1 : 3 10cm

第203図 5区遺構外(グリッド) 出土遺物 (1)

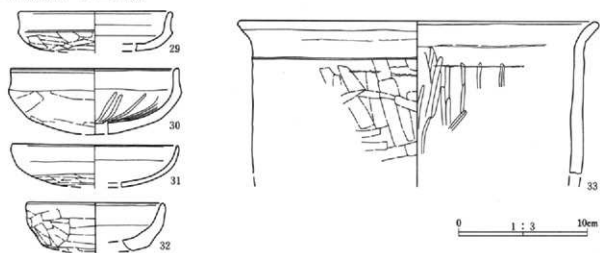
X=32420 Y=-41075



X=32420 Y=-41080



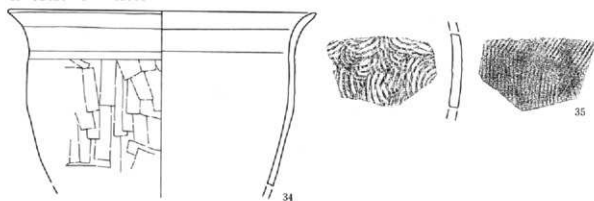
X=32420 Y=-41085



第204図 5区遺構外(グリッド) 出土遺物 (2)

5区 遺構外出土遺物

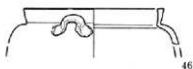
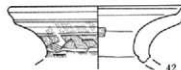
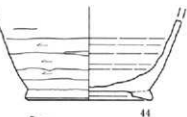
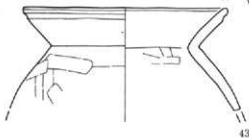
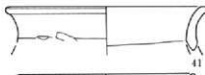
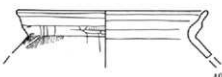
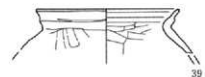
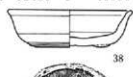
X=32420 Y=-41085



X=32425 Y=-41090



X=32420 Y=-41090



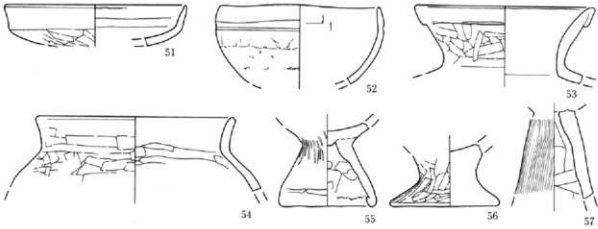
X=32425 Y=-41075



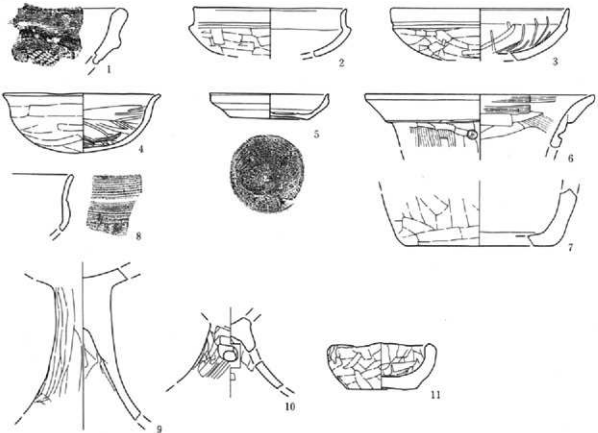
0 1:3 10cm

第205図 5区遺構外(グリッド) 出土遺物 (3)

X=32425 Y=-41095



遺構外



0 1 : 3 10cm

第206図 5区遺構外(グリッド) 出土遺物 (4)・遺構外出土遺物

VI. 6区の遺構と遺物

1. 遺跡の概要

浜町遺跡6区は、平成14年度からの継続調査であり、浜町遺跡第4次調査として平成15年4月1日より着手した。この調査は、浜町遺跡5区の中央部分と当調査6区の2地区を対象とし、太田駅周辺立体交差事業に伴う発掘調査の最終年度にあたる。浜町遺跡6区は調査1区の東側、調査3区の南側、調査5区西側に位置し、東武桐生線と伊勢崎線が並行する伊勢崎線南側に沿った約64mの区間である。調査以前は住宅地であり、遺構は開発に伴う攪乱を受けており、他地区同様に遺構の残存状況はよくなかった。

浜町遺跡6区の遺構のほとんどは、層厚約30cm～40cmの遺物を多く含んだ暗褐色土下より検出された。堅穴住居跡22軒、土坑19基、溝8条、ピット2基を調査した。縄文時代から近・現代までの遺物を検出したが、時期を特定するまでには至らなかった。堅穴住居は、いずれも残りが悪く、住居全体が調査できず、詳細が不明なものが多い。各土坑やピットについての明確な時期は不明であるが、遺物の出土した一部の土坑や包含層中に含まれる土器の様相などから、古墳時代、奈良・平安時代の遺構であると考えられる。また、溝については中世以降のものが多かった。

旧石器時代

調査範囲内において、旧石器時代の遺構・遺物の検出はみられなかった。

縄文・弥生時代

縄文・弥生時代の遺構と認められるものは検出できなかった。遺物は表面採取で縄文土器を数点検出した。他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

古墳時代

6区で検出した遺構は、古墳時代以降のものと推定される。堅穴住居は、いずれも残りが悪く床面まで削平が及んでいたこと、また、調査区の幅が狭いこと、古墳時代から平安時代を通しての集落地であったこと、そのため遺構の重複が多かったことなどから、住居全体が調査できず、詳細が不明なものが多い。堅穴状遺構としたものは、床面と思われる硬化面や竈、柱穴などを確認できず、また他の住居との重複関係のため、堅穴住居と断定できなかったものやその性格が不明確な不定形の掘り方を持つ遺構である。土坑からは、古墳時代中期の遺物が多数出土している。

奈良・平安時代

6区の比較的残存状況の良い堅穴住居跡は平安時代のものが多かった。竈の残存が良好の住居が2軒あり、そのうちの1軒は9世紀と考えられる堅穴住居であり、竈の構築材として煉瓦状の形をした材を確認した。また、10世紀と考えられる堅穴住居は竈の煙道が確認できた。また、隅丸長方形の土坑で長軸が北を向き、坏が出土される遺構については土坑墓の可能性が高く他にもこの時期に属する遺構・遺物の存在する可能性があるが、出土遺物等からは確認できなかった。

中・近世以降

この時期の検出遺構は、主に溝跡が該当すると考えられる。特に北西から南東へ調査区の中央を斜めに走向する堀りが1条検出された。形状は逆台形であり、深さ約2m、幅約3mであった。出土した遺物から中世から近世に使用されたものと思われる。また、その北側には、その堀に沿ってつくられた溝が3条検出された。それらのうち2条は、埋土及び出土遺物から近世以降のものであると考えられる。また、表面採取遺物として、近世陶器の口縁、軟質陶器口縁などをこの時期に該当するものと考えられる。

(1) 竪穴住居跡

1号住居 (第207~209図、P L 41・84)

位置 6区 X=32414~418 Y=-41168~172

重複遺構 1・7・8号溝、2号住居と重複する。遺構平面確認と土層断面の状況によりいずれの遺構よりも古いと考えられる。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多く、特に北側は上部からの削平を受けているため、全形は不明である。確認範囲内では、隅丸長方形を呈する。

方位 計測不能 (N-62° - E)

規模 長軸3.20×短軸(2.64)m

調査区住居確認面のみ

面積 (6.768) m²

壁高 8 cm

床面 土層断面観察から、掘り方面の上に2cm~12cmほど暗褐色土と砂質ロームの混土で埋め土を行い、2cm程暗褐色土で床を貼っている。ピットを3基検出した。掘り方面は、多少の凹凸が見られるが平坦である。

ピット P 1径40×36cm、深さ41cm

P 2径60×56cm、深さ22cm

P 3径52×48cm、深さ16cm

貯蔵穴 調査区内では未確認

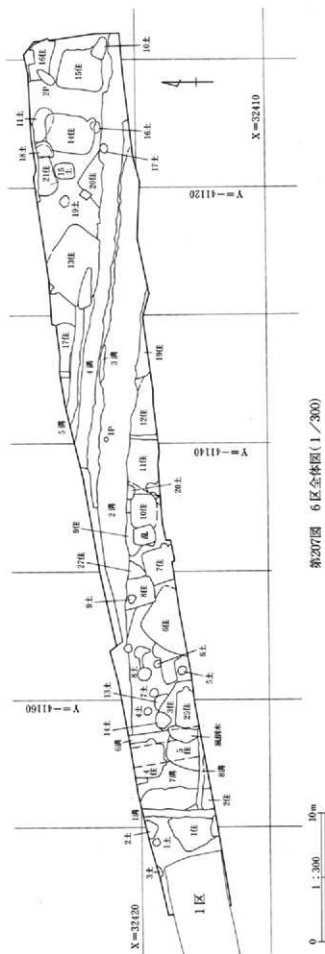
周溝 調査区内では未確認

竪 調査区内では未確認。調査区外か重複遺構のいずれかの壁にあったと推察できる。

遺物 1・2は須恵器碗。その他、土師器片多数、須恵器片6点出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から古墳時代後期と比定される。

第207図 6区全体図(1/300)



6区 竪穴住居跡

2号住居 (第207~209図, P L41・84)

位置 6区 X=32414~415 Y=-41165~169

重複遺構 1・7・8号溝、1号住居と重複する。遺構平面確認と土層断面の状況により、1号住居より新しく、1・7・8号溝よりも古いと考えられる。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形・形態は不明である。

方位 計測不能 (N-90°-E)

規模 長軸1.84×短軸(0.72)m

調査区住居確認面のみ

面積 (1.485)㎡

壁高 4cm

床面 土層断面観察から、掘り方面の上に6cmほど暗褐色土とローム・ブロックの混土で埋め土を行い、床面を構築している。掘り方面は、多少の凹凸が見られるが、概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

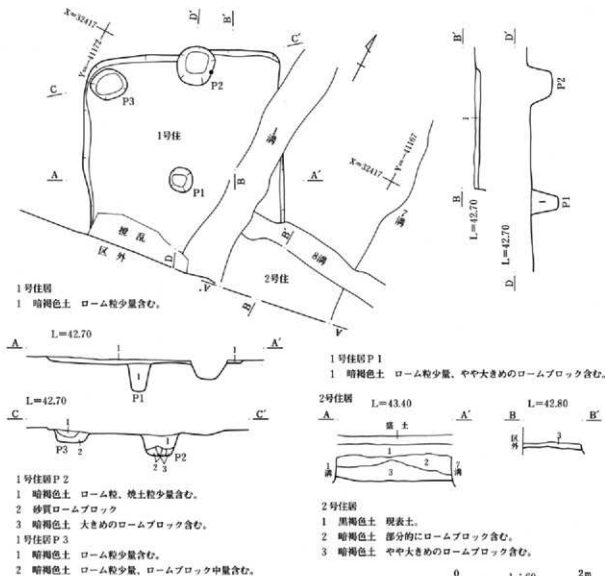
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

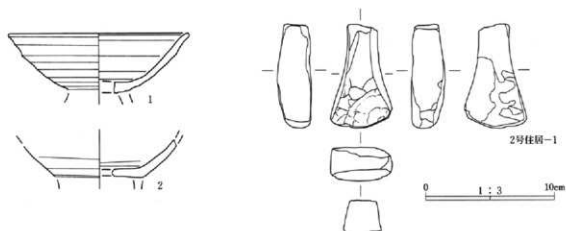
竈 調査区内では未確認。調査区外か重複遺構のいずれかの壁にあったと推察できる。

遺物 1の礫石出土。

所見 出土遺物もなく、住居の形態も不明なため、時期を特定することはできなかった。



第208図 6区1・2号住居 平・断面図



第209図 6区1・2号住居 出土遺物

3号住居 (第207・210・211図, P L41・46)

位置 6区X=32415~419 Y=-41158~163
重複遺構 5・25号住居、6・8号溝跡、13・14号土坑と重複する。遺構平面確認と土層断面の状況により、5・25号住居、6・8号溝跡、14号土坑より新しく、13号土坑よりも旧いと考えられる。
形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形は不明である。調査区内の状況から、隅丸長方形を呈すると推察できる。
方位 計画不能 (N-25° -E)
規模 長軸4.44×短軸3.32m
 調査区住居確認面ののみ
面積 (4.599)㎡
壁高 40cm
床面 土層断面観察と遺構平面確認調査から掘り方

25号住居 (第207・210~212図, P L46・84・85)

位置 6区X=32415~418 Y=-41158~163
重複遺構 3号住居、6・8号溝と重複。遺構平面確認の状況により、6・8号溝より本住居の方が旧く、3号住居より新しい。
形態 住居南側が調査区外に位置し、他の遺構とも重複しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から長方形を呈すると推察できる。
方位 N-90° -E
規模 長軸(2.74)×短軸(1.52)m
 調査区住居確認面ののみ

面より12cm~16cmほど暗褐色土とローム・ブロックの混土で埋め土を行い、床面を構築している。掘り方面は、多少の凹凸が見られるが、概ね平坦である。
ピット P1 径48×40cm、深さ24cm
貯蔵穴・周溝 調査区内では未確認
竈 調査区内では未確認。調査区外か重複遺構のいずれかの壁にあったと推察できる。
遺物 なし
所見 平成14年度に生活面の調査、平成15年度に掘り方面の調査が行われた住居跡である。調査区が狭く、遺構の重複も多く、埋土は酷似し、時間幅のある遺物が混在しているため、掘り方調査を行うまで重複関係を明白にできなかった。そのため、本遺構は遺構確認により想定した形態よりも狭く、特に西壁付近は、明らかにできなかった。確実ではないが重複関係により古墳時代と想定される。

面積 (4.662)㎡**壁高** 16cm

床面 遺構の重複のため、平面的に床面を検出することができなかった。土層断面観察により掘り方面より8cmほど埋め土を施し、床面を構築している。掘り方面では、竈の西側から西壁に向かって緩やかに階段状に掘り窪めている。

ピット 住居中央部に径36cm、深さ36cm程のピット1基を検出した。

貯蔵穴 調査区内では未確認

6区 壑穴住居跡

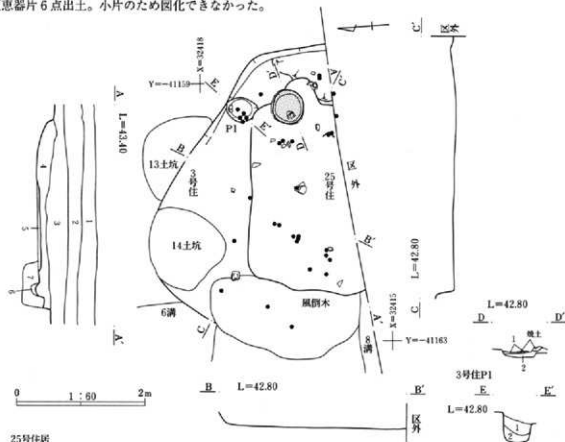
周溝 調査区内では未確認

焼土痕 径52cm程、深さ4cmの楕円形を呈する。上部からの削平を受け、やや遺存状態が悪い。掘り方面では、西側を16cmほど、南側を4cmほど掘り窪めてある。位置的に見て、壑の残存と考えられるが、詳細は不明である。

竈 調査区内では未確認。上記焼土痕が竈の痕跡の可能性はある。

遺物 1～6は土師器坏、7・8は須恵器坏、9～17は須恵器碗、18は灰釉陶器碗、19～23は土師器甕、24は須恵器甕、25は土師器蓋、26は砥石である。17は掘り方面より出土。その他、土師器片多数、須恵器片6点出土。小片のため図化できなかった。

所見 前述の3号住居と同様に、平成14年度に生活面の調査、平成15年度に掘り方面の調査が行われた住居跡である。調査区が狭く、遺構の重複も多く、埋土は酷似し、時間幅のある遺物が混在しているため、掘り方調査を行うまで重複関係を明白にできなかった。そのため、本遺構は当初想定していない住居跡であったため、住居の形態を明白にできなかった。また、遺存状態が悪く全体を調査できず、詳細は不明である。重複関係により奈良・平安時代と想定されるが、出土遺物と埋土の状況から9世紀から10世紀頃と比定される。



25号住居

- 1 照褐色土 盛り土、ゴミ等含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土粒疎らに含む。白色粒含む。固く締まる。
- 3 暗褐色土 焼土粒疎ら。黄褐色土粒少量。白色粒僅かに含む。やや軟質。
- 4 褐色土 黄褐色土粒含む。やや軟質。
- 5 褐色砂質土 黄褐色土粒・ブロック含む。
- 6 褐色土 黄褐色土粒含む。締まり良い。
- 7 褐色土 黄褐色土粒含む。固く締まる。

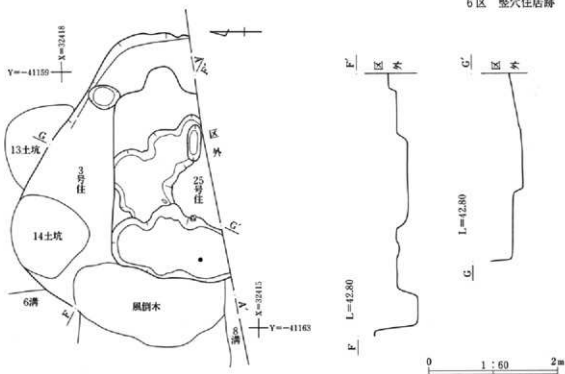
25号住居焼土

- 1 暗赤褐色土 全色朱色の焼土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒を含む。

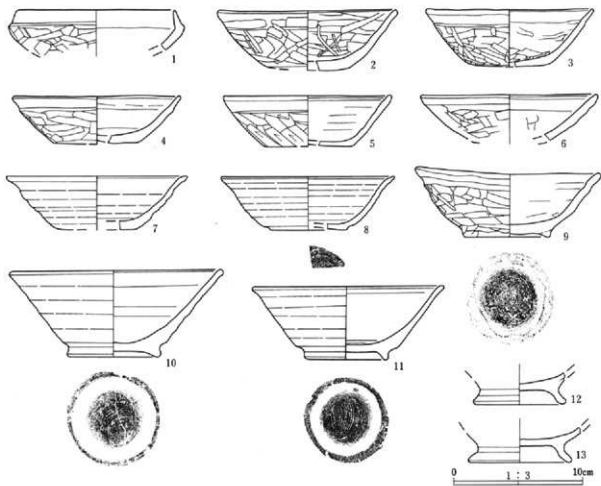
3号住居P1

- 1 暗褐色土 におい黄褐色土ブロック、赤褐色粒子疎らに含む。
- 2 褐色土 におい黄褐色土多量、赤褐色粒子少量含む。

第210図 6区3・25号住居 平・断面図

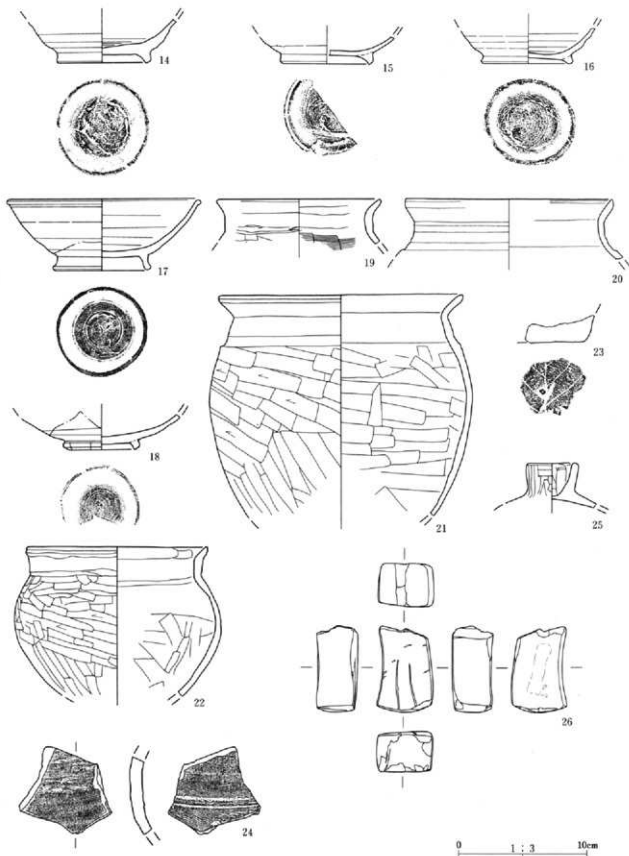


25号住居



第211图 6区3・25号住居掘り方 平・断面図 25号住居出土遺物 (1)

6区 竖穴住居跡



第212图 6区25号住居 出土遺物 (2)

4号住居 (第207・213・214図、P.L42・85)

位置 6区X=32418~421 Y=-41163~166

重複遺構 6・7号溝と重複する。遺構平面確認と土層断面の状況により、6・7号溝よりも古いと考えられる。

形態 調査区域に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形、あるいは長方形を呈すると考えられる。

方位 計測不能(N-82°-W)

規模 長軸2.76×短軸(2.50)m

調査区住居確認面のみ

面積 (5.805)m²

壁高 32cm

床面 貼床を持たない地山ローム土が硬化する。

掘り方はなし。

柱穴 調査区内では未確認

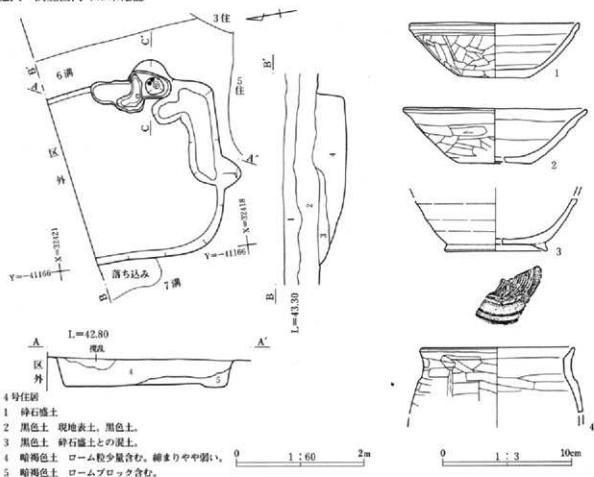
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 6号溝により上部を削平され、遺存状態が悪く、掘り方調査のみ実施した。燃焼部長さ46cm、燃焼部幅70cm、焚き口幅57cmである。燃焼部は住居内に煙道部は壁外に突出して構築されていたと推定される。埋土は焼土を多く含む暗褐色土である。使用面下と考えられる位置に径68cm、深さ16cmほど掘り窪めている。

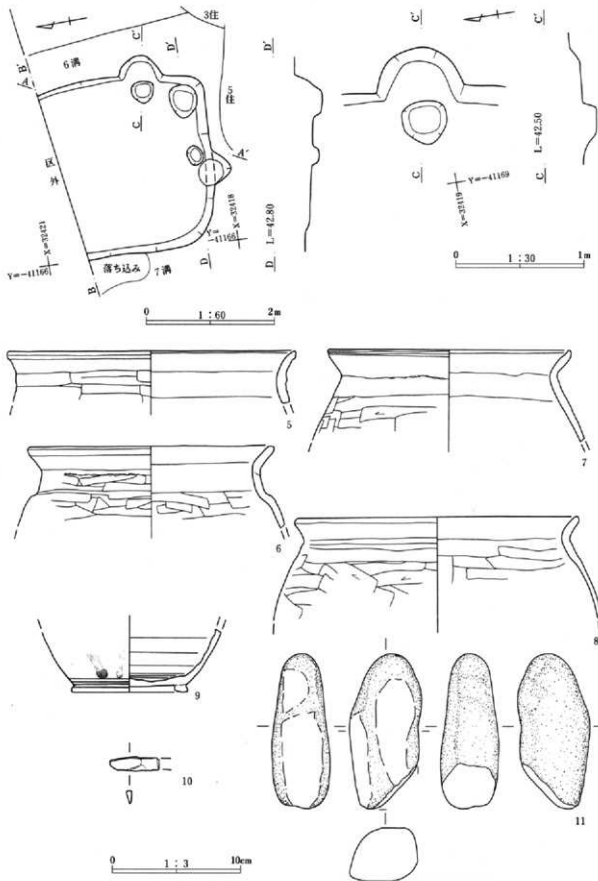
遺物 1・2は土師器坏、3須恵器碗、4~8は土師器壺、9は灰軸陶器壺、10は刀子、11は叢石である。その他、土師器片多数、須恵器片、焼成粘土塊出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から6世紀から7世紀頃と比定される。



第213図 6区4号住居 平・断面図 出土遺物 (1)

6区 竪穴住居跡



第214図 6区4号住居掘り方・竪穴・断面図 出土遺物 (2)

5号住居 (第207・215・216図、P L42・85)

位置 6区X=32414~418 Y=-41162~166

重複遺構 6・7・8号溝、2・3号住居と重複。
遺構平面確認と土層断面の状況により、6~8号溝よりも古いと考えられる。2・3号住居を5号住居が壊していることから5号住居の方が新しいと考えられる。25号住居よりも古いと考えられる。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 計測不能 (N-60° -W)

規模 長軸(3.16)×短軸(1.88)m

調査区住居確認面のみ

面積 (5.148)㎡

壁高 32cm

床面 土層断面観察と遺構平面確認調査から掘り方面より4cm~12cmほど暗褐色土とローム・ブロック

の混土で埋め土を行い、床面を構築している。掘り方面は、中央部に径36cm~56cm、深さ24cmのピットを検出した。ピットの周囲は掘り残してあり、概ね平坦である。西壁沿いに上幅52cm、下幅40cm程の溝状に掘り込み、中央部周辺からその他壁にかけて10cm程掘り込んでいる。

ピット 径36×56cm、深さ24cmのピットを掘り方面で検出した。

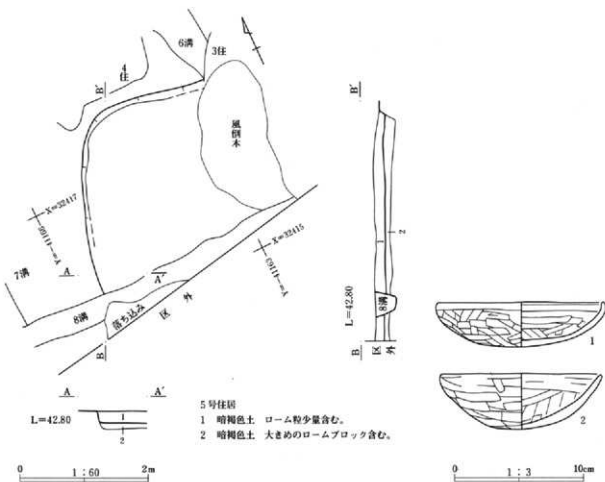
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

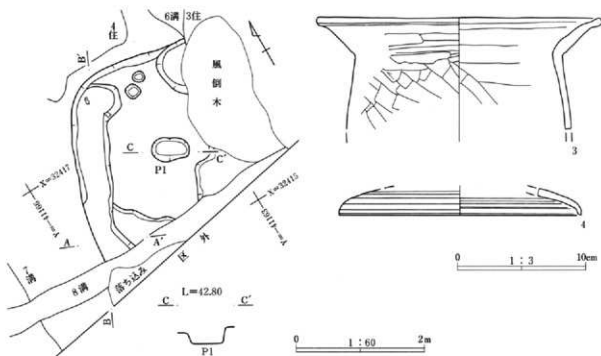
竈 調査区内では未確認。重複遺構により削平され、消失していると考えられる。

遺物 1・2は土師器杯、3は土師器甕、4は須恵器蓋。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から6世紀から8世紀頃と比定される。



6区 竪穴住居跡



第216図 6区5号住居掘り方 平・断面図 出土遺物 (2)

6号住居 (第207・217図、P L 42・86)

位置 6区X=32416~420 Y=-41151~157

重複遺構 7・8号住居と重複。遺構平面確認の状況により、8号住居よりも古いと考えられる。7号住居よりも古い。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多く、北西壁も攪乱により消失しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 計測不能 (N-45°-E)

規模 長軸(4.24)×短軸(3.66)m

調査区住居確認面のみ

面積 (11.151)㎡

壁高 12cm

床面 土層断面観察と遺構平面確認調査から掘り方面より4cm~20cmほど褐色土と黄褐色土で埋め土を行い、床面を構築している。掘り方面は、中央部を掘り残し、北東壁から12cmほど、北西壁から36cmほど離れて、下幅24cm~36cm、上幅36cm~40cm、深さ

5cm~13cmほど溝状に周囲を掘り込んでいる。この溝状の掘り込みの内側、東コーナーと西コーナーに径28cm~44cmほど土坑状に掘り込んでいる。土坑状の掘り込みは、位置的に主柱穴の可能性はある。

柱穴 調査区内では未確認

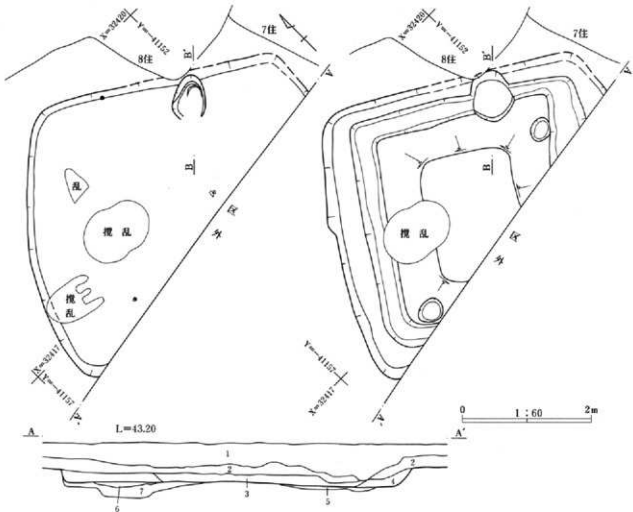
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

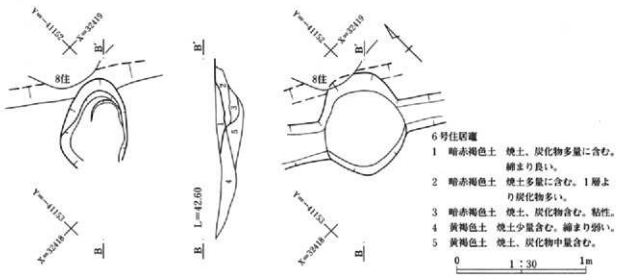
竈 上部からの削平のため遺存状態はあまりよくない。竈使用面まで消失しているため掘り方調査のみ実施した。燃燒部長さ65cm、燃燒部幅48cm、焚き口幅30cmと考えられる。天井部・袖部等は確認できなかった。掘り方面は、使用面から20cmほど掘り窪め、黄褐色土により竈底部を構築している。

遺物 1・2は土師器杯、3は須恵器杯、4は土師器甕。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から7世紀後半頃と比定される。



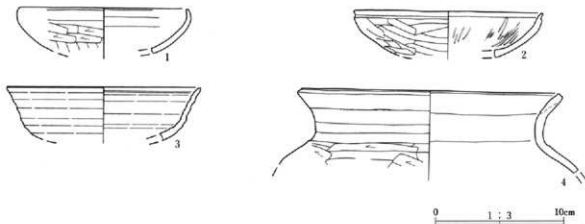
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 6号住居 | 4 褐色土 砂質、黄褐色土ブロック含む。締まり強い。 |
| 1 黒褐色土 攪乱 | 5 褐色土 砂質、黄褐色土ブロック多量に含む。締まり良い。 |
| 2 暗褐色土 黄褐色土、赤色土、白色微粒子多量に含む。締まり良い。 | 6 褐色土 黄褐色土と暗褐色土の混土。締まりやや良い。 |
| 3 暗褐色土 砂質、黄褐色土含む。締まり強い。 | 7 黄褐色土 暗褐色土含む。締まり良い。 |



- | | |
|------|----------------------------|
| 6号住居 | 1 暗赤褐色土 焼土、炭化物多量に含む。締まり良い。 |
| | 2 暗赤褐色土 焼土多量に含む。1層より炭化物多い。 |
| | 3 暗赤褐色土 焼土、炭化物含む。粘性。 |
| | 4 黄褐色土 焼土少量含む。締まり強い。 |
| | 5 黄褐色土 焼土、炭化物中量含む。 |

第217図 6区6号住居・掘り方・竈平・断面図

6区 竪穴住居跡



第218図 6区6号住居 出土遺物

7号住居 (第207・219～221図、P.L.42・43・86・87)

位置 6区 X=32417～420 Y=-41148～151

重複遺構 6・8・27号住居と重複する。遺構平面確認時の状況により、8・27号住居よりも新しいと考えられる。6号住居との新旧関係は、不明である。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形は不明である。調査区内の形状から長方形を呈すると推察できる。また、主軸方向の長さが短い長方形の可能性もある。

方位 計測不能 (N-77°-E)

規模 長軸(2.68)×短軸(2.42)m

調査区住居確認面のみ

面積 (6.075)㎡

壁高 12cm

床面 上部からの削平のため、遺存状態が悪く、掘り方調査のみ実施した。土層断面観察から中央部は地山ロームを掘り残しそのまま床面としている。中央部から北壁、西壁にかけて掘り方面より4cm～16cmほど暗褐色土で埋め土を行い、床面を構築している。掘り方面は、中央部を掘り残し、壁にかけて緩やかに掘り込んでいる。概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

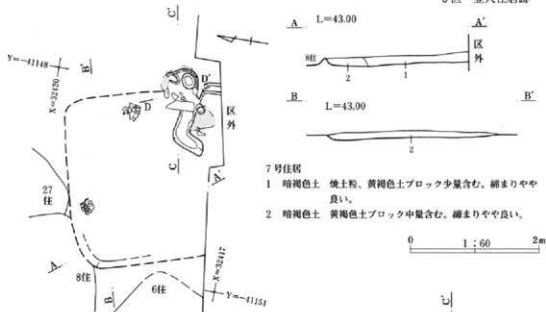
周溝 調査区内では未確認

竈 上部からの削平のため遺存状態はあまりよくない。煙道部は上部からの削平により消失している。燃焼部長さ42cm、燃焼部幅50cm、焚き口幅37cmである。石を竈袖の芯材として利用している。また、幅14cm、長さ38cm、厚さ5cm程の天井部を検出した。遺存状況から竈焚き口部の天井部分と考えられる。燃焼部は壁外に作られ、住居壁際に袖部が構築されている。使用面から煙道部にかけて急峻な立ち上がりがあったと推察できる。掘り方面は、使用面から8cm程平坦に掘り窪めている。

遺物 1は須恵器杯、2～4は土師器台付甕、5～8は土師器甕、9は須恵器耳皿、10は陶器壺、11は竈の天井に使用されていた切石である。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

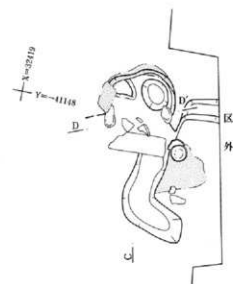
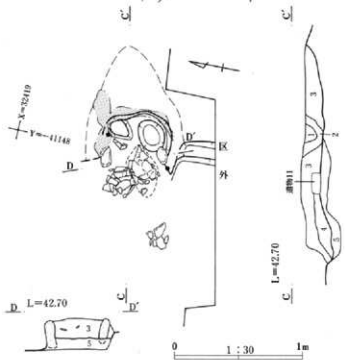
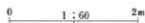
所見 出土遺物と住居の形態、掘土の状況から9世紀から10世紀頃と比定される。

6区 竪穴住居跡



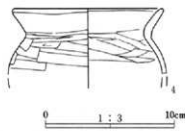
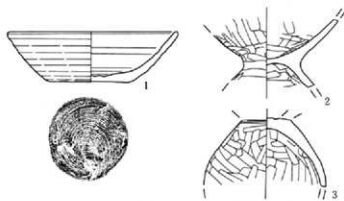
7号住居

- 1 暗褐色土 焼土粒、黄褐色土ブロック少量含む。締まりやや良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック中量含む。締まりやや良い。



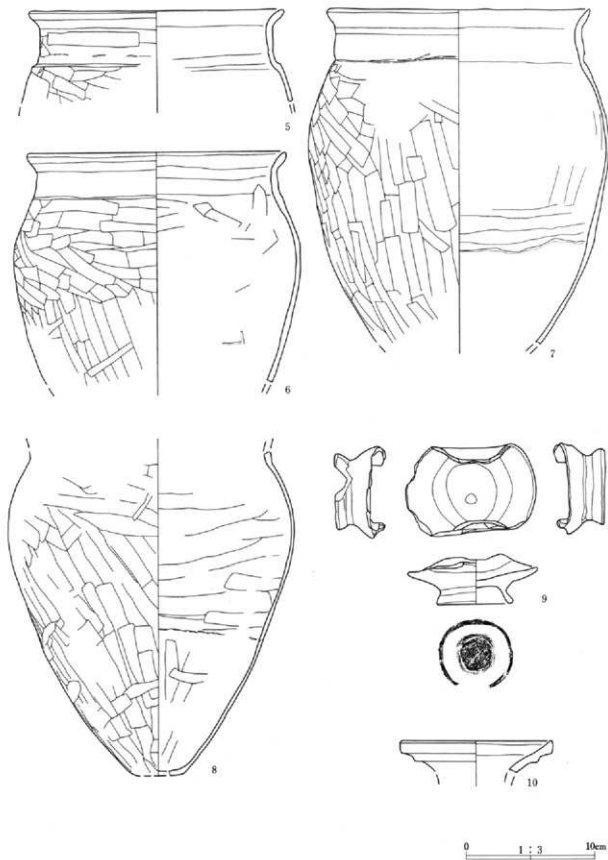
7号住居竈

- 1 暗褐色土 黄褐色土、焼土粒含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土粒多量に含む。
- 3 暗褐色土 焼土、炭化物含む。軟質。
- 4 暗褐色土 黄褐色土、焼土含む。軟質。
- 5 暗褐色土 黄褐色土多量に含む。軟質。

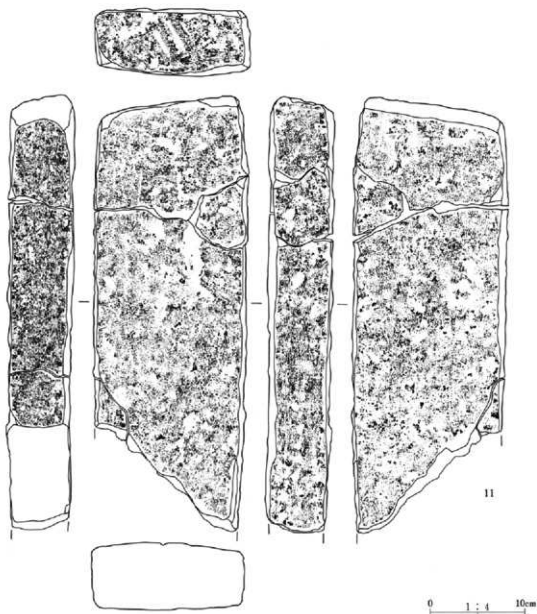


第219図 6区7号住居・竈 平・断面図、出土遺物 (1)

6区 竖穴住居跡



第220图 6区7号住居 出土遺物 (2)



第221图 6区7号住居 出土遺物 (3)

6区 竪穴住居跡

8号住居 (第207・222・223図、P L43・87)

位置 6区 X=32418~422 Y=-41150~154

重複遺構 6・7・27号住居、9号土坑、2号溝と重複する。遺構平面確認の状況により、7号住居、9号土坑、2号溝より旧く、6・27号住居より新しい。

形態 調査区境に位置し、他の遺構との重複も多いため、全形は不明である。調査区内の形状から隅丸長方形を呈すると推察できる。

方位 計測不能 (N-38° -W)

規模 長軸5.35×短軸(2.18) m

調査区住居確認面のみ

面積 (4.069) m²

壁高 16cm

床面 上部からの削平の影響を受け遺存状態はあまりよくない。そのため、掘り方調査のみ実施した。土層断面観察から中央部は地山ロームを掘り残しそのまま床面としている。中央部から北側は掘り方面より8cmほど褐色土で埋め土を行い、8cmほど暗褐色土で床面構築している。中央部から南壁にかけては、掘り方面より4cmほど暗褐色土で床面を構築している。掘り方面は、中央部を掘り残し、北側にかけて緩やかに深く掘り込み、南側は浅く掘り込んでいる。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。削平されたいずれかの壁に構築されていたと考えられる。

遺物 1・2は土師器坏、3~6は須恵器坏、7~10は土師器甕、11は土師器台付甕、12は釘。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から9世紀末頃と比定される。

27号住居 (第207・222図、P L46)

位置 6区 X=32419~421 Y=-41149~156

重複遺構 7・8号住居、2号溝と重複。遺構平面確認の状況により、7・8号住居、2号溝より本住居の方が古い。

形態 住居北側が2号溝により打ち壊されており、他の遺構とも重複しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形を呈すると推察される。

方位 N-73° -W

規模 長軸(4.28)×短軸(1.56) m

調査区住居確認面のみ

面積 (2.016) m²

壁高 計測不能

床面 遺構の重複のため、平面的に床面を検出することができず、掘り方調査のみ実施した。掘り方面では、南東壁付近をやや高く掘り残している。多少の凹凸はあるが、概ね平坦な面である。

柱穴 調査区内では未確認

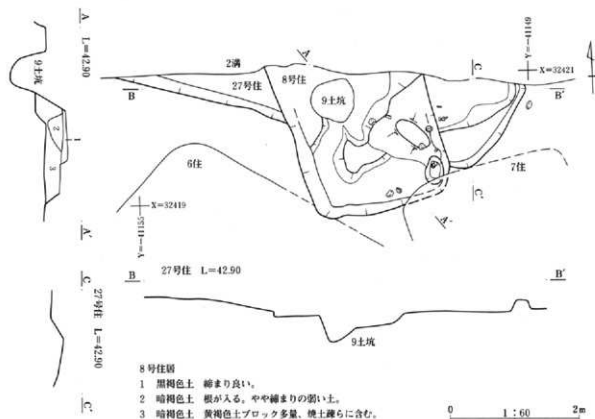
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

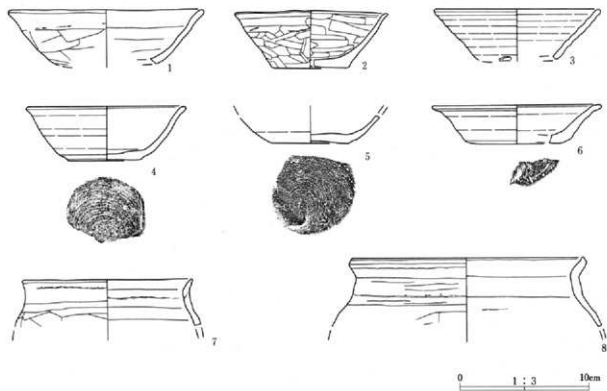
竈 調査区内では未確認

遺物 なし

所見 遺存状態が悪く全体を調査できず、詳細は不明である。

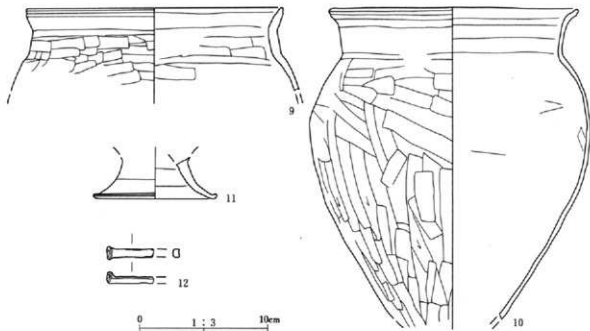


8号住居



第222図 6区8号住居 平・断面図、出土遺物 (1)

6区 竪穴住居跡



第223図 6区8号住居 出土遺物 (2)

9号住居 (第207・224・225図、P L 43・44・87・88)

位置 6区X=32420~421 Y=-41147~149

重複遺構 10号住居、2号溝と重複。遺構平面確認の状況により、2号溝、10号住居より古い。

形態 上部からの削平と遺構の重複のため、遺存状態が悪く、竈と西壁のみ検出。全形は不明である。

方位 計測不能 (N-81°-E)

規模 計測不能

面積 (0.819)㎡

壁高 計測不能

床面 上部からの削平のため消失。計測不能。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 西壁中央寄りに位置していると考えられる。竈の遺存状態は悪く、使用面まで削平を受けていた。そのため、掘り方調査を実施した。調査区内の残存状況では、掘り方の燃焼部の長さ65cm、燃焼部幅33cm程である。燃焼部下を12cm程掘り窪め、燃焼部から煙道部に向けて緩やかな勾配で掘り窪めている。にぶい黄褐色土層により埋め土を行い使用面を構築していたと考えられる。

遺物 1・2は土師器杯、3・4は須恵器椀、5~7は土師器甕、8は土師器壺、9は須恵器甕、10は磨石、11は剣型石製品である。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から9世紀頃と比定される。

10号住居 (第207・224~226図、P L 44・88)

位置 6区X=32418~421 Y=-41143~147

重複遺構 9号住居、20号土坑と重複。遺構平面確認の状況により、9号住居より新しく、20号土坑より古い。

形態 上部からの削平と他の遺構との重複のため、

遺存状態が悪い。西壁は攪乱により、南壁は、上部からの削平と攪乱のため、北壁は20号土坑と攪乱のため一部消失している。そのため、全形不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 計測不能 (N-6°-W)

規模 長軸2.72×短軸(1.88)m

調査区住居確認面のみ

面積 (4.707)㎡

壁高 32cm

床面 上部からの削平が一部床面まで及び遺存状態は悪い。遺構平面確認時は、既に住居床面であった。土層断面観察から3cm～8cmほど埋め土を施し、床面を構築している。掘り方は住居南東コーナーに長径92cm、短径62cm程の土坑状の落ち込みを検出した。多少の凹凸はあるが、概ね平坦である。

柱穴 調査区内では未確認

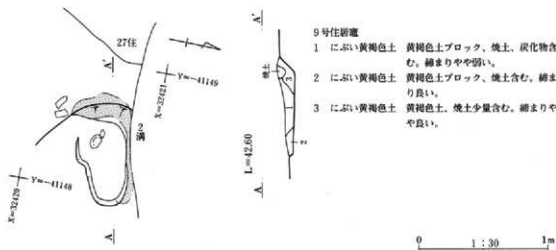
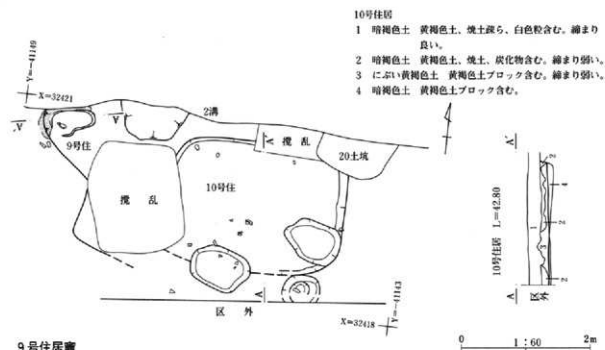
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認。消失している壁か、遺構の重複している壁に構築されていたと推察される。

遺物 1～3は土師器坏、4は須恵器坏、5は須恵器碗、6～10は土師器壺、11は須恵器壺。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

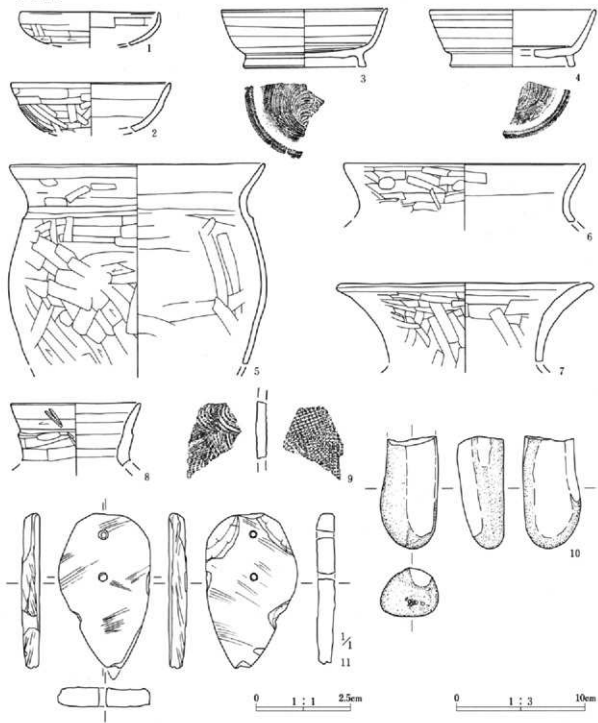
所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から9世紀後半頃と比定される。



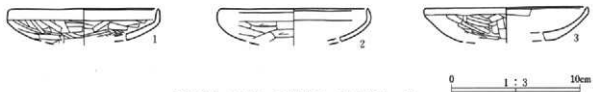
第224図 6区9号住居竈・10号住居 平・断面図

6区 聚穴住居跡

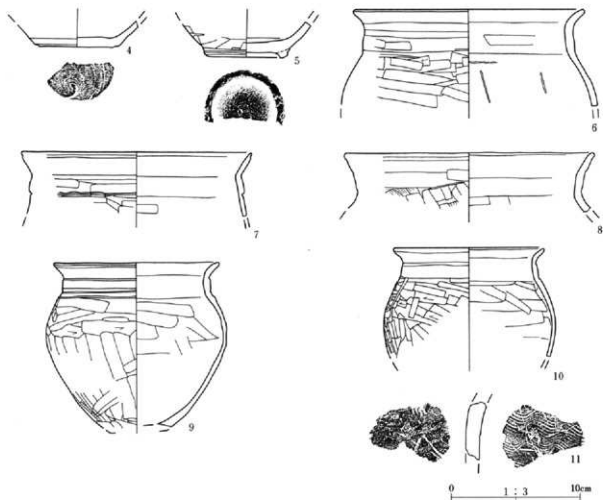
9号住居



10号住居



第225图 6区9・10号住居 出土遺物 (1)



第226図 6区10号住居 出土遺物 (2)

11号住居 (第207・227図、P L44・88)

位置 6区 X=32418~421 Y=-41139~145

重複遺構 2号溝と重複。遺構平面確認の状況により、本住居の方が古い。

形態 上部からの削平と他の遺構との重複のため、遺存状態が悪い。また、調査区境に位置しているため全形は不明である。

方位 計測不能 (N-6°-W)

規模 長軸(4.04)×短軸(2.40)m

調査区住居確認面のみ

面積 計測不能

壁高 計測不能

床面 上部からの削平が床面まで及び遺存状態が悪い。住居中央部と西壁付近に焼土痕を2カ所検出す

る。掘り方面は概ね平坦であり、数点遺物を検出した。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

焼土 西壁付近に径88cm~108cm、深さ不明、住居中央付近に径64cm~100cm、深さ4cmほどの焼土痕を検出。住居中央付近の焼土痕は、この住居に伴う可能性が高い。西壁付近の焼土痕については、後世の影響の可能性がある。

竈 調査区内では未確認。消失している壁か、遺構の重複している壁に構築されていたと考えられる。

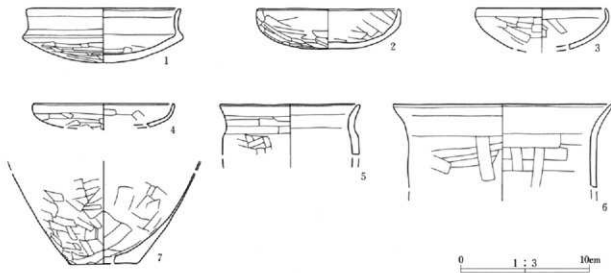
遺物 1~4は土師器杯、5は土師器小型甕、6・7は土師器甕。その他、土師器片多数、須恵器片出

6区 竪穴住居跡

土。小片のため図化できなかった。

所見 遺存状態が悪く、全体を調査できず、床面まで消失しているため詳細は不明である。住居の残骸

という状態である。そのため図・写真は掲載していない。



第227図 6区11号住居 出土遺物

12号住居 (第207・228図、P L88)

位置 6区 X=32418~421 Y=-41139~145

重複遺構 19号住居、2号溝と重複。遺構平面確認の状況により、19号住居、2号溝より本住居の方が古い。

形態 上部からの削平と他の遺構との重複のため、遺存状態が悪い。また、調査区境に位置しているため全形は不明である。

方位 計測不能 (N-7°-W)

規模 長軸(4.64)×短軸(1.83)m

調査区住居確認面のみ

面積 計測不能

壁高 計測不能

床面 上部からの削平により床面まで消失してお

り、遺存状態が悪い。掘り方面は、概ね平坦であり、遺物を数点検出した。

柱穴 調査区内では未確認

貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 調査区内では未確認

竈 調査区内では未確認

遺物 1は土師器二重口縁台付甕、2は土師器壺、3は土師器高坏。その他、土師器片多数、須恵器片出土。小片のため図化できなかった。

所見 遺存状態が悪く、全体を調査できず、床面まで消失しているため詳細は不明である。住居の残骸という状況である。そのため図・写真は掲載していない。



第228図 6区12号住居 出土遺物

13号住居 (第207・229～231図、P L 44・89)

位置 6区 X=32423～427 Y=-41122～130

重複遺構 4・5号溝と重複。遺構平面確認と土層断面の状況により、本遺構の方が6・7号溝より古いと考えられる。

形態 住居北コーナーが調査区境に位置し、南側が4・5号溝と重複し、掘乱により消失しているため、全形は不明である。調査区内の住居の状況から隅丸長方形を呈すると考えられる。

方位 N-51°-W

規模 長軸5.20×短軸4.22m

調査区住居確認面のみ

面積 (15.273) m²

壁高 14cm

床面 掘り方面から住居中央部で8cm、壁際で4cmほど埋め土を施し、暗褐色土により4cm～8cmほど床を貼り、平坦な面を構築している。掘り方面では住居中央部に径96cm～140cm、深さ28cmほどの床下土坑1基とピット2基を検出した。北西壁付近に不整形な掘り込みと竈周辺に径26cm～66cmほどの土坑状の浅い掘り込みを3基検出した。

ピット 掘り方面で住居東コーナー付近に径36cm～40cm、深さ34cmのP1を、竈東側に径52cm～56cm、深さ34cmのP2を検出した。

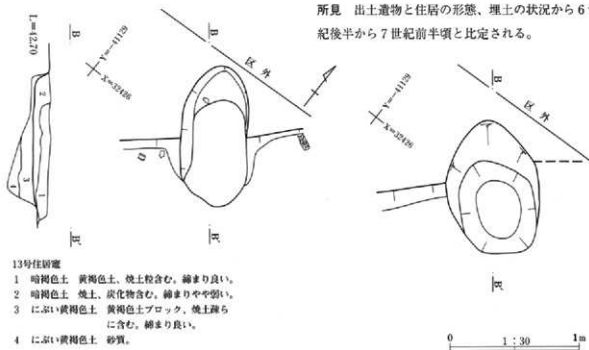
貯蔵穴 調査区内では未確認

周溝 住居南東壁付近に長さ164cm、幅18cmほどの周溝と考えられる溝状の掘り込みを検出した。

竈 住居北西壁付近中央よりやや北よりに竈を検出した。燃焼部は住居内に、煙道部は壁から突出して構築されている。燃焼部長さは70cm程、煙道部は22cmほど残存している。使用面から煙道部にかけて緩やかに立ち上がっている。竈左袖のみ検出。焚き口幅は46cm程であるが、燃焼部幅は不明である。使用面下と考えられる位置に深さ15cmほど土坑上に掘り窪め、にぶい黄褐色土により使用面を構築している。袖部は芯材を用いず、天井部と、ともに暗褐色土により構築されている。

遺物 1～4は土師器片、5はS字状二重口縁台付甕、6は土師器甕、7は土師器台付甕、8は土師器小型甕、9は土師器壺、10は土師器高坏、11は土師器器台、12は埴輪、13は陶器。その他、土師器片多数、須恵器片、焼成粘土塊出土。小片のため図化できなかった。

所見 出土遺物と住居の形態、埋土の状況から6世紀後半から7世紀前半頃と比定される。



13号住居遺

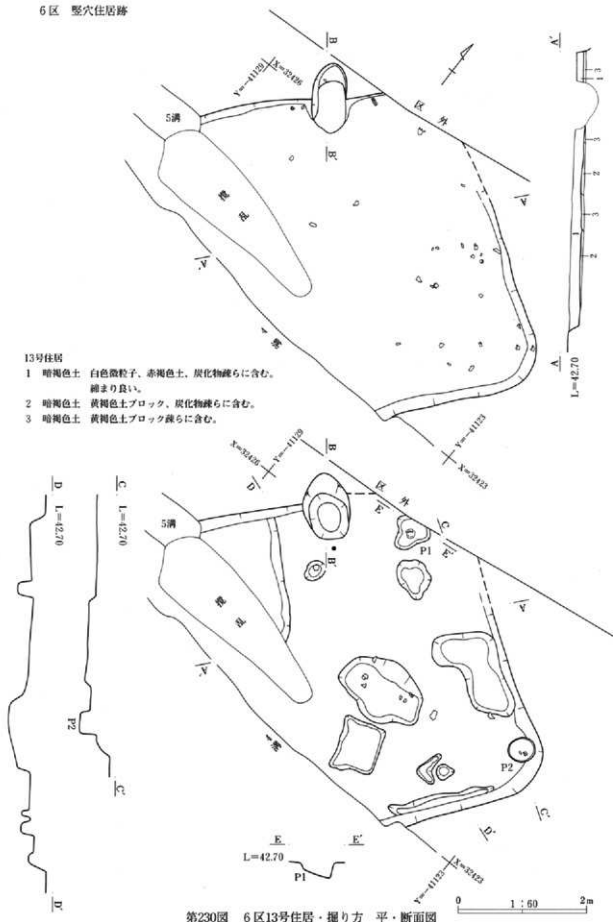
- 1 暗褐色土 黄褐色土、焼土粒含む。締まり良い。
- 2 暗褐色土 焼土、炭化物含む。締まりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック、焼土粒らを含む。締まり良い。
- 4 にぶい黄褐色土 砂質。

第229図 6区13号住居竈 平・断面図

6区 竪穴住居跡

13号住居

- 1 暗褐色土 白色微粒子、赤褐色土、炭化物雜らに含む。
細まり良い。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物雜らに含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック雜らに含む。



第230図 6区13号住居・掘り方 平・断面図